旭川市博物館研究報告　第2号　1996年3月

旭川採集アイヌ語動詞語彙集Ⅱ

魚　井　一　由

旭　川　市　博　物　館

I

iahunke　＜i（①私を②人を）ahunke（入れる）　①私を入れる　文語用例/nea－pon－menoko－iahunke－an. その少女が私を家へ入れるのでした。口語用例/en－ahunke. 私を入れる　②人を入れる⇨招待する　第Ⅱ類動詞　i－ahunke wa maratto－an－kushine. 人を招待して饗宴を開こう。

iama　＜i（我、我々を）ama（置く）　我、我々を置く　文語用例/shine aiun inaw－noshiki－ta i－ama. ある人が私をイナウの真ん中に置いた。ainu－utar－pirka－mosh－kata－iama. 人間たちは我々（鮭）を柔らかな草の寝床に置いてくれる。口語用例/en－ama. 私を置く。

iani　＜i（私を）ani（①抱える②置く）　①私を抱える。文語用例/samaikur－iani－kor enonta－pae. サマイクルは私を抱えて何処かへ行くのです。　口語用例/ku－kor－totto－en－ani－koro－ku－chise－ta－hoshibi－an. 母は私を抱えて家へ帰りました。②所相の"a"が省略されて、置かれる　文語用例/nekon－iki－wa－ene－iani－ya. どうして私はこのように置かれているのであろう。どうしてこんな境遇にあるのだろう。

iare[1]　＜i（死者の生活物資）a（豊かである）re（他動詞化語尾）　死者の生活物資を豊かにする。⇨酒、煙草、粢等を奇麗な川原等に撒いて祖先供養をする。　第Ⅱ類動詞　名詞：祖先供養

iare[2]　＜i（私を）a（座る）re（使役化語尾）　私を座らせる。文語用例/nea－chacha－kamui assoketa－ia－re－a－an. 翁神は私を左座に座らせた。口語用例/en－are. 私を座らせる。

iarepa　＜iare（ᡳᡵᡵᡝ[2]）pa（尊敬語尾）　私を座らせて下さる。nea－chacha－kamui－rorketa－iarepa－an. その翁神は私を上座に座らせて下さいました。

iarnukar　＜i（私を）ar（じっと）nukar（見る）　私を見つめる。nea－kamui－neno－an－menoko－iarnukar－a. その神なる娘は私を見つめるのでした。

iashi　＜i（私を）ashi（置く）　私を置く。私は置かれる。文語用例/kakkoku－sapo－neitashinno－iashi－an. カッコウのお姉さんは私をどこかに置いた。

ibe　＜i（e「食べる」の転訛）p（形式名詞「物」）e（食べる）　食べるものを食べる。⇨動物は動植物をそのまま食するが人間は生で食することのできるものはそのまま食べるが通常は煮たり、焼いたり、茹でたり、あるいは適当な大きさに切ったり、潰したりして食べる。⇨人間が食べる。　食事をする。　第Ⅱ類動詞。文語用例/ibe－an－tek－orowa－ashin－an. 食事をしてから私は出掛けた。口語用例/ku－ibe－orowa－ku－ashin－an. 食事をしてから私は出掛けた。名詞：食事※　養育熊を"ebere（kamui）"というがこれは人間と同じものを食するのでこう呼ばれたと思われる。

iberusui　＜ibe（食事をする）rusui（願望の助動詞）　食事がしたい。おなかが空いている。第Ⅱ類動詞　文語用例/ibe－an－rusui. 我（ら）食事がしたい。ibe－rusui－an. 我（ら）空腹である。　口語用例/ku－totto, ku－iberusui.「お母さん、僕おなかが空いたよ」

icha　＜i（それ「粟の穂」「肉」「草」等を）cha（①摘む②切る）①粟の穂摘みをする　第Ⅱ類動詞　文語用例/pipa－ani－icha－an. 川真珠貝の貝殻で粟の穂摘みをする。名詞：穂摘み　②切る usa－kam－icha－an. いろいろな肉を切る。

ichakkere　＜i（それ「汚いもの、ごみ」を）charke（散らばる）re（他動詞化語尾）　ごみを散らす⇨汚い、汚れている。第Ⅱ類動詞　文語用例/an－netobake－ichakkere－an－kusu－an－hurai－kushine. 身体が汚れているので洗おう。口語用例/ku－netobake－ichakkere－kusu－ku－hurai－kushine. 同上。

ichari　＜i（それ「酒、タバコ」を）chari（撒く）　それを撒く　第Ⅱ類動詞　ふと故人を思い出したようなとき、人間が住むことも近寄ることさえも拒否するような険しい山（例「旭川市神居古潭」）を通るようなとき酒やタバコを辺りに撒いて故人を偲んだり、神の許可を懇願する。

icharpa　＜i（酒、タバコ、粢）charpa（chariの目的物複数形）酒、タバコ、粢をひとつならずたくさん撒く⇨先祖供養をする　第Ⅱ類動詞　名詞：先祖供養

ichoprakote　＜i（私を）chop（キスの擬声音）ra（na「～の方へ」）kote（付ける）　私にキスをする。a－yubi－hoshibi－yakne ichoprakote. 兄は帰っくると私にキスをするのです。

ichotcha　＜i（それ「矢」）chot（擬声語）cha（切る）　それがチョッという音を立てながら切る。⇨矢を射る　第Ⅱ類動詞　nea kamui－ekota－ichotcha－an. その熊に私は矢を射た。

ie（＝ye）言う。第Ⅰ類動詞。an－mataki－nep－ka－ie－somokino－an. 妹は何も言わずにいました。

iehumkekar　＜i（私に）e（そのこと「前文」について）humke（言い聞かす）kar（為す）　そのことについて、私に言い聞かせる。pon－chupkaunkur－sempir－oroketa－iresu－an－be－ayubi－iehumkekar－kor－an. 若きチュップカ人が陰で私を育てている事を兄は私に言い聞かせるのでした。

iekari　＜i（私の）ekari（①廻りを回る②向かって来る）①私の廻りを回る。an－seta ekushukono－iekari－a－an. 私の犬は突然私の廻りを回り始めたのでした。②私に向って来る。an－seta－i－nukar－tek－yakne－iekari－na. 私の犬は私を見るなり私に向かって来るのです。

iekasuikar　＜i（私に）e（そこで）kasui（助け）kar（為す）　私をそこで手伝う。an－matne－eka'tchi－rata－shkep－uk－ita－iekasauikar. 娘は山菜を採るとき私にそこで手伝ってくれる。

iekutkare　＜i（私に）e（そこで）kut（帯）kar（為す）e（使役化語尾）　私にそこで帯を締めてくれる。kamui－menoko－yaikutkor－raunkut－pitata－ine－i－ekutkare－an. 神なる娘はそこで自分の下帯を解いて私に締めてくれたのでした。

iemina　＜i（私を）e（そのことで）mina（笑う）　私をそのことで笑う。kamui－utar－iemina ruwene. 神々はそのことで私を笑われた。

ieomina　＜i（私を）e（そのことで）o（そこで）mina（笑う）　私をそのことでそこで笑う。kemeiki－an－korka pirikano－an－e－aikap－kushu a－yubi－shisempiri－orke－ta ieomina－an. 私は刺繍をするのですが上手にできないので兄は私のいないところで笑うのです。

iepa　＜ie（𛅐）pa（①目的物複数②尊敬）　第Ⅰ類動詞　①an－iepa. 我ひとつならず多く言う。e－iepa. 汝ひとつならず多く言う。iepa. 彼ひとつならず多く言う。②iepa. あの方がおっしゃる。

iepakashinu　＜i（私に）e（それについて）pa（頭）kashi（上を）nu（見る）　私にそれに就いて頭上を見る。⇨私に教える。kamui－menoko－apeoawanki－kotoro－iepakashinu. 神の娘は火が生じる扇の面を私に教えてくれた。

iepanakte　＜i（私を）e（そのことで）panakte（罰する）　私をそのことで罰する。私にそのことに対して罰を与える。kamui－utar－an－torannep－ne－kusu－iepanakte－an. 神々は私が怠け者であったので私にその罰を与えたのです。

iepapa　＜ie（𛅐）pa（目的物複数）pa（尊敬）　一言ならず多くおっしゃる。

iepetturash　＜i（私の）e（そこで）pet（川）turashi（水源まで行く）　我と行き着くところまで行く。⇨私より強い　nep－kamui－yakne－iepetturaship－shinep－ka－isam. いかなる神とても私よりも強いものは一神もいない。

iepunnkine　＜i（私を）e（そこで）punkyo（奉行）ne（なる）　私を守る。kakkoku－sapo－iepunkine－kusu neno－an－an. カッコーのお姉様が私を守ってくれるのでこのようにあるのです。

ieramkarap　＜i（私に）eramkarapte（挨拶をする）　私に挨拶をする。chacha－kamui－an－eramkarap－aike－chacha－kamui－ka－ieramkarapte－an. 翁神にご挨拶申し上げると、翁神もまた私に挨拶をして下さいました。

iere　＜i（私に）e（食べる）re（使役化語尾）　私に食べさせる。私に食事を与える。ai－sa－kera－an－be－patek－iere－an. 姉はおいしいものばかりを私に食べさせた。

iereshikakar　＜i（私を）e（そこで）reshika（養育）kar（為す）　私を育ててくれる。otasut－un－kamui－ne－an－kur－sembiri－orketa－iereshikar－an. オタストの神なる方が見えないところで私を育ててくれます。

iesokar　＜i（私に）e（そこで）so（寝所を）kar（作る）　私のために寝床を作る。nea－kamui－menoko－iesok－ar－an. その神なる娘は私のために寝床を作るのです。

ietaye　＜i（私を）etaye（引く）　私を引く。私を引き上げる。ainu－utar－yata－ietaye－a－an. 人間たちは私（船神）を浜辺に引き上げたのでした。

ihenkotpa　＜i（私）henkotpa（𛅐）　私に何度も頬擦りをする。

ieyam　＜i（我、我々）eyam（守る）①我（等）を守護する。chip－kamui, ieyam－na！　船神よ、我らにご加護を。②私を大事にする。ayubi－ieyam－kor－an. 兄は私を大事にしてくれていました。

ihok　＜i（それを）hok（買う）　交易によって生活必需品を手に入れる（買う）ために、鹿皮等の生産物を商品にする（売る）⇨売る　目的語を示す接頭辞（i）を伴っているから第Ⅱ類動詞に分類すべきであるが、久保寺博士は第Ⅰ類動詞に分類されている。その理由はこの語が成立したときはアイヌ語の文法体系が日本語の文法体系に移行し始めたころであったろうと推察される。ここでは博士に従って第Ⅰ類動詞に分類する。

ihokpa　＜ihok（𛅐）pa（①目的物複数化語尾②尊敬）①たくさん買う。②お買いになられる。

ihokpapa　＜ihok（𛅐）pa（目的物複数化語尾）pa（尊敬）たくさんお買いになられる。

ihoshibire　＜i（私を）hoshibi（帰る）re（使役化語尾）私を帰す。henbano－an－chise－ta－ihoshibire－yan. 早く家へ私を帰して下さい。

ioshiki　＜i（それ「飲酒」が）osh（後に）ki（する）　飲酒の後の　状態にする⇨酔う　第Ⅱ類動詞　二重母音を避けるためiyoshikiと発音されることもある。

ioshikkote　＜i（私の）osh（中を）kote（結び付ける）私に恋慕する。私を好きになる。私に惚れる。kos－hinpui－tono ioshikkote－an－na. 妖精の首領が私に惚れたのです。

ihoshippare　＜i（私を）hoshippa（hoshibiの尊敬形）re（使役化語尾）　私を帰して下さる。kakkoku－sapo－neno－ihoshippare－an. カッコウのお姉さんはこのように私を帰して下さいました。

ihumke　＜i（それを）hum（音）ke（他動詞化語尾）それを音にする。⇨神の声を音にする。⇨子守歌を歌う。第Ⅱ類動詞。赤ん坊の泣き声は何かの前兆を知らせるものであった。an－kor－shiuhpe－an－kai－kor－ihumke－an。赤ん坊をおぶって子守歌を歌う。

ihuntakore　＜i（我に）hunta（邦語：札、辞令）kore（与える）　私に辞令を与える。私は辞令を受けている。anokai－anakne－ainu－moshir－epunkine－kuni－kanto－orowa－ihuntakore－an. 私は人間界を守るように天から辞令を受けている。（梟神の言葉）

iimek　＜i（私に、私たちに）imek（食べ物を器に盛る）私によそう。nea－menoko－pirika－chep－iimek－an. その娘は立派な魚を私によそってくれた。

iipere　＜i（私、私たちに）ipere（食べさす）　私（たちに）食べさせる。an－kor－kakkoku－sapo－pirika－suke－ki－wa－iipere－an. カッコウのお姉さんはおいしい料理を作って私に食べさせてくれました。

iiye　＜i（私に）iye（言う）　私に言う。neno－iki－an－yakne kamui－utar－nekon－iiye－ya. そんなことをしたら神々は私に何と言われるでしょう。

ikai　＜i（私を）kai（背にする）　私を背にする。私を背負う。文語用例/ kakkoku－sapo－ikai－ine－an－chise－ta－i－rura－an. カッコウのお姉さんは私を背にして私の家へ連れて来てくれました。

ikama　＜i（私を）kama（跨ぐ）　私を跨ぐ。nea－pon－menoko－ikama－wa－oman－an. その若い娘は私（沼貝）を跨いで行ってしまった。

ikaoiki　＜i（我（等）を）ka（上）o（そこで）i（それを）ki（する）　我（等）を看病する　病気を治す　第Ⅲ類動詞　ika（shi）－e－o－iki. 汝我（等）を看病す。ika（shi）－eshi－o－iki. 汝等我（等）を看病す。ika（shi）－oiki. 彼（等）我（等）を看病す。

ikaopash　＜i（我（等）の）ka（上）o（そこへ）pash（急ぐ）　我（等）を急ぎ救援す　第Ⅲ類動詞　ika（shi）－e－opash. 汝我（等）を急ぎ救援す。ika（shi）－eshi－opash. 汝等我（等）を急ぎ救援す。ika－opash. 彼（等）我（等）を急ぎ救援す。

ikar　＜i（私を）kar（作る）　私を作る。⇨私の身を変える。　文語用例/ kamui－utar－chup－or－ush－kur－ne－ikar－an. 神々は月の中にいつもいるものに私の身を変えたのでした。

ikarkar　＜i（それ「紋様」を）kar（作る）kar（作る）刺繍を施す　第Ⅱ類動詞　keshi－to－an－kor－i－karkar－an. 毎日刺繍をしております。

ikashma　＜ika（溢れること）ma（動詞化語尾）　剰る。数詞に現れる。tup－ikashima－wampe. 二剰り十。十二

ikasui　i（私を）kasui（手伝う）　私を手伝う。an－matne－eka'tchi－ka－rupne－ike－tane－ikasui. 私の娘も大きくなり、今では私を手伝う。

ikemnu　＜i（そのことに）kem（血を）nu（持つ）　それに対して血を待つ。⇨①そのことを憐れむ。　第Ⅱ類動詞 kamui raichebi－an－nukara－wa－ikemnu－an. 神の死骸を見て憐れに思った。②復讐する。anona－raike－kur－ikemnu－an－kushine. 父を殺した人に復讐をするつもりです。

ikesui　怒りの余り立ち去る　第Ⅱ類動詞　ikesui－an－kor－rata－ran－an. 怒りながらそこを立ち去り川へと下った。

iki　＜i（それ『前の動作を受ける接頭辞』を）ki（為す）。　それを為す。⇨そうする。第Ⅱ類動詞　nea－ainu－ekatchi－ie－neno－iki－an. その人間の子供が

言った通りになりました。

ikinne ＜ik（関節）ir（列）ne（になる） 列になる連なっている 主格三人称動詞 ne－chise－oshke－ta－shintoko－ikinne－an. その家の中には行器が連なっていた。

ikipa ＜iki（𛅐）pa（①主格複数②尊敬語尾）①a－yupi－utari－neno－ikipa－kor－an. 兄たちはそんなことをしています。②nep－kusu－neno－e－ikipa－ruwe？なぜそんなことをなさるのですか。

ikishima ＜i（私を）kishima（抱き締める） 私を抱き締める。kamui－ne－an－kur－ikishima－an－na. 神のような方が私を抱き締めたのです。

ikka 盗む。奪う。第Ⅰ類動詞。nea－kur－e－ikka－wa－ekor－kushine－an. その男はあなたを奪って妻にしようとしたのです。

ikkapa ＜ikka（𛅐）pa（目的物複数語尾） たくさん盗む、たくさん奪う。

ikocharanke ＜i（私に）ko（に対して）charanke（無理難題を持ちかける） 私に無理難題を持ちかける。Otasut－un－nishipa－keshito－an－kor－ikocharanke－an. オタストの長者は毎日私に無理難題を持ちかけるのでした。

ikohopumpa ＜ikohopuni（𛅑）pa（主格複数語尾） 複数の者が私に立ち向かう。

ikohopuni ＜i（私に）ko（に対して）hopuni（起つ） 私に立ち向かう。nea－kamiashi－ikohopuni. その魔神が私に立ち向かうのです。

ikoiki[1] ＜i（それ）ko（に対して）i（それを）ki（する） それ（獲物）に対してそれ（狩猟）をする。獲物を獲る。第Ⅱ類動詞 kim－ta－ikoiki－kor－an. 山で獲物を獲って暮らしています。

ikoiki[2] ＜i（私に）ko（に対して）i（それを）ki（する） 私に立ち向かう。私に戦いを挑む。horkew－kamui－ikoiki－a－an. 狼神は私に立ち向かった。

ikoinkar ＜i（私）ko（に対し）inkar（𛅑） 私を見る。私を見守る。kamui－katkemat－ikoinkar－kusu－neno－an－an－na. 女神様がを見守ってくれるのでこのようにいるのです。

ikoipuni ＜i（我）ko（に対し）i（それを）puni（上げる） 食べ物や飲み物を私に捧げる。nea－pon－menoko－pirika－sonapi－ikoipuni－an. その娘は私にごちそうを捧げてくれました。

ikoipumpa ＜ikoipuni（𛅐）pa（主格複数語尾） a－yubi－utar－kam－ikiri－ikoipumpa－an. 兄たちは肉をたくさん私に捧げてくれました。主格が複数であれば目的物も複数になる。

ikokamahupte ＜i（私に）ko（に対して）kam（肉を）ahupte（ahunke「入れる」の目的物複数形） 私に一つならず二つ以上の肉を入れさせる。ai－sa－ikokamahupte－a. 姉は私にたくさんの肉を（家）に入れさせた。

ikokanu ＜i（それ）ko（に対して）ka（上を）nu（聞く） きちんと聞く。傾聴する。耳を澄ます。chise－soita－nep－ka－hum－ash－kusu－ikokanu－aike－anona－ne－kotom－an－hawe－an. 家の外で何か音がするので耳を澄ますと父と思われる声がした。

ikomarattone ＜i（私）ko（に対して）maratto｛邦語：客人（まれひと）｝ne（になる） 天界の神々が各々動植物に身を変えて人間界の私（達）のところに降臨する。shipase－kamui, ikomarattone－ikorpareyan. 重き神よ、我らの客人となって下さい。

ikonnu ＜ikor（神の為すこと）nu（見る） 神の為すことを見る。①動物がその仕草で天変地異を予兆する。②人を呪う。

ikoonkami ＜i（私）ko（に対して）onkami（拝む） 私を拝む。私に挨拶をする。chacha－kamui－an－ko－onkami－aike－chacha－kamui－ka－ikoonkami－an. 翁神にご挨拶を申し上げると、翁神もまた私に挨拶をして下さいました。

ikootereke ＜i（私）ko（に対して）o（ここから）tereke（突き落とす） この世から私を突き落とす。chikap－sak－kotan an－ikotereke－nankoro. 鳥無き郷に私は突き落とされるであろう。

ikopashrota ＜i（私）ko（に対して）pa（口を）shir（強勢辞）ota（開ける） 私に対して口を大きく開ける。⇨私を罵る。a－yubi－nep－kusu－an－honi－poro－ne－sekoro－itak－koro－iseme－wa－ikopashirota－ya. 兄は何ゆえに私の腹が大きくなったのかと私を攻め責めそして罵るのでした。

ikopepka ひどい目に遭う。第Ⅱ類動詞 pewre－ita－neno－ikopepka－an－sekor－chironnup－kamui－itak. 若い頃ひどい目に遭ったと狐神が語りました。

ikor ＜i（私を）kor（①持つ②結婚する） ①私を持つ。nea－pon－menoko－ikor－wa－to－otta－ran－a. その若い娘さんは私（沼貝）を持って湖へ下りました。②私と結婚する。男女の別なく用いられる。koshinpui－tono ikor－kuni－an. 妖精の首領は私と結婚するつもりである。

ikore ＜i（私に）kore（与える） ①私に与える。文語用例/ nea－pon－menoko－shito－shinep－ikore－an. その若い娘は私に団子を一つくれた。②～して下さい。Tuitak－nure－wa－ikore. トゥイタックを聞かせて下さい。

ikorepa ＜ikore（𛅐）pa（目的物複数） 私にたくさん与える。Ikoro－ikorepa－an！宝をたくさん頂きまし

た。

ikorpare　＜i（私、私たちに）kor（持つ）pa（主格三人称複数目的物複数）re（使役化語尾）　①大勢の人が私（たち）にたくさん与える。kamui－utar－chep－neno－ikorpare－yan. 神々がこのように魚をたくさん私たちにくださったのです。②どうか～して下さい。ishitekka－wa－ikorpare－yan. どうか許して下さい。

ikosanke　＜i（私に）ko（に対して）sanke（差し出す）私に差し出す　nea－pon－menoko shito－shinep－ikosanke－an. その娘は団子を一つ私に差し出した。

ikosapte　＜i（私）ko（に対して）sapte（sankeの目的物複数形）　私にたくさん差し出す。

ikoshinewe　＜i（私）ko（に対して）shinewe（遊びに来る）　私のところに遊びに来る。

ikoshirepa　＜i（私の）ko（ところに）shirepa（到着する）　私を訪ねる。e－ikoshirepa－yakne－pirika－na－sekor－yainu－an. あなたが訪ねてきてくれればいいなあと思っています。

ikotarar (a)　＜i（私）ko（に対して）tarar（tar－tarの省略形　取り延べる）　私に取り延べる⇨私に渡す。文語用例/ nea－rupnemat－iwan－at－erikin－shitoki－ikotarar－a. その媼は六本の紐が付いている首飾りを私に渡しました。

ikoyawyawse　＜i（私）ko（に対して）yawyaw（ワーワー）se（発声する）　私にワーワー声を上げる。

iku　＜i（それを）ku（飲む）　それ（酒）を飲む、飲酒する。第Ⅱ類動詞　kesh－to－kesh－to－iku－an－kor－an. 私は毎日酒を飲んでいる。

ikupa　＜iku（ᴮ）pa（①主格複数②目的物複数形③尊敬）　①複数の者が酒を飲む。kamui－utar－ikupa－kor－an. 神々がお酒を飲んでいる。②酒を一杯ならず幾杯も飲む。an－kor－ekashi－ikupa－kor－an. 私の主人は杯を重ねていた。③お酒を飲まれる。nea－kamui－ikupa－kor－an. その神様はお酒を召し上がった。

ikupapa　＜iku（ᴮ）pa（目的物複数形）pa（尊敬）　酒を一杯ならず幾杯も飲まれる。nea－kamui－ikupapa－a－an. その神様はお酒を一杯ならず幾杯も召し上がりました。

ikure　＜iku（ᴮ）re（使役化語尾）　酒を飲ます。第Ⅰ類動詞　en－ikure. 私に酒を飲ませてくれ。

ikurkataratki　＜i（私の）kur（陰）ka（上）ta（へ）ratki（下がる）　私の方にやって来る。ikurkataratki－hawe－ene－anihi. 次のような声が聞こえてきます。

ikutasa　＜iku（ᴮ）tasa（返す）　杯を交換する。一緒に酒を飲む。

ima　＜i（それを）ma（焼く）　魚や肉を焼く。第Ⅱ類動詞。

imek　＜i（食べ物）mek（分ける）　鍋の中身を椀に盛る。装う。第Ⅱ類動詞。nea－pon－menoko－prika－suke－imek－an. その娘は私においしい料理を椀に盛ってくれた。

imekare　＜imek（ᴮ）a（出母音）re（使役化語尾）　装わせる。anokai－an－machi－imekare－an. 妻に飯を装わせる。

imi　＜i（それ「着物」を）mi（着る）　着物を着る。第Ⅱ類動詞　henbano－imi－wa－ibe－ya. 速く着物を着て食事をしなさい。名詞：着物

imire　＜imi（ᴮ）re（使役化語尾）　着物を着せる。第Ⅰ類動詞　an－kor－ekatchi－an－imire. 子供に着物を着せる。

imu　神聖なもの・死・穢れたものなど。古代人にとってはげしい威力を持つ、触れてはならないものをものの意を示す日本語の古語「忌み、斎み」（大野晋　佐竹昭広　前田金五郎編　岩波古語辞典　岩波書店）と関係要あると思われる。①何かに驚いたときなどにタブーされる卑猥な言葉を言う。②相手の言葉に対して反対のことを言ったり、反対の行動をとる。

imure　＜imu（イムをする）re（他動詞化語尾）　イムをかける。aisa－ekota－an－imu－ene－anihi："Atusa－tapkar－atusa－rimse－e－iki." sekor itak－an. 姉に次のようにイムをかけました。「裸の踊りと裸の輪舞をしなさい」と私は言った。

inawkar　＜inaw（御幣）kar（①捧げる②作る）　①御幣（イナウ）を捧げる。第Ⅱ類動詞　kamui－ekota－inawkar－an－wa－inonnoitak－hawe－an. 神に御幣を捧げてお祈りしました。②イナウを作る。susu－nitek－ani－inawkar－an. 柳の枝でイナウを作る。

inawkarpa　＜inawkar（ᴮ）pa（①主格複数②目的物複数③尊敬）　①あの方々がイナウを作る。②イナウを一本ならずたくさん作る。③イナウを作られる。

inawke　＜inaw（イナウを）ke（削る）　イナウを削る。第Ⅱ類動詞　inawke－an. 私はイナウを削る。第Ⅰ類動詞用法：inaw－an－ke. 同上。

inawkepa　＜inaw（イナウを）ke（削る）pa（①主格複数②目的物複数③尊敬）　①あの方々がイナウを削る②イナウを一本ならずたくさん削る。inawkepa－an. 私はイナウを一本ならずたくさん削る。③イナウを削られる。nea－nishipa－inawkepa－a－an. その長者はイナウを削られた。

inawnituye　＜inaw（イナウ）ni（木）tuye（切る）　イナウの木（柳、ミズキ等）を切る。第Ⅱ類動詞

inishke　＜i（我を、我らを）nishke（誘う）。an－acha

－uimam－ekota－inishke－an. 叔父は交易に私を誘いました。

inkar ＜in（眼）kar（作る） 眼を作る。⇨見る。第Ⅱ類動詞。文語用例/inkar－ash－ike poro－chise－ash－kana－an. 見ると大きな家が建っていた。

inkarpa ＜inkar（ᡤ）pa（①主格複数②目的物複数③尊敬）第Ⅱ類動詞 ①一人ならず二人以上の人が見る。文語用例/okkai－ekattara－iekota－inkarpa－an. 男の子供たちが私を見た。②一つならずたくさんのものを見る。ainu－moshitta－inkarpa－an. 人間界で私はたくさんのものを見ました。③御覧になられる。nea－kamui－ne－ankur－iekota－inkarpa－an. その神様のようなお方が私を御覧になられたのでした。

inkarpapa ＜inkar（ᡤ）pa（目的物複数）pa（尊敬） 一つならずたくさんのものを御覧になられる。nishipa－utar－inkarpapa－a－okai. ご立派な方々がたくさんのものを御覧になられたのでした。

inkare ＜inkar（ᡤ）re（使役化語尾） 見せる。ne－an－be－en－inkare. それを私に見せなさい。

inomi¹ ＜i（私を）nomi（祈る） 私を祈る。teeta－kane－ainu－utara－sake－newa－inaw－newa－inomi－an－na. その昔、アイヌたちは酒やらイナウで私を祈ったものでした。

inomi² ＜i（それを）nomi（祈る） 神に祈りを捧げる。第Ⅱ類動詞

inonnoitak ＜i（それ「神」に）nonno（邦語「のの」：幼児語神仏・日月など、すべて尊崇するものの称。（広辞苑）itak（言葉を発する） 祈りの言葉を捧げる。第Ⅱ類動詞 文語用例/nea－kiyannewa－an－ekatchi－neno－inonnoitak－kor－a－wa－an. その兄の方の子供はそのように祈り言葉を捧げながら座っていた。

inu ＜i（①それ「漠然とした事象」を②前文の内容）nu（聞く） ①それを聞く。⇨聞こえてくる。第Ⅱ類動詞 inu－anike－moshir－kesh－wano－shine－kamui－ariki－na. 聞くところによると大地の端から一人の神様がいらっしゃるということです。②そのこと（前文の内容）を聞く。anante machi, itak－an－chiki－pirikano－e－inu－nankoro. 我妻よ、余が述べることをよっく聞くがよい。

inukar ＜i（私を）nukar（見る） 私を見る。shine－menoko－ashin－ine－inukar－tek－wa－sui－ahun－an. 娘が出て来て私をちょっと見て、また家へ入った。

inure ＜i（私、私たちに）nure（聞かせる） 私（達）に聞かせる。iku－haw－ibe－haw－inure－a－an. 飲んだり食べたりする声を私たちに聞かせる。

inuyashike ＜i（それを）nu（聞く）ash（第Ⅱ類動詞に後置して1人称単数を表す）ike（接続助詞：～と） 聞くところによると。

io ＜i（私「船神」）o（乗る） 私に乗る。okkaipo－utar－io－wa－uimam－an. 若者達は私（舟）に乗って交易に出掛けた。

ioira¹ ＜i（それ「もの」を）oira（忘れる 第Ⅱ類動詞 ①物忘れをする。an－kor－huchi－tane－onne－ne－kusu－oira－na. 祖母は年ですので物忘れをする。②それを忘れる。numan－an－pe－ioira－an. 昨日あったことは忘れた。

ioira² ＜i（私を）oira（置き忘れる） an－acha－ioira－kane－repun－an. 叔父は私を置き忘れて沖へ出た。

iokarire ＜i（私を）okari（巡る）re（使役語尾） 私の回りに置く。私の回りに立てる。shine－okkai－inaw－kar－ine－iokarire－a－an. 一人の若者がイナウを作って私（船神）の回りに立てた。

iokewe ＜i（私を）okewe（追い出す） 私を追い出す。ai－sa－iokewe－patek－ki－an. 姉は私を追い出してばかりいた。

iokuira ☞ iyokuira

iomante ＜i（魂を）oman（行く）te（他動詞化語尾） 魂を天界へ送り返す。アイヌの考えによると動物神は、天界では人間と同じ服装をし、同じものを食し、同じ家に住んでいるという。そして人間に肉、毛皮等を与えるために動物の姿に身を変えて降臨する。アイヌはその返礼として酒、団子、御幣を捧げてその魂を天界へ返す。名詞：魂送り

iomare¹ ＜i（私を）oman（行く）re（使役語尾） 私を入れる。nea－wen－kamiash－poru－oro－iomare－a. その恐ろしい魔神は洞穴の中に私入れたのでした。

iomare² ＜i（それ「酒」を）omare（入れる） 酒を入れる。⇨酌をする。第Ⅱ類動詞 an－machi－iomare－kusu－pishkanta－hoyup－an. 妻は酌をするためにあちこち飛び回っていた。

iomarepa ＜iomare（ᡤ）pa（目的物複数形）たくさん酌をする。an－machi－i－iomarepa－a. 妻は私にたくさん酌をした。

iopok ＜i（それ「前文」が）o（そこに）pok（混じっている） それが混じっている。sayutar－ta－rekut－sak－kamui－iopok－an. その鳥に群れの中に首の無い（鳥の）神が混じっていた。

ioshiaraka ＜i（それ「お産」の）oshi（後）araka（痛む） 後腹を病む。第Ⅱ類動詞

ioshike ☞ iyoshike

ioshikoni ＜i（私の）oshi（内に）ko（に対して）niw（歯向かう） 私の内迄入り込む。私を捕まえる。

ioshshikir ＜i（私の）osh（背後に）shikir（転ずる） 私の背後にやって来る。iresu－yupi－ioshikir－kor－an

－karpe－eminar－an. 私の育ての兄は私の背後にやって来て私の作ったものを笑うのでした。

ioshikirpa ＜ioshikir（ᡳᡴᡳᡵ）pa（主格複数語尾） 一人ならず二人以上の人々が私の背後にやって来る。

iotereke ＜i（私を）o（ここから）tereke（突き落とす） ①私を人間界から突き落とす。chikap－sak－kotan－ta iotereke－kushine－ari－ayubi－utari－iepa－kor－an. 烏無き郷（地獄）へ私を突き落とすつもりだと兄たちが言っているのです。②私を踏みつける。kimun－kamui－iotereke－an. 山の神が私を踏みつけた。

iotke ＜i（私を）otke（突き刺す） 私を突き刺す。otasut－un－kur－op－ani－iotke－a. オタスト人は槍で私を突いた。

ipa ＜i（私を）pa（見つける） 私を見つける。sakma－ne－yaikarineno－an－korka－kimun－ainu－ipa－an. 横木に身を変えていたのですが山アイヌは私を見つけた。

ipakashnu ＜i（それを）pa（頭）ka（上）shi（大きく）nu（聞く） 教える。第Ⅱ類動詞 huchi－utara－ainu－itak－en－ipakashnu－an. おばあさんたちがアイヌ語を私に教えてくれた。

iparooiki ＜i（私の）paro（par「口」の人称形）o（そこで）i（それを）ki（為す） 食事の世話をする。第Ⅲ類動詞 iparo－e－oiki. 汝我（等）の食事の世話をす。iparo－eshi－oiki. 汝等我（等）の食事の世話をす。iparo－oiki. 彼（等）我（等）の食事の世話をす。

ipanne－ki ＜ip（語調を整えるための辞：久保寺逸彦著『アイヌ叙事詩神謡：聖伝の研究』p. 648）a（我）ne（～となる）ki（為す） 私は～となる。tane－anakune poho－korpe－ipanne－ki－wa－an－an. 今では子を持つ身となって暮らしている。

ipawre ＜i（そのことについて、漠然とした状態を）pa（口、言うこと）wen（悪い）re（他動詞化語尾） 悪口を言う。第Ⅱ類動詞 Echiki－nenoan－ipawre－na. そんな悪口を言ってはいけません。

ipawtenke¹ ＜i（そのことを）pa（口）e（そこで）tenke（唸る、声を上げる） 大声で命令する。"Repun－an－kushne!" ari－an－achabo－i－ipawtenke－an－na.「沖へ出るぞ」と叔父は私達に命令しました。

ipawtenke² ＜i（私に）pa（口）e（そこで）tenke（唸る） 私に命令をする。neno－iki－an－kunip－anacha－ipawtenk－a－an. そうするように叔父は私に命じました。

ipe ＜ep（食べるものを）e（食べる） 食事を執る。第Ⅱ類動詞 ipe－an－ka－somokino－an－an. 食事を執ることもなくいます。

ipeki ＜ipe（食事を）ki（する） 食事をとる。第Ⅰ類動詞用法/ipe－an－ki. 私は食事をとる。第Ⅱ類動詞用法/ipeki－an. 同上

ipere ＜ipe（ᡳᡴᡳᡵ）re（使役化語尾） 食べさす。口語用例/ku－koro－ekattara－ku－ipere. 子供たちに食べさす。文語用例/ene－an－ainu－ekathi chikari－humbe－rika－an－ipere－ya. あんな人間の子供に我ら捕りたる鯨の脂肪を食べさせてなるものか。

ipeshikayeush ＜ipe（食べ物の）shikaye（shikai「釘」の所属形）ush（付く） 腹が釘が突き刺さるように痛む。第Ⅱ類動詞 口語用例/ibe－okaketa huyup－an－yakne ipeshikayeush－an. 食事の後走ったら腹が釘が突が刺さるように痛くなった。

ipirikaresuki ＜i（私を）prika（立派な）resu（育て方）ki（する） 私を立派に育ててくれる。ai－sa－pirika-resuki－na. 姉は私を立派に育ててくれました。

ipishike ＜i（それを）pishike（引き抜く） 数える。第Ⅱ類動詞 tan－ekatchi－ainu－itak－ani－shinep－wano－wampe－pakno－ipishike－eashikai. この子はアイヌ語で一から十まで数えることができる。

ipokash ＜i（それ「顔」が）pok（下）ash（立つ） 顔が醜い。第Ⅱ類動詞 tumbu－oro－menoko－i'akari－ipokash－an. 几帖の中の娘は私より醜かった。

iporkawen ＜i（それの）por（表れ）ka（上）wen（悪い） 顔色がすぐれない。第Ⅱ類動詞 nekon－iki－wa－ankotsapo iporokawen－kor－an. どういうわけか姉は顔色がすぐれないのです。

iporkite ＜ipor（顔色）ki（する）te（使役化語尾）顔色を変える。第Ⅰ類動詞 ne－an－be－nea－pon－menoko－nu－wa－iporkite－kor－tumbu－oro－ahun－an. それを聞いてその娘は顔色を変えながら自分の仕切り（若い女性の部屋）へ入りました。

ipuni ＜i（私を）puni（持ち上げる） 私を持ち上げる。nea－kamiash－ipuni－wa－ape－samta－i－ama－wa－an. その魔神は私を持ち上げて火の側に置きました。

iraike ＜i（私を）raike（殺す） 私を殺す e－iraike－yakne－sui－shiknu－an. 汝我を殺すも再度我蘇生す。

iramie ＜i（それの）ram（心を）ie（言う） 誉める。感謝する。第Ⅱ類動詞 anona－neanbe－i－ko－iramie. 父はそのことで私を誉めてくれました。

irammakaka ＜i（そのことについて）ram（心）maka（開く）maka（開く） ①晴れ晴れとした気持ちになるような状態になっている。第Ⅱ類動詞 hat－ikiri－ni－ka－irammakaka－an－na. ぶどうが木に嬉しいほどに実を着けていた。②きちんとしている。nea－chise－oshketa－irammakaka－an. その家の中はきちんと

していた。

irammakakakar ＜irammakaka（大切に）kar（する）大切にする。第Ⅰ類動詞　nea－retar－poi－seta－an－irammakakakar－kor－reshika－an. その白い子犬を大切に育てていました。

irammokka ＜i（そのことに）ram（心を）mo（子である）ka（他動詞化語尾）心を子供にする。⇨遊ぶ。悪戯をする。　第Ⅱ類動詞　ne－kamui－irammokka－an－kushine. その神に悪戯をしてやろう。

irarpa ＜i（それ「湯に浸けて暖かくした手」を）rarpa（"rari"「押しつける」の目的物複数形）湯に浸けて暖かくした手を患部に何度も当てる。第Ⅱ類動詞　an－kor－shiushpe－honi－kata－irarpa－an. 赤子の腹に暖かくした手を何度も当てる。

iramshikari ＜i（漠然としたこと）ram（心）shikari（塞がる）分からない。知らない。第Ⅱ類動詞　nekon－i－ki－a－an－yakka－iramshikari－an. どうしてこうなったのか私には分かりません。

iramshikare ＜iram（心）shikare（塞ぐ）分からなくする。chi－i－iramshikare. 皆が私を分からなくする。⇨私は分からない。

iranke ＜i（私を）ran（降りる）ke（他動詞化語尾）彼（等）が私を降ろす。⇨私は降ろされる。kanto－or－wa－iranke－an－ruwene. 私は天から降ろされた。

irara 語源不詳　悪戯をする。第Ⅱ類動詞　Nep－kusu－neno－e－irara－ruwe？どうしておまえはそんな悪戯をするのだ。

iraraitakki ＜irara（悪戯）itak（言葉）ki（する）からかう。第Ⅱ類動詞　Echiki－ainu－utara－iraraitakki－na. 決して人をからかってはいけません。

irawketupan ＜i（その）rawke（下）ta（に）tup（二つのもの、たくさんのものが）an（ある）下界（人間界）にはたくさんのものがある。：神々が人間界に降臨するのはその魂が天界へ送り返されるとき、神々がどうしても作り出すことのできないもの、つまりtonoto、shito、inawを人間からたくさん戴くためであるとアイヌは考える。そこから派生して①『人間界を守る』、人間が主語となって②『稼ぐ』『儲ける』等の意味を持つようになった。また疱瘡神が③『人間界で疱瘡を流行らせる』という意味でも使われるようになった。①ainu－moshitta－irawketupan－kusu－neno－rap－an. 人間界を守るためにこのように降臨したのです。②ui-mam－an－wa irawketupan－an－ro. ウイマムで儲けよう。③ainu－moshir－irauketupan－na－ari－payekai－kamui－yainu－a－an. 人間界に疱瘡を流行らせてやろうと疱瘡神は考えていた。

iraukonise ＜i（我、我らを）raw（下）ko（から）nise（掬う）我（等）を掬いあげる　nea－kamiashi－chip－turano－poro－teke－ani－iraukonise－an. その魔神は船もろとも大きな手で我（等）を掬いあげたのでした。

irayapka ＜i（私を）rayap（感嘆する）ka（使役化語尾）私を感嘆させる。⇨感心する。ekor－teke－karpe－irayapka. あなたの手芸は私を感心させる。あなたの手芸に私は感心します。

iraye ＜i（それ、獲物）rai（死ぬ）e（他動詞化語尾）狩猟をして獲物を獲る。　第Ⅱ類動詞　kimta－iraye－an. 山で狩猟をして獲物を獲る。

irenkasanke ＜irenka（命令）sanke（下す）命令を下す　第Ⅱ類動詞　a－yubi－irenkasanke－ike－usshiu－utarihi－sake－kara－an. 兄が命令を下すと召使たちは酒を醸し始めた。

iresu ＜i（私を）resu（育てる）私を育てる　iresu－sapo. 養育姉。iresu－yubi. 養育兄。iresu－huchi. 養育祖母。iresu－unarbe. 養育叔母。アイヌ伝承では主人公を育ててるのは両親ではなくして大抵の場合兄か姉である。あるいは一人で暮らしている。これはアイヌの両親が子育てを拒否することではなくして、子が独り立ちができるようになると子を離してしまう熊の生態を示していると思われる。

iri ＜i（それ「皮」を）ri（剥ぐ）皮を剥ぐ。皮剥ぎをする。第Ⅱ類動詞　iri－an－wa－kam－an－se－wa－inawkar－an－wa－ihopunika－an. その皮を剥ぎ、肉を背負いイナウを作ってその魂を返した。

irish ＜i（私を）rish（引き抜く）私を引き抜く。私を捕える。nea－wenkamiash－irish－tek－ikka－an. その化け物は私を捕まえてさらったのでした。

ironne ＜i（それが）ror（擬声語「ガヤガヤ」）ne（自動詞化語尾）鬱蒼としている。陰毛が鬱蒼としている。

ironronke ＜i（それが）ronron（痙攣する）ke（他動詞化語尾）それが痙攣させる。i－kamiashi－ka ironronke i－sampehe ka i－hochikar. 私に化け物（男根）がひくひとく痙攣し、私にまで心臓もとろけて行く。性交直後の感じを歌った歌の一節。（転載：知里真志保著作集　別巻Ⅱ P. 56　平凡社）

irukaishiran ＜irukai（暫時）shir（状態）an（ある）しばらく時がたつ。irukaishiran－ike－moshi－an. しばらくして私は目が覚めた。

irura[1] ＜i（私を）rura（運ぶ）私を送る。iresu－yupi－an－chiseta irura－an. 養育兄は私を家へ送ってくれた。

irura[2] ＜i（それ「獲物」を）rura（運ぶ）獲物を運ぶ。第Ⅱ類動詞　ayubi－kimta－oman－wa－an－chise－ta－irura－an. 兄は狩に出かけて家に獲物を運んで

います。

irushka　＜i（①漠然とした事物②前文を受ける接頭辞）rushika（怒る　①不機嫌である。第Ⅱ類動詞　文語用例/ irushka－an－na. 私は何故か機嫌が悪い。②そのことに怒る。shir－wen－kamui－an－machi－i－kka－wa－too－ahin－wa－isam－na irushka－ash－kane－an－noshpa－an. 化け物が私の妻を奪って、遠くへ行ってしまい、そのことに腹を立てながら追いかけました。

isam　①無くなる。～してしまう。nea－kami－ayubi－e－wa－isam. その肉を兄たちは食べてしまった。②居ない。第Ⅱ類動詞　isam－an－ita nen－ka nep－ka－kore－ek－yakka－neanbe－echiki－e－ya. 私が居ないとき誰かが何かを持ってきても決して食べてはいけません。③死ぬ。亡くなる。an－kor－huchi－isam－ta－orowa－tupa－an. 祖母が亡くなって二年になる。

isampa　＜isam（亡）pa（主格複数語尾）tane－hempak－pa－nep－ka－ep－ka－isampa－na. もう何年も何も食べるものが(たくさん)無いのです。

ise　＜i（私を、私たちを）se（背負う）　私(たち)を背負う。nea－poro－kamiashi－poru－onnai－ise－wa－ahun－an. その大魔神は洞窟の中に私(たち)を背負って入った。

iseremakush　＜i（私の）sere（背中）mak（後ろ）ush（付く）　私の背後にいて私を守護する。chip－kamui, iseremakush－wa－ikore. 船神よ、私の背後にいて私を守護して下さい。

ishikari　＜i（それ「大河」が）shi（大きく）kari（曲がる）　詰まる。塞がる。「石狩川」の語源：石狩川の河口は上流から運ばれた土砂が堆積して河口が塞がれてしまう。第Ⅱ類動詞は名詞をも示し、大河には川を表す語をつけないのが普通である。

ishikkeshitaiki　＜i（私を）shik（眼）kesh（端）ta（そこで）i（それを）ki（する）　私を横目で睨みつける。kanto－kor－kamui－shiso－ta－rok－wa－ishikkeshitaiki. 天の神は右座に座して私を横目で睨みつけるのでした。

ishinnere　＜i（それ「化ける対象」の）shir（状態）ne（成る）re（使役化語尾）　化ける。第Ⅱ類動詞　ainu－an－ishinnere－an. 私は人間に化けました。

ishinotte　＜i（私を）shinot（遊ぶ）te（使役化語尾）①私を遊ばせる。anonu－atui－samta－ishinotte－an. 母は海岸で私を遊ばせた。②何かの魔神が私に遊び心を与えて私にとんでもないことをさせる。nep－wen－kamiashi－ishinotte－an－kusu－neno－iki－an. 何らかの魔神が私に遊び心を与えたので私はこんなとんでもないことをしてしまった。

ishitekka　＜i（本来の）shir（状態に）tek（自動詞化語尾：～になる）a（完了の助動詞）　本来あるべき状態になってしまう。⇨心を静める。落ち着く。文語用例/ an－ki－katu－wen－be－ne－kush－ishitteka－wa－ikore. 私が悪うございますのでどうか御気を鎮めて下さい。

ishitoma　＜i（①漠然とした事物を②前述のことを③私を）shitoma（恐れる）　①恐ろしく思う。恐ろしがる。ne－kon－ikiya－an－machi－ishitoma－kor－oka－an. どういうわけか妻は何かを恐れているのです。②前述のことを恐れる。wen－kamiash－ek－humi－ash－kusu ishitoma－an－kor－oka－an. 恐ろしい魔神がやって来ると言うことなので恐ろしく思いながらいます。③私を恐ろしく思う。nep－kusu－eani－ishitoma－ruwe？あなたは私を恐れるのですか。

ishitomare　＜i（人を）shitoma（恐がる）re（使役化語尾）　恐がらせる。第Ⅱ類動詞　ishitomare－kamiashi. 人を恐がらせる魔神。

ishishkoitaknatara　＜ishish（罵倒）ko（に対し）itak（言う）natara（持続語尾）　大きな声でずっと怒鳴っている。罵倒している。nea－kamiash－ishishikoitaknatara－hawe－ene－anihi. その魔神は次のように大きな声でずっと怒鳴っている。

isoitak　＜iso（猟運を）itak（祈る）　①猟運を祈る。⇨身の上話をする。四方山話をする。②伝承の最後に語られる常套句。第Ⅱ類動詞。①Otasut－un－nishpa－ieramkarap－wa－usa－isoitak－an－na. オタストの長者は私に挨拶をして下さり、色々四方山話をしました。②sekor－shitumbe－tono－mat－yai－isoitak. そのように銀狐の奥方が語りました。

isonkokore　＜i（私に）sonko（言告げ）kore（与える）私に言告げる。Otasutun－kur－isonkokore－an. オタスト人から言告げが私にあった。

isoun　＜iso（猟運が）un（ある）　獲物が豊富である。isoun－kur. 獲物に恵まれている人。

itak　＜i（それを『神の力』）tak（招く）　それを招く。⇨神の力を自分に招き入れる。⇨祈る。⇨語る。話す。第Ⅱ類動詞　名詞：言語　ainu－itakアイヌ語　文語用例/ itak－an－chiki－pirkano－inu. 私が語ることをきちんと聞きなさい。口語用例/ ku－itak－chiki－pirikano－nu. 同上。

itako　＜itak（言葉を）o（入れる）　言葉を入れる。⇨語る。言う。第Ⅱ類動詞　atui－kor－kamui－itako－hawe－ene－anihi. 海の神は次のように語りました。

itakomare　＜itak（言葉を）omare（入れる）言葉を添える。第Ⅱ類動詞　nea－ekatchi－tu－pase－ashike

－re－pase－ashike－puni－kane－itakomare－ene－anihi. その子供は二度手をおもむろに上げ、三度手をおもむろに上げ次のように言葉を添えました。

itakononnoitak　＜itak（言葉）o（生じる）nonno（祈祷）itak（言う）　言葉で祈りを捧げる。第Ⅱ類動詞 neno－itakononnoitak－an. そのように私は言葉で祈りを捧げました。

itakpa　＜itak（言）pa（①主格複数②目的物複数③尊敬）　①itakpa－an. 我々が言う。eshi－itakpa. 汝等が言う。itakpa. 彼等が言う。②ひとつならずたくさん言う。滔々と語る。a－yubi－neno－itakpa－an－wa－mawetuie－wa－isam. 兄はそのように滔々と語って息が切れ、亡くなりました。③おっしゃる。語って下さる。arino－kane－nea－kamui－itakpa－an. そのようにその神様は語って下さいました。

itasa　＜i（それ『言葉』を）tasa（返す）　返答する。第Ⅱ類動詞　tan－huchi－ainu－itak－ani－e－ekota－iye－a－kusu－eani－ainu－itak－ani－en－itasa. このババはアイヌ語であなたに言ったのだからあなたはアイヌ語で返答しなさい。（門野トサの言）

itata　＜i（それ『食べ物』を）tata（刻む）　食べ物を小さく刻む。chep－pone－ko－itata－wa－su－oshike－omare. 魚を骨ごと刻んで鍋の中に入れる。

itauki　＜i（私を）tauki（叩く）　私を叩く。okikurumi－itauki. オキクルミが私を叩く。

itekeani　＜i（私の）teke（手を）ani（携える）　私の手を携える。i－resu－unarube－itekeani－kor－chise－onnai－ko－ahunke－an. 育ての叔母は私の手を携えて家の中へ私を入れました。

itekeuina　＜i（私の）teke（手を）uina（執る）　私の手を執る。chish－kor－an－ike－anunarbe－itekeuina－a. 私が泣いていると叔母は私の手を執ってくれました。

itemni　＜i（私を）temni（動詞：抱き締める　名詞：腕）　私を抱き締める。kamui－ne－an－kur itemni－an. 神様のような方が私を抱き締めるのでした。

itese　＜i（それチタラベ、サラニップ（袋）を）tese（編む）　編み物をする。第Ⅱ類動詞　anokai－menoko－an－ne－kusu－keshto－itese－an. 私は女ですので毎日編み物をします。

itere　＜i（私を）tere（待つ）　私を待つ。hoshibi－an－pakno－itere－yan. 私が戻ってくるまで待って下さい。

itoikoiekar　＜i（私を）toi（土）ko（～に向けて）ie（言葉を）kar（作る）　私をひどく言う。私を罵る。toi（土）には、汚いもの、邪悪なものという深層の意味があり、そこからtoikoがひどく、大変の意になった。文語用例/aisa－neno－itak－kor－itoikoiekar－an. 姉はそう言いながら私を罵ったのです。

itoikokikki　＜i（私を）toi（土）ko（～に向けて）kik（叩く）ki（する）　私をひどく叩く。文語用例/iresu－sapo－apepasui－ani－itoikokikki－a－an. 私の養育姉は火箸で私をひどく叩くのでした。

itoikokishima　＜i（私を）toiko（ひどく）kishima（掴む、抱きかかえる）　私をしっかり抱きかかえる。i－osh－ek－kur－itoikokishima－an. 私の後を付けて来た人が私をしっかり抱きかかえた。

itoikononnoitak　＜itoiko（熱心に）nonnoitak（祈りの言葉を捧げる）　熱心に祈りの言葉を捧げる。第Ⅱ類動詞

itoikorishitek　＜i（私を）toiko（しっかりと）rishitek（掴む）　私をしっかりと掴える。nea－kamiashi－itoikorishitek－a－ine－esonne－hoyup－an. その魔神は私をしっかりと掴えて外へ飛び出したのでした。

itoikoshikiraye　＜i（私に）toiko（ひどく）shiki（目を）raye（遣る）　私をひどく睨む。ne－'okai－isam－ta－ek－ine－itoikoshikiraye－kor－an. その男が私の側にやって来て私をひどく睨むのでした。

itoikoweiiekar　＜i（私を）toiko（ひどく）wen（悪い）ie（言葉を）kar（作る）　私をひどく悪く言う。⇨私に悪口雑言を浴びせる。kanto－kor－kamui－itoikoweiiekar. 天の神は私に悪口雑言を浴びせるのです。

itomnukar　＜i（その人の）tom（体を）nukar（見る）　夫となる。妻となる。　第Ⅱ類動詞　Otasut－e－itomnukar－an. 私はオタストへ嫁（婿）に行きます。

ittotuk　＜ir（一続きの）to（日）tuk（出る）　日々が去る、時が経つ。nea－poi－seta－ittotuk－an－kor－poro－an. その子犬は日増しに大きくなりました。

itura　＜i（私を）tura（伴う）　私と一緒に行く。pishkanta－itura－anroh. いろんなところへ私と行きましょう。

itura－an　＜itura（自）an（中相「我々」）　私は連れられる。neine－ta－itura－an. どこかへ連れられていきました。

ituren　＜i（私に）tu（たくさん）ren（沈む）　私に憑く。ituren－kamui私の憑き神

itusseka　＜i（私を）tu（擬声音）se（発声する）ka（他動詞化語尾）　トウッと発声させる。私を突き飛ばす。

itutanure　＜i（私に）tutanure（向ける、近づける）　ne－kamui－awanki－me－nish－noka－oma－ushike－itutanure. その神は扇の冷たい雲の絵のある方を私に向けたのです。

iuitek　＜i（私を）uitek（遣わす）　私を遣わす。kanto－kor－kamui－ainu－moshitta－iuitek－an. 天の神

様は人間界へ私を遣わした。

iuta　＜i（それ『粟、乳母百合の茎』を）uta（搗く）　粟の籾を取ったり百合の茎を潰す。臼を搗く。第Ⅱ類動詞。文語用例/ menoko－utar－iuta－kor－okai－an. 娘たちは臼を搗いていた。

iwak　＜i（それ『山へ向かって発する声』）ak（射る）山へ向けて発した声が矢のように帰ってくる。行き来する。訪ねる。　第Ⅱ類動詞　mat－ko－iwak. 妻問いをする。

iwakte　＜iwak（ᡳ）te（使役化語尾）　行き来させる。送りに出す。

iwanke　元気である。第Ⅱ類動詞　e－iwanke－ruwn ? お元気ですか？

iwankenoan　＜iwanke（ᡳ）no（副詞化語尾）an（いる　主格単数）　元気でいる。第Ⅱ類動詞　口語用例/ kuani－ka iwankenoan. 私も元気です。

iwankenookai　＜iwankeno（ᡳ）okai（いる　主格複数）　元気でいる。第Ⅱ類動詞　口語用例/ ku－utari－ka－opitta－iwankenookai. 私の家族も皆元気にしています。

iweiiekar　＜i（私を）wen（悪い）i（こと）ie（言う）kar（作る、為す）　私を悪く言う。私の悪口を言う。okikurumi－iweiiekar－kor－enonta－pae－wa－isam. オキクルミは私の悪口を言いながら何処かへ行ってしまった。

iwenpanakte　＜i（私を）wen（ひどい）panakte（罰を与える）私をひどく罰する。⇨私を重罪に処す。kamui－utar－anokai－torannep－ne－kusu－iwenpanakte－an－na. 神々は私が怠け者であったので私を重罪に処したのです。

iyaiikka　＜iyai（悲しみ）ika（溢れる）ka（他動詞化語尾）　悲しませる。shisam－utar－huchi－nakka－ekashi－nakka－iyaiikka－an－na. 日本人がアイヌのお婆さんや、お爺さんを悲しませているのです。

iyaikitte　危険である。危ない。第Ⅱ類動詞

iyairaikere　＜i（悪霊を）yai（自身で）rai（死ぬ）ke（他動詞化語尾）re（使役化語尾）　悪霊を自身で死なしむ。神よ、私の悪霊が自ら命を絶つようにしてください。祈りの後に言う言葉。そこから派生して『有り難う』の意。

iyanke　＜i（それを）yan（陸に上がる）ke（他動詞化語尾）　それ（船荷、鯨）を陸揚げする。第Ⅱ類動詞

iyare ☞ **iare**

iyas　＜i（私を）yas（裂く）　私を裂く。Samaikur－an－chikiri－iyas－a－kusu－an－netopake－tupne－an. サマイクルが私を股裂きにしてしまったので私の体は二つに割れてしまいました。

iye　言う　第Ⅰ類動詞　anona－iekota－ene－iye－an. 父は私にこういうのでした。

iyekar　＜iye（言うこと）kar（作る）　言う。第Ⅱ類動詞　nep－iyekar－an－yakka－e－inu－somoki－na. 私が何を言ってもあなた聞こうとはしない。

iyokuira　＜i（それ「相手の女性」の）y（出子音）o（陰部に）kuira（相手（動物も含む）に気づかれぬように近づく）　夜這いをする。第Ⅱ類動詞

iyoshiaraka ☞ **ioshiaraka**

iyoshiki　＜i（それ「飲酒」の）y（出子音）oshi（後に）ki（する）　飲酒の後の状態にする。⇨酒に酔う。第Ⅱ類動詞　iku－an－wa－iyoshike－wa－mokor－an. 酒を飲み、酔って寝る。

K

kaare　＜ka（糸を使った罠）a（座る）re（使役化語尾）罠をかける。第Ⅱ類動詞　chikoikip－raike－kusu－kaare－an. 獲物を捕るために罠をかける。

kai[1]　折れる　第Ⅱ類動詞　nea－wen－kamiashi－okkewe－kai－tek－nani－shiroshima. その魔神の首の骨が折れるや否や倒れた。

kai[2]　背負う。第Ⅰ類動詞　an－kor－shishipe－an－kai－kor－an－chiseta－hoshibi－an. 赤子を背負いながら家へ帰りました。

kaipa　＜kaye（折る）pa（目的物複数）一本ならず二本以上折る。

kama　＜ka（上）ma（動詞化語尾）　上を越える。⇨飛び越える。跨ぐ。chikap－an－ne－wa－iwan－nupuri－an－kama－rusui－na. 鳥になって六つの山を飛び越えたい。

kampa　＜kamu（被る）pa（目的物複数形）　一つならず二つ以上のものを被る。an－machi－konchi－e－kampa－kor－i－tere－an. 妻は頭巾をたくさん被って私を待っている。

kamare　＜kama（越える）re（使役化語尾）越えさす。合成語の中に現れる。例：shikkamare 目を越えさす。目を凝らして見る。第Ⅱ類動詞　yayunkur－atui－shikkamare－a－an. 陸の人の海を目を凝らして見ました。

kamu　＜ka（『上』を表す助辞）mu（塞ぐ）被る。覆う。第Ⅰ類動詞　anante－hoku－konchi－e－kamu－kane－hotke－patek－an. 夫は頭巾を被ったまま寝てばかりいる。

kamuihumiash　＜kamui（神）humi（hum『音』の所属形）ash（出る）　雷が鳴る。

kamuinere　＜kamui（神）ne（である）re（使役化語尾）

神にする。an－yai－kamuinere－an. みんなが私自身を神にした。私は神となった。

kamuinishikuran ＜kamui（神）nishikur（雲）an（ある） 曇る。ekushukono－kamui－nishikur－an－wa－ruyambe－ash. 突然雲って激しい雨が降った。

kamuinomi ＜kamui（神）nomi（祈る） 神へ祈りを捧げる。第Ⅱ類動詞 inaw－kar－ine－kamuinomi－an. イナウを作って私は神へ祈りを捧げた。

kamuinomipa ＜kamuinoi（ᡮ）pa（①尊敬②主格複数） ①神へ祈りを捧げられる。第Ⅱ類動詞 chacha－kamui－oripak－kane－chepatte－kamui－ko－kamuinimipa－an. 翁神は厳粛に食物神に祈りを捧げられた。②an－utari－opittano－tura－wa－kamuinomipa－an. 我が一族はすべて連れ立って神へ祈りを捧げた。

kamuishiyeye ＜kamui（魔神）shiyeye（病気になる） 疱瘡に罹る。第Ⅱ類動詞。kamuishiyeye－an－yakne－shinenne－kimta－oman－an－wa－ratchitano－rai－an－shir－an－tere－kushi－ne. 疱瘡に罹ってしまったら一人で山に行き静かに死を待つつもりです。

kamure ＜kamu（被る）re（使役化語尾） 被せる。第Ⅰ類動詞 an－matnepo－seta－rush－an－kamure. 娘に犬の皮を被せた。（物語の一説：そしたら娘は犬になった）

kamush ＜kam（肉）ush（付く） 肉が付く。太る。第Ⅱ類動詞 poronno－ibe－yakne－e－kamush－nankoro. たくさん食べたら太るでしょう。

kamushi ＜kam（肉を）ushi（付ける） 肉を付ける。太る。第Ⅱ類動詞 nepnakka－poronno－e－ibe－wa－kamushi. 何でもたくさん食べて太りなさい。

kaopash ＜ka（上、体の表面に魔物が宿ると考える。）o（そこへ）pash（駆ける） 救援する。第Ⅲ類動詞 e－ka－opash－an. 我（等）汝を救援す。eshi－ka－opash－an. 我（等）汝等を救援す。kashi－opash－an. 我（等）彼（等）を救援す。i－ka－e－opash. 汝我（等）を救援す。i－ka－eshi－opashi. 汝等我（等）を救援す。kashi－e－opash. 汝彼（等）を救援す。kashi－eshi－opash. 汝等彼（等）を救援す。i－ka－opash. 彼（等）我（等）を救援す。e－ka－opash. 彼（等）汝を救援す。eshi－ka－opash. 彼（等）汝等を救援す。

kar ①作る。造る。第Ⅰ類動詞 kem－o－p－an－kar－a－kor－an. 針入れを作っていました。chise－kar. 家を造る。chip－kar. 舟を造る。kotan－kara－kamui 村（国）を造った神、サマイクル②採る。hat－kar－kuni－kim－ta－pae－an. 葡萄を採りに山へ行く。karsh－kar 茸を採る。at－kar 木の皮を採る。③養う。iwan－pa－chireshikap－an－kar－an. 六年熊を養っている。④為す。する。ene－an－kar－i（ke）－ka－isam. なす術が無い。⑤回る。moshir－kesh－a－kar－ine－kanto－otta－hoshibi－an. 大地の上端を回って天に帰った。⑥変える。ainu－ne－yai－kar－a－an. 人間の姿に身を変えています。⑦縫う。nokan－pukuro－rupne－pukuro－an－kar－ineno－an. 小さい袋や大きな袋を縫っています。⑧代動詞用法 ayubi－i－e－humke－kar－kor－oka－an. 兄は私にそのことに就いて聞かせていました。⑨切る。karpe（切るもの）鋏。⑩治す。kusuri－ani－shiyeye－kar. 薬で病気を治す。⑪摘む。mun－epui－kar. 草花を摘む。⑫剥ぐ。kambi－kar. 白樺の皮を剥ぐ。⑬ひく。omke－kar. 風邪をひく。⑭当てる。ape－setur－kar. 火に背中を当てる。

kare ＜kar（作る）re（使役化語尾） rr の発音がないので kare となる。①作らせる。ne－an－be－ayubi－i－kare－an. それを兄は私に作らせた。②当てる。na－pewre－kana－an－menoko－pon－totto－rera－kare－kor－an. まだ若い娘が可愛い乳房を風に当てていた。

karanke 近づく。近寄る。第Ⅱ類動詞 kotan－karanke－a－an. 村に近寄った。

kare ＜kar（作る）re（使役） 作らせる。作ってやる。nei－wa－ta－ek－menoko an－hoku－chise－kara－a－an. どこからかやって来た女性に夫は家を作ってやったのでした。

kari 廻る。第Ⅱ類動詞 inaw－san－okari－kari－ash. 祭壇の廻りを私は廻る。

karikari ぶら下がる。第Ⅱ類動詞 i－resu－yupi－rekuchi－wa－karikari－an. 育ての兄の首にぶら下がる。妹が兄に甘えているときに用いる常套句。

karkar ＜kar（作る）kar（作る） 念には念を入れて作る。第Ⅰ類動詞 nea－kamui－korachi－an－kur－ekota－pirika－suke－an－yaiko－karkar－an. その神の如きお方のためにおいしい料理を念には念を入れて作りました。

karkari ＜kar（回る）kar（回る）i（他動詞化語尾） ぐるぐる巻く。第Ⅰ類動詞 shikarkari－kor－an. 自身をぐるぐる巻きながらいました。（蛇がとぐろを巻いている）

karkasse ＜karkar（コロコロ、ゴロゴロ）se（動詞化語尾） コロコロゴロゴロ回る。転げ回る。第Ⅱ類動詞 an－kor－shiushpe－karakasse－kor－shinot－an. 赤ん坊は転げ回って遊んでいる。

karpa ＜kar（ᡮ）pa（①三人称複数形②目的物複数③尊敬） ①an－kotan－un－utar－an－chise－karpa－an. 村人たちが私の家を作ってくれた。②Nep－e－karpa－ruwn？何をたくさん作ったのですか③ainu

－utar－pirika－mosh－karpa－wa－neita－i－ama－na. 人間たちはきれいな草床をお作りになられて私をそこに置いてくれる。(鮭の言葉)

kashima 溢れる。

kashiosoroshi ＜kashi (ka『上』の人称形) osoro (尻) ushi (付ける) 腰掛ける。腰を下ろす。第Ⅱ類動詞 samamni－kata－kashiosoroshi－an. 倒れ木の上に腰を下ろした。

kashiwakkakush ＜kashi (ka『上』の人称形) wakka (水) kush (通る) 汗をかく。第Ⅱ類動詞 arikikino－monraike－an－kusu－kashiwakkakush－an. 一生懸命に働いたので汗をかいている。

kashkar ＜kash (狩猟の際、立てる小屋) kar (立てる) 仮小屋を立てる。第Ⅱ類動詞 neita－kashkar－a－an－wa－rewsh－an. そこに仮小屋を立てて泊まりました。第Ⅰ類動詞用法 neita－kash－an－kar－a－wa－rewsh－an. 同上。

kashnukar ＜kash (ka『上』の人称形) nukar (看る) 病気見舞いに行く。第Ⅱ類動詞 an－kor－achabo－shiyeye－ki－kusu－tewano－kashnukar－an－etokosh. 叔父が病気なのでこれから見舞いに行くところです。

kashoiki ＜kashi (ka『上』の人称形) o (そこで) i (それを) ki (する) 看病する。第Ⅲ類動詞 人の身体の表面には kash－kamui という憑き神が付いているという。この神が病魔に打ち勝つことによって病気が治癒すると考えた。e－kashi－an－oiki. 我(等)汝を看病す。eshi－ka－an－oiki. 我(等)汝等を看病す。kashi－an－oiki. 我(等)彼(等)を看病す。i－ka－e－oiki. 汝我(等)を看病す。i－ka－eshi－oiki. 汝等我(等)を看病す。kashi－e－oiki. 汝彼(等)を看病す。i－kashi－oiki. 彼(等)我(等)を看病す。e－ka－oiki. 彼(等)汝を看病す。eshi－ka－oiki. 彼(等)汝等を看病す。

kasui 助ける。第Ⅰ類動詞 ayubi－utari－monraike－koroka－nep－ka－an－e－kasui－somoki－no－an. 兄たちは仕事をしていたのですが何にも手伝わずにいた。

katukar ＜katu (姿、形、有様) kar (為す、作る、身を変える) 相手の姿、形に身を変える。⇨欺く。 第Ⅱ類動詞 e－kor－sapo－katukar－an－ine－neno－kor－an. おまえの姉を欺いてこのように結婚している。第Ⅰ類動詞用法。e－kor－sapo－katu－an－kara－ine－neno－kor－an. 同上。

kaurototo ＜kau (擬声語メリメリ) rototo (継起態) メリメリ音を立てている。kai－rusuipe－anakne－shuttom－oroke－chi－kaurototo－an. 折れたい木は根本からメリメリ音を立てている。

kaye 折る 第Ⅰ類動詞 kon－kani－pon－chikappo－okkewe－an－kaya－an. 金の小鳥の首の骨を私は折った。

ke 削る 第Ⅰ類動詞 inaw－an－ke－kor－an. 私はイナウを削っています。makiri－ani－ni－ke. 小刀で木を削る。

kekke ＜ke (削る) ke (削る) 砕く。第Ⅰ類動詞 an－kor－riyap－wen－kur－kewe－teke－ani－kekke－an. 私の越冬熊は悪者の骨を手で砕くのでした。

kem 嘗める。第Ⅰ類動詞。itanki－kem－ashikepet (椀を・嘗める・指)人差し指。

kemeiki ＜kem (針) e (それで) i (それを『相互理解』) ki (為す) 針仕事をする。第Ⅱ類動詞 天界では神々は労働から解放され、女神は針仕事に没頭する。keshi－to－an－kor kemeiki－an－kor－oka－an. 毎日私は針仕事をしています。

kemekar ＜kem (針) e (それで) kar (作る) 縫う。第Ⅰ類動詞 usa－sarambe－an－kemekar. いろいろな絹切れを私は縫います。

kemekot ＜kem (飢餓) e (それで) kot (死ぬ) 飢え死にする。第Ⅱ類動詞

kemeshiknu ＜kem (飢饉) e (それから) shiknu (助かる) 飢饉から助かる。第Ⅱ類動詞 e－yubi－utari－kaopitta－kemeshiknu－ruwe. あなたのお兄さんたちも皆飢饉から助かったのです。

kemetuk ＜kem (血) etuk (出る) 血が出る。第Ⅱ類動詞

kemnu ＜kem (血) nu (動詞化語尾) ①出血する。第Ⅱ類動詞 an－ashikepe－wa－kemnu－an. 指から出血した。②哀れむ。憐れむ。kotan－kar－kamui－i－kemnu－an. 国造りの神は私を哀れに思われた。

kemush ＜kem (飢饉) ush (付く) 飢饉になる。飢饉がある。Otasut－un－kotan－kemush－a－wa－nepka－ep－ka－isam. オタストの村は飢饉になり何も食べ物が無い。

kepa ＜ke (削る) pa (①目的物複数②尊敬③主格三人称複数) ①一本ならず二本以上削る。usa－inaw－an－kepa－kor－an. いろんなイナウをたくさん削っています。②削られる。an－kotan－nishpa－inaw－ke－an. 村の主がイナウを削られている。③ne－utar－inaw－kepa－kor－an. あの方々がイナウを削っている。

kepapa ＜ke (削る) pa (目的物複数) pa (尊敬) 一本ならず二本以上削られる。nea－chacha－kamui－inaw－kepapa－kor－an. その翁神はたくさんのイナウを削られていらっしゃる。

keraan ＜kera (味) an (ある) 味がある。⇨美味しい。tan－chep－sonno－keraan. この魚は本当に美味

しい。

kere ＜ke（削る）re（使役化語尾） 削らせる。inaw－anona－i－kere－an. 父はイナウを私に削らせた。

kerekere 擦り擦りする。第Ⅰ類動詞 ne－chikuni－orowa－an－kerekere－pokonno－ran－an. その立ち木から擦り擦りするようにして降りた。

keshisaknoapkash ＜keri（乾）sak（無い）no（連用形化語尾）apkash（歩く） 裸足で歩く。第Ⅱ類動詞 ekattara－chise－soita－okai－ita－ka－keshisaknoapkash－an. 子供たちは外にいるときでも裸足で歩いている。

keshke ＜kesh（端）ke（他動詞化語尾） 中心から端へ追いやる。⇨嫉む。呪う。第Ⅰ類動詞 wen－chakchak－i－keshke. 悪い鴉は人を呪う。

ki ①する。為す。第Ⅰ類動詞 nep－e－ki－kor－ya？あなたは何をしているのですか。oina－ki－wa－en－kore. オイナをして下さい。②代動詞 tuitak－nu－ki－kor－an. トゥイタックを聞いています。

kik 打つ。叩く。第Ⅰ類動詞 isapakikni－ani－chep－pake－an－kik－kor－an. 魚を叩く。棒で魚の頭を叩いている。

kikkakikka ＜kik（叩く）a（継続）kik（叩く）a（継続） 何度も続けて叩く。第Ⅰ類動詞 nea－wen－kamiashi－iko－kikkakikka－ine－iraike－an. その魔神が何度も続けて私を叩き、そのうち私は死んでしまいました。

kikki ＜kik（叩く）kik（叩く） 何度も叩く。第Ⅰ類動詞 i－resu－chacha－ape－pasui－ani－i－toiko－kikki. 私を育ててくれている翁は火箸で強く何度も叩くのでした。

kikpa ＜kik（叩く）pa（目的物複数） たくさん叩く。an－unarbe－nea－seta－kikpa－an. 叔母はその犬を何度も叩くのでした。

kimatek ＜kim（山を）ak（射る）tek（ちょっと～する 軽微態） 生活を支え、信仰の対象である山に矢を射ることは畏れ多いことである。そこから「恐れる、慌てる」の意が派生したと推定される。第Ⅱ類動詞 ainu－opitta－kimatek－kor－okai－an. みんなで恐れ慌てている。

kimatekka ＜kimatek（ㇰ）ka（他動詞化語尾） 恐れさす。驚かす。第Ⅰ類動詞 nea－wen－kamiash－i－kimatekka－kor－an. その魔神は我々を恐れさせていました。

kimoiki ＜kim（山）o（そこで）i（それを）ki（する） 山菜採りをする。（女、子供の仕事） 第Ⅱ類動詞 menoko－utara－kimoiki－kusu－kenash－ekota－aship－ki－na. 女たちは山菜を採りに木原へ出掛けるのですよ。

kimun ＜kim（山）un（にいる） ①山にいる。第Ⅱ類動詞 kimun－kamui. 山にいる神。特に熊のこと。②山へ行く。狩猟に行く。狩猟。kimun－anroh. 狩猟に行こう。

kimunki ＜kimun（山へ）ki（する） 山へ狩猟に行く。第Ⅱ類動詞 kimunki－an－wa－usa－chikoikip－e－auna－an－rura. 山へ狩猟に行っていろいろな獲物を家へ運びます。

kipa ＜ki（する）pa（①目的物複数形）②尊敬③主格三人称） ①たくさんのことをする。第Ⅰ類動詞 tan－kotan－otta－an－kipa－kor－an. この村でたくさんのことをしています。②為さる。される。tewanonep－ekipa－kushine－na. これから何を為さるおつもりですか③katkemat－utari－iramiye－itak－kipa－kor－an. 奥方たちはねぎらいの言葉をかけた。

kipapa ＜ki（する）pa（目的物複数形）pa（尊敬） たくさんのことをなさる。kanto－otta－okkai－kamui－shirika－nuye－patek－ki－wa－kipapa－somoki－na. 天界では男神は刀の鞘に紋様を施してばかりいてたくさんのことはなさらないのです。

kipare ＜ki（する）pa（目的物複数形）re（使役） たくさんのことをさせる。oshike－wen－iresu－unarube－i－kipare－kor－an. 心根の悪い育ての叔母は私にたくさんのことをさせていました。

kiptumu ＜ki（為す）p（こと）tum（力）u（動詞化語尾） 力が出る。第Ⅱ類動詞 ibe－an－yakne－kiptumu－an. 食事をしたら元気になった。

kir 転ずる。向きを変える。第Ⅰ類動詞 ekimun－an－kir. 山へ私は向かう。合成語の中に現れる。shikir＜shi（自身の）kir（向きを変える） 向きを変える。ekimun－shikir－an.（海の方ではなくて）山へ我が身を向ける。

kira 逃げる。第Ⅱ類動詞 an－kor－riyap－kim－ta－kira－an－wa－isam. 越冬熊が山へ逃げてしまった。

kirare ＜kira（逃げる）re（他動詞化語尾） 逃がす。第Ⅰ類動詞 nen－kamui－i－kirare－an－na. いづれの神が私を逃がしてくれた。

kire ＜ki（する）re（使役化語尾） させる。Nep－e－i－kire？あなたは私に何をさせるのか

kiroran ＜kir（骨髄）or（あるところ）an（ある） 髄液がある。⇨おいしい。⇨嬉しい。⇨喜ぶ。 第Ⅱ類動詞 a－yubi－kiro－ran－kor－ahun－an. 兄は喜びながら（家へ）入った。

kirorokai ＜kir（骨髄）or（あるところ）okai（anの主格複数形） 喜ぶ。第Ⅱ類動詞 ai－sa－utari－kirorokai－kor－ahup－an. 姉たちは喜びながら（家へ）入った。

kirousure　＜kir（足を）o（そこで）u（互いに）se（背にする）re（使役化語尾）　両の足を互いに背にせしむ⇨あぐらをかく。（男の正座）　第Ⅱ類動詞　kirousure－an－wa－an. 私はあぐらをかいていました。

kiroran　＜kiror（喜び）an（ある）　嬉しい。形容詞＝第Ⅱ類動詞　Samaikur－kiroroan－kor－chip－sanke－na. サマイクルは喜んで船を降ろしたのです。

kirpa　＜kiru（転ずる）pa（目的物複数）　ひとつならず二つ以上の向きを変える。erepashi－chip－an－kirpa. たくさんの船の向きを変えた。

kishima　捕まえる。押さえる。抱きすくめる。第Ⅰ類動詞　nenka－e－kishima－nankoro. 誰かがあなたを捕まえるでしょう。etu－kishima－koro－neita－kush－an. 鼻を押さえながらそこを通りました。kamui－ne－an－kur－i－sam－ta－arki－wa－i－kishima－an. 神様のような方が私の側にやって来て私を抱きすくめるのでした。

kishimare　＜kishima（捕まえる）re（使役化語尾）　捕まえさす。an－hoku－rai－kunak－ie－kor－shi－kishimare－nankoro. 我が夫は死ぬぞい言いながら自分を捕まえさせるでしょう。

koahun　＜ko（～へ）ahun（入る）～へ入る。第Ⅰ類動詞 an－poro－poru－onnai－koahun－an. 私は大きな洞穴の中に入りました。

koahunke　＜ko（～に）ahunke（入れる）　～に入れる。nea－katkemat－i－teke－ani－wa－chise－onnai－koahunke－an. その奥方は私の手を執って家へ入れました。

koapkashi　＜ko（共に）apkashi（歩く、出かける）　～と共に出かける。tanewano－eona－ush－ta－an－koapkashi－na. これから一緒にあなたのお父さんのところへ出かけましょう。

koban（邦語）　拒む。第Ⅰ類動詞　An－kotan－kor－kur－anakne－shisam－tono－itakpe－kopan－an. 我が村の主は和人の侍の言うことを拒んだ。

koetaye　＜ko（～に対して）etaye（引く）　引いている。ne－onne－chise－hanke－punkar－tuima－punkar－koetaye－an. その古びた家を近くの葡萄の蔓と遠くの葡萄の蔓とが引いていました。

koeusai　＜ko（～に対して）e（そこで）sai（巻くつく）　～に巻きつく。からまる。第Ⅰ類動詞　shiko－an－chise－hankeno－ek－punkar－tuimano－ek－punkar－koeusai－na. 私の生まれた家に遠くからやって来たぶどう蔓と近くからやって来たぶどう蔓が巻きついていた。

kohumterekere　＜ko（～に対して）hum（音を）tereke（飛ぶ）re（他動詞化語尾）　音を飛ばす。⇨音を立てながら進む。nea－wen－kamiash－poknashir－kohumterekere－an. その魔神は地獄へ音を立てながら落ちていった。

kohoshibi　＜ko（～へ）hoshibi（帰る）　～へ帰る。第Ⅰ類動詞　i－resu－chashi－an－kohoshibi. 私を育ててくれたお城へ帰ります。

koiki　＜ko（～に対して）i（それを）ki（する）　①打つ。叩く。捕る。殺す。第Ⅱ類動詞　chep－koiki－kor－an. 魚を捕っていた。②苛める。a－yubi－utari－ne－yakka, a－acha－utari－neyakka－opitta－i－koiki－an. 兄たちも叔父たちも皆私を苛めるのです。

koikipa　＜koiki（ᡴᡳ）pa（①主格三人称複数形②目的物複数形③尊敬）　①ainu－utar－chep－koikipa－kor－an. 人々は魚を捕っていました。②chep－an－koikipa－an. 魚をたくさん捕ります。③kimun－kamui－chep－koikipa－kor－an. 熊神が魚を捕っておられる。

koikipapa　＜koiki（ᡴᡳ）pa（目的物複数形）pa（尊敬）　たくさんお捕りになられる。kimun－kamui－chep－koikipapa－kor－an. 熊神は魚をたくさんお捕りになられます。

koinkar　＜ko（～を）inkar（見る）　～を見る。第Ⅰ類動詞　kamui－menoko－i－koinkar－a－an. 神様のお嬢様が私を見守って下さいます。

koipuni　＜ko（～に対して）i（食事などを）puni（捧げる）　①食事を捧げる。第Ⅰ類動詞　nea－chacha－kamui－an－koipuni－a－an. その翁神に私は食事を捧げました。②お礼を述べる。第Ⅰ類動詞　shiri－kor－kamui－an－koipuni－a－an. 大地の神に私はお礼を申し上げました。

koipumpa　＜ko（～に対して）i（食事などを）pumpa（puniの目的物複数形）　食事をたくさん捧げる。第Ⅰ類動詞

koirushka　＜ko（～に対して）i（そのことに、人に）rushka（立腹する）　怒る。腹を立てる。第Ⅰ類動詞　hoshikino－ek－okkaipo－koirushka－an. 先にやって来た若者に私は腹が立った。

koiyanke　＜koi（波が）yanke（打ち上げる）　波が打ち上げる。nea－to－sam－ta－tanepo－raipe－hushiko－raipe－koiyanke－shir－an. その湖の側に新しい死体、古い死体を波が打ち上げていた。

koiwak　＜ko（に対して）iwak（訪ねる）　～を訪ねる。第Ⅰ類動詞　tokor－kamui－mat－koiwak－kush－shipusu－kina. 湖の男神が妻訪いをするために浮かび上がるのです。

kokamaahunke　＜ko（～から）kama（跨ぐ、飛び越える）ahunke（入れる）　窓から入れる。第Ⅰ類動詞

aisa－chikoikip－kokamaahunke. 姉は獲物を窓から入れるのです。

kokamaahupte ＜kokama（▯）ahupte（ahunkeの目的物複数形） 窓からたくさんのものを入れる。第Ⅰ類動詞 aisa－ne－okai－usa－an－pe－kokamaashup－wa－usa－ki－kor－an. 姉はそこにあったいろんなものを窓から入れなどしていました。

kokaranke ＜ko（～に）karanke（近寄る） ～に近寄る。第Ⅰ類動詞 echiki－ne－chise－kokaranke. 決してその家に近寄ってはいけません。

kokantama 騙す。欺く。第Ⅰ類動詞 wen－shisam－en－kokantama. 悪い日本人が私を騙すのです。

kokari ＜ko（に対して）kari（巻く） ～を包む。pirika－inaw－ani－a－i－kokari－an. きれいなイナウで私を包んでくれた。

kokira ＜ko（①～に②～から）kira（逃げる） ①～に逃げる。第Ⅰ類動詞 hokure－kane－yayunkur－moshir－an－kokira－kuni－an－ram－an. 急いで陸の国へ逃げようと思う。②から逃げる。nea－kamiash－teke－etoko－an－kokira－kuni－an. その魔人の手の先から私は逃げようとした。

kokkaea ＜kokka（膝頭）e（そこで）a（座る） 片膝を付いて座る。（女性の正座） 第Ⅱ類動詞 menoko－an－ne－kusu－kokkaea－an. 女ですので片膝を付いて座ります。

kokkokse ＜kokkok（コックコック『擬声語』）se（発声する） 吃る。第Ⅰ類動詞 tan－kur－kokkokse－kusu－pirikano－an－nu－e－aikap. あの人は吃って言うのでよく聞き取れない。

kokomo ＜ko（～に対して）komo（折り曲げる） ～に折り曲げる。第Ⅰ類動詞 ai－saha－chikiri－ukokomo－wa－hotke－an. 姉は（体を）両足に折り曲げて寝ていた。アイヌは膝を抱えて寝る。

kokuikui ＜ko（ごと）kuikui（噛む） ごと噛み噛みする。～のごと噛み砕く。第Ⅰ類動詞 nitune－kamui－an－yupi－pone－kokuikui－e－wa－okere. その魔神は兄を骨ごと噛み砕き食べてしまった。

konoshpa ＜ko（～に対して）noshpa（追いかける） ～を追いかける。kamui－ne－an－kur－an－unarube－konoshpa－an. 神様のようなご立派な方が私の叔母を追いかけたのでした。

koohyo ＜ko（互いに）hoiyo（淫乱をする） 許されぬ性行為をする。第Ⅰ類動詞 nen－kohyo－wa－e－honi－neno－poro－an－ruwe？ 誰と性行為をしてこのようにおなかが大きくなったのだ。

koonkami ＜ko（～に対して）onkami（拝む） ～に挨拶する。第Ⅰ類動詞 chacha－kamui－ka－ikoonkami－an. 翁神も私に挨拶をして下さいました。

koosura ＜ko（～の方へ）osura（捨てる） ～の方へ捨てる。nea－kamui－ne－an－kur－an－kor－unarbe－rekuchi－pokna－moshir－koosura－a－an. その神様のようなご立派な方が叔母の首を地獄へ捨ててしまったのでした。

kootereke ＜ko（～の方へ）o（そこから）tereke（跳ぶ）ke（他動詞化語尾） 跳ばす。踏み落とす。第Ⅰ類動詞 chikap－sak－kotan－an－e－koterekere－kushi－ne. 鳥無き郷へ私はあなたを踏み落とすつもりだ。

kopan 拒む（日本語借用）。反対する。第Ⅰ類動詞 ayubi－an－kip－kopan. 兄は私のすることに反対する。

kopashirota ＜ko（～に：Ⅱ類をⅠ類に変える）pa（口）shir（強勢辞「大きく」）ota（開ける） に対して罵る。第Ⅰ類動詞。aisa－i－kopashirota. 姉は私を罵る。

kopashirotapa ＜kopashirota（▯）pa（目的物複数語尾） 激しく罵る。第Ⅰ類動詞 shine－chep－a－e－hi－ikooshikoro－kusu－i－kopashirotapa－ya. 魚を一匹食べたことを惜しんで私を激しく罵るのか。

kopishnu ＜ko（～に）pish（色々）nu（聞く） 色々聞く。尋ねる。質問する。第Ⅰ類動詞 huchi－an－kopishnu－rusui－na. おばあさんに色々聞きたい。

kopoike ＜ko（～に）poike（混じる）～に混じる。 第Ⅰ類動詞 mun－an－kopoike－kor－nuinak－a－an. 草に混じって隠れていました。

kopoye ＜ko（～に）poye（混ぜる） ～に混ぜる。 第Ⅰ類動詞 an－po－utari－mun－an－kopoye－wa－an－nuina－a－an. 子供たちを草に混ぜて隠していました。

kor ①持つ。 第Ⅰ類動詞 文語用例/ yup－a（n）－kor. 兄を私は持っている。⇨私には兄がいる。a（n）－kor－yup 私の持兄⇨私の兄。口語用例/ yup－ku－kor. 私には兄がいる。ku－yupi 私の兄②領有する。治める。 kotan－kor－kamui 村を領有する神梟神 kotan－kor－kur（nishipa）村を治める人。村長。

koraike ＜ko（に対し）raike（殺す） を殺す。 第Ⅰ類動詞 an－aki－kamui－hoku－an－kor－ike－ikoraike－a－an. 弟は私が神である方と結婚するとその方を殺してしまうのです。

kore ＜kor（持つ）re（使役化語尾） rrの発音がないのでkoreとなる。持たしむ。⇨①与える。文語用例/ ne－an－be－e－i－kore. それをあなたは私にくれる。口語用例/ ne－an－be－e－en－kore. 同上②結婚させる。an－kor－ponpe－repun－kamui－an－kore－kush－ne. 私の子供をシャチ神に嫁がせようと思う。

koreek　＜kor（持つ）e（それで以て）ek（来る）　持って来る。　第Ⅰ類動詞　aisa－nep－an－be－ka－koreek－an. 姉は何かを持って来た。

korepa　＜kore（与える）pa（目的物複数）　たくさん与える。　chep－a－e－korepa－kush－ne. 魚を一匹ならずたくさん上げましょう。

korepapa　＜korepa（〃）pa（尊敬）　たくさん与えて下さる。　chep－atte－kamui－chep－i－korepapa. 魚を増やす神様が魚をたくさん与えて下さる。

korikin　＜ko（～に対して）rikin（昇る）　～に昇る。第Ⅰ類動詞　an－kor－chashi－an－korikin－an. 私は自分の柵を上った。nea－ekatchi－nishkotoro－korikin－an. その子は雲の平の方へ昇っていった。

korpa　＜kor（持つ）pa（①目的物複数②尊敬③Ⅲ人称複数形）　①ひとつならず二つ以上（たくさん）のものを持つ。ikor－a（n）－korpa. ひとつならずたくさんの宝を私は持っている。②pirika－ike－e－korpa. あなたは良いものをお持ちですね。③an－kon－rusuipe－kamui－utari－korpa. 私の欲しいものを神々は持っている。

korpare　＜kor（持つ）pa（Ⅲ人称複数）re（使役化語尾）　あの方々が与える。　i－korpare－yan. 複数の神々が私に与えて下さるように。～して下さい。

korran　＜kor（持つ）ran（下る）　持って下る。第Ⅰ類動詞　an－kossapo－poro－korran. 姉は緒お鍋を持って下る。

korsan　＜kor（持つ）san（下る）　持って下る。何かを持って我が家へ帰る。第Ⅰ類動詞　chikoikip－raike－ine－an－korsan－an. 獲物を捕って我が家へ帰った。

korwaek　＜kor（持っ）wa（て）ek（来る）　持って来る。第Ⅱ類動詞　an－kor－achapo－sat－kam－korwaek－an. 叔父は干肉を持ってきた。

koshan　叱る　語源不詳　第Ⅰ類動詞　バチェラー辞典の"kosakaikara"の項に「叱する、面責する」とある。口語用例：an－ona－en－koshan. 父は私を叱る。

koshietaye　＜ko（～へ）shi（自身を）etaye（引く）　帰る。引き揚げる。第Ⅰ類動詞　kanto－an－koshietaye－kushi－ne－na. 私は天へ戻るつもりです。

koshikkeruru　＜ko（に対し）shik（眼）e（それで）ruru（打つ）　～に対して横目で睨みつける。第Ⅰ類動詞　aiha－i－koshikkaruru－ine－nepka－i－ere－ka－somoki. 姉は私を睨みつけて何にも食べさせてくれません。

koshinewe　＜ko（共に）shinewe（遊ぶ）　共に遊ぶ。第Ⅰ類動詞　kanto－kor－kamui－an－koshinewe－kushine－kusu－ksnto－otta－rikip－an. 天の神様と遊ぼうと思って天へ昇った。

koshiramante　＜ko（～に対して）shi（自身の）ram（心、思い）an（ある）te（使役化語尾）　思いを巡らす。よく確かめる。よく調べる。第Ⅰ類動詞　an－kor－kotan－epitta－an－koshiramante－koroka－an－hoku－neita－an－yakka－ane－eramshikare－na. 村中をよく調べたのですが夫が何処にいるのか分からないのです。

koshirepa　＜ko（～に）shirepa（到着する）　～に到着する。第Ⅰ類動詞　an－kor－kotan－an－koshirepa－an. 我が村へ着いた。

kosunke　＜ko（～に対して）sunke（嘘をつく）　～に嘘をつく。第Ⅰ類動詞　nep－kusu－e－i－neno－sunke－ruwe？何故あなたは私にそんな嘘をついたのですか

kosupuyaatte　＜ko（～に対して）supuya（煙）an（ある）te（使役化語尾）　煙をあらしむかむ。⇨人が存続する。第Ⅰ類動詞　tan－kotan－an－kosupuyaatte－kushi－ne. この村に煙をあらしむつもりです。この村を人が住むところとして存続させるつもりです。

kot　①付く。付いている。第Ⅰ類動詞　an－kore－a－chep－kata－ota－kot－an. 私があげた魚の上に砂が付いていた。②巻いてある。巻かれている。an－kon－riyap－rekuchi－e－kari－tush－kot－an. 私の越冬熊の首の回りに縄が巻かれていました。③korの転音　an－kot－turesh＝an－kor－turesh. 私の妹。④没す。死す。合成語の中に表れる。wakka－e－kot. 水・それで・死す　喉の渇きで死す。

kotachi　＜kot（付ける）achi（塗り混ぜる）　塗りつける。まみれにする。第Ⅰ類動詞　nea－sattek－seta－kashikene－ota－kotachi－chep－an－osura－an. その痩せた犬の頭上に砂を塗りつけた魚を投げつけた。（ペナンペの悪行）retar－chironnup－chiporo－yaikotachi－ine－numa－hure－an－yakaie. 白いきつねがイクラを自分で塗りつけたので毛が赤くなったということである。chi－noipe－kotachi－i（我ら熊の脳みそを塗り混ぜるもの）、noipur（熊の脳みそ）、nota－kam（熊の頬の肉）、pukusa（行者ニンニク）を混ぜ、shippo（塩）で味つけをした熊送りの饗宴の際の最高の料理。ne－chacha－eshina－etoro－yaikotachi－koe－an. その翁神はくしゃみの鼻水を自分で体に付けていた。

kotankar　＜kotan（村、国）kar（造る）　国を造る。第Ⅱ類動詞　kotan－kar－kor－an－an. 私は国を造っていた。第Ⅰ類動詞用法：kotan－an－kar－kor－an. 同上

kotankor　＜kotan（村、国）kor（治める）　村（国）を治める。第Ⅱ類動詞　kotankor－kor－an－an. 私は

村を治めていた。第Ⅰ類動詞用法：kotan－an－kor－an. 同上。

kotarara ＜ko（に対して）tartar（差し出す） ～に差し出す。第Ⅰ類動詞 nea－okkaipo－nep－an－be－ka－i－kotarara－an. その若者は何かを私に差し出した。

kote ＜kot（付く）te（他動詞化語尾） 付ける。第Ⅰ類動詞 an－kon－riyap－rekuchi－e－tush－kote. 私の越冬熊の首に縄を付けよ。

kotesu ＜kote（付ける）su（強勢辞？） くっつける。ひっつける。第Ⅰ類動詞 文語用例/kon－kani－amushpe－atui－sam－tas－an－kotesu. 金の蟹を海底にひっつけた。

kotomka ＜kotom（相応しい）ka（動詞化語尾） 相応しくさせる。第Ⅰ類動詞 chi－kor－ponpe－kanna－kamui－chikotomka－rusui. 私の子供を雷神に相応しくさせたい。わが子を雷神に嫁がせたい。

kotpa ＜kote（付ける）pa（目的物複数形） 一本ならず二本以上付ける。tush-kotpa. 何本ものの縄を付ける。

kotuk ＜ko（～に）tuk（出る、生じる） ①～にくっつく。第Ⅰ類動詞 nep－an－be－an－nimakihi－kotuk－an. 何かが歯にくっつきました。②ピッタリする。kanto－otta－yai－kotuk－menoko－shinep－ka－isam. 天には私にピッタリする女性は一人としていない。

kotukka ＜kotuk（㊟）ka（他動詞化語尾） くっつける。nea－kamui－chiporo－an－netopake－kotukka－an. その神はイクラを私の体にくっつけた。

kotushtek ＜ko（～に対して）tushitek（黙る、構わぬ） 黙る。構わぬ。tan－shiushpe－yaikata－rai－a－kush－an－kotushtek－yakka－pirika－na. この赤子はひとりでに死ぬから構わなくてもよい。

kouina ＜ko（～から）uina（uk『取り上げる、奪う』の目的物複数形）たくさん奪う。第Ⅰ類動詞 oshike－wen－ireshu－unarube－an－kor－ikor－i－kouina－an. 心根の悪い養育叔母は私の宝物をたくさん私から奪ったのです。

kouk ＜ko（～から）uk（取り上げる） ①取り上げる。奪う。第Ⅰ類動詞 nea－kur－an－kor－ikoro－ka－an－machipakno－i－kouk－an. その者は私の宝物ばかりか妻までも私から奪った。②取り返す。an－kor－machi－ikka－an－wen－kur－kouk－kushine－kusu－kimta－oman－an. 妻を奪った悪者から取り返すべく山へ行った。

koweishikkor ＜ko（～に）wen（悪い）shik（目）kor（持つ） ～を睨みつける。第Ⅰ類動詞 ai－sa－i－koweishikkor－a－an. 姉は私を睨みつけるのでした。

koyaikoniwen ＜ko（～に対して）yai（自身）ko（共に）niwen（唸り声を上げる） 怒鳴りつける。kakka-koku－sapo－nea－ekattara－koyaikoniwen－an. カッコーのお姉さんはその子供達を怒鳴りつけたのでした。

ku ①飲む。第Ⅰ類動詞 文語用例/wakka－a－ku－rusui. 私は水を飲みたい。口語用例/wakka－ku－ku－rusui. 同上。②吸う。tanbako－ku. タバコを吸う。

kuchakar ＜kucha（狩り小屋）kar（造る） 狩り小屋を造る。第Ⅱ類動詞 neita－kuchakar－wa－rewshi－a－an. そこに狩り小屋を造って泊まりました。第Ⅰ類動詞用法：neita－kucha－an－kar－wa－rewshi－a－an. 同上

kuchir ＜kui（尿）chir（滴り落ちる） 小便が滴り落ちる。usa－chikoikip－utar－e－ekota－ariki－ine－ekaine－kuchiri－nannkoro. いろいろな動物がやって来てお前の上に小便が滴り落ちるであろう。

kui 噛む。第Ⅰ類動詞 nishite－kam－an－kui. 固い肉を私は噛む。

kuikui ＜kui（噛む）kam（噛む） 何度も噛む。a－i－kore－a－nishite－kam－an－kuikui－kor－an. 戴いた固い肉を何度も噛みながらいました。

kuipa ＜kui（噛む）pa（目的物複数） たくさん噛む。第Ⅰ類動詞。nea－nishite－kami－an－kuipa－an. その固いたくさんの肉を噛んだ。

kuira 忍び寄る。第Ⅱ類動詞 aisa－ashin－okaketa oshi kuira－an. 姉が出かけた後その後をつけた。

kukar ＜ku（弓を）kar（作る） 弓を作る。第Ⅱ類動詞。kukar－an－wa－chichirak－ichotcha－ine－shinot－kor－a－an. 私は弓を作ってどじょうを射て遊んでいました。第Ⅰ類動詞用法：ku－an－kar－wa－chichirak－ichotcha－ine－shinot－kor－a－an. 同上

kumakar ＜kuma（竿）kar（為す） 掛け竿に掛ける。第Ⅱ類動詞 chep－kumakar－an. 魚を掛け竿に掛ける。an－arke－otobi－e－kumakar－an. 片方の髪を掛け竿に掛けた。

kupa ＜ku（飲む）pa（①目的物複数②尊敬③主格三人称複数形） ①たくさん飲む。文語用例/rekuchi－satek－kusu－wakka－an－kupa－an. 喉が渇いていたので水をたくさん飲みました。口語用例無し②飲まれる。nea－kumui－kushi－korachi－okaipo－an－sanke－wakka－kupa－an. その神のような若者は私が差し出した水を飲まれました。③ne－utara－wakka－kupa－an. その者たちは水を飲んだ。

kupare　＜ku（飲む）pa（主格三人称複数形）re（使役化語尾）　あの方々が（たくさん）飲ませる。主格が複数形であるから目的物も複数になる。文語用例/ ne－utari－kusuri－i－kupare－an.　その方々は薬を私に（たくさん）飲ませた。

kuparepa　＜ku（飲む）pa（主格三人称複数形）re（使役化語尾）pa（尊敬）　あの方々は（たくさん）飲ませてくださる。文語用例/ ne－kamui－utari－tonoto－i－kuparepa－an.　その神々はお酒を（たくさん）私に飲ませて下さいました。

kure　＜ku（飲む）re（使役化語尾）　飲ます。文語用例/ wakka－i－kure－yan.　水を私に飲ませて下さい。口語用例/ wakka－en－kure.　同上

kurepa　＜ku（飲む）re（使役化語尾）pa（①目的物複数②尊敬）　①たくさん飲ませる。文語用例/ wakka－i－kurepa－yan.　水を私にたくさん飲ませて下さい。②飲ませて下さる。nea－chacha－kamui－tonoto－i－kurepa－an.　その翁神はお酒を私に飲ませて下さいました。

kusa　語源不詳　第Ⅰ類動詞　①物を渡す。hoshibi－an－etokosh－ta－nea－chise－kor－kur－nepanbeka－i－kusa－an.　帰ろうとしたときにその家の主は何かを私に渡したのでした。②運ぶ。（船で）運搬する。ui-mam－an－kusu－chihoki－an－kusa－an.　交易があるので品物を船で運びます。

kusapa　＜kusa（ᡴᡠᡧᠠ）pa（目的物複数）　①たくさん渡す。②たくさんの品物を船で運ぶ。

kurepapa　＜ku（飲む）re（使役化語尾）pa（目的物複数）pa（尊敬）　たくさん飲ませて下さる（主格単数）。nea－chacha－kamui－i－ikurepapa－an.　その翁神は私にたくさんお酒を飲ませて下さいました。

kush　通る。第Ⅱ類動詞　文語用例/susu－tai－choro-pok－kush－an.　柳の木の林の下を通る。

kushi　凌ぐ　kamui－kushi－korachi・an－okkai－po.

kushte　＜kush（通る）te（使役化語尾）　通す。第Ⅰ類動詞　tan－susu－tai－i－kushte－wa－ikore.　この篠の林を私に通らせて下さい。

kuta[1]　零す。第Ⅰ類動詞　nea－menoko－irushika－kor－isam－ta－wakka－kuta－an.　その女は怒って私のそばに水をこぼすのでした。

kuta[2]　飛び出る。第Ⅱ類動詞　ne－utar－soyo－kuta－wa－ho－sanke－an.　そのものたちは外へ飛び出て陰部を出すのでした。

kutapa　＜kuta[1]（零す）pa（目的物複数）　たくさん零す。wakka－kutapa.　水をたくさん零す。

kutkor　＜kut（帯）koy（持つ）　帯を締める。第Ⅱ類動詞　ushii－pitapa－wa－o－raun－kutkor－an.　履物を脱ぎ、（ずり上がった帯を）下の方に帯を締め直す。（家に入るときの動作）

（続く）

旭川市博物館研究報告　第2号　1996年3月

北海道中央部、旭川周辺地域の中新世滝の上動物群

Remarks on the Takinoue molluscan fauna from
the Miocene sediments around Asahikawa, central Hokkaido

鈴木明彦[1)]・向井正幸[2)]
Akihiko Suzuki　Masayuki Mukai

1）北海道教育大学岩見沢校地学研究室
Department of Earth Science, Iwamizawa College, Hokkaido University of Education
2）旭川市博物館　Asahikawa City Museum

(Abstract)

Miocene marine deposits distributed around Asahikawa is not well known from the viewpoint of stratigraphy and paleontology. The new name of the Biei Formation is proposed for the so-called Neogene Tertiary distributed in the Biei area, Kamikawa province. Recently, many fossil molluscs discovered from two localities of the formation. Molluscan assemblages from the formation are composed of 16 bivalves and 6 gastropods, and are assigned to the Takinoue fauna by the occurrence of *Crassostrea gravitesta, Cultellus izumoensis, Nipponomarcia nakamurai, Mizuhopecten kobiyamai, Cerithideopsilla* cf. *minoensis,* etc. Similar fossil assemblages also recognized in the Yakeyama Formation in Sunagawa area and the Horoshin Formation in the Numata area.

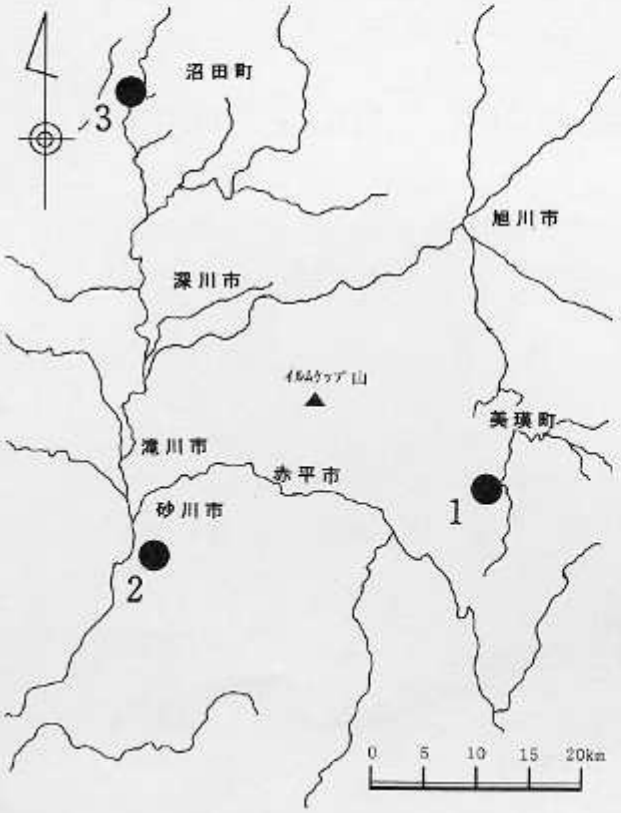
These mollusca-bearing horizons are probably correlative to the Takinoue stage, the early Middle Miocene (ca.16.5-15Ma), though not obtained from micrpaleontologic and radiometric ages. This distinct warm event is apparently corresponded to the Mid-Neogene Climatic Optimum. From zoogeographic points, the Takinoue fauna is considered to warm-temperate type from lacking for the Arcid-Potamid fauna (subtropical elements) such as *Anadara* (*Hataiarca*) and *Vicarya.* In Hokkaido, subtropical front situated in about 42.5° latitude of southwestern part, in turn, "warm-water front" in about 44° of central part during the early Middle Miocene.

はじめに

中期中新世初頭(約16.5～15Ma)は、新第三紀における最も温暖な時期で、日本列島ではMid-Neogene Climatic Optimumとして知られている(Tsuchi, 1990など)。また、この時期は日本海やオホーツク海の拡大時期と関連するため古地理学的にも多くの関心を集めている(玉木、1992；福沢・小泉、1994；小笠原、1994)。

一方、中期中新世初頭の北海道には、相異なる3つの貝類化石動物群が存在するとされてきた(藤江・魚住、1957)。すなわち、それらは西南部の暖流系(亜熱帯性)門ノ沢動物群、中央部の暖流系滝の上動物群および北部の寒流系築別動物群である(Uozumi, 1962；鈴木ほか、1992)。

このうち、滝の上動物群に関しては上記2動物群に比較して、地質年代・産出層準・群集構成等に関して不明確な点が多い。今回中央北海道旭川周辺地域(第1図)において主として新第三系の地質調査を行なったところ、上川郡美瑛町の未分離新第三系、雨竜郡沼田町北東部の幌新層および砂川市東部の焼山層から滝の上動物群に認定される貝類化石を発見したので、その地質学的・古生物学的意義について予察的に報告する。



第1図　旭川周辺地域における滝の上動物群の新産地　1．美瑛、2．砂川、3．沼田

地　質　概　説

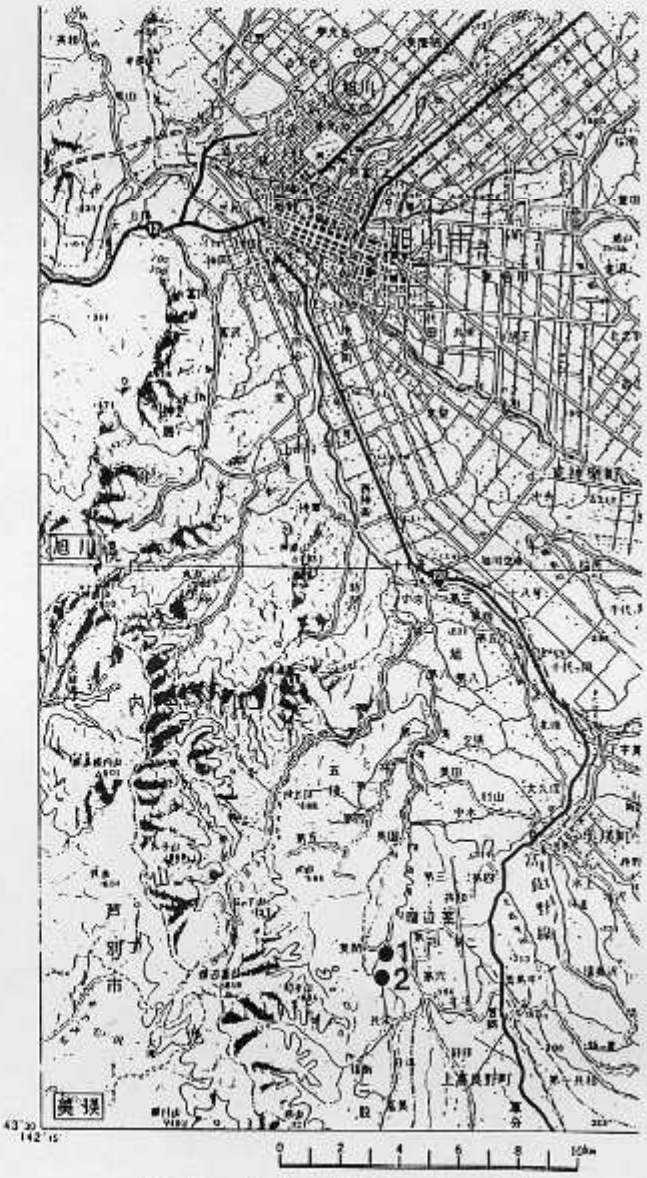
(1) 美瑛地域

中央北海道の美瑛地域においては、第三系の基盤は主として神居古潭帯と日高帯に区分され、中央部の神居古潭帯を挟んで、東側と西側にそれぞれ新第三系が分布する(秦・渡辺、1990；鈴木ほか、1964)。

このうち、東側に分布する新第三系は中新世中期の"川端層群"と鮮新世の滝川層である。"川端層群"の下部は礫岩や砂岩からなり、*Chlamys heteroglypta*(?), "*Ostrea*"sp. などを含む。また、上部は砂岩泥岩の互層からなり、*Portlandia tokunagai*, *Portlandia* sp., *Periploma besshoensis* などを含む。このような特徴から"川端層群"は大きく上下に2分され、下位は滝の上層に、上位は川端層に、それぞれ対比される可能性が指摘されている(鈴木ほか、1964)。

一方、東部に分布する未分離新第三系は神居古潭帯を基盤とし、これとは断層関係にあり、雨月沢火砕流堆積物(池田・向山、1983)に不整合でおおわれる。この未分離新第三系は従来は化石の産出が認められなかったため、地質年代等の詳細は不明であった(鈴木ほか、1964)。

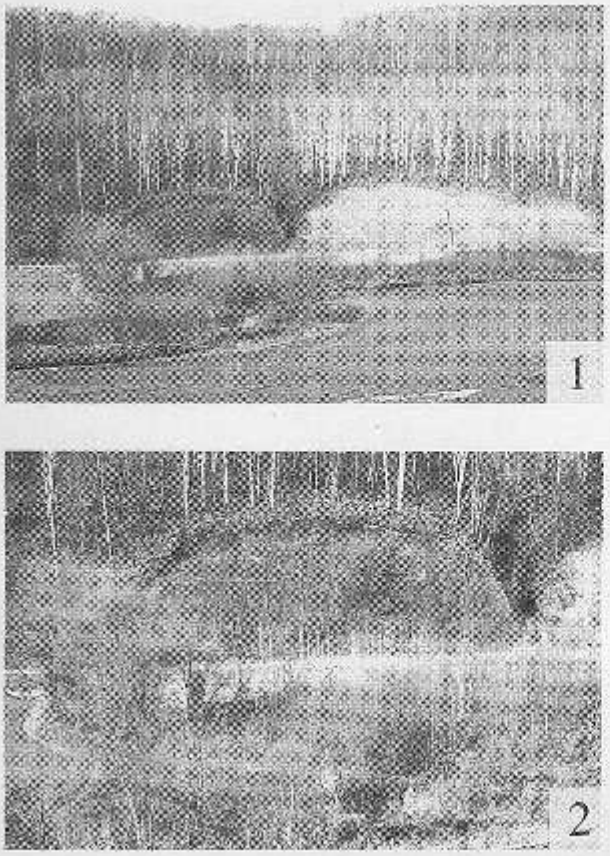
美瑛地域における未分離新第三系は3か所に分布する。このうち化石を産出したのは、瑠辺蘂(るべしべ)川下流域の美開付近に分布する2地点である。これらをそれぞれ美開1地点、美開2地点とする(第2図)。今回、これらの地層はほぼ類似の岩相を示し、後述のように海生の貝化石を産出するので同一のものと考え、この未分離新第三系を美瑛層(新称)と命名する(第1表)。



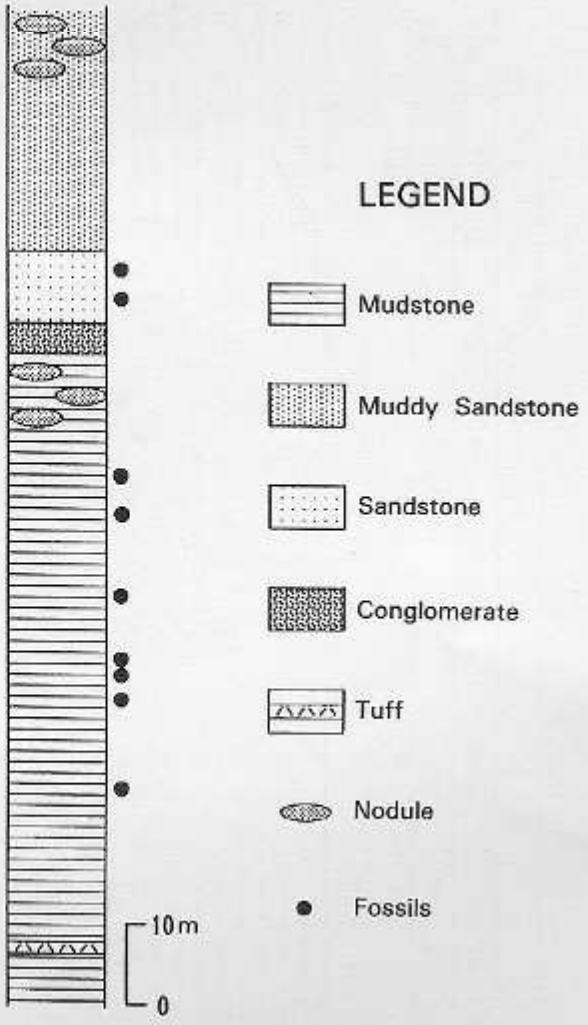
第2図　美瑛町美開の貝化石産地
(美開1地点、美開2地点)

美開１地点は、美瑛町市街地から南西約7.4km離れた美開地区にあり、瑠辺蘂川左岸の標高約260ｍ地点の瑠辺蘂川河床付近および農道整備事業によって生じた露頭である(第３図)。ただし、この露頭は現在では新鮮面を確認することは難しい。美瑛層は、神居古潭帯(幌内山地)と断層関係にあり、鮮新世後期の雨月沢火砕流堆積物(池田・向山、1983)によって覆われている。化石産地の岩相は、灰黒色の塊状無層理の硬質砂岩～泥岩、１～２cm程度の円礫を含む礫岩から構成され、走向・傾斜はN10°E・50°Sである。産出する貝化石の大半が印象化石であり、殻は溶脱しているため保存状態は必ずしもよくない。

美開２地点は、美開１地点より約700ｍ南方に位置し、瑠辺蘂川左岸の護岸工事の掘削によってできた露頭である(第４図)。この地点では、幅約３ｍで水平距離約180ｍにわたり露出し、河岸段丘堆積物に覆われている。岩相は主に灰黒色泥岩～砂岩を主体とし、礫岩や灰白色凝灰岩層を挟在する。硬質泥岩～砂岩は塊状無層理で、石灰質ノジュールを含有する(第５図)。ノジュールは長径が５cm～50cm程度で、貝化石を含むものは少ない。軟質で塊状無層理の泥岩中には化石層が認められる。この化石層はカキの密集層で30～40cm程度の層厚である(第６図)。また一部には掃き寄せ状の貝化石密集層も認められる。貝化石のほか広葉樹の葉化石が産出した。走向・傾斜は、N－S～N30°E・30～45°Sである。砂岩の一部は、灰黒色または赤褐色を呈し、部分的に硬質となり貝化石を含有する。礫岩は１～６cm程度の円礫から構成され、礫種は黒色片岩・緑色片岩など主に変成岩類が卓越する。



第３図　美開１地点の露頭概観

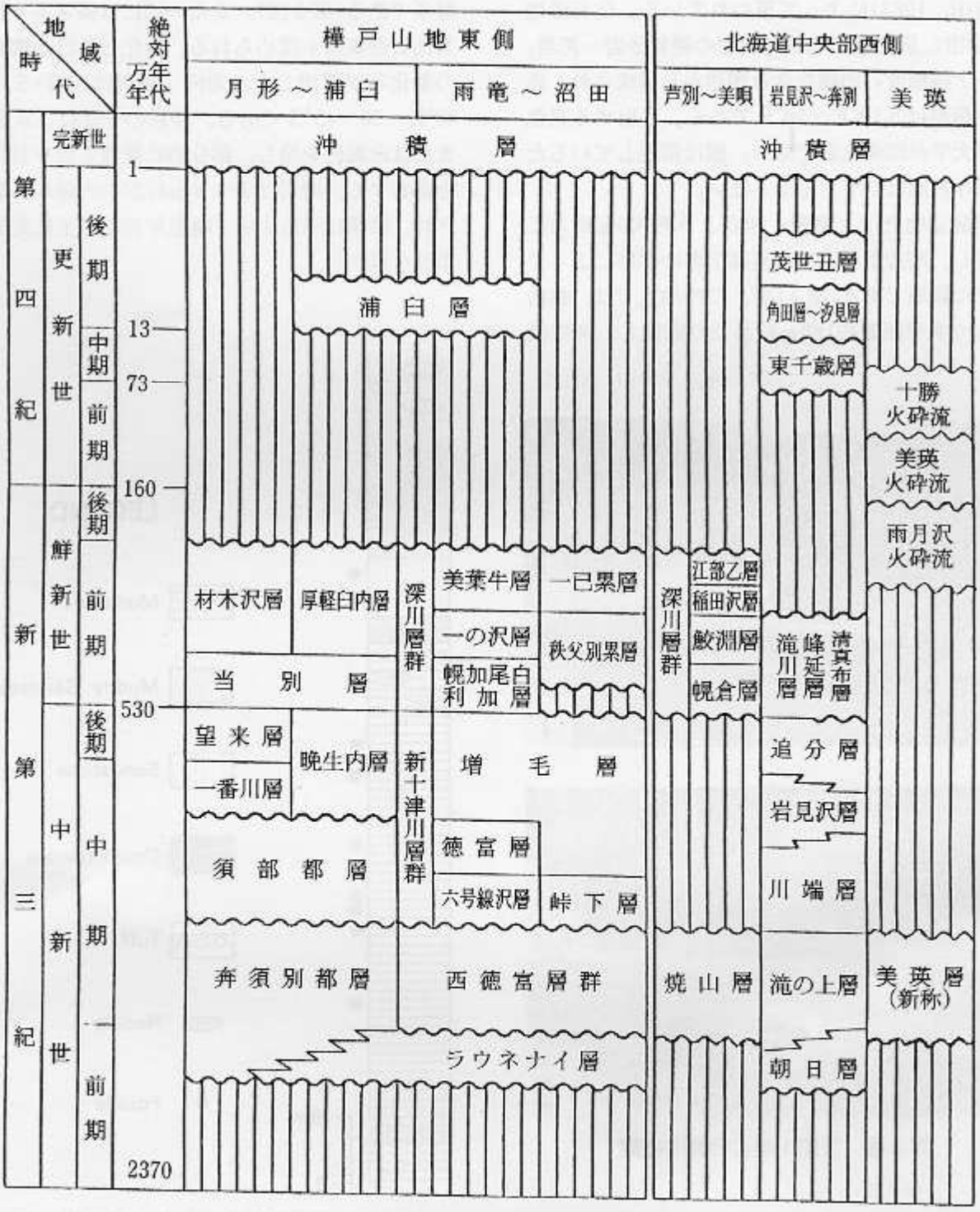


第４図　美開２地点における地質柱状図

(2) 砂川地域

砂川地域においては、古第三系石狩層群のなかに断層で挟まれて、第三系焼山層が孤立して分布する(松井・垣見、1965)。焼山層は、新第三紀型の貝化石を産出することから"川端層群"に対比されていたが(下河原、1952；松井・垣見、1965)、その帰属は長らく不明であった。

今回滝の上動物群に属する貝化石の発見により、焼山層は西徳宮層群に対比されることがほぼ確実になったので、その地質時代は中期中新世初頭であろう(第1表)。この地層は、砂川市焼山付近のペンケウタシナイ川左岸に主に露出している。



第1表　旭川周辺地域における海成中新統の対比

この付近では主に中－粗粒砂岩からなり、しばしば下位の挟炭層由来の炭質物を多量に含む(第7図－1)。また、貝化石は粗粒砂岩中のやや硬くなった部分から産出した(第7図－2)。

(3) 沼田地域

沼田地域の新第三系は、下位から袋地層(幌沖内層)、西徳富層群および新十津川層群に区分される(秦・渡辺、1990；渡辺・吉田、1995)。本地域北部の雨竜炭田地域を含めた古生物学的研究には、貝化石を検討した大原(1966)、大原・菅野(1969)、花粉分析を行なった佐藤(1976)などがある。

今回報告する幌新層は西徳富層群の中位の層準に位置する(渡辺・吉田、1995)。幌新層の地質時代は明確ではないが、主に中期中新世初頭と考えられ(秦・渡辺、1990)、F.T.年代値から下部は前期中新世末と推定される(渡辺・吉田、1995；第1表)。

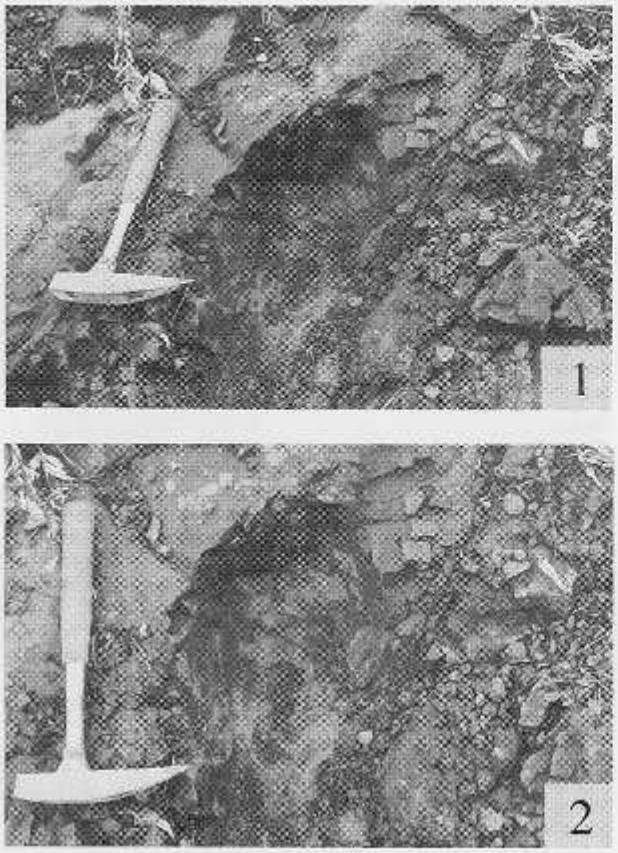
恵比島図幅(渡辺・吉田、1995)に従うと、本層は幌新ダム付近によく露出している。この付近では主に細粒砂岩や中粒砂岩からなり、亜炭層をひんぱんに挟む(第8図－1)。また、貝化石は細粒砂岩中のやや硬くなった部分(板状ノジュール)から特に多産した(第8図－2)。

貝類化石群集

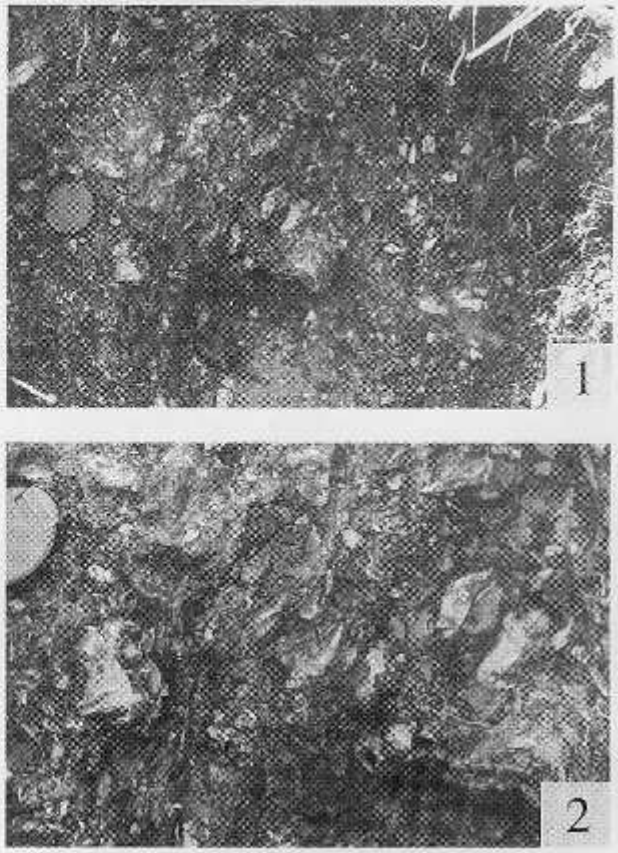
(1) 美瑛層

本層から産出した軟体動物化石は、斧足類16種、腹足類6種の計22種である(第9図、第10図および第2表)。このうち種名決定種は8種である。

最初に産出種の地質分布をみると、*Mizuhopecten kobiyamai, Crassostrea gravitesta, Cultellus izumoensis, Panomya simotomensis*は前期－中期中新世、*Macoma optiva*は前期中新世－鮮新世にかけて産出する。このうち、本層から多数産出する*Mizuhopecten kobiyamai, Crassostrea gravitesta*



第5図　美開2地点における泥岩層と石灰質ノジュール



第6図　美開2地点におけるカキ(*Crassostrea gravitesta*)の産状

Cultellus izumoensis は、中期中新世でも特に16～15 Ma 前後の門ノ沢期あるいは滝の上期に産出が集中する。以上のことから本化石群の時代は、ほぼ中期中新世初頭(約16.5～15 Ma)と考えられる。

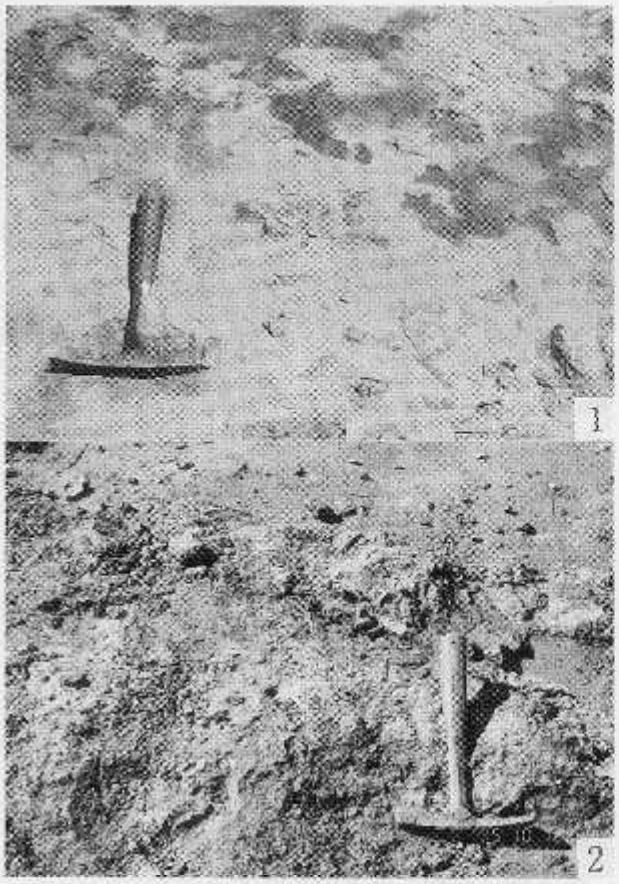
また、本化石群には、築別動物群を特徴づける寒冷種 *Anadara watanabei, Megangulus tmatumotoi, Spisula onnechiuria, Spisula ezodensata* 等が認められず、冷水系の Buccinid にも乏しい。一方、門ノ沢動物群を特徴づける亜熱帯種 *Vicarya*、*Anadara*(*Hataiarca*)、*Hiatula* 等が産出せず、典型的な Arcid–Potamid fauna (鈴木ほか、1994)は認められない。しかし、*Mizuhopecten kobiyamai, Crassostrea gravitesta, Cultellus izumoensis, Panomya simotomensis, Macoma optiva, Cerithideopsilla* cf. *minoensis* などを含み、また *Crassostrea gravitesta* のカキ礁が存在する。以上の特徴から本化石群は、滝の上動物群(Kanno and Ogawa, 1964；赤松、1984)に認定できる。

本層から産出する貝化石は、産出頻度と組み合わせに基づいて、*Cultellus* 群集、*Crassostrea* 群集、*Macoma* 群集に区分される(第12図)。

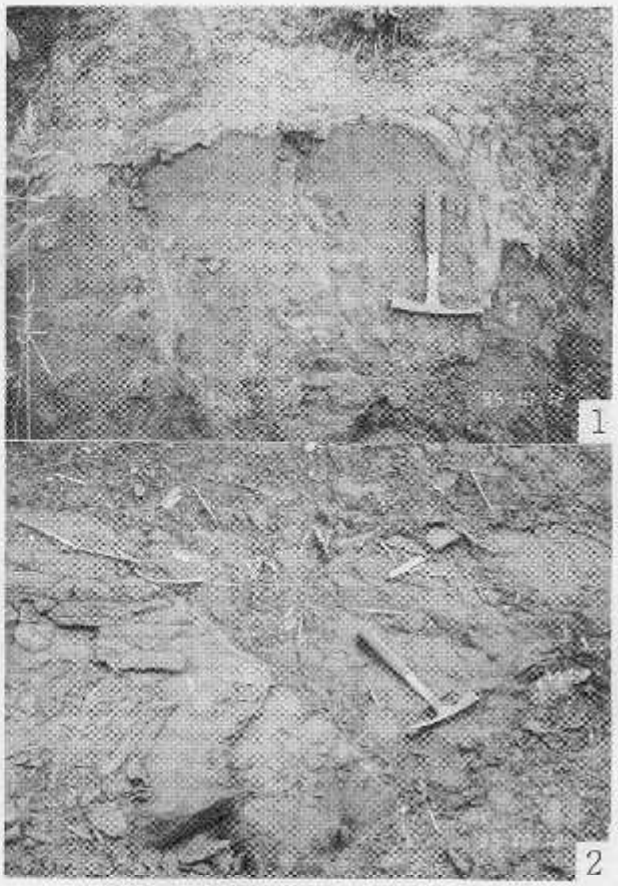
Cultellus 群集は *Cultellus izumoensis* を優占種とし、*Mizuhopecten kobiyamai, Nipponomarcia nakamurai, Panomya simotomensis, Mya cuneiformis* などを伴う。また、*Cerithideopsilla* cf. *minoensis, Cerithideopsilla* sp. 等の Potamid を含む。上浅海帯砂泥底の群集であろう。大原・菅野(1969)の新雨竜層下部の“滝の上型群集”に比較される。

Crassostrea 群集は、*Crassostrea gravitesta* のみから構成される。潮間帯砂泥底の群集であろう。内村・間嶋(1992)のフラヌイ層下部にみられる“カキ殻密集層”と同様のものであろう。

Macoma 群集は、*Macoma izurensis, M.* sp. を優占種とし *Nuculana* sp., *Yoldia* sp., *Megayoldia* sp., *Macoma optiva, Cryptonatica* sp., *Turritella*



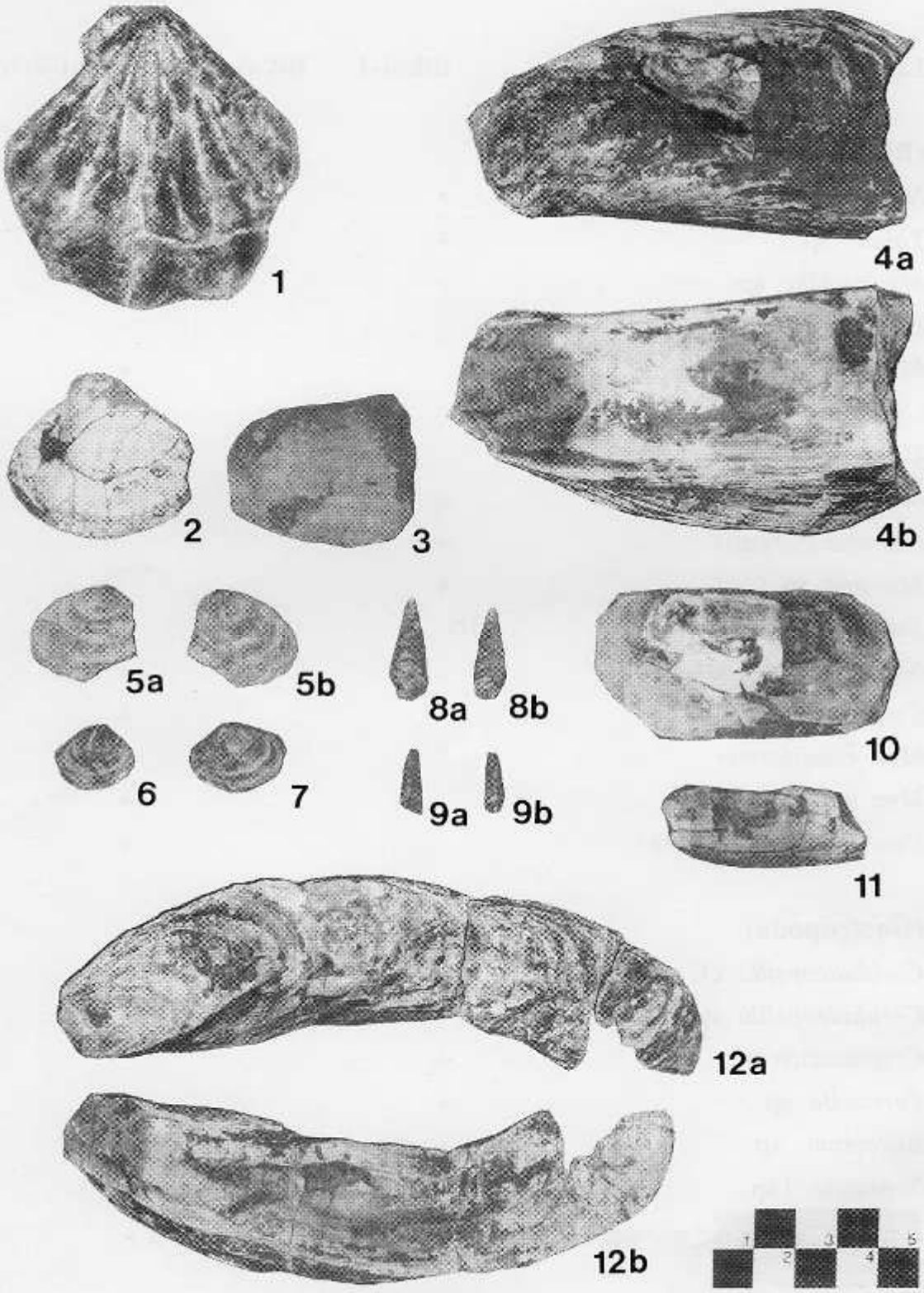
第7図　焼山層の露頭と貝化石包含部



第8図　幌新層の露頭と貝化石包含部

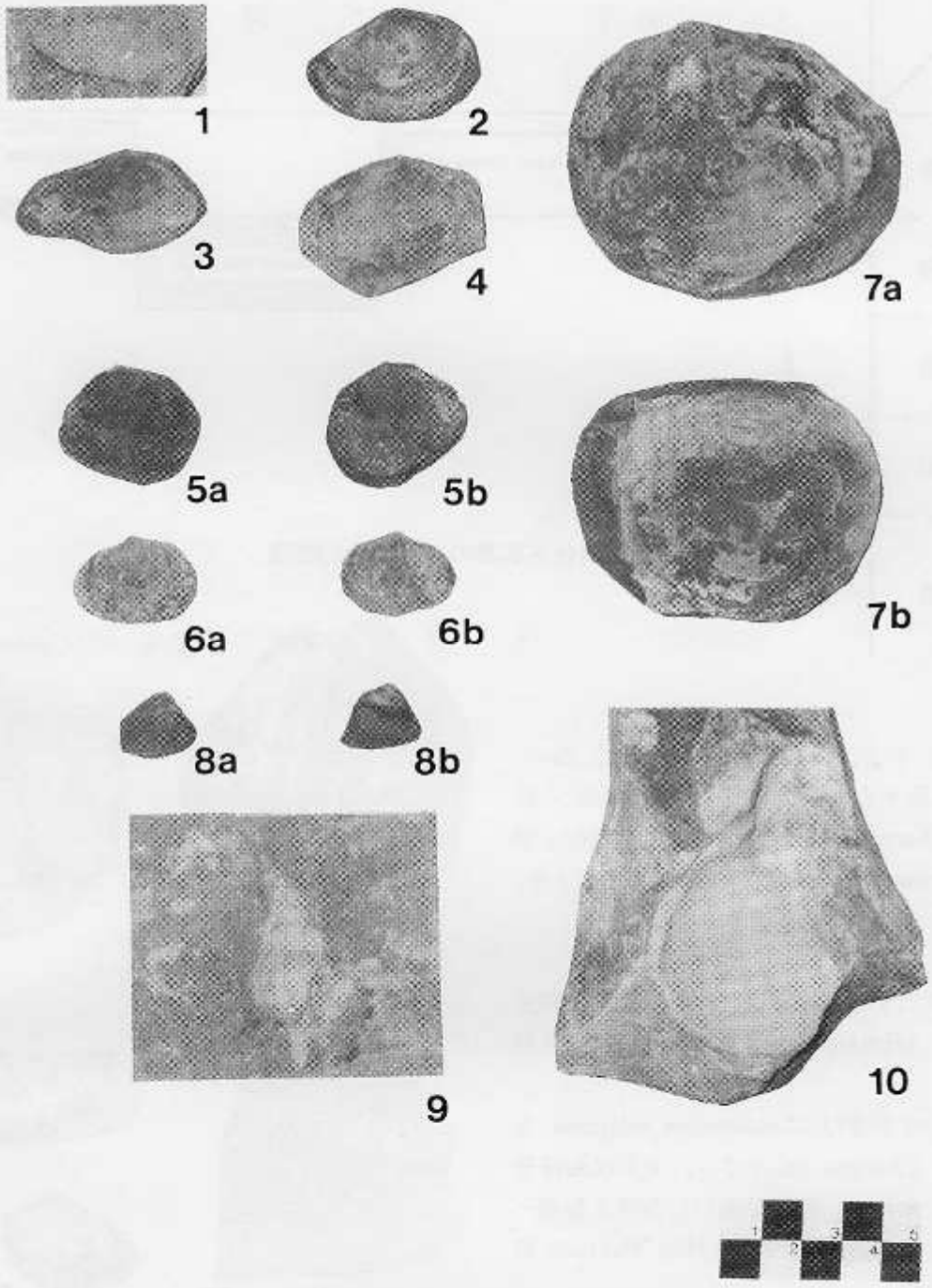
Locality	Bikai-1	Bikai-2(a)	Bikai-2(b)
(Bivalvia)			
Nuculana sp.	+		
Yoldia sp.	+		
Megayoldia sp.	+		
Glycymeris sp.			+
Mizuhopecten kobiyamai			+
Crassostrea gravitesta		+	
Clinocardium sp.			+
Macoma optiva	+		
Macoma izurensis	+		
Macoma sp.	+		
Serripes sp.			+
Nipponomarcia nakamurai			+
Cultellus izumoensis			+
Mya cuneiformis			+
Mya sp.			+
Panomya simotomensis			+
(Gastropoda)			
Cerithideopsilla cf. *minoensis*			+
Cerithideopsilla sp.			+
Cryptonatica sp.	+		
Turritella sp.	+		
Buccinum sp.	+		
Neptunea ? sp.	+		

第 2 表　美瑛町美開 1 地点、美開 2 地点から産出した貝化石リスト



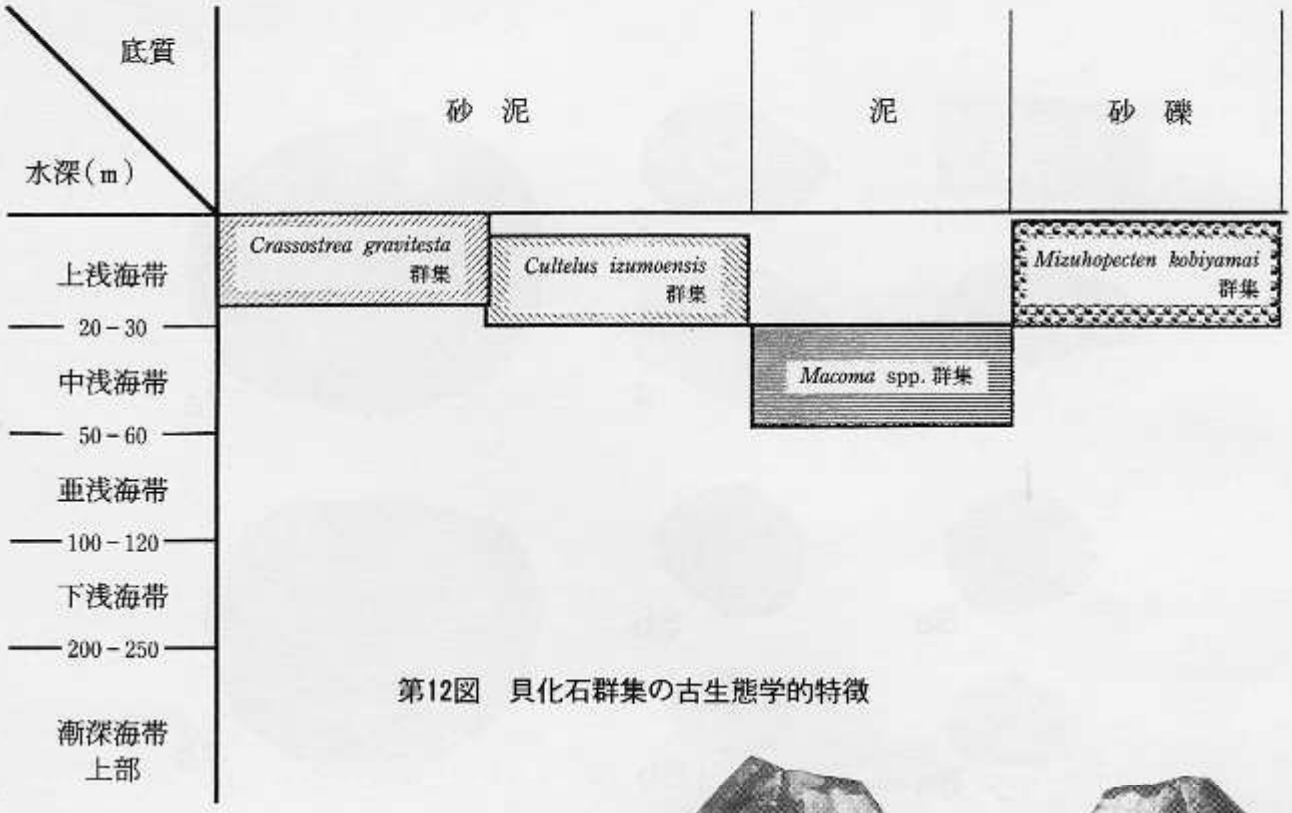
第9図　美開2地点より産出した貝化石

1. *Mizuhopecten kobiyamai*,　2. *Clinocardium* sp.,　3. *Panomya simotomensis*,
4, 12. *Crassostrea gravitesta*,　5, 6, 7. *Nipponomarcia nakamurai*,
8. *Cerithideopsilla* cf. *minoensis*,　9. *Cerithideopsilla* sp.,　10, 11. *Cultellus izumoensis*.



第10図　美開１地点より産出した貝化石

1. *Yoldia* sp.,　2, 3, 4. *Macoma izurensis*,　5, 6. *Macoma* sp.,　7. *Macoma optiva*,
8. *Cryptonatica* sp.,　9. *Buccinum* sp.,　10. *Neptunea* ? sp.



第12図　貝化石群集の古生態学的特徴

sp. 等を伴う。また、Buccinid (*Neptunea* ?, *Buccinum*) を稀に産する。中浅海帯の砂泥～泥底の群集であろう。Kanno and Ogawa (1964) の滝の上層上部の "*Macoma* subzone" に群集構成が類似する。

(2) 焼 山 層

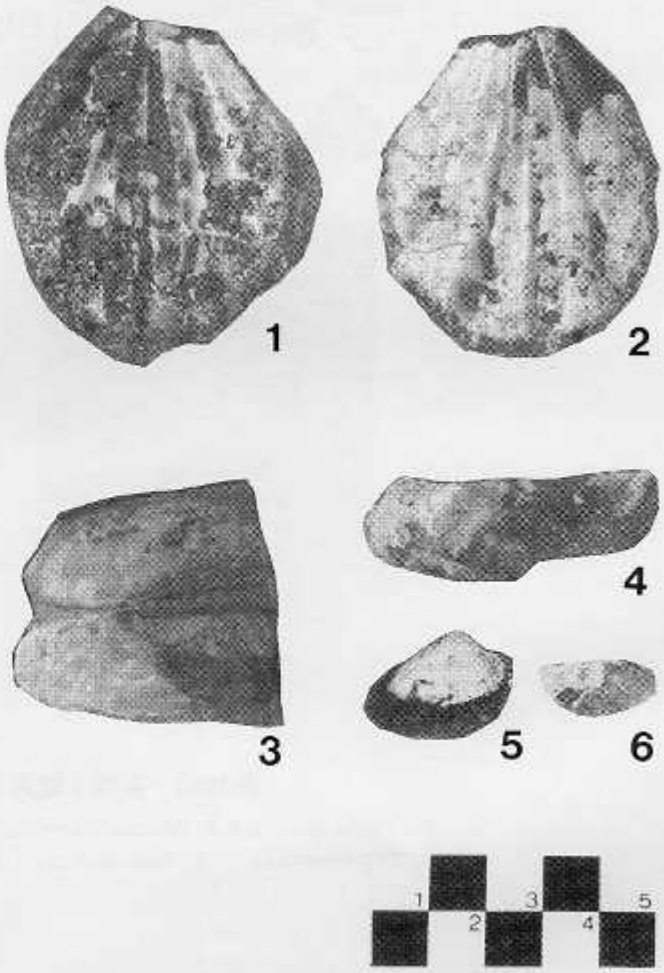
本層から産出する貝化石(第11図)は、産出頻度に基づいて、*Mizuhopecten* 群集に認定される(第12図)。

Mizuhopecten 群集は *Mizuhopecten kobiyamai* を優占種とし、*Chlamys* sp. を伴う。上部浅海帯砂礫底の群集であろう。赤松(1984)の西南北海道－中央北海道の中期中新統にみられる "Pectinid 群集" に比較される。

(3) 幌 新 層

本層から産出する貝化石(第11図)は、産出頻度に基づいて、*Cultellus* 群集に認定される(第12図)。

Cultellus 群集は *Cultellus izumoensis* を優占種とし、*Yoldia* sp., *Anadara ogawai* などを伴う。上部浅海帯砂泥底の群集であろう。大原・菅野(1969)の新雨竜層下部の"滝の上型群集"に比較される。



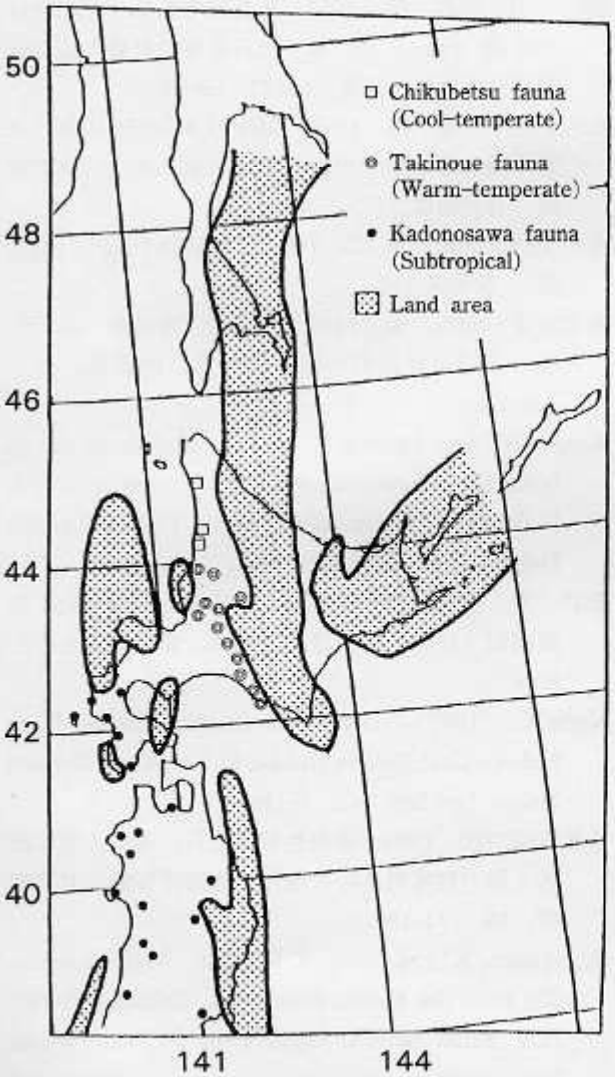
第11図　焼山層・幌新層より産出した貝化石

1, 2. *Mizuhopecten kobiyamai*,　3, 4. *Cultellus izumoensis*,
5. *Anadara ogawai*,　6. *Yoldia* sp.

考　　察

滝の上動物群（藤江・魚住、1957；Uozumi, 1962）は、北海道中央部、夕張地域滝の上層の貝化石で代表される化石動物群で、およそ50種から構成される。*Anadara, Dosinia, Cultellus, Sinum* などの暖水系属を主体とするが、*Mya, Serripes, Buccinum, Neptunea* などの冷水系属も含まれる。層位学的検討からは、滝の上動物群は東北本州の門ノ沢動物群（鎮西、1981）に対比され、この動物群の北方型とされている（Kanno and Ogawa, 1964；赤松、1984）。

次に中期中新世の化石動物群を対象にして、



第13図　滝の上動物群、築別動物群および門ノ沢動物群の分布と中期中新世初頭（約16.5～15Ma）における北海道周辺の古地理

門ノ沢動物群（Chinzei, 1986）や布志名動物群（Ogasawara and Nomura, 1980）に含まれる種を温暖種、築別動物群（Noda, 1992）や峠下動物群（Amano, 1983）に含まれる種を寒冷種、そしてどちらの動物群にも共通する種を広温種とする。このように定義すると、本報告の化石群は、温暖種と広温種から構成され、寒冷種は存在しない。

この理由としては以下の3つの場合が考えられよう。ひとつはこれらの化石群は、滝の上動物群としては最も北部に位置するものなので、日本海側から南下した寒流が雨竜地域（大原・菅野、1969）までしか到達せず、この付近に暖流と寒流をさえぎるバリアーがあったとするものである（佐藤、1970、1976）。もうひとつは中央北海道は、暖流と寒流の混合海域にあたり、おそらくこの地点では寒流の影響が弱かった（Chinzei, 1986）とする場合である。一方、この相違を海流よりも水塊の違いとみれば、美瑛の化石群の生息場が浅く（たとえば暴浪時波浪限界以浅）、暖かい沿岸水に支配された地域で、外洋性の寒流の影響を受けていなかった（内村・間嶋、1992）とする可能性も考えられるであろう。

さて、上述の *Crassostrea* 群集、*Cultellus* 群集および *Macoma* 群集の生息深度をみるとこれらはかなり浅い群集であることがわかる（第12図）。つまりいずれも暴浪時波浪限界以浅の化石群集である可能性が高い。これは堆積相の特徴からも支持されるであろう。また、本報告のさらに南に位置する穂別地域の滝の上層（赤松、1984）や門別地域のフラヌイ層（内村・間嶋、1992）にも、*Anadara watanabei, Mytilus furanuiensis, Spisula onnechiuria, Spisula ezodensata* 等の寒冷種が見られるので、この付近においてもChinzei（1986）の意見のようにおそらく寒流の影響はあったのであろう。

今回の検討に加え、既存の研究も含めて総括的にみると、滝の上動物群は以下のような古生態学的特徴を示す。

(1)温暖種を主体とし、寒冷種の産出に乏しい、産出個体数では10％未満にすぎない。(2) Arcid-Potamid faunaの亜熱帯要素（*Vicarya, Lutraria, Hiatula*, etc.）はみられず、特に *Anadara*（*Hataiarca*）を欠く。(3) "Potamid Fauna"（*Vicaryella, Ce-*

rithideopsilla, Tateiwaia, etc.)で特徴づけられるが、*Vicaryella* は *V. teshimae, V. atukoae* で、門ノ沢動物群の *V. ishiiana, V. notoensis* とは異なる。(4) *Crassostrea gravitesta* からなるカキ礁（自生的）あるいはカキ殻密集層（他生的）が発達する。(5) Buccinid (*Neptunea, Buccinum, Parancistrolepis,* etc.)の産出が稀な点で、築別動物群と異なる。

最後に北海道周辺地域における中期中新世初頭の古地理と滝の上動物群、築別動物群および門ノ沢動物群の分布を掲げる(第13図)。ここで門ノ沢動物群の北限はほぼ北緯42.5°(長万部付近）となり、これは subtropical front である（鈴木ほか、1994)。一方、築別動物群の南限はほぼ北緯44°(留萌付近)となり、これは "warm-water front" である可能性もある(Chinzei, 1986)。

以上の検討から、滝の上動物群は、古生物地理学的には門ノ沢動物群(Subtropical)と築別動物群(Cool-temperate)の両者の特徴を合わせもつ暖温帯性(Warm-temperate)の化石動物群であるといえる。

謝　辞：

今回検討した資料の大半は旭川市立北都中学校の中谷良弘教諭から旭川市博物館に寄贈されたものである。また、北海道開拓記念館赤松守雄博士は粗稿を読んで問題点を指摘してくださった。以上の方々に御礼申し上げる。

文　献

赤松守雄：1984，北海道 *Desmostylus* 産出地の古環境－とくに穂別産 *Desmostylusm* を中心として－，地団研専報，no. 28，63-68.

Amano, K. : 1983, Paleontological study of the Miocene Togeshita molluscan fauna in the Rumoi district, Hokkaido. Sci., Rep., Inst. Geosci. Univ. Tsukuba, 4, 1-72.

鎮西清高：1981，門ノ沢動物群．大森昌衛教授還暦記念論文集，207-212.

Chinzei, K : 1986, Marine biogeography in northern Japan during the early Middle Miocene as viewed from benthic molluscs. Palaeont. Soc. Japan, S.P., no. 29, 161-171.

藤江　力・魚住　悟：1957，北海道の新第三紀動物群の変遷(予報)－その1　化石群集の概観と地質分布－．新生代の研究，no. 23，29-37.

福沢仁之・小泉　格：1994，ODP 日本海の掘削試料と日本海・オホーツク海沿岸陸域第三系との比較検討．月刊地球，16，154-162.

秦　光男・渡辺　寧：50万分の1地質図「旭川」(第2版)．地質調査所.

池田保夫・向山　栄：1983，北海道，富良野－旭川地域の火砕流堆積物の層序と対比．地質雑，89，163-172.

Kanno, S., and Ogawa, H. : 1964, Molluscan fauna from the Momijiyama and Takinoue districts, Hokkaido, Japan. Sci., Rep., Tokyo Kyoiku Daigku., Sec. C, 8, 269-294.

松井　寛・垣見俊弘・根本隆文：1965，5万分の1地質図幅「砂川」および同説明書，北海道開発庁，85 p.

Noda, Y. : 1992, Neogene molluscan faunas from Haboro Coal-field in Hokkaido. Sci. Rep., Tohoku Univ., 2nd Ser., 62, 1-140.

小笠原憲四郎：1994，浅海性貝類化石に基づく日本海拡大期の日本列島の古地理と古海洋気候．月刊地球，16，174-180.

Ogasawara, K. and Nomura, R. 1980 : Molluscan fossils from the Fujina Formation, Shimane Prefecture, Sanin district, Japan. Prof. S. Kanno Mem. Vol., 79-98.

大原　隆：1966，雨竜炭田の層序と構造．千葉大学理学部紀要，4，617-630.

大原　隆・菅野三郎：1969，雨竜炭田の中部第三系の貝化石群．化石，no.17，41-49.

佐藤誠司：1970，北海道中軸部の中新統の対比．地質雑，76，203-301.

佐藤誠司：1976，北海道雨竜地域の第三系の層序の花粉分析の面からの検討．地質雑，82，517-529.

鈴木明彦・赤松守雄・能條　歩：1992，西南北海道の中新世軟体動物化石群の特性と古環境(予報)．瑞浪市化石博報，no.19，393-404.

鈴木明彦・能條　歩・稲木弘幸・日下　哉・都郷義寛：1994，西南北海道瀬棚地域の中新世馬場川層からArcid-Potamid faunaの発見．地質雑，100，263-266.

鈴木　守・渡辺　順・春日井昭：1964，5万分の1地質図幅「美瑛」および同説明書，北海道開発庁，32 p.

下河原寿男：1952，石狩炭田砂川市付近焼山の川端層の存在(予報)．北海道地質要報，no.20，29-34.

玉木健作：1992，日本海の拡大様式．科学，62，720-729.

Tsuchi : 1990, Neogene events in Japan and the Pacific. Palaeogeogr. Palaeoclimatol. Palaeoecol., 77, 355-365.

Uozumi S., : 1962, Neogene molluscan faunas in Hokkaido. (Part. 1 Sequence and distribution of Neogene molluscan faunas). Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. 4, 11, 507-544.

内村竜一・間嶋隆一：1992，中期中新世初期の温暖性貝類と寒冷性貝類の混合海域－中部北海道フラヌイ層を例として－．地質雑，98，1129-1144.

渡辺真人・吉田史郎：1995，恵比島地域の地質．地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)，地質調査所，61 p.

旭川市博物館研究報告　第2号　1996年3月

大雪山勇駒別温泉付近におけるトビケラ目の採集記録

A List of Trichoptera collected from near Yukomanbetsu Spa at Mts. Daisetsu-zan, Central Hokkaido, Japan.

斎　藤　和　範

北海道大学大学院地球環境科学研究科環境情報医学講座

はじめに

大雪山は、北海道のほぼ中央に位置し2,000m級の山並みが集まっている。本州で言えば3,000m級の山岳気候に出現するような高山植物が数多く生育し、ナキウサギを始めとする氷河期の生き残りと言われる動植物が数多く見られる地域でもある。昆虫類でもアサヒヒョウモン、ダイセツタカネヒカゲ、ウスバキチョウといった特別天然記念物を始め、山岳気候の限られた地域にしか生息しないダイセツドクガ、コイズミヨトウ、サカイテントウ、ルリマルクビゴミムシ、ダイセツオサムシといった種が生息している。しかし多くの昆虫調査が行われている中で、トビケラ目についての記録は伊藤(1990)のほか僅かしかなく、ほとんど手が付けられていないのが現状である。今回、国立科学博物館が1993年7月6日～9日に行った大雪山昆虫調査に同行し、トビケラを採集する機会を得たのでここに報告する。今回の調査では、僅かな時間しか採集することが出来ず、種数や採集個体が少ないため多くを語ることが出来ないが、今後の調査の基礎資料になれば幸である。

最後に、昆虫調査に同行することを快くお許しくださった国立科学博物館の上野俊一博士(現：東京農業大学客員教授)ならびに大和田守博士には、ここで改めて感謝の意を表する。また同定を引き受けていただいた久原直利氏(千歳市埋蔵文化財センター)に厚くお礼申し上げる。

調査地点及び採集方法

調査は、1993年7月9日に東川町勇駒別温泉(現：旭岳温泉)近くのピウケナイ林道入口付近において行った(図1)。採集は21時頃から約1時間、ライトトラップ(白布を広げ、発電機で水銀灯を灯したもの)を用い、白布に飛んで来たトビケラ成虫をランダムに採集した。採集した標本は70%アルコールで固定し研究室に持ち帰り同定を行った。標本の同定は久原氏が行い標本を保管している。

結果及び考察

シマトビケラ科　Hydropsychidae

1．*Hydropsyche orientalis* Martynov
　ウルマーシマトビケラ　1♂　2♀

2．*Cheumatopsyche* sp.
　コガタシマトビケラ属の1種　5♂

ナガレトビケラ科　Rhyacophilidae

3．*Rhyacophila retracta* Martynov
　ウエノナガレトビケラ　6♂　7♀

ヤマトビケラ科　Glossosomatidae

4．*Glossosoma inops* (Tsuda)
　イノプスヤマトビケラ　2♂

5．*Glossosoma* sp.
　ヤマトビケラ属の1種　4♀

エグリトビケラ科 Limnephilidae

6．*Lenarchus fuscostramineus* Schmid
クロズエグリトビケラ属の1種　2♂

カクツツトビケラ科 Lepidostomatidae

7．*Goerodes unkabiraensis* (Kobayashi)
ヌカビラカクツツトビケラ　1♀

上記の5科7種が採集された。同定を行った久原氏によれば、今回採集された種は北海道において比較的普通に生息しているものばかりということで、これといってこの地点を特徴付けるものは採集できなかった。また伊藤(1990)では、沼の原において3科4種を採集しているが全て幼虫による同定のため、種が判別できたものは *Nemotaulius admorsus* (Mclachlan)の1種のみであったが、種まで同定できなかった他の3種においても、今回採集された種と同属のものはなかった。この違いは伊藤の採集した場所が標高1440mであり池塘であるのに対し、今回採集した地点が、標高約600mと低く流水域の近くであることが原因かも知れない。

文　献

伊藤政和　1990　大雪山で採集された水生昆虫(広翅目・毛翅目・鞘翅目・半翅目)1989年7月および9月．Sylvicola 8, 75-76.

図1　採集地点

旭川市博物館研究報告　第2号　1996年3月

積雪期におけるエゾシカの樹皮食いについて

鈴木紘一[1)]・盛　久良[2)]・南　尚貴[1)]

1）旭川市博物館

2）旭川市大町1条9丁目

はじめに

近年、嵐山に積雪期エゾシカが姿を表わすようになり、樹皮食いが見られるようになった。1993年12月～1994年4月の積雪期には、オヒョウ、ヤマグワ、ツリバナなど胸高直径では17cm以下の樹木の幹や枝先が集中的に採食されていた（鈴木ほか、1995）。

1994年～1995年の積雪期にも同じ地域に再びエゾシカの樹皮食いが見られたことから再度調査を行ったのでその結果を報告する。

調査地の概況及び調査内容

調査地は、嵐山神居自然休養林の一部で、その概況については前報告（鈴木ほか、1995）を参照されたい。

前回設定した30m×30mの方形区内に存在する樹木について、新たな食痕と枯損状況の調査を行った。

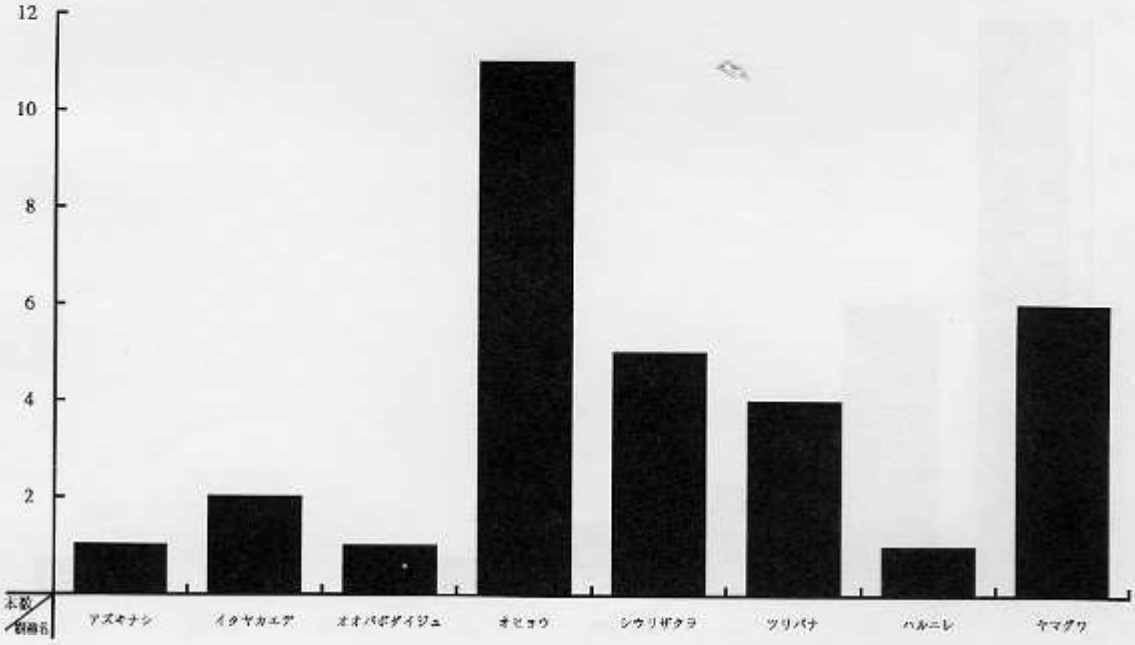


図1　新たに採食された樹種

調査結果と考察

調査区内で今回新たに樹皮食いが見られた樹木数は31本で、昨年の135本に比べると著しく減少している。樹種ではオヒョウ(11本)、ヤマグワ(6本)、シウリザクラ(5本)、ツリバナ(4本)、イタヤカエデ(2本)、アズキナシ(1本)、オオバボダイジュ(1本)、ハルニレ(1本)が採食されていた(図1)。オヒョウやハルニレを好む選択性については道内の他地域でも同じ傾向が見られる(梶, 1988、宇野, 1990、近藤ほか, 1994)。また、ヤマグワ、ツリバナが採食されている点は昨年の傾向とよく似ていた。一方、シウリザクラ、イタヤカエデ、オオバボダイジュは今回新たに採食が見られた樹種である。

樹皮食いの見られた樹木の胸高直径を図2に示す。ほとんどが17cm以下であり、これも昨年の傾向と同じである。ただ、直径24cm、38cmといった大きなオヒョウへも樹皮食いが及んできている。このような大径木への採食は表1のとおり調査区周辺で特に多く見られている(樹種はすべてオヒョウである)。

このようにエゾシカの採食選択性は、樹種ではオヒョウを、太さでは17cm以下の樹木を好むという基本的な傾向は昨年と同じであったが、新たな樹種や大径木にも採食が及んでいる点で異なっていた。このことは選択性の高い樹木のなかで、前年の採食により利用可能な小径木が減少したためと考えられるが、今回の調査からその詳細については知ることができなかった。今後エゾシカの冬期間の行動範囲を把握しながら、樹皮食いがどのように変遷していくかみていく必要がある。

No	胸高直径（cm）
1	40
2	20
3	23
4	29
5	23
6	24
7	24
8	23
9	36

表1　調査地周辺でみられたエゾシカの食痕

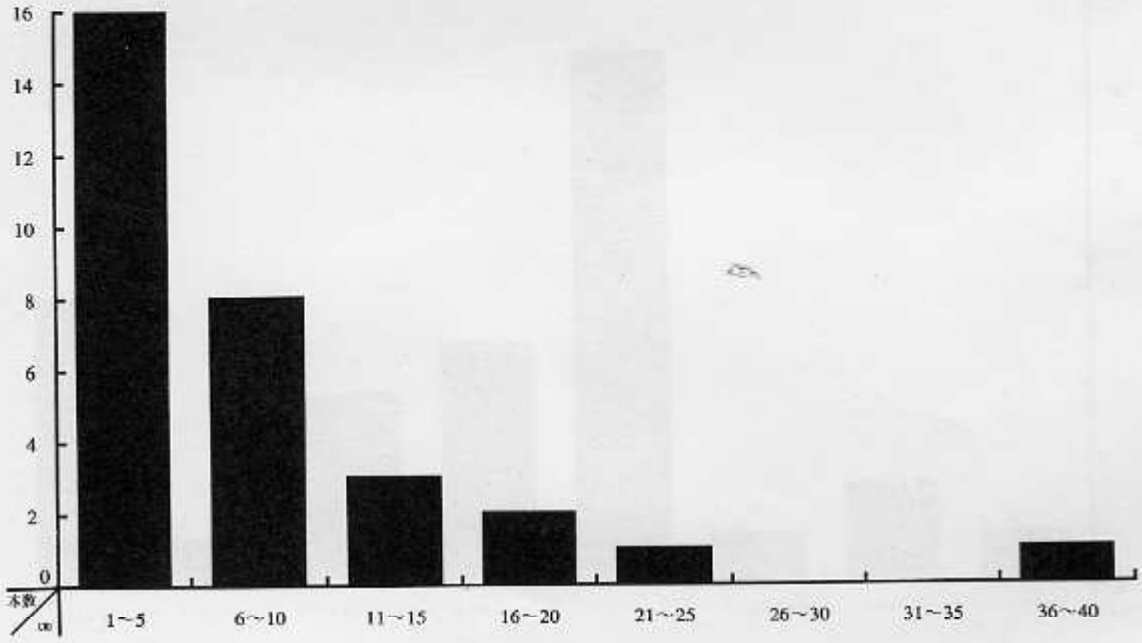


図2　径級別採食樹木数

引用文献

宇野裕之　1990　エゾシカ．第3回博物館特別展図録，美幌博物館，26 pp.

梶　光一　1988　エゾシカ．大泰司・中川編著知床の動物，北海道大学図書刊行会，155–180.

近藤憲久・宇野裕之・阿部　永　1994　阿寒の哺乳類．阿寒国立公園の自然1993，841–908.

鈴木紘一・盛　久良・南　尚貴　1995　エゾシカの樹皮喰いについて．旭川市博物館研究報告第1号：13–15.

旭川市博物館研究報告　第2号　1996年3月

北海道におけるアズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* の新分布地

A new record of *Bufo japonicus formosus* (Bufonidae, Amphibia) in Hokkaido, Jappan

斎藤和範[1)]・武市博人[1)]・南　尚貴[2)]

1）北海道大学大学院地球環境科学研究科環境情報医学講座
2）旭川市博物館

北海道には元来ニホンアマガエル *Hyla japonica* とエゾアカガエル *Rana pirica* の2種が生息している(前田・松井、1989)。最近の研究では移入種と思われていたツチガエル *Rana rugosa* も、元から生息していたらしいという報告(白井，1989、竹中，1993a)があり、それを合わせると3種が生息することになる。ツチガエルは分布が局地的だが、前2種は北海道のほぼ全域に分布している。移入種としては、明治時代に函館周辺に持ち込まれたといわれるヒキガエル(門崎，1981)、1947年頃に函館に養殖用として移入されたウシガエル *Rana catesbeiana*(白井，1989)、及び1989年に札幌郡広島町大曲に放逐された静岡県産とされるトノサマガエル *Rana nigromaculata*(竹中，1993b)が定着している。

旭川市では、数年前から神居古潭でヒキガエルを捕獲したという情報が得られていたが、昨年、埋蔵文化財発掘調査の際に多数の個体が目撃されたことから本調査を実施した。旭川市周辺でヒキガエルが自然繁殖していれば、函館以外の新分布地であり、積雪寒冷地でどのような生活史を持つのか興味のあるところである。今回これらの疑問の糸口となる結果を得たのでここに報告する。

調査地：旭川市神居古潭峡谷
　　吊橋下(図1、●1)(写真1)
調査年月日：1995年6月8日、
　　6月20日及び8月9日
採取個体：成体1尾(体長10.5cm、体重98.6g)
　　(写真2)、卵塊(写真3)、オタマジャクシ(写真4)
周辺環境：吊橋下の環境は、緑色片岩を中心とする岩盤が露出しており、流れに削られてできたおう穴が散在している(写真3)。ヒキガエルの卵塊またはオタマジャクシが見られた水溜まりは3カ所で、それぞれの大きさ、水深及び水温は次のとおりである。

No.1　56cm×36cm×5.8cm（D）23℃
　　(6月20日、14時)
　　卵塊を採取(6月8日、後期のう胚)
No.2　233cm×135cm×21cm（D）24℃
　　(6月20日、14時)オタマジャクシを採取
No.3　700cm×169cm×27cm（D）22℃
　　(6月20日、14時)オタマジャクシを採取

成体は、直径50cm深さ50cmほどのおう穴の中で採取した。おう穴の中には土砂が堆積し、そこにハンノキが生えて中は日陰となっていた。ヒキガエルのほかに数匹のエゾアカガエルもここに潜んでいた。

6月8日に採取した卵塊を室内で飼育したところ7月11日までに変態を完了した。

また、No.2では、6月20日に多くの個体が変態を完了し、周辺の岩盤上にいるのを確認した。同日、No.1では体長が1.3cm、No.3では後肢が形成されたオタマジャクシ(体長2cmほど)が見られた。その後、8月9日には吊橋下では約2cm、図

1〇地点では約3cmほどに成長している個体がみられた。

これらのことから、この地域でヒキガエルが自然繁殖していることが明らかとなった。また、東京周辺では5月下旬から6月上旬に変態するといわれていることから、旭川ではこれより2～3週間ほど遅れて変態し、陸に上がっていると思われる。

神居古潭の入口にある南山商店によれば、大きなカエルがたくさんいるということであり、撮影された写真からそれがヒキガエルであることが確認された。元神居古潭小中学校教諭の盛久良氏によれば、深川市更進に住んでいた方が、10年ほど前に埼玉県から持ち込み、同校近くの池に放したという。おそらくこのカエルが野生化して自然繁殖しているものと思われる。

昨年、埋蔵文化財調査の際に目撃された地点は、旭川市神居古潭の内大部川と国道12号線と道々旭川芦別線に囲まれた地域であり(図1，●2)、このヒキガエルが導入されたといわれる地点から程近い(約750m)。また、今回の調査地点まで直線約2km、筆者の一人である武市が2年前に体長4cmほどのヒキガエルを捕まえた深川市内園地区の国道12号線上まで3km以上離れており(図1，●3)、1995年5月に神居町西丘の道路沿いの溜め池3ケ所(図1，網部分)でオタマジャクシが確認された地点まで約2kmと分布が年々拡大している可能性がある。

函館山には北海道の在来種であるエゾアカガエルが生息せず、ヒキガエルが生息しているという報告がある(白井、1989)。産卵期の近いこの2種の間に競争等があり、本来生息していたエゾアカガエルがヒキガエルに駆逐されたことも考えられ、旭川においても分布・生活史・在来種との種間関係などを継続調査する必要がある。

近年、本来の生息地以外に新たな種を導入する

写真1　神居古潭峡谷吊橋下

写真3　卵　魂

写真2　成　体

写真4　オタマジャクシ

ケースが全国各地で見られるが、そのことによって元から生息していた種が消失または絶滅している可能性が高い。また、同種であっても生息場所が異なれば遺伝的に異なる性質を持っていることも考えられ、それが人為的に攪乱される可能性が高いという研究者の警告も発せられている(日本経済新聞，1994年11月4日、北海道新聞，1995年9月11日朝)。たとえ有用種であっても、これらのことを十分考えた上で慎重を期すべきであろう。

引用文献

門崎充昭　1981　動物相の現状－哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類(野幌丘陵とその周辺の自然と歴史)．北海道開拓記念館研究報告，6：20-38.

松井正文・前田憲男　1989　日本カエル図鑑．文一総合出版，206 pp.

白井　馨　1989　北海道に生息するカエル類．北海道理科教育センター研究紀要　1：47-50.

竹中　践　1993 a　爬虫類両生類相とその分布．生態学から見た北海道(東正剛・阿部永・辻達一編)，198-208，北海道大学図書刊行会，373 pp.

1993 b　北海道・広島町におけるトノサマガエルの生息状況．爬虫両生類学雑誌，15(2)：8.

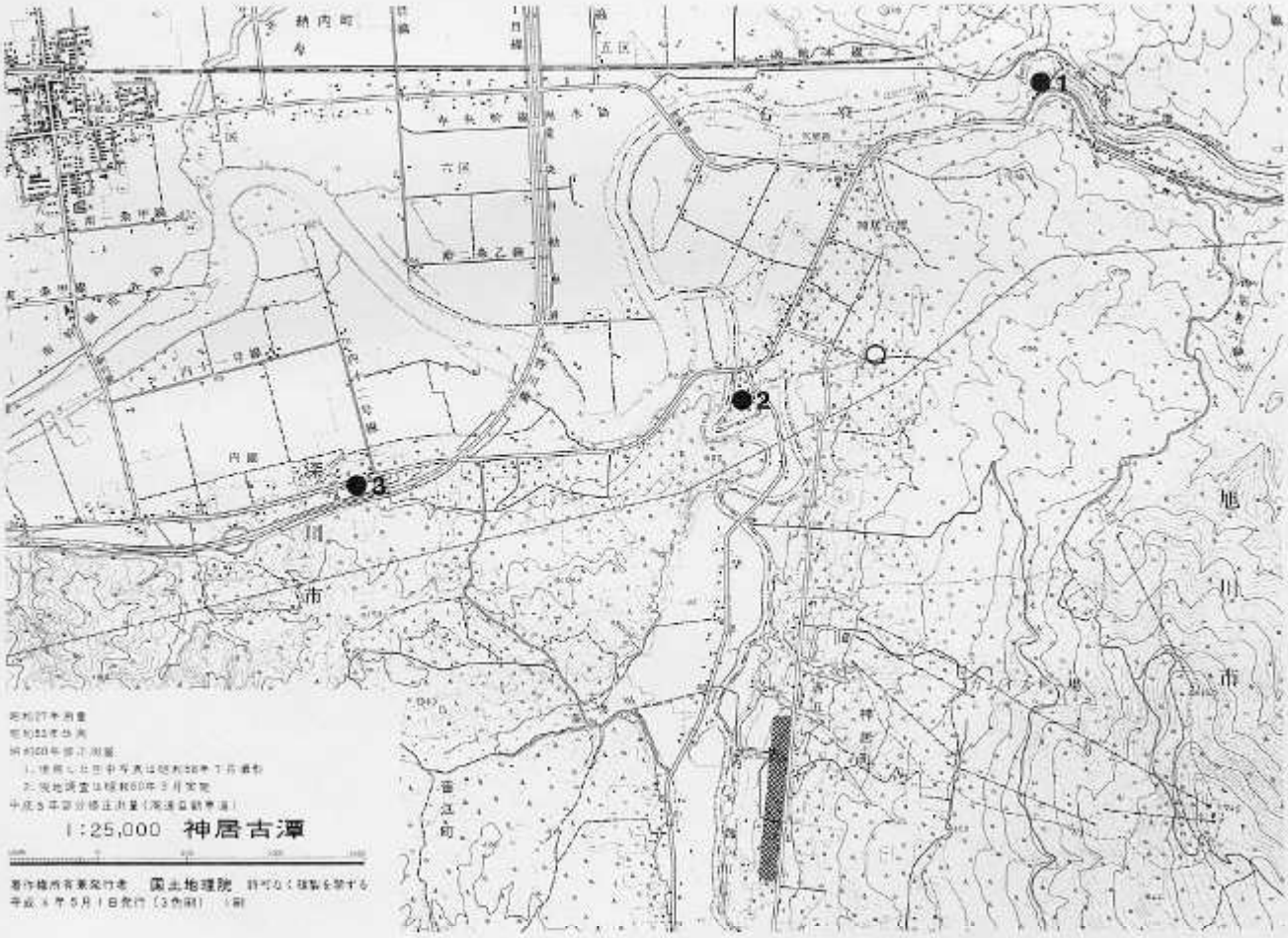


図1　個体採集地点

旭川市博物館研究報告　第2号　1996年3月

旭川採集アイヌ語動詞語彙集Ⅱ

魚　井　一　由

旭　川　市　博　物　館

I

iahunke　＜i（①私を②人を）ahunke（入れる）　①私を入れる　文語用例/nea－pon－menoko－iahunke－an. その少女が私を家へ入れるのでした。口語用例/en－ahunke. 私を入れる　②人を入れる⇨招待する　第Ⅱ類動詞　i－ahunke wa maratto－an－kushine. 人を招待して饗宴を開こう。

iama　＜i（我、我々を）ama（置く）　我、我々を置く　文語用例/shine aiun inaw－noshiki－ta i－ama. ある人が私をイナウの真ん中に置いた。ainu－utar－pirka－mosh－kata－iama. 人間たちは我々（鮭）を柔らかな草の寝床に置いてくれる。口語用例/en－ama. 私を置く。

iani　＜i（私を）ani（①抱える②置く）　①私を抱える。文語用例/samaikur－iani－kor enonta－pae. サマイクルは私を抱えて何処かへ行くのです。　口語用例/ku－kor－totto－en－ani－koro－ku－chise－ta－hoshibi－an. 母は私を抱えて家へ帰りました。②所相の"a"が省略されて、置かれる　文語用例/nekon－iki－wa－ene－iani－ya. どうして私はこのように置かれているのであろう。どうしてこんな境遇にあるのだろう。

iare[1]　＜i（死者の生活物資）a（豊かである）re（他動詞化語尾）　死者の生活物資を豊かにする。⇨酒、煙草、粢等を奇麗な川原等に撒いて祖先供養をする。　第Ⅱ類動詞　名詞：祖先供養

iare[2]　＜i（私を）a（座る）re（使役化語尾）　私を座らせる。文語用例/nea－chacha－kamui assoketa－ia－re－a－an. 翁神は私を左座に座らせた。口語用例/en－are. 私を座らせる。

iarepa　＜iare（ᡳᡵᡵᡝ[2]）pa（尊敬語尾）　私を座らせて下さる。nea－chacha－kamui－rorketa－iarepa－an. その翁神は私を上座に座らせて下さいました。

iarnukar　＜i（私を）ar（じっと）nukar（見る）　私を見つめる。nea－kamui－neno－an－menoko－iarnukar－a. その神なる娘は私を見つめるのでした。

iashi　＜i（私を）ashi（置く）　私を置く。私は置かれる。文語用例/kakkoku－sapo－neitashinno－iashi－an. カッコウのお姉さんは私をどこかに置いた。

ibe　＜i（e「食べる」の転訛）p（形式名詞「物」）e（食べる）　食べるものを食べる。⇨動物は動植物をそのまま食するが人間は生で食することのできるものはそのまま食べるが通常は煮たり、焼いたり、茹でたり、あるいは適当な大きさに切ったり、潰したりして食べる。⇨人間が食べる。　食事をする。　第Ⅱ類動詞。文語用例/ibe－an－tek－orowa－ashin－an. 食事をしてから私は出掛けた。口語用例/ku－ibe－orowa－ku－ashin－an. 食事をしてから私は出掛けた。名詞：食事※　養育熊を"ebere（kamui）"というがこれは人間と同じものを食するのでこう呼ばれたと思われる。

iberusui　＜ibe（食事をする）rusui（願望の助動詞）　食事がしたい。おなかが空いている。第Ⅱ類動詞　文語用例/ibe－an－rusui. 我（ら）食事がしたい。ibe－rusui－an. 我（ら）空腹である。　口語用例/ku－totto, ku－iberusui.「お母さん、僕おなかが空いたよ」

icha　＜i（それ「粟の穂」「肉」「草」等を）cha（①摘む②切る）①粟の穂摘みをする　第Ⅱ類動詞　文語用例/pipa－ani－icha－an. 川真珠貝の貝殻で粟の穂摘みをする。名詞：穂摘み　②切る usa－kam－icha－an. いろいろな肉を切る。

ichakkere　＜i（それ「汚いもの、ごみ」を）charke（散らばる）re（他動詞化語尾）　ごみを散らす⇨汚い、汚れている。第Ⅱ類動詞　文語用例/an－netobake－ichakkere－an－kusu－an－hurai－kushine. 身体が汚れているので洗おう。口語用例/ku－netobake－ichakkere－kusu－ku－hurai－kushine. 同上。

ichari　＜i（それ「酒、タバコ」を）chari（撒く）　それを撒く　第Ⅱ類動詞　ふと故人を思い出したようなとき、人間が住むことも近寄ることさえも拒否するような険しい山（例「旭川市神居古潭」）を通るようなとき酒やタバコを辺りに撒いて故人を偲んだり、神の許可を懇願する。

icharpa　＜i（酒、タバコ、粢）charpa（chariの目的物複数形）酒、タバコ、粢をひとつならずたくさん撒く⇨先祖供養をする　第Ⅱ類動詞　名詞：先祖供養

ichoprakote　＜i（私を）chop（キスの擬声音）ra（na「～の方へ」）kote（付ける）　私にキスをする。a－yubi－hoshibi－yakne ichoprakote. 兄は帰っくると私にキスをするのです。

ichotcha　＜i（それ「矢」）chot（擬声語）cha（切る）　それがチョッという音を立てながら切る。⇨矢を射る　第Ⅱ類動詞　nea kamui－ekota－ichotcha－an. その熊に私は矢を射た。

ie（＝ye）言う。第Ⅰ類動詞。an－mataki－nep－ka－ie－somokino－an. 妹は何も言わずにいました。

iehumkekar　＜i（私に）e（そのこと「前文」について）humke（言い聞かす）kar（為す）　そのことについて、私に言い聞かせる。pon－chupkaunkur－sempir－oroketa－iresu－an－be－ayubi－iehumkekar－kor－an. 若きチュップカ人が陰で私を育てている事を兄は私に言い聞かせるのでした。

iekari　＜i（私の）ekari（①廻りを回る②向かって来る）①私の廻りを回る。an－seta ekushukono－iekari－a－an. 私の犬は突然私の廻りを回り始めたのでした。②私に向って来る。an－seta－i－nukar－tek－yakne－iekari－na. 私の犬は私を見るなり私に向かって来るのです。

iekasuikar　＜i（私に）e（そこで）kasui（助け）kar（為す）　私をそこで手伝う。an－matne－eka'tchi－rata－shkep－uk－ita－iekasauikar. 娘は山菜を採るとき私にそこで手伝ってくれる。

iekutkare　＜i（私に）e（そこで）kut（帯）kar（為す）e（使役化語尾）　私にそこで帯を締めてくれる。kamui－menoko－yaikutkor－raunkut－pitata－ine－i－ekutkare－an. 神なる娘はそこで自分の下帯を解いて私に締めてくれたのでした。

iemina　＜i（私を）e（そのことで）mina（笑う）　私をそのことで笑う。kamui－utar－iemina ruwene. 神々はそのことで私を笑われた。

ieomina　＜i（私を）e（そのことで）o（そこで）mina（笑う）　私をそのことでそこで笑う。kemeiki－an－korka pirikano－an－e－aikap－kushu a－yubi－shisempiri－orke－ta ieomina－an. 私は刺繍をするのですが上手にできないので兄は私のいないところで笑うのです。

iepa　＜ie（𛅐）pa（①目的物複数②尊敬）　第Ⅰ類動詞　①an－iepa. 我ひとつならず多く言う。e－iepa. 汝ひとつならず多く言う。iepa. 彼ひとつならず多く言う。②iepa. あの方がおっしゃる。

iepakashinu　＜i（私に）e（それについて）pa（頭）kashi（上を）nu（見る）　私にそれに就いて頭上を見る。⇨私に教える。kamui－menoko－apeoawanki－kotoro－iepakashinu. 神の娘は火が生じる扇の面を私に教えてくれた。

iepanakte　＜i（私を）e（そのことで）panakte（罰する）　私をそのことで罰する。私にそのことに対して罰を与える。kamui－utar－an－torannep－ne－kusu－iepanakte－an. 神々は私が怠け者であったので私にその罰を与えたのです。

iepapa　＜ie（𛅐）pa（目的物複数）pa（尊敬）　一言ならず多くおっしゃる。

iepetturash　＜i（私の）e（そこで）pet（川）turashi（水源まで行く）　我と行き着くところまで行く。⇨私より強い　nep－kamui－yakne－iepetturaship－shinep－ka－isam. いかなる神とても私よりも強いものは一神もいない。

iepunnkine　＜i（私を）e（そこで）punkyo（奉行）ne（なる）　私を守る。kakkoku－sapo－iepunkine－kusu neno－an－an. カッコーのお姉様が私を守ってくれるのでこのようにあるのです。

ieramkarap　＜i（私に）eramkarapte（挨拶をする）　私に挨拶をする。chacha－kamui－an－eramkarap－aike－chacha－kamui－ka－ieramkarapte－an. 翁神にご挨拶申し上げると、翁神もまた私に挨拶をして下さいました。

iere　＜i（私に）e（食べる）re（使役化語尾）　私に食べさせる。私に食事を与える。ai－sa－kera－an－be－patek－iere－an. 姉はおいしいものばかりを私に食べさせた。

iereshikakar　＜i（私を）e（そこで）reshika（養育）kar（為す）　私を育ててくれる。otasut－un－kamui－ne－an－kur－sembiri－orketa－iereshikar－an. オタストの神なる方が見えないところで私を育ててくれます。

iesokar　＜i（私に）e（そこで）so（寝所を）kar（作る）　私のために寝床を作る。nea－kamui－menoko－iesok－ar－an. その神なる娘は私のために寝床を作るのです。

ietaye　＜i（私を）etaye（引く）　私を引く。私を引き上げる。ainu－utar－yata－ietaye－a－an. 人間たちは私（船神）を浜辺に引き上げたのでした。

ihenkotpa　＜i（私）henkotpa（𛅐）　私に何度も頬擦りをする。

ieyam　＜i（我、我々）eyam（守る）①我（等）を守護する。chip－kamui, ieyam－na！　船神よ、我らにご加護を。②私を大事にする。ayubi－ieyam－kor－an. 兄は私を大事にしてくれていました。

ihok　＜i（それを）hok（買う）　交易によって生活必需品を手に入れる（買う）ために、鹿皮等の生産物を商品にする（売る）⇨売る　目的語を示す接頭辞（i）を伴っているから第Ⅱ類動詞に分類すべきであるが、久保寺博士は第Ⅰ類動詞に分類されている。その理由はこの語が成立したときはアイヌ語の文法体系が日本語の文法体系に移行し始めたころであったろうと推察される。ここでは博士に従って第Ⅰ類動詞に分類する。

ihokpa　＜ihok（𛅐）pa（①目的物複数化語尾②尊敬）①たくさん買う。②お買いになられる。

ihokpapa　＜ihok（𛅐）pa（目的物複数化語尾）pa（尊敬）たくさんお買いになられる。

ihoshibire　＜i（私を）hoshibi（帰る）re（使役化語尾）私を帰す。henbano－an－chise－ta－ihoshibire－yan. 早く家へ私を帰して下さい。

ioshiki　＜i（それ「飲酒」が）osh（後に）ki（する）　飲酒の後の　状態にする⇨酔う　第Ⅱ類動詞　二重母音を避けるためiyoshikiと発音されることもある。

ioshikkote　＜i（私の）osh（中を）kote（結び付ける）私に恋慕する。私を好きになる。私に惚れる。kos－hinpui－tono ioshikkote－an－na. 妖精の首領が私に惚れたのです。

ihoshippare　＜i（私を）hoshippa（hoshibiの尊敬形）re（使役化語尾）　私を帰して下さる。kakkoku－sapo－neno－ihoshippare－an. カッコウのお姉さんはこのように私を帰して下さいました。

ihumke　＜i（それを）hum（音）ke（他動詞化語尾）それを音にする。⇨神の声を音にする。⇨子守歌を歌う。第Ⅱ類動詞。赤ん坊の泣き声は何かの前兆を知らせるものであった。an－kor－shiuhpe－an－kai－kor－ihumke－an。赤ん坊をおぶって子守歌を歌う。

ihuntakore　＜i（我に）hunta（邦語：札、辞令）kore（与える）　私に辞令を与える。私は辞令を受けている。anokai－anakne－ainu－moshir－epunkine－kuni－kanto－orowa－ihuntakore－an. 私は人間界を守るように天から辞令を受けている。（梟神の言葉）

iimek　＜i（私に、私たちに）imek（食べ物を器に盛る）私によそう。nea－menoko－pirika－chep－iimek－an. その娘は立派な魚を私によそってくれた。

iipere　＜i（私、私たちに）ipere（食べさす）　私（たちに）食べさせる。an－kor－kakkoku－sapo－pirika－suke－ki－wa－iipere－an. カッコウのお姉さんはおいしい料理を作って私に食べさせてくれました。

iiye　＜i（私に）iye（言う）　私に言う。neno－iki－an－yakne kamui－utar－nekon－iiye－ya. そんなことをしたら神々は私に何と言われるでしょう。

ikai　＜i（私を）kai（背にする）　私を背にする。私を背負う。文語用例/ kakkoku－sapo－ikai－ine－an－chise－ta－i－rura－an. カッコウのお姉さんは私を背にして私の家へ連れて来てくれました。

ikama　＜i（私を）kama（跨ぐ）　私を跨ぐ。nea－pon－menoko－ikama－wa－oman－an. その若い娘は私（沼貝）を跨いで行ってしまった。

ikaoiki　＜i（我（等）を）ka（上）o（そこで）i（それを）ki（する）　我（等）を看病する　病気を治す　第Ⅲ類動詞　ika（shi）－e－o－iki. 汝我（等）を看病す。ika（shi）－eshi－o－iki. 汝等我（等）を看病す。ika（shi）－oiki. 彼（等）我（等）を看病す。

ikaopash　＜i（我（等）の）ka（上）o（そこへ）pash（急ぐ）　我（等）を急ぎ救援す　第Ⅲ類動詞　ika（shi）－e－opash. 汝我（等）を急ぎ救援す。ika（shi）－eshi－opash. 汝等我（等）を急ぎ救援す。ika－opash. 彼（等）我（等）を急ぎ救援す。

ikar　＜i（私を）kar（作る）　私を作る。⇨私の身を変える。　文語用例/ kamui－utar－chup－or－ush－kur－ne－ikar－an. 神々は月の中にいつもいるものに私の身を変えたのでした。

ikarkar　＜i（それ「紋様」を）kar（作る）kar（作る）刺繍を施す　第Ⅱ類動詞　keshi－to－an－kor－i－karkar－an. 毎日刺繍をしております。

ikashma　＜ika（溢れること）ma（動詞化語尾）　剰る。数詞に現れる。tup－ikashima－wampe. 二剰り十。十二

ikasui　i（私を）kasui（手伝う）　私を手伝う。an－matne－eka'tchi－ka－rupne－ike－tane－ikasui. 私の娘も大きくなり、今では私を手伝う。

ikemnu　＜i（そのことに）kem（血を）nu（持つ）　それに対して血を待つ。⇨①そのことを憐れむ。　第Ⅱ類動詞 kamui raichebi－an－nukara－wa－ikemnu－an. 神の死骸を見て憐れに思った。②復讐する。anona－raike－kur－ikemnu－an－kushine. 父を殺した人に復讐をするつもりです。

ikesui　怒りの余り立ち去る　第Ⅱ類動詞　ikesui－an－kor－rata－ran－an. 怒りながらそこを立ち去り川へと下った。

iki　＜i（それ『前の動作を受ける接頭辞』を）ki（為す）。　それを為す。⇨そうする。第Ⅱ類動詞　nea－ainu－ekatchi－ie－neno－iki－an. その人間の子供が

言った通りになりました。

ikinne ＜ik（関節）ir（列）ne（になる） 列になる連なっている 主格三人称動詞 ne－chise－oshke－ta－shintoko－ikinne－an. その家の中には行器が連なっていた。

ikipa ＜iki（𛅐）pa（①主格複数②尊敬語尾）①a－yupi－utari－neno－ikipa－kor－an. 兄たちはそんなことをしています。②nep－kusu－neno－e－ikipa－ruwe？なぜそんなことをなさるのですか。

ikishima ＜i（私を）kishima（抱き締める） 私を抱き締める。kamui－ne－an－kur－ikishima－an－na. 神のような方が私を抱き締めたのです。

ikka 盗む。奪う。第Ⅰ類動詞。nea－kur－e－ikka－wa－ekor－kushine－an. その男はあなたを奪って妻にしようとしたのです。

ikkapa ＜ikka（𛅐）pa（目的物複数語尾） たくさん盗む、たくさん奪う。

ikocharanke ＜i（私に）ko（に対して）charanke（無理難題を持ちかける） 私に無理難題を持ちかける。Otasut－un－nishipa－keshito－an－kor－ikocharanke－an. オタストの長者は毎日私に無理難題を持ちかけるのでした。

ikohopumpa ＜ikohopuni（𛅑）pa（主格複数語尾） 複数の者が私に立ち向かう。

ikohopuni ＜i（私に）ko（に対して）hopuni（起つ） 私に立ち向かう。nea－kamiashi－ikohopuni. その魔神が私に立ち向かうのです。

ikoiki[1] ＜i（それ）ko（に対して）i（それを）ki（する） それ（獲物）に対してそれ（狩猟）をする。獲物を獲る。第Ⅱ類動詞 kim－ta－ikoiki－kor－an. 山で獲物を獲って暮らしています。

ikoiki[2] ＜i（私に）ko（に対して）i（それを）ki（する） 私に立ち向かう。私に戦いを挑む。horkew－kamui－ikoiki－a－an. 狼神は私に立ち向かった。

ikoinkar ＜i（私）ko（に対し）inkar（𛅑） 私を見る。私を見守る。kamui－katkemat－ikoinkar－kusu－neno－an－an－na. 女神様がを見守ってくれるのでこのようにいるのです。

ikoipuni ＜i（我）ko（に対し）i（それを）puni（上げる） 食べ物や飲み物を私に捧げる。nea－pon－menoko－pirika－sonapi－ikoipuni－an. その娘は私にごちそうを捧げてくれました。

ikoipumpa ＜ikoipuni（𛅐）pa（主格複数語尾） a－yubi－utar－kam－ikiri－ikoipumpa－an. 兄たちは肉をたくさん私に捧げてくれました。主格が複数であれば目的物も複数になる。

ikokamahupte ＜i（私に）ko（に対して）kam（肉を）ahupte（ahunke「入れる」の目的物複数形） 私に一つならず二つ以上の肉を入れさせる。ai－sa－ikokamahupte－a. 姉は私にたくさんの肉を（家）に入れさせた。

ikokanu ＜i（それ）ko（に対して）ka（上を）nu（聞く） きちんと聞く。傾聴する。耳を澄ます。chise－soita－nep－ka－hum－ash－kusu－ikokanu－aike－anona－ne－kotom－an－hawe－an. 家の外で何か音がするので耳を澄ますと父と思われる声がした。

ikomarattone ＜i（私）ko（に対して）maratto｛邦語：客人（まれひと）｝ne（になる） 天界の神々が各々動植物に身を変えて人間界の私（達）のところに降臨する。shipase－kamui, ikomarattone－ikorpareyan. 重き神よ、我らの客人となって下さい。

ikonnu ＜ikor（神の為すこと）nu（見る） 神の為すことを見る。①動物がその仕草で天変地異を予兆する。②人を呪う。

ikoonkami ＜i（私）ko（に対して）onkami（拝む） 私を拝む。私に挨拶をする。chacha－kamui－an－ko－onkami－aike－chacha－kamui－ka－ikoonkami－an. 翁神にご挨拶を申し上げると、翁神もまた私に挨拶をして下さいました。

ikootereke ＜i（私）ko（に対して）o（ここから）tereke（突き落とす） この世から私を突き落とす。chikap－sak－kotan an－ikotereke－nankoro. 鳥無き郷に私は突き落とされるであろう。

ikopashrota ＜i（私）ko（に対して）pa（口を）shir（強勢辞）ota（開ける） 私に対して口を大きく開ける。⇨私を罵る。a－yubi－nep－kusu－an－honi－poro－ne－sekoro－itak－koro－iseme－wa－ikopashirota－ya. 兄は何ゆえに私の腹が大きくなったのかと私を攻め責めそして罵るのでした。

ikopepka ひどい目に遭う。第Ⅱ類動詞 pewre－ita－neno－ikopepka－an－sekor－chironnup－kamui－itak. 若い頃ひどい目に遭ったと狐神が語りました。

ikor ＜i（私を）kor（①持つ②結婚する） ①私を持つ。nea－pon－menoko－ikor－wa－to－otta－ran－a. その若い娘さんは私（沼貝）を持って湖へ下りました。②私と結婚する。男女の別なく用いられる。koshinpui－tono ikor－kuni－an. 妖精の首領は私と結婚するつもりである。

ikore ＜i（私に）kore（与える） ①私に与える。文語用例/ nea－pon－menoko－shito－shinep－ikore－an. その若い娘は私に団子を一つくれた。②～して下さい。Tuitak－nure－wa－ikore. トゥイタックを聞かせて下さい。

ikorepa ＜ikore（𛅐）pa（目的物複数） 私にたくさん与える。Ikoro－ikorepa－an！宝をたくさん頂きまし

た。

ikorpare　＜i（私、私たちに）kor（持つ）pa（主格三人称複数目的物複数）re（使役化語尾）　①大勢の人が私（たち）にたくさん与える。kamui－utar－chep－neno－ikorpare－yan. 神々がこのように魚をたくさん私たちにくださったのです。②どうか～して下さい。ishitekka－wa－ikorpare－yan. どうか許して下さい。

ikosanke　＜i（私に）ko（に対して）sanke（差し出す）私に差し出す　nea－pon－menoko shito－shinep－ikosanke－an. その娘は団子を一つ私に差し出した。

ikosapte　＜i（私）ko（に対して）sapte（sankeの目的物複数形）　私にたくさん差し出す。

ikoshinewe　＜i（私）ko（に対して）shinewe（遊びに来る）　私のところに遊びに来る。

ikoshirepa　＜i（私の）ko（ところに）shirepa（到着する）　私を訪ねる。e－ikoshirepa－yakne－pirika－na－sekor－yainu－an. あなたが訪ねてきてくれればいいなあと思っています。

ikotarar (a)　＜i（私）ko（に対して）tarar（tar－tarの省略形　取り延べる）　私に取り延べる⇨私に渡す。文語用例/ nea－rupnemat－iwan－at－erikin－shitoki－ikotarar－a. その媼は六本の紐が付いている首飾りを私に渡しました。

ikoyawyawse　＜i（私）ko（に対して）yawyaw（ワーワー）se（発声する）　私にワーワー声を上げる。

iku　＜i（それを）ku（飲む）　それ（酒）を飲む、飲酒する。第Ⅱ類動詞　kesh－to－kesh－to－iku－an－kor－an. 私は毎日酒を飲んでいる。

ikupa　＜iku（ᴮ）pa（①主格複数②目的物複数形③尊敬）　①複数の者が酒を飲む。kamui－utar－ikupa－kor－an. 神々がお酒を飲んでいる。②酒を一杯ならず幾杯も飲む。an－kor－ekashi－ikupa－kor－an. 私の主人は杯を重ねていた。③お酒を飲まれる。nea－kamui－ikupa－kor－an. その神様はお酒を召し上がった。

ikupapa　＜iku（ᴮ）pa（目的物複数形）pa（尊敬）　酒を一杯ならず幾杯も飲まれる。nea－kamui－ikupapa－a－an. その神様はお酒を一杯ならず幾杯も召し上がりました。

ikure　＜iku（ᴮ）re（使役化語尾）　酒を飲ます。第Ⅰ類動詞　en－ikure. 私に酒を飲ませてくれ。

ikurkataratki　＜i（私の）kur（陰）ka（上）ta（へ）ratki（下がる）　私の方にやって来る。ikurkataratki－hawe－ene－anihi. 次のような声が聞こえてきます。

ikutasa　＜iku（ᴮ）tasa（返す）　杯を交換する。一緒に酒を飲む。

ima　＜i（それを）ma（焼く）　魚や肉を焼く。第Ⅱ類動詞。

imek　＜i（食べ物）mek（分ける）　鍋の中身を椀に盛る。装う。第Ⅱ類動詞。nea－pon－menoko－prika－suke－imek－an. その娘は私においしい料理を椀に盛ってくれた。

imekare　＜imek（ᴮ）a（出母音）re（使役化語尾）　装わせる。anokai－an－machi－imekare－an. 妻に飯を装わせる。

imi　＜i（それ「着物」を）mi（着る）　着物を着る。第Ⅱ類動詞　henbano－imi－wa－ibe－ya. 速く着物を着て食事をしなさい。名詞：着物

imire　＜imi（ᴮ）re（使役化語尾）　着物を着せる。第Ⅰ類動詞　an－kor－ekatchi－an－imire. 子供に着物を着せる。

imu　神聖なもの・死・穢れたものなど。古代人にとってはげしい威力を持つ、触れてはならないものをものの意を示す日本語の古語「忌み、斎み」（大野晋　佐竹昭広　前田金五郎編　岩波古語辞典　岩波書店）と関係要あると思われる。①何かに驚いたときなどにタブーされる卑猥な言葉を言う。②相手の言葉に対して反対のことを言ったり、反対の行動をとる。

imure　＜imu（イムをする）re（他動詞化語尾）　イムをかける。aisa－ekota－an－imu－ene－anihi："Atusa－tapkar－atusa－rimse－e－iki." sekor itak－an. 姉に次のようにイムをかけました。「裸の踊りと裸の輪舞をしなさい」と私は言った。

inawkar　＜inaw（御幣）kar（①捧げる②作る）　①御幣（イナウ）を捧げる。第Ⅱ類動詞　kamui－ekota－inawkar－an－wa－inonnoitak－hawe－an. 神に御幣を捧げてお祈りしました。②イナウを作る。susu－nitek－ani－inawkar－an. 柳の枝でイナウを作る。

inawkarpa　＜inawkar（ᴮ）pa（①主格複数②目的物複数③尊敬）　①あの方々がイナウを作る。②イナウを一本ならずたくさん作る。③イナウを作られる。

inawke　＜inaw（イナウを）ke（削る）　イナウを削る。第Ⅱ類動詞　inawke－an. 私はイナウを削る。第Ⅰ類動詞用法：inaw－an－ke. 同上。

inawkepa　＜inaw（イナウを）ke（削る）pa（①主格複数②目的物複数③尊敬）　①あの方々がイナウを削る②イナウを一本ならずたくさん削る。inawkepa－an. 私はイナウを一本ならずたくさん削る。③イナウを削られる。nea－nishipa－inawkepa－a－an. その長者はイナウを削られた。

inawnituye　＜inaw（イナウ）ni（木）tuye（切る）　イナウの木（柳、ミズキ等）を切る。第Ⅱ類動詞

inishke　＜i（我を、我らを）nishke（誘う）。an－acha

－uimam－ekota－inishke－an. 叔父は交易に私を誘いました。

inkar ＜in（眼）kar（作る） 眼を作る。⇨見る。第Ⅱ類動詞。文語用例/inkar－ash－ike poro－chise－ash－kana－an. 見ると大きな家が建っていた。

inkarpa ＜inkar（ᡤ）pa（①主格複数②目的物複数③尊敬）第Ⅱ類動詞 ①一人ならず二人以上の人が見る。文語用例/okkai－ekattara－iekota－inkarpa－an. 男の子供たちが私を見た。②一つならずたくさんのものを見る。ainu－moshitta－inkarpa－an. 人間界で私はたくさんのものを見ました。③御覧になられる。nea－kamui－ne－ankur－iekota－inkarpa－an. その神様のようなお方が私を御覧になられたのでした。

inkarpapa ＜inkar（ᡤ）pa（目的物複数）pa（尊敬） 一つならずたくさんのものを御覧になられる。nishipa－utar－inkarpapa－a－okai. ご立派な方々がたくさんのものを御覧になられたのでした。

inkare ＜inkar（ᡤ）re（使役化語尾） 見せる。ne－an－be－en－inkare. それを私に見せなさい。

inomi¹ ＜i（私を）nomi（祈る） 私を祈る。teeta－kane－ainu－utara－sake－newa－inaw－newa－inomi－an－na. その昔、アイヌたちは酒やらイナウで私を祈ったものでした。

inomi² ＜i（それを）nomi（祈る） 神に祈りを捧げる。第Ⅱ類動詞

inonnoitak ＜i（それ「神」に）nonno（邦語「のの」：幼児語神仏・日月など、すべて尊崇するものの称。（広辞苑）itak（言葉を発する） 祈りの言葉を捧げる。第Ⅱ類動詞 文語用例/nea－kiyannewa－an－ekatchi－neno－inonnoitak－kor－a－wa－an. その兄の方の子供はそのように祈り言葉を捧げながら座っていた。

inu ＜i（①それ「漠然とした事象」を②前文の内容）nu（聞く） ①それを聞く。⇨聞こえてくる。第Ⅱ類動詞 inu－anike－moshir－kesh－wano－shine－kamui－ariki－na. 聞くところによると大地の端から一人の神様がいらっしゃるということです。②そのこと（前文の内容）を聞く。anante machi, itak－an－chiki－pirikano－e－inu－nankoro. 我妻よ、余が述べることをよっく聞くがよい。

inukar ＜i（私を）nukar（見る） 私を見る。shine－menoko－ashin－ine－inukar－tek－wa－sui－ahun－an. 娘が出て来て私をちょっと見て、また家へ入った。

inure ＜i（私、私たちに）nure（聞かせる） 私（達）に聞かせる。iku－haw－ibe－haw－inure－a－an. 飲んだり食べたりする声を私たちに聞かせる。

inuyashike ＜i（それを）nu（聞く）ash（第Ⅱ類動詞に後置して1人称単数を表す）ike（接続助詞：～と） 聞くところによると。

io ＜i（私「船神」）o（乗る） 私に乗る。okkaipo－utar－io－wa－uimam－an. 若者達は私（舟）に乗って交易に出掛けた。

ioira¹ ＜i（それ「もの」を）oira（忘れる 第Ⅱ類動詞 ①物忘れをする。an－kor－huchi－tane－onne－ne－kusu－oira－na. 祖母は年ですので物忘れをする。②それを忘れる。numan－an－pe－ioira－an. 昨日あったことは忘れた。

ioira² ＜i（私を）oira（置き忘れる） an－acha－ioira－kane－repun－an. 叔父は私を置き忘れて沖へ出た。

iokarire ＜i（私を）okari（巡る）re（使役語尾） 私の回りに置く。私の回りに立てる。shine－okkai－inaw－kar－ine－iokarire－a－an. 一人の若者がイナウを作って私（船神）の回りに立てた。

iokewe ＜i（私を）okewe（追い出す） 私を追い出す。ai－sa－iokewe－patek－ki－an. 姉は私を追い出してばかりいた。

iokuira ☞ iyokuira

iomante ＜i（魂を）oman（行く）te（他動詞化語尾） 魂を天界へ送り返す。アイヌの考えによると動物神は、天界では人間と同じ服装をし、同じものを食し、同じ家に住んでいるという。そして人間に肉、毛皮等を与えるために動物の姿に身を変えて降臨する。アイヌはその返礼として酒、団子、御幣を捧げてその魂を天界へ返す。名詞：魂送り

iomare¹ ＜i（私を）oman（行く）re（使役語尾） 私を入れる。nea－wen－kamiash－poru－oro－iomare－a. その恐ろしい魔神は洞穴の中に私入れたのでした。

iomare² ＜i（それ「酒」を）omare（入れる） 酒を入れる。⇨酌をする。第Ⅱ類動詞 an－machi－iomare－kusu－pishkanta－hoyup－an. 妻は酌をするためにあちこち飛び回っていた。

iomarepa ＜iomare（ᡤ）pa（目的物複数形）たくさん酌をする。an－machi－i－iomarepa－a. 妻は私にたくさん酌をした。

iopok ＜i（それ「前文」が）o（そこに）pok（混じっている） それが混じっている。sayutar－ta－rekut－sak－kamui－iopok－an. その鳥に群れの中に首の無い（鳥の）神が混じっていた。

ioshiaraka ＜i（それ「お産」の）oshi（後）araka（痛む） 後腹を病む。第Ⅱ類動詞

ioshike ☞ iyoshike

ioshikoni ＜i（私の）oshi（内に）ko（に対して）niw（歯向かう） 私の内迄入り込む。私を捕まえる。

ioshshikir ＜i（私の）osh（背後に）shikir（転ずる） 私の背後にやって来る。iresu－yupi－ioshikir－kor－an

－karpe－eminar－an. 私の育ての兄は私の背後にやって来て私の作ったものを笑うのでした。

ioshikirpa ＜ioshikir（ᡳᡴᡳᡵ）pa（主格複数語尾） 一人ならず二人以上の人々が私の背後にやって来る。

iotereke ＜i（私を）o（ここから）tereke（突き落とす） ①私を人間界から突き落とす。chikap－sak－kotan－ta iotereke－kushine－ari－ayubi－utari－iepa－kor－an. 烏無き郷（地獄）へ私を突き落とすつもりだと兄たちが言っているのです。②私を踏みつける。kimun－kamui－iotereke－an. 山の神が私を踏みつけた。

iotke ＜i（私を）otke（突き刺す） 私を突き刺す。otasut－un－kur－op－ani－iotke－a. オタスト人は槍で私を突いた。

ipa ＜i（私を）pa（見つける） 私を見つける。sakma－ne－yaikarineno－an－korka－kimun－ainu－ipa－an. 横木に身を変えていたのですが山アイヌは私を見つけた。

ipakashnu ＜i（それを）pa（頭）ka（上）shi（大きく）nu（聞く） 教える。第Ⅱ類動詞 huchi－utara－ainu－itak－en－ipakashnu－an. おばあさんたちがアイヌ語を私に教えてくれた。

iparooiki ＜i（私の）paro（par「口」の人称形）o（そこで）i（それを）ki（為す） 食事の世話をする。第Ⅲ類動詞 iparo－e－oiki. 汝我（等）の食事の世話をす。iparo－eshi－oiki. 汝等我（等）の食事の世話をす。iparo－oiki. 彼（等）我（等）の食事の世話をす。

ipanne－ki ＜ip（語調を整えるための辞：久保寺逸彦著『アイヌ叙事詩神謡：聖伝の研究』p. 648）a（我）ne（～となる）ki（為す） 私は～となる。tane－anakune poho－korpe－ipanne－ki－wa－an－an. 今では子を持つ身となって暮らしている。

ipawre ＜i（そのことについて、漠然とした状態を）pa（口、言うこと）wen（悪い）re（他動詞化語尾） 悪口を言う。第Ⅱ類動詞 Echiki－nenoan－ipawre－na. そんな悪口を言ってはいけません。

ipawtenke¹ ＜i（そのことを）pa（口）e（そこで）tenke（唸る、声を上げる） 大声で命令する。"Repun－an－kushne!" ari－an－achabo－i－ipawtenke－an－na.「沖へ出るぞ」と叔父は私達に命令しました。

ipawtenke² ＜i（私に）pa（口）e（そこで）tenke（唸る） 私に命令をする。neno－iki－an－kunip－anacha－ipawtenk－a－an. そうするように叔父は私に命じました。

ipe ＜ep（食べるものを）e（食べる） 食事を執る。第Ⅱ類動詞 ipe－an－ka－somokino－an－an. 食事を執ることもなくいます。

ipeki ＜ipe（食事を）ki（する） 食事をとる。第Ⅰ類動詞用法/ipe－an－ki. 私は食事をとる。第Ⅱ類動詞用法/ipeki－an. 同上

ipere ＜ipe（ᡳᡴᡳᡵ）re（使役化語尾） 食べさす。口語用例/ku－koro－ekattara－ku－ipere. 子供たちに食べさす。文語用例/ene－an－ainu－ekathi chikari－humbe－rika－an－ipere－ya. あんな人間の子供に我ら捕りたる鯨の脂肪を食べさせてなるものか。

ipeshikayeush ＜ipe（食べ物の）shikaye（shikai「釘」の所属形）ush（付く） 腹が釘が突き刺さるように痛む。第Ⅱ類動詞 口語用例/ibe－okaketa huyup－an－yakne ipeshikayeush－an. 食事の後走ったら腹が釘が突が刺さるように痛くなった。

ipirikaresuki ＜i（私を）prika（立派な）resu（育て方）ki（する） 私を立派に育ててくれる。ai－sa－pirika-resuki－na. 姉は私を立派に育ててくれました。

ipishike ＜i（それを）pishike（引き抜く） 数える。第Ⅱ類動詞 tan－ekatchi－ainu－itak－ani－shinep－wano－wampe－pakno－ipishike－eashikai. この子はアイヌ語で一から十まで数えることができる。

ipokash ＜i（それ「顔」が）pok（下）ash（立つ） 顔が醜い。第Ⅱ類動詞 tumbu－oro－menoko－i'akari－ipokash－an. 几帖の中の娘は私より醜かった。

iporkawen ＜i（それの）por（表れ）ka（上）wen（悪い） 顔色がすぐれない。第Ⅱ類動詞 nekon－iki－wa－ankotsapo iporokawen－kor－an. どういうわけか姉は顔色がすぐれないのです。

iporkite ＜ipor（顔色）ki（する）te（使役化語尾）顔色を変える。第Ⅰ類動詞 ne－an－be－nea－pon－menoko－nu－wa－iporkite－kor－tumbu－oro－ahun－an. それを聞いてその娘は顔色を変えながら自分の仕切り（若い女性の部屋）へ入りました。

ipuni ＜i（私を）puni（持ち上げる） 私を持ち上げる。nea－kamiash－ipuni－wa－ape－samta－i－ama－wa－an. その魔神は私を持ち上げて火の側に置きました。

iraike ＜i（私を）raike（殺す） 私を殺す e－iraike－yakne－sui－shiknu－an. 汝我を殺すも再度我蘇生す。

iramie ＜i（それの）ram（心を）ie（言う） 誉める。感謝する。第Ⅱ類動詞 anona－neanbe－i－ko－iramie. 父はそのことで私を誉めてくれました。

irammakaka ＜i（そのことについて）ram（心）maka（開く）maka（開く） ①晴れ晴れとした気持ちになるような状態になっている。第Ⅱ類動詞 hat－ikiri－ni－ka－irammakaka－an－na. ぶどうが木に嬉しいほどに実を着けていた。②きちんとしている。nea－chise－oshketa－irammakaka－an. その家の中はきちんと

していた。

irammakakakar ＜irammakaka（大切に）kar（する）大切にする。第Ⅰ類動詞　nea－retar－poi－seta－an－irammakakakar－kor－reshika－an. その白い子犬を大切に育てていました。

irammokka ＜i（そのことに）ram（心を）mo（子である）ka（他動詞化語尾）心を子供にする。⇨遊ぶ。悪戯をする。　第Ⅱ類動詞　ne－kamui－irammokka－an－kushine. その神に悪戯をしてやろう。

irarpa ＜i（それ「湯に浸けて暖かくした手」を）rarpa（"rari"「押しつける」の目的物複数形）湯に浸けて暖かくした手を患部に何度も当てる。第Ⅱ類動詞　an－kor－shiushpe－honi－kata－irarpa－an. 赤子の腹に暖かくした手を何度も当てる。

iramshikari ＜i（漠然としたこと）ram（心）shikari（塞がる）分からない。知らない。第Ⅱ類動詞　nekon－i－ki－a－an－yakka－iramshikari－an. どうしてこうなったのか私には分かりません。

iramshikare ＜iram（心）shikare（塞ぐ）分からなくする。chi－i－iramshikare. 皆が私を分からなくする。⇨私は分からない。

iranke ＜i（私を）ran（降りる）ke（他動詞化語尾）彼（等）が私を降ろす。⇨私は降ろされる。kanto－or－wa－iranke－an－ruwene. 私は天から降ろされた。

irara 語源不詳　悪戯をする。第Ⅱ類動詞　Nep－kusu－neno－e－irara－ruwe？どうしておまえはそんな悪戯をするのだ。

iraraitakki ＜irara（悪戯）itak（言葉）ki（する）からかう。第Ⅱ類動詞　Echiki－ainu－utara－iraraitakki－na. 決して人をからかってはいけません。

irawketupan ＜i（その）rawke（下）ta（に）tup（二つのもの、たくさんのものが）an（ある）下界（人間界）にはたくさんのものがある。：神々が人間界に降臨するのはその魂が天界へ送り返されるとき、神々がどうしても作り出すことのできないもの、つまりtonoto、shito、inawを人間からたくさん戴くためであるとアイヌは考える。そこから派生して①『人間界を守る』、人間が主語となって②『稼ぐ』『儲ける』等の意味を持つようになった。また疱瘡神が③『人間界で疱瘡を流行らせる』という意味でも使われるようになった。①ainu－moshitta－irawketupan－kusu－neno－rap－an. 人間界を守るためにこのように降臨したのです。②ui-mam－an－wa irawketupan－an－ro. ウイマムで儲けよう。③ainu－moshir－irauketupan－na－ari－payekai－kamui－yainu－a－an. 人間界に疱瘡を流行らせてやろうと疱瘡神は考えていた。

iraukonise ＜i（我、我らを）raw（下）ko（から）nise（掬う）我（等）を掬いあげる　nea－kamiashi－chip－turano－poro－teke－ani－iraukonise－an. その魔神は船もろとも大きな手で我（等）を掬いあげたのでした。

irayapka ＜i（私を）rayap（感嘆する）ka（使役化語尾）私を感嘆させる。⇨感心する。ekor－teke－karpe－irayapka. あなたの手芸は私を感心させる。あなたの手芸に私は感心します。

iraye ＜i（それ、獲物）rai（死ぬ）e（他動詞化語尾）狩猟をして獲物を獲る。　第Ⅱ類動詞　kimta－iraye－an. 山で狩猟をして獲物を獲る。

irenkasanke ＜irenka（命令）sanke（下す）命令を下す　第Ⅱ類動詞　a－yubi－irenkasanke－ike－usshiu－utarihi－sake－kara－an. 兄が命令を下すと召使たちは酒を醸し始めた。

iresu ＜i（私を）resu（育てる）私を育てる　iresu－sapo. 養育姉。iresu－yubi. 養育兄。iresu－huchi. 養育祖母。iresu－unarbe. 養育叔母。アイヌ伝承では主人公を育ててるのは両親ではなくして大抵の場合兄か姉である。あるいは一人で暮らしている。これはアイヌの両親が子育てを拒否することではなくして、子が独り立ちができるようになると子を離してしまう熊の生態を示していると思われる。

iri ＜i（それ「皮」を）ri（剥ぐ）皮を剥ぐ。皮剥ぎをする。第Ⅱ類動詞　iri－an－wa－kam－an－se－wa－inawkar－an－wa－ihopunika－an. その皮を剥ぎ、肉を背負いイナウを作ってその魂を返した。

irish ＜i（私を）rish（引き抜く）私を引き抜く。私を捕える。nea－wenkamiash－irish－tek－ikka－an. その化け物は私を捕まえてさらったのでした。

ironne ＜i（それが）ror（擬声語「ガヤガヤ」）ne（自動詞化語尾）鬱蒼としている。陰毛が鬱蒼としている。

ironronke ＜i（それが）ronron（痙攣する）ke（他動詞化語尾）それが痙攣させる。i－kamiashi－ka ironronke i－sampehe ka i－hochikar. 私に化け物（男根）がひくひとく痙攣し、私にまで心臓もとろけて行く。性交直後の感じを歌った歌の一節。（転載：知里真志保著作集　別巻Ⅱ P. 56　平凡社）

irukaishiran ＜irukai（暫時）shir（状態）an（ある）しばらく時がたつ。irukaishiran－ike－moshi－an. しばらくして私は目が覚めた。

irura[1] ＜i（私を）rura（運ぶ）私を送る。iresu－yupi－an－chiseta irura－an. 養育兄は私を家へ送ってくれた。

irura[2] ＜i（それ「獲物」を）rura（運ぶ）獲物を運ぶ。第Ⅱ類動詞　ayubi－kimta－oman－wa－an－chise－ta－irura－an. 兄は狩に出かけて家に獲物を運んで

います。

irushka　＜i（①漠然とした事物②前文を受ける接頭辞）rushika（怒る　①不機嫌である。第Ⅱ類動詞　文語用例/ irushka－an－na. 私は何故か機嫌が悪い。②そのことに怒る。shir－wen－kamui－an－machi－i－kka－wa－too－ahin－wa－isam－na irushka－ash－kane－an－noshpa－an. 化け物が私の妻を奪って、遠くへ行ってしまい、そのことに腹を立てながら追いかけました。

isam　①無くなる。～してしまう。nea－kami－ayubi－e－wa－isam. その肉を兄たちは食べてしまった。②居ない。第Ⅱ類動詞　isam－an－ita nen－ka nep－ka－kore－ek－yakka－neanbe－echiki－e－ya. 私が居ないとき誰かが何かを持ってきても決して食べてはいけません。③死ぬ。亡くなる。an－kor－huchi－isam－ta－orowa－tupa－an. 祖母が亡くなって二年になる。

isampa　＜isam（亡）pa（主格複数語尾）tane－hempak－pa－nep－ka－ep－ka－isampa－na. もう何年も何も食べるものが(たくさん)無いのです。

ise　＜i（私を、私たちを）se（背負う）　私(たち)を背負う。nea－poro－kamiashi－poru－onnai－ise－wa－ahun－an. その大魔神は洞窟の中に私(たち)を背負って入った。

iseremakush　＜i（私の）sere（背中）mak（後ろ）ush（付く）　私の背後にいて私を守護する。chip－kamui, iseremakush－wa－ikore. 船神よ、私の背後にいて私を守護して下さい。

ishikari　＜i（それ「大河」が）shi（大きく）kari（曲がる）　詰まる。塞がる。「石狩川」の語源：石狩川の河口は上流から運ばれた土砂が堆積して河口が塞がれてしまう。第Ⅱ類動詞は名詞をも示し、大河には川を表す語をつけないのが普通である。

ishikkeshitaiki　＜i（私を）shik（眼）kesh（端）ta（そこで）i（それを）ki（する）　私を横目で睨みつける。kanto－kor－kamui－shiso－ta－rok－wa－ishikkeshitaiki. 天の神は右座に座して私を横目で睨みつけるのでした。

ishinnere　＜i（それ「化ける対象」の）shir（状態）ne（成る）re（使役化語尾）　化ける。第Ⅱ類動詞　ainu－an－ishinnere－an. 私は人間に化けました。

ishinotte　＜i（私を）shinot（遊ぶ）te（使役化語尾）①私を遊ばせる。anonu－atui－samta－ishinotte－an. 母は海岸で私を遊ばせた。②何かの魔神が私に遊び心を与えて私にとんでもないことをさせる。nep－wen－kamiashi－ishinotte－an－kusu－neno－iki－an. 何らかの魔神が私に遊び心を与えたので私はこんなとんでもないことをしてしまった。

ishitekka　＜i（本来の）shir（状態に）tek（自動詞化語尾：～になる）a（完了の助動詞）　本来あるべき状態になってしまう。⇨心を静める。落ち着く。文語用例/ an－ki－katu－wen－be－ne－kush－ishitteka－wa－ikore. 私が悪うございますのでどうか御気を鎮めて下さい。

ishitoma　＜i（①漠然とした事物を②前述のことを③私を）shitoma（恐れる）　①恐ろしく思う。恐ろしがる。ne－kon－ikiya－an－machi－ishitoma－kor－oka－an. どういうわけか妻は何かを恐れているのです。②前述のことを恐れる。wen－kamiash－ek－humi－ash－kusu ishitoma－an－kor－oka－an. 恐ろしい魔神がやって来ると言うことなので恐ろしく思いながらいます。③私を恐ろしく思う。nep－kusu－eani－ishitoma－ruwe？あなたは私を恐れるのですか。

ishitomare　＜i（人を）shitoma（恐がる）re（使役化語尾）　恐がらせる。第Ⅱ類動詞　ishitomare－kamiashi. 人を恐がらせる魔神。

ishishkoitaknatara　＜ishish（罵倒）ko（に対し）itak（言う）natara（持続語尾）　大きな声でずっと怒鳴っている。罵倒している。nea－kamiash－ishishikoitaknatara－hawe－ene－anihi. その魔神は次のように大きな声でずっと怒鳴っている。

isoitak　＜iso（猟運を）itak（祈る）　①猟運を祈る。⇨身の上話をする。四方山話をする。②伝承の最後に語られる常套句。第Ⅱ類動詞。①Otasut－un－nishpa－ieramkarap－wa－usa－isoitak－an－na. オタストの長者は私に挨拶をして下さり、色々四方山話をしました。②sekor－shitumbe－tono－mat－yai－isoitak. そのように銀狐の奥方が語りました。

isonkokore　＜i（私に）sonko（言告げ）kore（与える）私に言告げる。Otasutun－kur－isonkokore－an. オタスト人から言告げが私にあった。

isoun　＜iso（猟運が）un（ある）　獲物が豊富である。isoun－kur. 獲物に恵まれている人。

itak　＜i（それを『神の力』）tak（招く）　それを招く。⇨神の力を自分に招き入れる。⇨祈る。⇨語る。話す。第Ⅱ類動詞　名詞：言語　ainu－itakアイヌ語　文語用例/ itak－an－chiki－pirkano－inu. 私が語ることをきちんと聞きなさい。口語用例/ ku－itak－chiki－pirikano－nu. 同上。

itako　＜itak（言葉を）o（入れる）　言葉を入れる。⇨語る。言う。第Ⅱ類動詞　atui－kor－kamui－itako－hawe－ene－anihi. 海の神は次のように語りました。

itakomare　＜itak（言葉を）omare（入れる）言葉を添える。第Ⅱ類動詞　nea－ekatchi－tu－pase－ashike

－re－pase－ashike－puni－kane－itakomare－ene－anihi. その子供は二度手をおもむろに上げ、三度手をおもむろに上げ次のように言葉を添えました。

itakononnoitak　＜itak（言葉）o（生じる）nonno（祈祷）itak（言う）　言葉で祈りを捧げる。第Ⅱ類動詞 neno－itakononnoitak－an. そのように私は言葉で祈りを捧げました。

itakpa　＜itak（言）pa（①主格複数②目的物複数③尊敬）　①itakpa－an. 我々が言う。eshi－itakpa. 汝等が言う。itakpa. 彼等が言う。②ひとつならずたくさん言う。滔々と語る。a－yubi－neno－itakpa－an－wa－mawetuie－wa－isam. 兄はそのように滔々と語って息が切れ、亡くなりました。③おっしゃる。語って下さる。arino－kane－nea－kamui－itakpa－an. そのようにその神様は語って下さいました。

itasa　＜i（それ『言葉』を）tasa（返す）　返答する。第Ⅱ類動詞　tan－huchi－ainu－itak－ani－e－ekota－iye－a－kusu－eani－ainu－itak－ani－en－itasa. このババはアイヌ語であなたに言ったのだからあなたはアイヌ語で返答しなさい。（門野トサの言）

itata　＜i（それ『食べ物』を）tata（刻む）　食べ物を小さく刻む。chep－pone－ko－itata－wa－su－oshike－omare. 魚を骨ごと刻んで鍋の中に入れる。

itauki　＜i（私を）tauki（叩く）　私を叩く。okikurumi－itauki. オキクルミが私を叩く。

itekeani　＜i（私の）teke（手を）ani（携える）　私の手を携える。i－resu－unarube－itekeani－kor－chise－onnai－ko－ahunke－an. 育ての叔母は私の手を携えて家の中へ私を入れました。

itekeuina　＜i（私の）teke（手を）uina（執る）　私の手を執る。chish－kor－an－ike－anunarbe－itekeuina－a. 私が泣いていると叔母は私の手を執ってくれました。

itemni　＜i（私を）temni（動詞：抱き締める　名詞：腕）　私を抱き締める。kamui－ne－an－kur itemni－an. 神様のような方が私を抱き締めるのでした。

itese　＜i（それチタラベ、サラニップ（袋）を）tese（編む）　編み物をする。第Ⅱ類動詞　anokai－menoko－an－ne－kusu－keshto－itese－an. 私は女ですので毎日編み物をします。

itere　＜i（私を）tere（待つ）　私を待つ。hoshibi－an－pakno－itere－yan. 私が戻ってくるまで待って下さい。

itoikoiekar　＜i（私を）toi（土）ko（～に向けて）ie（言葉を）kar（作る）　私をひどく言う。私を罵る。toi（土）には、汚いもの、邪悪なものという深層の意味があり、そこからtoikoがひどく、大変の意になった。文語用例/aisa－neno－itak－kor－itoikoiekar－an. 姉はそう言いながら私を罵ったのです。

itoikokikki　＜i（私を）toi（土）ko（～に向けて）kik（叩く）ki（する）　私をひどく叩く。文語用例/iresu－sapo－apepasui－ani－itoikokikki－a－an. 私の養育姉は火箸で私をひどく叩くのでした。

itoikokishima　＜i（私を）toiko（ひどく）kishima（掴む、抱きかかえる）　私をしっかり抱きかかえる。i－osh－ek－kur－itoikokishima－an. 私の後を付けて来た人が私をしっかり抱きかかえた。

itoikononnoitak　＜itoiko（熱心に）nonnoitak（祈りの言葉を捧げる）　熱心に祈りの言葉を捧げる。第Ⅱ類動詞

itoikorishitek　＜i（私を）toiko（しっかりと）rishitek（掴む）　私をしっかりと掴える。nea－kamiashi－itoikorishitek－a－ine－esonne－hoyup－an. その魔神は私をしっかりと掴えて外へ飛び出したのでした。

itoikoshikiraye　＜i（私に）toiko（ひどく）shiki（目を）raye（遣る）　私をひどく睨む。ne－'okai－isam－ta－ek－ine－itoikoshikiraye－kor－an. その男が私の側にやって来て私をひどく睨むのでした。

itoikoweiiekar　＜i（私を）toiko（ひどく）wen（悪い）ie（言葉を）kar（作る）　私をひどく悪く言う。⇨私に悪口雑言を浴びせる。kanto－kor－kamui－itoikoweiiekar. 天の神は私に悪口雑言を浴びせるのです。

itomnukar　＜i（その人の）tom（体を）nukar（見る）　夫となる。妻となる。　第Ⅱ類動詞　Otasut－e－itomnukar－an. 私はオタストへ嫁（婿）に行きます。

ittotuk　＜ir（一続きの）to（日）tuk（出る）　日々が去る、時が経つ。nea－poi－seta－ittotuk－an－kor－poro－an. その子犬は日増しに大きくなりました。

itura　＜i（私を）tura（伴う）　私と一緒に行く。pishkanta－itura－anroh. いろんなところへ私と行きましょう。

itura－an　＜itura（自）an（中相「我々」）　私は連れられる。neine－ta－itura－an. どこかへ連れられていきました。

ituren　＜i（私に）tu（たくさん）ren（沈む）　私に憑く。ituren－kamui私の憑き神

itusseka　＜i（私を）tu（擬声音）se（発声する）ka（他動詞化語尾）　トウッと発声させる。私を突き飛ばす。

itutanure　＜i（私に）tutanure（向ける、近づける）　ne－kamui－awanki－me－nish－noka－oma－ushike－itutanure. その神は扇の冷たい雲の絵のある方を私に向けたのです。

iuitek　＜i（私を）uitek（遣わす）　私を遣わす。kanto－kor－kamui－ainu－moshitta－iuitek－an. 天の神

様は人間界へ私を遣わした。

iuta　＜i（それ『粟、乳母百合の茎』を）uta（搗く）　粟の籾を取ったり百合の茎を潰す。臼を搗く。第Ⅱ類動詞。文語用例/ menoko－utar－iuta－kor－okai－an. 娘たちは臼を搗いていた。

iwak　＜i（それ『山へ向かって発する声』）ak（射る）山へ向けて発した声が矢のように帰ってくる。行き来する。訪ねる。　第Ⅱ類動詞　mat－ko－iwak. 妻問いをする。

iwakte　＜iwak（ᡳ）te（使役化語尾）　行き来させる。送りに出す。

iwanke　元気である。第Ⅱ類動詞　e－iwanke－ruwn ? お元気ですか？

iwankenoan　＜iwanke（ᡳ）no（副詞化語尾）an（いる　主格単数）　元気でいる。第Ⅱ類動詞　口語用例/ kuani－ka iwankenoan. 私も元気です。

iwankenookai　＜iwankeno（ᡳ）okai（いる　主格複数）　元気でいる。第Ⅱ類動詞　口語用例/ ku－utari－ka－opitta－iwankenookai. 私の家族も皆元気にしています。

iweiiekar　＜i（私を）wen（悪い）i（こと）ie（言う）kar（作る、為す）　私を悪く言う。私の悪口を言う。okikurumi－iweiiekar－kor－enonta－pae－wa－isam. オキクルミは私の悪口を言いながら何処かへ行ってしまった。

iwenpanakte　＜i（私を）wen（ひどい）panakte（罰を与える）私をひどく罰する。⇨私を重罪に処す。kamui－utar－anokai－torannep－ne－kusu－iwenpanakte－an－na. 神々は私が怠け者であったので私を重罪に処したのです。

iyaiikka　＜iyai（悲しみ）ika（溢れる）ka（他動詞化語尾）　悲しませる。shisam－utar－huchi－nakka－ekashi－nakka－iyaiikka－an－na. 日本人がアイヌのお婆さんや、お爺さんを悲しませているのです。

iyaikitte　危険である。危ない。第Ⅱ類動詞

iyairaikere　＜i（悪霊を）yai（自身で）rai（死ぬ）ke（他動詞化語尾）re（使役化語尾）　悪霊を自身で死なしむ。神よ、私の悪霊が自ら命を絶つようにしてください。祈りの後に言う言葉。そこから派生して『有り難う』の意。

iyanke　＜i（それを）yan（陸に上がる）ke（他動詞化語尾）　それ（船荷、鯨）を陸揚げする。第Ⅱ類動詞

iyare ☞ **iare**

iyas　＜i（私を）yas（裂く）　私を裂く。Samaikur－an－chikiri－iyas－a－kusu－an－netopake－tupne－an. サマイクルが私を股裂きにしてしまったので私の体は二つに割れてしまいました。

iye　言う　第Ⅰ類動詞　anona－iekota－ene－iye－an. 父は私にこういうのでした。

iyekar　＜iye（言うこと）kar（作る）　言う。第Ⅱ類動詞　nep－iyekar－an－yakka－e－inu－somoki－na. 私が何を言ってもあなた聞こうとはしない。

iyokuira　＜i（それ「相手の女性」の）y（出子音）o（陰部に）kuira（相手（動物も含む）に気づかれぬように近づく）　夜這いをする。第Ⅱ類動詞

iyoshiaraka ☞ **ioshiaraka**

iyoshiki　＜i（それ「飲酒」の）y（出子音）oshi（後に）ki（する）　飲酒の後の状態にする。⇨酒に酔う。第Ⅱ類動詞　iku－an－wa－iyoshike－wa－mokor－an. 酒を飲み、酔って寝る。

K

kaare　＜ka（糸を使った罠）a（座る）re（使役化語尾）罠をかける。第Ⅱ類動詞　chikoikip－raike－kusu－kaare－an. 獲物を捕るために罠をかける。

kai[1]　折れる　第Ⅱ類動詞　nea－wen－kamiashi－okkewe－kai－tek－nani－shiroshima. その魔神の首の骨が折れるや否や倒れた。

kai[2]　背負う。第Ⅰ類動詞　an－kor－shishipe－an－kai－kor－an－chiseta－hoshibi－an. 赤子を背負いながら家へ帰りました。

kaipa　＜kaye（折る）pa（目的物複数）一本ならず二本以上折る。

kama　＜ka（上）ma（動詞化語尾）　上を越える。⇨飛び越える。跨ぐ。chikap－an－ne－wa－iwan－nupuri－an－kama－rusui－na. 鳥になって六つの山を飛び越えたい。

kampa　＜kamu（被る）pa（目的物複数形）　一つならず二つ以上のものを被る。an－machi－konchi－e－kampa－kor－i－tere－an. 妻は頭巾をたくさん被って私を待っている。

kamare　＜kama（越える）re（使役化語尾）越えさす。合成語の中に現れる。例：shikkamare 目を越えさす。目を凝らして見る。第Ⅱ類動詞　yayunkur－atui－shikkamare－a－an. 陸の人の海を目を凝らして見ました。

kamu　＜ka（『上』を表す助辞）mu（塞ぐ）被る。覆う。第Ⅰ類動詞　anante－hoku－konchi－e－kamu－kane－hotke－patek－an. 夫は頭巾を被ったまま寝てばかりいる。

kamuihumiash　＜kamui（神）humi（hum『音』の所属形）ash（出る）　雷が鳴る。

kamuinere　＜kamui（神）ne（である）re（使役化語尾）

神にする。an－yai－kamuinere－an. みんなが私自身を神にした。私は神となった。

kamuinishikuran ＜kamui（神）nishikur（雲）an（ある） 曇る。ekushukono－kamui－nishikur－an－wa－ruyambe－ash. 突然雲って激しい雨が降った。

kamuinomi ＜kamui（神）nomi（祈る） 神へ祈りを捧げる。第Ⅱ類動詞 inaw－kar－ine－kamuinomi－an. イナウを作って私は神へ祈りを捧げた。

kamuinomipa ＜kamuinoi（ᡮ）pa（①尊敬②主格複数） ①神へ祈りを捧げられる。第Ⅱ類動詞 chacha－kamui－oripak－kane－chepatte－kamui－ko－kamuinimipa－an. 翁神は厳粛に食物神に祈りを捧げられた。②an－utari－opittano－tura－wa－kamuinomipa－an. 我が一族はすべて連れ立って神へ祈りを捧げた。

kamuishiyeye ＜kamui（魔神）shiyeye（病気になる） 疱瘡に罹る。第Ⅱ類動詞。kamuishiyeye－an－yakne－shinenne－kimta－oman－an－wa－ratchitano－rai－an－shir－an－tere－kushi－ne. 疱瘡に罹ってしまったら一人で山に行き静かに死を待つつもりです。

kamure ＜kamu（被る）re（使役化語尾） 被せる。第Ⅰ類動詞 an－matnepo－seta－rush－an－kamure. 娘に犬の皮を被せた。（物語の一説：そしたら娘は犬になった）

kamush ＜kam（肉）ush（付く） 肉が付く。太る。第Ⅱ類動詞 poronno－ibe－yakne－e－kamush－nankoro. たくさん食べたら太るでしょう。

kamushi ＜kam（肉を）ushi（付ける） 肉を付ける。太る。第Ⅱ類動詞 nepnakka－poronno－e－ibe－wa－kamushi. 何でもたくさん食べて太りなさい。

kaopash ＜ka（上、体の表面に魔物が宿ると考える。）o（そこへ）pash（駆ける） 救援する。第Ⅲ類動詞 e－ka－opash－an. 我（等）汝を救援す。eshi－ka－opash－an. 我（等）汝等を救援す。kashi－opash－an. 我（等）彼（等）を救援す。i－ka－e－opash. 汝我（等）を救援す。i－ka－eshi－opashi. 汝等我（等）を救援す。kashi－e－opash. 汝彼（等）を救援す。kashi－eshi－opash. 汝等彼（等）を救援す。i－ka－opash. 彼（等）我（等）を救援す。e－ka－opash. 彼（等）汝を救援す。eshi－ka－opash. 彼（等）汝等を救援す。

kar ①作る。造る。第Ⅰ類動詞 kem－o－p－an－kar－a－kor－an. 針入れを作っていました。chise－kar. 家を造る。chip－kar. 舟を造る。kotan－kara－kamui 村（国）を造った神、サマイクル②採る。hat－kar－kuni－kim－ta－pae－an. 葡萄を採りに山へ行く。karsh－kar 茸を採る。at－kar 木の皮を採る。③養う。iwan－pa－chireshikap－an－kar－an. 六年熊を養っている。④為す。する。ene－an－kar－i（ke）－ka－isam. なす術が無い。⑤回る。moshir－kesh－a－kar－ine－kanto－otta－hoshibi－an. 大地の上端を回って天に帰った。⑥変える。ainu－ne－yai－kar－a－an. 人間の姿に身を変えています。⑦縫う。nokan－pukuro－rupne－pukuro－an－kar－ineno－an. 小さい袋や大きな袋を縫っています。⑧代動詞用法 ayubi－i－e－humke－kar－kor－oka－an. 兄は私にそのことに就いて聞かせていました。⑨切る。karpe（切るもの）鋏。⑩治す。kusuri－ani－shiyeye－kar. 薬で病気を治す。⑪摘む。mun－epui－kar. 草花を摘む。⑫剥ぐ。kambi－kar. 白樺の皮を剥ぐ。⑬ひく。omke－kar. 風邪をひく。⑭当てる。ape－setur－kar. 火に背中を当てる。

kare ＜kar（作る）re（使役化語尾） rr の発音がないので kare となる。①作らせる。ne－an－be－ayubi－i－kare－an. それを兄は私に作らせた。②当てる。na－pewre－kana－an－menoko－pon－totto－rera－kare－kor－an. まだ若い娘が可愛い乳房を風に当てていた。

karanke 近づく。近寄る。第Ⅱ類動詞 kotan－karanke－a－an. 村に近寄った。

kare ＜kar（作る）re（使役） 作らせる。作ってやる。nei－wa－ta－ek－menoko an－hoku－chise－kara－a－an. どこからかやって来た女性に夫は家を作ってやったのでした。

kari 廻る。第Ⅱ類動詞 inaw－san－okari－kari－ash. 祭壇の廻りを私は廻る。

karikari ぶら下がる。第Ⅱ類動詞 i－resu－yupi－rekuchi－wa－karikari－an. 育ての兄の首にぶら下がる。妹が兄に甘えているときに用いる常套句。

karkar ＜kar（作る）kar（作る） 念には念を入れて作る。第Ⅰ類動詞 nea－kamui－korachi－an－kur－ekota－pirika－suke－an－yaiko－karkar－an. その神の如きお方のためにおいしい料理を念には念を入れて作りました。

karkari ＜kar（回る）kar（回る）i（他動詞化語尾） ぐるぐる巻く。第Ⅰ類動詞 shikarkari－kor－an. 自身をぐるぐる巻きながらいました。（蛇がとぐろを巻いている）

karkasse ＜karkar（コロコロ、ゴロゴロ）se（動詞化語尾） コロコロゴロゴロ回る。転げ回る。第Ⅱ類動詞 an－kor－shiushpe－karakasse－kor－shinot－an. 赤ん坊は転げ回って遊んでいる。

karpa ＜kar（ᡮ）pa（①三人称複数形②目的物複数③尊敬） ①an－kotan－un－utar－an－chise－karpa－an. 村人たちが私の家を作ってくれた。②Nep－e－karpa－ruwn？何をたくさん作ったのですか③ainu

－utar－pirika－mosh－karpa－wa－neita－i－ama－na. 人間たちはきれいな草床をお作りになられて私をそこに置いてくれる。(鮭の言葉)

kashima 溢れる。

kashiosoroshi ＜kashi (ka『上』の人称形) osoro (尻) ushi (付ける) 腰掛ける。腰を下ろす。第Ⅱ類動詞 samamni－kata－kashiosoroshi－an. 倒れ木の上に腰を下ろした。

kashiwakkakush ＜kashi (ka『上』の人称形) wakka (水) kush (通る) 汗をかく。第Ⅱ類動詞 arikikino－monraike－an－kusu－kashiwakkakush－an. 一生懸命に働いたので汗をかいている。

kashkar ＜kash (狩猟の際、立てる小屋) kar (立てる) 仮小屋を立てる。第Ⅱ類動詞 neita－kashkar－a－an－wa－rewsh－an. そこに仮小屋を立てて泊まりました。第Ⅰ類動詞用法 neita－kash－an－kar－a－wa－rewsh－an. 同上。

kashnukar ＜kash (ka『上』の人称形) nukar (看る) 病気見舞いに行く。第Ⅱ類動詞 an－kor－achabo－shiyeye－ki－kusu－tewano－kashnukar－an－etokosh. 叔父が病気なのでこれから見舞いに行くところです。

kashoiki ＜kashi (ka『上』の人称形) o (そこで) i (それを) ki (する) 看病する。第Ⅲ類動詞 人の身体の表面には kash－kamui という憑き神が付いているという。この神が病魔に打ち勝つことによって病気が治癒すると考えた。e－kashi－an－oiki. 我(等)汝を看病す。eshi－ka－an－oiki. 我(等)汝等を看病す。kashi－an－oiki. 我(等)彼(等)を看病す。i－ka－e－oiki. 汝我(等)を看病す。i－ka－eshi－oiki. 汝等我(等)を看病す。kashi－e－oiki. 汝彼(等)を看病す。i－kashi－oiki. 彼(等)我(等)を看病す。e－ka－oiki. 彼(等)汝を看病す。eshi－ka－oiki. 彼(等)汝等を看病す。

kasui 助ける。第Ⅰ類動詞 ayubi－utari－monraike－koroka－nep－ka－an－e－kasui－somoki－no－an. 兄たちは仕事をしていたのですが何にも手伝わずにいた。

katukar ＜katu (姿、形、有様) kar (為す、作る、身を変える) 相手の姿、形に身を変える。⇨欺く。 第Ⅱ類動詞 e－kor－sapo－katukar－an－ine－neno－kor－an. おまえの姉を欺いてこのように結婚している。第Ⅰ類動詞用法。e－kor－sapo－katu－an－kara－ine－neno－kor－an. 同上。

kaurototo ＜kau (擬声語メリメリ) rototo (継起態) メリメリ音を立てている。kai－rusuipe－anakne－shuttom－oroke－chi－kaurototo－an. 折れたい木は根本からメリメリ音を立てている。

kaye 折る 第Ⅰ類動詞 kon－kani－pon－chikappo－okkewe－an－kaya－an. 金の小鳥の首の骨を私は折った。

ke 削る 第Ⅰ類動詞 inaw－an－ke－kor－an. 私はイナウを削っています。makiri－ani－ni－ke. 小刀で木を削る。

kekke ＜ke (削る) ke (削る) 砕く。第Ⅰ類動詞 an－kor－riyap－wen－kur－kewe－teke－ani－kekke－an. 私の越冬熊は悪者の骨を手で砕くのでした。

kem 嘗める。第Ⅰ類動詞。itanki－kem－ashikepet (椀を・嘗める・指)人差し指。

kemeiki ＜kem (針) e (それで) i (それを『相互理解』) ki (為す) 針仕事をする。第Ⅱ類動詞 天界では神々は労働から解放され、女神は針仕事に没頭する。keshi－to－an－kor kemeiki－an－kor－oka－an. 毎日私は針仕事をしています。

kemekar ＜kem (針) e (それで) kar (作る) 縫う。第Ⅰ類動詞 usa－sarambe－an－kemekar. いろいろな絹切れを私は縫います。

kemekot ＜kem (飢餓) e (それで) kot (死ぬ) 飢え死にする。第Ⅱ類動詞

kemeshiknu ＜kem (飢饉) e (それから) shiknu (助かる) 飢饉から助かる。第Ⅱ類動詞 e－yubi－utari－kaopitta－kemeshiknu－ruwe. あなたのお兄さんたちも皆飢饉から助かったのです。

kemetuk ＜kem (血) etuk (出る) 血が出る。第Ⅱ類動詞

kemnu ＜kem (血) nu (動詞化語尾) ①出血する。第Ⅱ類動詞 an－ashikepe－wa－kemnu－an. 指から出血した。②哀れむ。憐れむ。kotan－kar－kamui－i－kemnu－an. 国造りの神は私を哀れに思われた。

kemush ＜kem (飢饉) ush (付く) 飢饉になる。飢饉がある。Otasut－un－kotan－kemush－a－wa－nepka－ep－ka－isam. オタストの村は飢饉になり何も食べ物が無い。

kepa ＜ke (削る) pa (①目的物複数②尊敬③主格三人称複数) ①一本ならず二本以上削る。usa－inaw－an－kepa－kor－an. いろんなイナウをたくさん削っています。②削られる。an－kotan－nishpa－inaw－ke－an. 村の主がイナウを削られている。③ne－utar－inaw－kepa－kor－an. あの方々がイナウを削っている。

kepapa ＜ke (削る) pa (目的物複数) pa (尊敬) 一本ならず二本以上削られる。nea－chacha－kamui－inaw－kepapa－kor－an. その翁神はたくさんのイナウを削られていらっしゃる。

keraan ＜kera (味) an (ある) 味がある。⇨美味しい。tan－chep－sonno－keraan. この魚は本当に美味

しい。

kere ＜ke（削る）re（使役化語尾） 削らせる。inaw－anona－i－kere－an. 父はイナウを私に削らせた。

kerekere 擦り擦りする。第Ⅰ類動詞 ne－chikuni－orowa－an－kerekere－pokonno－ran－an. その立ち木から擦り擦りするようにして降りた。

keshisaknoapkash ＜keri（乾）sak（無い）no（連用形化語尾）apkash（歩く） 裸足で歩く。第Ⅱ類動詞 ekattara－chise－soita－okai－ita－ka－keshisaknoapkash－an. 子供たちは外にいるときでも裸足で歩いている。

keshke ＜kesh（端）ke（他動詞化語尾） 中心から端へ追いやる。⇨嫉む。呪う。第Ⅰ類動詞 wen－chakchak－i－keshke. 悪い鴉は人を呪う。

ki ①する。為す。第Ⅰ類動詞 nep－e－ki－kor－ya？あなたは何をしているのですか。oina－ki－wa－en－kore. オイナをして下さい。②代動詞 tuitak－nu－ki－kor－an. トゥイタックを聞いています。

kik 打つ。叩く。第Ⅰ類動詞 isapakikni－ani－chep－pake－an－kik－kor－an. 魚を叩く。棒で魚の頭を叩いている。

kikkakikka ＜kik（叩く）a（継続）kik（叩く）a（継続） 何度も続けて叩く。第Ⅰ類動詞 nea－wen－kamiashi－iko－kikkakikka－ine－iraike－an. その魔神が何度も続けて私を叩き、そのうち私は死んでしまいました。

kikki ＜kik（叩く）kik（叩く） 何度も叩く。第Ⅰ類動詞 i－resu－chacha－ape－pasui－ani－i－toiko－kikki. 私を育ててくれている翁は火箸で強く何度も叩くのでした。

kikpa ＜kik（叩く）pa（目的物複数） たくさん叩く。an－unarbe－nea－seta－kikpa－an. 叔母はその犬を何度も叩くのでした。

kimatek ＜kim（山を）ak（射る）tek（ちょっと～する 軽微態） 生活を支え、信仰の対象である山に矢を射ることは畏れ多いことである。そこから「恐れる、慌てる」の意が派生したと推定される。第Ⅱ類動詞 ainu－opitta－kimatek－kor－okai－an. みんなで恐れ慌てている。

kimatekka ＜kimatek（ㇰ）ka（他動詞化語尾） 恐れさす。驚かす。第Ⅰ類動詞 nea－wen－kamiash－i－kimatekka－kor－an. その魔神は我々を恐れさせていました。

kimoiki ＜kim（山）o（そこで）i（それを）ki（する） 山菜採りをする。（女、子供の仕事） 第Ⅱ類動詞 menoko－utara－kimoiki－kusu－kenash－ekota－aship－ki－na. 女たちは山菜を採りに木原へ出掛けるのですよ。

kimun ＜kim（山）un（にいる） ①山にいる。第Ⅱ類動詞 kimun－kamui. 山にいる神。特に熊のこと。②山へ行く。狩猟に行く。狩猟。kimun－anroh. 狩猟に行こう。

kimunki ＜kimun（山へ）ki（する） 山へ狩猟に行く。第Ⅱ類動詞 kimunki－an－wa－usa－chikoikip－e－auna－an－rura. 山へ狩猟に行っていろいろな獲物を家へ運びます。

kipa ＜ki（する）pa（①目的物複数形）②尊敬③主格三人称） ①たくさんのことをする。第Ⅰ類動詞 tan－kotan－otta－an－kipa－kor－an. この村でたくさんのことをしています。②為さる。される。tewanonep－ekipa－kushine－na. これから何を為さるおつもりですか③katkemat－utari－iramiye－itak－kipa－kor－an. 奥方たちはねぎらいの言葉をかけた。

kipapa ＜ki（する）pa（目的物複数形）pa（尊敬） たくさんのことをなさる。kanto－otta－okkai－kamui－shirika－nuye－patek－ki－wa－kipapa－somoki－na. 天界では男神は刀の鞘に紋様を施してばかりいてたくさんのことはなさらないのです。

kipare ＜ki（する）pa（目的物複数形）re（使役） たくさんのことをさせる。oshike－wen－iresu－unarube－i－kipare－kor－an. 心根の悪い育ての叔母は私にたくさんのことをさせていました。

kiptumu ＜ki（為す）p（こと）tum（力）u（動詞化語尾） 力が出る。第Ⅱ類動詞 ibe－an－yakne－kiptumu－an. 食事をしたら元気になった。

kir 転ずる。向きを変える。第Ⅰ類動詞 ekimun－an－kir. 山へ私は向かう。合成語の中に現れる。shikir＜shi（自身の）kir（向きを変える） 向きを変える。ekimun－shikir－an.（海の方ではなくて）山へ我が身を向ける。

kira 逃げる。第Ⅱ類動詞 an－kor－riyap－kim－ta－kira－an－wa－isam. 越冬熊が山へ逃げてしまった。

kirare ＜kira（逃げる）re（他動詞化語尾） 逃がす。第Ⅰ類動詞 nen－kamui－i－kirare－an－na. いづれの神が私を逃がしてくれた。

kire ＜ki（する）re（使役化語尾） させる。Nep－e－i－kire？あなたは私に何をさせるのか

kiroran ＜kir（骨髄）or（あるところ）an（ある） 髄液がある。⇨おいしい。⇨嬉しい。⇨喜ぶ。 第Ⅱ類動詞 a－yubi－kiro－ran－kor－ahun－an. 兄は喜びながら（家へ）入った。

kirorokai ＜kir（骨髄）or（あるところ）okai（anの主格複数形） 喜ぶ。第Ⅱ類動詞 ai－sa－utari－kirorokai－kor－ahup－an. 姉たちは喜びながら（家へ）入った。

kirousure　＜kir（足を）o（そこで）u（互いに）se（背にする）re（使役化語尾）　両の足を互いに背にせしむ⇨あぐらをかく。（男の正座）　第Ⅱ類動詞　kirousure－an－wa－an. 私はあぐらをかいていました。

kiroran　＜kiror（喜び）an（ある）　嬉しい。形容詞＝第Ⅱ類動詞　Samaikur－kiroroan－kor－chip－sanke－na. サマイクルは喜んで船を降ろしたのです。

kirpa　＜kiru（転ずる）pa（目的物複数）　ひとつならず二つ以上の向きを変える。erepashi－chip－an－kirpa. たくさんの船の向きを変えた。

kishima　捕まえる。押さえる。抱きすくめる。第Ⅰ類動詞　nenka－e－kishima－nankoro. 誰かがあなたを捕まえるでしょう。etu－kishima－koro－neita－kush－an. 鼻を押さえながらそこを通りました。kamui－ne－an－kur－i－sam－ta－arki－wa－i－kishima－an. 神様のような方が私の側にやって来て私を抱きすくめるのでした。

kishimare　＜kishima（捕まえる）re（使役化語尾）　捕まえさす。an－hoku－rai－kunak－ie－kor－shi－kishimare－nankoro. 我が夫は死ぬぞい言いながら自分を捕まえさせるでしょう。

koahun　＜ko（～へ）ahun（入る）～へ入る。第Ⅰ類動詞 an－poro－poru－onnai－koahun－an. 私は大きな洞穴の中に入りました。

koahunke　＜ko（～に）ahunke（入れる）　～に入れる。nea－katkemat－i－teke－ani－wa－chise－onnai－koahunke－an. その奥方は私の手を執って家へ入れました。

koapkashi　＜ko（共に）apkashi（歩く、出かける）　～と共に出かける。tanewano－eona－ush－ta－an－koapkashi－na. これから一緒にあなたのお父さんのところへ出かけましょう。

koban（邦語）　拒む。第Ⅰ類動詞　An－kotan－kor－kur－anakne－shisam－tono－itakpe－kopan－an. 我が村の主は和人の侍の言うことを拒んだ。

koetaye　＜ko（～に対して）etaye（引く）　引いている。ne－onne－chise－hanke－punkar－tuima－punkar－koetaye－an. その古びた家を近くの葡萄の蔓と遠くの葡萄の蔓とが引いていました。

koeusai　＜ko（～に対して）e（そこで）sai（巻くつく）　～に巻きつく。からまる。第Ⅰ類動詞　shiko－an－chise－hankeno－ek－punkar－tuimano－ek－punkar－koeusai－na. 私の生まれた家に遠くからやって来たぶどう蔓と近くからやって来たぶどう蔓が巻きついていた。

kohumterekere　＜ko（～に対して）hum（音を）tereke（飛ぶ）re（他動詞化語尾）　音を飛ばす。⇨音を立てながら進む。nea－wen－kamiash－poknashir－kohumterekere－an. その魔神は地獄へ音を立てながら落ちていった。

kohoshibi　＜ko（～へ）hoshibi（帰る）　～へ帰る。第Ⅰ類動詞　i－resu－chashi－an－kohoshibi. 私を育ててくれたお城へ帰ります。

koiki　＜ko（～に対して）i（それを）ki（する）　①打つ。叩く。捕る。殺す。第Ⅱ類動詞　chep－koiki－kor－an. 魚を捕っていた。②苛める。a－yubi－utari－ne－yakka, a－acha－utari－neyakka－opitta－i－koiki－an. 兄たちも叔父たちも皆私を苛めるのです。

koikipa　＜koiki（ᡴᡳ）pa（①主格三人称複数形②目的物複数形③尊敬）　①ainu－utar－chep－koikipa－kor－an. 人々は魚を捕っていました。②chep－an－koikipa－an. 魚をたくさん捕ります。③kimun－kamui－chep－koikipa－kor－an. 熊神が魚を捕っておられる。

koikipapa　＜koiki（ᡴᡳ）pa（目的物複数形）pa（尊敬）　たくさんお捕りになられる。kimun－kamui－chep－koikipapa－kor－an. 熊神は魚をたくさんお捕りになられます。

koinkar　＜ko（～を）inkar（見る）　～を見る。第Ⅰ類動詞　kamui－menoko－i－koinkar－a－an. 神様のお嬢様が私を見守って下さいます。

koipuni　＜ko（～に対して）i（食事などを）puni（捧げる）　①食事を捧げる。第Ⅰ類動詞　nea－chacha－kamui－an－koipuni－a－an. その翁神に私は食事を捧げました。②お礼を述べる。第Ⅰ類動詞　shiri－kor－kamui－an－koipuni－a－an. 大地の神に私はお礼を申し上げました。

koipumpa　＜ko（～に対して）i（食事などを）pumpa（puniの目的物複数形）　食事をたくさん捧げる。第Ⅰ類動詞

koirushka　＜ko（～に対して）i（そのことに、人に）rushka（立腹する）　怒る。腹を立てる。第Ⅰ類動詞　hoshikino－ek－okkaipo－koirushka－an. 先にやって来た若者に私は腹が立った。

koiyanke　＜koi（波が）yanke（打ち上げる）　波が打ち上げる。nea－to－sam－ta－tanepo－raipe－hushiko－raipe－koiyanke－shir－an. その湖の側に新しい死体、古い死体を波が打ち上げていた。

koiwak　＜ko（に対して）iwak（訪ねる）　～を訪ねる。第Ⅰ類動詞　tokor－kamui－mat－koiwak－kush－shipusu－kina. 湖の男神が妻訪いをするために浮かび上がるのです。

kokamaahunke　＜ko（～から）kama（跨ぐ、飛び越える）ahunke（入れる）　窓から入れる。第Ⅰ類動詞

aisa－chikoikip－kokamaahunke. 姉は獲物を窓から入れるのです。

kokamaahupte ＜kokama（▯）ahupte（ahunkeの目的物複数形） 窓からたくさんのものを入れる。第Ⅰ類動詞 aisa－ne－okai－usa－an－pe－kokamaashup－wa－usa－ki－kor－an. 姉はそこにあったいろんなものを窓から入れなどしていました。

kokaranke ＜ko（～に）karanke（近寄る） ～に近寄る。第Ⅰ類動詞 echiki－ne－chise－kokaranke. 決してその家に近寄ってはいけません。

kokantama 騙す。欺く。第Ⅰ類動詞 wen－shisam－en－kokantama. 悪い日本人が私を騙すのです。

kokari ＜ko（に対して）kari（巻く） ～を包む。pirika－inaw－ani－a－i－kokari－an. きれいなイナウで私を包んでくれた。

kokira ＜ko（①～に②～から）kira（逃げる） ①～に逃げる。第Ⅰ類動詞 hokure－kane－yayunkur－moshir－an－kokira－kuni－an－ram－an. 急いで陸の国へ逃げようと思う。②から逃げる。nea－kamiash－teke－etoko－an－kokira－kuni－an. その魔人の手の先から私は逃げようとした。

kokkaea ＜kokka（膝頭）e（そこで）a（座る） 片膝を付いて座る。（女性の正座） 第Ⅱ類動詞 menoko－an－ne－kusu－kokkaea－an. 女ですので片膝を付いて座ります。

kokkokse ＜kokkok（コックコック『擬声語』）se（発声する） 吃る。第Ⅰ類動詞 tan－kur－kokkokse－kusu－pirikano－an－nu－e－aikap. あの人は吃って言うのでよく聞き取れない。

kokomo ＜ko（～に対して）komo（折り曲げる） ～に折り曲げる。第Ⅰ類動詞 ai－saha－chikiri－ukokomo－wa－hotke－an. 姉は（体を）両足に折り曲げて寝ていた。アイヌは膝を抱えて寝る。

kokuikui ＜ko（ごと）kuikui（噛む） ごと噛み噛みする。～のごと噛み砕く。第Ⅰ類動詞 nitune－kamui－an－yupi－pone－kokuikui－e－wa－okere. その魔神は兄を骨ごと噛み砕き食べてしまった。

konoshpa ＜ko（～に対して）noshpa（追いかける） ～を追いかける。kamui－ne－an－kur－an－unarube－konoshpa－an. 神様のようなご立派な方が私の叔母を追いかけたのでした。

koohyo ＜ko（互いに）hoiyo（淫乱をする） 許されぬ性行為をする。第Ⅰ類動詞 nen－kohyo－wa－e－honi－neno－poro－an－ruwe？ 誰と性行為をしてこのようにおなかが大きくなったのだ。

koonkami ＜ko（～に対して）onkami（拝む） ～に挨拶する。第Ⅰ類動詞 chacha－kamui－ka－ikoonkami－an. 翁神も私に挨拶をして下さいました。

koosura ＜ko（～の方へ）osura（捨てる） ～の方へ捨てる。nea－kamui－ne－an－kur－an－kor－unarbe－rekuchi－pokna－moshir－koosura－a－an. その神様のようなご立派な方が叔母の首を地獄へ捨ててしまったのでした。

kootereke ＜ko（～の方へ）o（そこから）tereke（跳ぶ）ke（他動詞化語尾） 跳ばす。踏み落とす。第Ⅰ類動詞 chikap－sak－kotan－an－e－koterekere－kushi－ne. 鳥無き郷へ私はあなたを踏み落とすつもりだ。

kopan 拒む（日本語借用）。反対する。第Ⅰ類動詞 ayubi－an－kip－kopan. 兄は私のすることに反対する。

kopashirota ＜ko（～に：Ⅱ類をⅠ類に変える）pa（口）shir（強勢辞「大きく」）ota（開ける） に対して罵る。第Ⅰ類動詞。aisa－i－kopashirota. 姉は私を罵る。

kopashirotapa ＜kopashirota（▯）pa（目的物複数語尾） 激しく罵る。第Ⅰ類動詞 shine－chep－a－e－hi－ikooshikoro－kusu－i－kopashirotapa－ya. 魚を一匹食べたことを惜しんで私を激しく罵るのか。

kopishnu ＜ko（～に）pish（色々）nu（聞く） 色々聞く。尋ねる。質問する。第Ⅰ類動詞 huchi－an－kopishnu－rusui－na. おばあさんに色々聞きたい。

kopoike ＜ko（～に）poike（混じる）～に混じる。 第Ⅰ類動詞 mun－an－kopoike－kor－nuinak－a－an. 草に混じって隠れていました。

kopoye ＜ko（～に）poye（混ぜる） ～に混ぜる。 第Ⅰ類動詞 an－po－utari－mun－an－kopoye－wa－an－nuina－a－an. 子供たちを草に混ぜて隠していました。

kor ①持つ。 第Ⅰ類動詞 文語用例/ yup－a（n）－kor. 兄を私は持っている。⇨私には兄がいる。a（n）－kor－yup 私の持兄⇨私の兄。口語用例/ yup－ku－kor. 私には兄がいる。ku－yupi 私の兄②領有する。治める。 kotan－kor－kamui 村を領有する神梟神 kotan－kor－kur（nishipa）村を治める人。村長。

koraike ＜ko（に対し）raike（殺す） を殺す。 第Ⅰ類動詞 an－aki－kamui－hoku－an－kor－ike－ikoraike－a－an. 弟は私が神である方と結婚するとその方を殺してしまうのです。

kore ＜kor（持つ）re（使役化語尾） rrの発音がないのでkoreとなる。持たしむ。⇨①与える。文語用例/ ne－an－be－e－i－kore. それをあなたは私にくれる。口語用例/ ne－an－be－e－en－kore. 同上②結婚させる。an－kor－ponpe－repun－kamui－an－kore－kush－ne. 私の子供をシャチ神に嫁がせようと思う。

koreek　＜kor（持つ）e（それで以て）ek（来る）　持って来る。　第Ⅰ類動詞　aisa－nep－an－be－ka－koreek－an. 姉は何かを持って来た。

korepa　＜kore（与える）pa（目的物複数）　たくさん与える。　chep－a－e－korepa－kush－ne. 魚を一匹ならずたくさん上げましょう。

korepapa　＜korepa（〃）pa（尊敬）　たくさん与えて下さる。　chep－atte－kamui－chep－i－korepapa. 魚を増やす神様が魚をたくさん与えて下さる。

korikin　＜ko（～に対して）rikin（昇る）　～に昇る。第Ⅰ類動詞　an－kor－chashi－an－korikin－an. 私は自分の柵を上った。nea－ekatchi－nishkotoro－korikin－an. その子は雲の平の方へ昇っていった。

korpa　＜kor（持つ）pa（①目的物複数②尊敬③Ⅲ人称複数形）　①ひとつならず二つ以上（たくさん）のものを持つ。ikor－a（n）－korpa. ひとつならずたくさんの宝を私は持っている。②pirika－ike－e－korpa. あなたは良いものをお持ちですね。③an－kon－rusuipe－kamui－utari－korpa. 私の欲しいものを神々は持っている。

korpare　＜kor（持つ）pa（Ⅲ人称複数）re（使役化語尾）　あの方々が与える。　i－korpare－yan. 複数の神々が私に与えて下さるように。～して下さい。

korran　＜kor（持つ）ran（下る）　持って下る。第Ⅰ類動詞　an－kossapo－poro－korran. 姉は緒お鍋を持って下る。

korsan　＜kor（持つ）san（下る）　持って下る。何かを持って我が家へ帰る。第Ⅰ類動詞　chikoikip－raike－ine－an－korsan－an. 獲物を捕って我が家へ帰った。

korwaek　＜kor（持っ）wa（て）ek（来る）　持って来る。第Ⅱ類動詞　an－kor－achapo－sat－kam－korwaek－an. 叔父は干肉を持ってきた。

koshan　叱る　語源不詳　第Ⅰ類動詞　バチェラー辞典の"kosakaikara"の項に「叱する、面責する」とある。口語用例：an－ona－en－koshan. 父は私を叱る。

koshietaye　＜ko（～へ）shi（自身を）etaye（引く）　帰る。引き揚げる。第Ⅰ類動詞　kanto－an－koshietaye－kushi－ne－na. 私は天へ戻るつもりです。

koshikkeruru　＜ko（に対し）shik（眼）e（それで）ruru（打つ）　～に対して横目で睨みつける。第Ⅰ類動詞　aiha－i－koshikkaruru－ine－nepka－i－ere－ka－somoki. 姉は私を睨みつけて何にも食べさせてくれません。

koshinewe　＜ko（共に）shinewe（遊ぶ）　共に遊ぶ。第Ⅰ類動詞　kanto－kor－kamui－an－koshinewe－kushine－kusu－ksnto－otta－rikip－an. 天の神様と遊ぼうと思って天へ昇った。

koshiramante　＜ko（～に対して）shi（自身の）ram（心、思い）an（ある）te（使役化語尾）　思いを巡らす。よく確かめる。よく調べる。第Ⅰ類動詞　an－kor－kotan－epitta－an－koshiramante－koroka－an－hoku－neita－an－yakka－ane－eramshikare－na. 村中をよく調べたのですが夫が何処にいるのか分からないのです。

koshirepa　＜ko（～に）shirepa（到着する）　～に到着する。第Ⅰ類動詞　an－kor－kotan－an－koshirepa－an. 我が村へ着いた。

kosunke　＜ko（～に対して）sunke（嘘をつく）　～に嘘をつく。第Ⅰ類動詞　nep－kusu－e－i－neno－sunke－ruwe？何故あなたは私にそんな嘘をついたのですか

kosupuyaatte　＜ko（～に対して）supuya（煙）an（ある）te（使役化語尾）　煙をあらしむかむ。⇨人が存続する。第Ⅰ類動詞　tan－kotan－an－kosupuyaatte－kushi－ne. この村に煙をあらしむつもりです。この村を人が住むところとして存続させるつもりです。

kot　①付く。付いている。第Ⅰ類動詞　an－kore－a－chep－kata－ota－kot－an. 私があげた魚の上に砂が付いていた。②巻いてある。巻かれている。an－kon－riyap－rekuchi－e－kari－tush－kot－an. 私の越冬熊の首の回りに縄が巻かれていました。③korの転音　an－kot－turesh＝an－kor－turesh. 私の妹。④没す。死す。合成語の中に表れる。wakka－e－kot. 水・それで・死す　喉の渇きで死す。

kotachi　＜kot（付ける）achi（塗り混ぜる）　塗りつける。まみれにする。第Ⅰ類動詞　nea－sattek－seta－kashikene－ota－kotachi－chep－an－osura－an. その痩せた犬の頭上に砂を塗りつけた魚を投げつけた。（ペナンペの悪行）retar－chironnup－chiporo－yaikotachi－ine－numa－hure－an－yakaie. 白いきつねがイクラを自分で塗りつけたので毛が赤くなったということである。chi－noipe－kotachi－i（我ら熊の脳みそを塗り混ぜるもの）、noipur（熊の脳みそ）、nota－kam（熊の頬の肉）、pukusa（行者ニンニク）を混ぜ、shippo（塩）で味つけをした熊送りの饗宴の際の最高の料理。ne－chacha－eshina－etoro－yaikotachi－koe－an. その翁神はくしゃみの鼻水を自分で体に付けていた。

kotankar　＜kotan（村、国）kar（造る）　国を造る。第Ⅱ類動詞　kotan－kar－kor－an－an. 私は国を造っていた。第Ⅰ類動詞用法：kotan－an－kar－kor－an. 同上

kotankor　＜kotan（村、国）kor（治める）　村（国）を治める。第Ⅱ類動詞　kotankor－kor－an－an. 私は

村を治めていた。第Ⅰ類動詞用法：kotan－an－kor－an. 同上。

kotarara ＜ko（に対して）tartar（差し出す） ～に差し出す。第Ⅰ類動詞 nea－okkaipo－nep－an－be－ka－i－kotarara－an. その若者は何かを私に差し出した。

kote ＜kot（付く）te（他動詞化語尾） 付ける。第Ⅰ類動詞 an－kon－riyap－rekuchi－e－tush－kote. 私の越冬熊の首に縄を付けよ。

kotesu ＜kote（付ける）su（強勢辞？） くっつける。ひっつける。第Ⅰ類動詞 文語用例/kon－kani－amushpe－atui－sam－tas－an－kotesu. 金の蟹を海底にひっつけた。

kotomka ＜kotom（相応しい）ka（動詞化語尾） 相応しくさせる。第Ⅰ類動詞 chi－kor－ponpe－kanna－kamui－chikotomka－rusui. 私の子供を雷神に相応しくさせたい。わが子を雷神に嫁がせたい。

kotpa ＜kote（付ける）pa（目的物複数形） 一本ならず二本以上付ける。tush-kotpa. 何本ものの縄を付ける。

kotuk ＜ko（～に）tuk（出る、生じる） ①～にくっつく。第Ⅰ類動詞 nep－an－be－an－nimakihi－kotuk－an. 何かが歯にくっつきました。②ピッタリする。kanto－otta－yai－kotuk－menoko－shinep－ka－isam. 天には私にピッタリする女性は一人としていない。

kotukka ＜kotuk（㊟）ka（他動詞化語尾） くっつける。nea－kamui－chiporo－an－netopake－kotukka－an. その神はイクラを私の体にくっつけた。

kotushtek ＜ko（～に対して）tushitek（黙る、構わぬ） 黙る。構わぬ。tan－shiushpe－yaikata－rai－a－kush－an－kotushtek－yakka－pirika－na. この赤子はひとりでに死ぬから構わなくてもよい。

kouina ＜ko（～から）uina（uk『取り上げる、奪う』の目的物複数形）たくさん奪う。第Ⅰ類動詞 oshike－wen－ireshu－unarube－an－kor－ikor－i－kouina－an. 心根の悪い養育叔母は私の宝物をたくさん私から奪ったのです。

kouk ＜ko（～から）uk（取り上げる） ①取り上げる。奪う。第Ⅰ類動詞 nea－kur－an－kor－ikoro－ka－an－machipakno－i－kouk－an. その者は私の宝物ばかりか妻までも私から奪った。②取り返す。an－kor－machi－ikka－an－wen－kur－kouk－kushine－kusu－kimta－oman－an. 妻を奪った悪者から取り返すべく山へ行った。

koweishikkor ＜ko（～に）wen（悪い）shik（目）kor（持つ） ～を睨みつける。第Ⅰ類動詞 ai－sa－i－koweishikkor－a－an. 姉は私を睨みつけるのでした。

koyaikoniwen ＜ko（～に対して）yai（自身）ko（共に）niwen（唸り声を上げる） 怒鳴りつける。kakka-koku－sapo－nea－ekattara－koyaikoniwen－an. カッコーのお姉さんはその子供達を怒鳴りつけたのでした。

ku ①飲む。第Ⅰ類動詞 文語用例/wakka－a－ku－rusui. 私は水を飲みたい。口語用例/wakka－ku－ku－rusui. 同上。②吸う。tanbako－ku. タバコを吸う。

kuchakar ＜kucha（狩り小屋）kar（造る） 狩り小屋を造る。第Ⅱ類動詞 neita－kuchakar－wa－rewshi－a－an. そこに狩り小屋を造って泊まりました。第Ⅰ類動詞用法：neita－kucha－an－kar－wa－rewshi－a－an. 同上

kuchir ＜kui（尿）chir（滴り落ちる） 小便が滴り落ちる。usa－chikoikip－utar－e－ekota－ariki－ine－ekaine－kuchiri－nannkoro. いろいろな動物がやって来てお前の上に小便が滴り落ちるであろう。

kui 噛む。第Ⅰ類動詞 nishite－kam－an－kui. 固い肉を私は噛む。

kuikui ＜kui（噛む）kam（噛む） 何度も噛む。a－i－kore－a－nishite－kam－an－kuikui－kor－an. 戴いた固い肉を何度も噛みながらいました。

kuipa ＜kui（噛む）pa（目的物複数） たくさん噛む。第Ⅰ類動詞。nea－nishite－kami－an－kuipa－an. その固いたくさんの肉を噛んだ。

kuira 忍び寄る。第Ⅱ類動詞 aisa－ashin－okaketa oshi kuira－an. 姉が出かけた後その後をつけた。

kukar ＜ku（弓を）kar（作る） 弓を作る。第Ⅱ類動詞。kukar－an－wa－chichirak－ichotcha－ine－shinot－kor－a－an. 私は弓を作ってどじょうを射て遊んでいました。第Ⅰ類動詞用法：ku－an－kar－wa－chichirak－ichotcha－ine－shinot－kor－a－an. 同上

kumakar ＜kuma（竿）kar（為す） 掛け竿に掛ける。第Ⅱ類動詞 chep－kumakar－an. 魚を掛け竿に掛ける。an－arke－otobi－e－kumakar－an. 片方の髪を掛け竿に掛けた。

kupa ＜ku（飲む）pa（①目的物複数②尊敬③主格三人称複数形） ①たくさん飲む。文語用例/rekuchi－satek－kusu－wakka－an－kupa－an. 喉が渇いていたので水をたくさん飲みました。口語用例無し②飲まれる。nea－kumui－kushi－korachi－okaipo－an－sanke－wakka－kupa－an. その神のような若者は私が差し出した水を飲まれました。③ne－utara－wakka－kupa－an. その者たちは水を飲んだ。

kupare　＜ku（飲む）pa（主格三人称複数形）re（使役化語尾）　あの方々が（たくさん）飲ませる。主格が複数形であるから目的物も複数になる。文語用例/ ne－utari－kusuri－i－kupare－an.　その方々は薬を私に（たくさん）飲ませた。

kuparepa　＜ku（飲む）pa（主格三人称複数形）re（使役化語尾）pa（尊敬）　あの方々は（たくさん）飲ませてくださる。文語用例/ ne－kamui－utari－tonoto－i－kuparepa－an.　その神々はお酒を（たくさん）私に飲ませて下さいました。

kure　＜ku（飲む）re（使役化語尾）　飲ます。文語用例/ wakka－i－kure－yan.　水を私に飲ませて下さい。口語用例/ wakka－en－kure.　同上

kurepa　＜ku（飲む）re（使役化語尾）pa（①目的物複数②尊敬）　①たくさん飲ませる。文語用例/ wakka－i－kurepa－yan.　水を私にたくさん飲ませて下さい。②飲ませて下さる。nea－chacha－kamui－tonoto－i－kurepa－an.　その翁神はお酒を私に飲ませて下さいました。

kusa　語源不詳　第Ⅰ類動詞　①物を渡す。hoshibi－an－etokosh－ta－nea－chise－kor－kur－nepanbeka－i－kusa－an.　帰ろうとしたときにその家の主は何かを私に渡したのでした。②運ぶ。（船で）運搬する。ui-mam－an－kusu－chihoki－an－kusa－an.　交易があるので品物を船で運びます。

kusapa　＜kusa（ᡴᡠᡧᠠ）pa（目的物複数）　①たくさん渡す。②たくさんの品物を船で運ぶ。

kurepapa　＜ku（飲む）re（使役化語尾）pa（目的物複数）pa（尊敬）　たくさん飲ませて下さる（主格単数）。nea－chacha－kamui－i－ikurepapa－an.　その翁神は私にたくさんお酒を飲ませて下さいました。

kush　通る。第Ⅱ類動詞　文語用例/susu－tai－choro-pok－kush－an.　柳の木の林の下を通る。

kushi　凌ぐ　kamui－kushi－korachi・an－okkai－po.

kushte　＜kush（通る）te（使役化語尾）　通す。第Ⅰ類動詞　tan－susu－tai－i－kushte－wa－ikore.　この篠の林を私に通らせて下さい。

kuta[1]　零す。第Ⅰ類動詞　nea－menoko－irushika－kor－isam－ta－wakka－kuta－an.　その女は怒って私のそばに水をこぼすのでした。

kuta[2]　飛び出る。第Ⅱ類動詞　ne－utar－soyo－kuta－wa－ho－sanke－an.　そのものたちは外へ飛び出て陰部を出すのでした。

kutapa　＜kuta[1]（零す）pa（目的物複数）　たくさん零す。wakka－kutapa.　水をたくさん零す。

kutkor　＜kut（帯）koy（持つ）　帯を締める。第Ⅱ類動詞　ushii－pitapa－wa－o－raun－kutkor－an.　履物を脱ぎ、（ずり上がった帯を）下の方に帯を締め直す。（家に入るときの動作）

（続く）

旭川市旭町1遺跡発掘調査報告Ⅱ

瀬川拓郎[1)]・友田哲弘[1)]

1）旭川市教育委員会

1　はじめに

本論は、『旭川市博物館研究報告』第1号（旭川市教委1995b）に掲載された「旭川市旭町1遺跡発掘調査報告Ⅰ」の続編であり、本調査に係る最終報告である。

本調査は、擦文時代の集落址である旭川市旭町1遺跡（北海道教育委員会登録番号F－01－73、旭川市旭町1条9丁目2634－1、2635－2、6）における宅地造成工事に伴い、埋蔵文化財の記録保存のため、旭川市教育委員会が平成5年度から7年度にかけて行ったものである。前回報告は、5年度及び6年度に実施した竪穴住居址5基（DP 02,03,05,06,07）の調査結果についてであり、今回の報告は、7年度に実施した残る竪穴3基（DP 01,04,08）とピット1基（P－01）の調査結果に係るものである。

現地調査は、平成7（1995）年6月5日から6月26日の日程で実施した。竪穴DP 01とDP 04ならびにピットP－01は、平成6年度までにトレンチによってその存在を確認していたが、前年度までに遺構確認を終えていなかったG～Iラインで試掘を行ってさらにDP 08竪穴を1基追加したため、調査はこの竪穴3基およびピット1基について行った。

なお、調査に至る経緯および遺跡の環境については、前回報告を参照いただきたい。

本論の執筆については、2－2）「DP 01竪穴」のカマドを友田が、それ以外の執筆と編集については瀬川が行った。

2　遺構と出土遺物

1）遺構の分布

3年間の調査の結果、調査対象範囲1,040㎡内に、竪穴住居址8基（DP 01～08）とピット1基（P－01）を検出した。竪穴は方形で、一辺は最小のもので3.2m、最大で6.6mを測る（表1）。このう

表1　竪穴住居址の規模等（P－01を除く）

竪穴名	一辺の長さ（m）	主柱穴の有無	備　　考	調査年度
DP 01	3.60～3.95	－		7
DP 02	4.30～4.70	○	一部調査範囲外のため完掘せず	5
DP 03	3.80～3.95	－	1953年関正既掘を再調査	6
DP 04	4.10～4.40	－	1953年関正既掘（？）を再調査	7
DP 05	3.20	－		5
DP 06	3.90～4.10	－		6
DP 07	4.55	－	一部調査範囲外のため完掘せず	6
DP 08	6.60	○	攪乱により遺存は全体の1/2	7

ちDP03と04は、調査の結果、前回報告に述べた昭和28年(1953)の北海道学芸大学講師関正による既発掘の竪穴と推定される。

竪穴は、発掘区の南東界に平行してあった旧河道に直交する形で、段丘奥に向かう2列をなして分布している。ひとつは、DP02→01→03→08であり、もうひとつは、DP05→04→06→07である。旧河道の崖の肩と推定される急斜面の上がりが、Bラインの4から8杭にかけて確認されており、これが遺跡形成時の地形であるとは断定できないが、いずれにしろ竪穴は、本来河川にかなり近接して設けられていたことが理解される。

竪穴のカマドは、DP01と04が南南東から南東にあるほかは、北東から東北東にある、あるいはあると推定され、前2例はその点で他と異なる。

2）DP01竪穴

B－2区からC－2区にかけて位置する。カマドを通る長軸は南南東を向く。竪穴の規模は1辺3.60から3.95mである。

比較的締まった砂質土を床としており、床面は比較的平坦である。貼り床及び堅く締まった床面の状況は、後述する炉F1付近以外では認められない。周溝は確認できなかった。壁は上半が暗褐色土粒を含む黄褐色粘質土であるが、下半は床面に連なる締まった砂質土である。大きな崩落は認められない。炉F1は、床面中央よりカマドの反対側の壁に近く位置する。その場で被熱した焼土は部分的に残るのみであり、その上及び周辺に炭化物・焼土粒・微細な骨片を含む暗灰色土がきわめて堅く締まって堆積していた。図示したのはこ

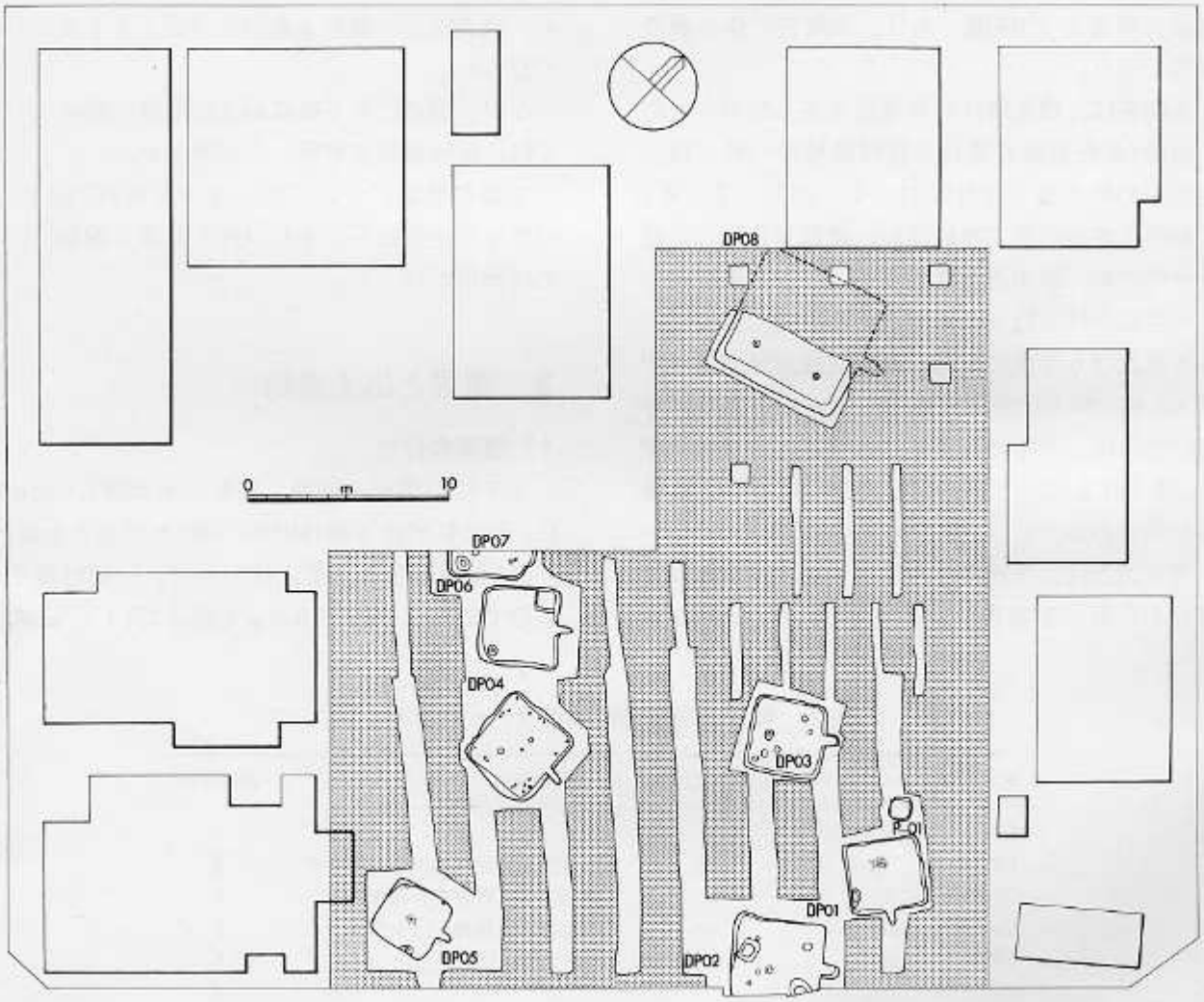


図1　遺構の確認状況

発掘区のうち白抜きで掘開したトレンチを示す。縮尺は1/400。

の暗灰色土の範囲である。この暗灰色土は、床面からきれいに剥がれるものであり、二次的に堆積したと判断できた。したがって、炉Ｆ１は炉床ごとさらえられ、暗灰色土はその僅かなくぼみのうえを中心にまかれて、しばらく踏みしめられる状況にあったものと推察できる。床面の掘り込みは、炉Ｆ１の暗灰色土下にＰ２があって、深さは26cm、覆土は暗灰色土である。炉の埋土が詰まっていることから、少なくとも埋土が行われた時点では柱が立てられていなかったことが明らかである。これ以外に柱穴と関わるようなピットは確認できなかった。Ｐ１は竪穴南隅に位置し、壁に接して掘

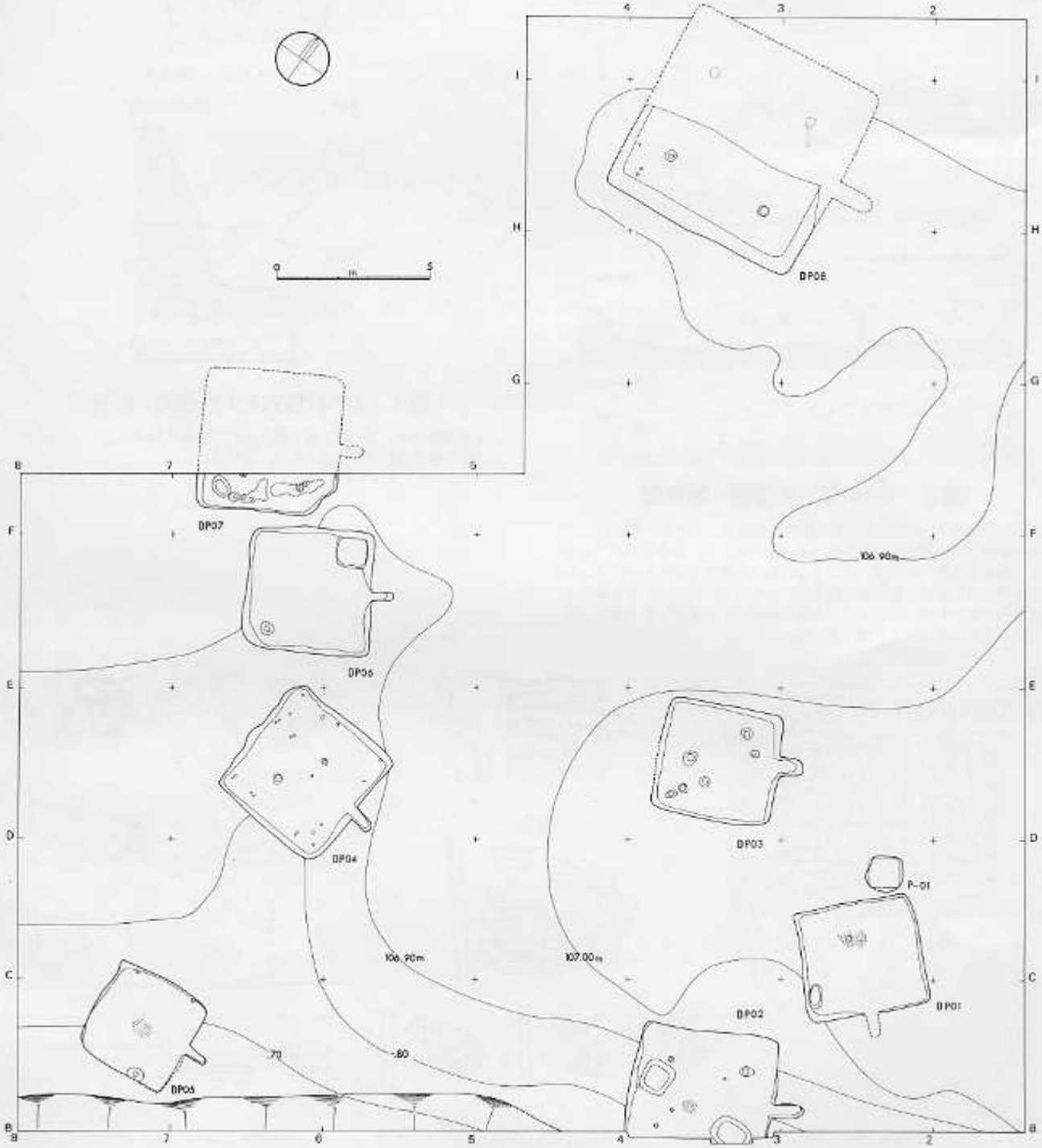


図２　遺構の分布と微地形

現地表のコンターラインは10cm間隔。縮尺は1/200。

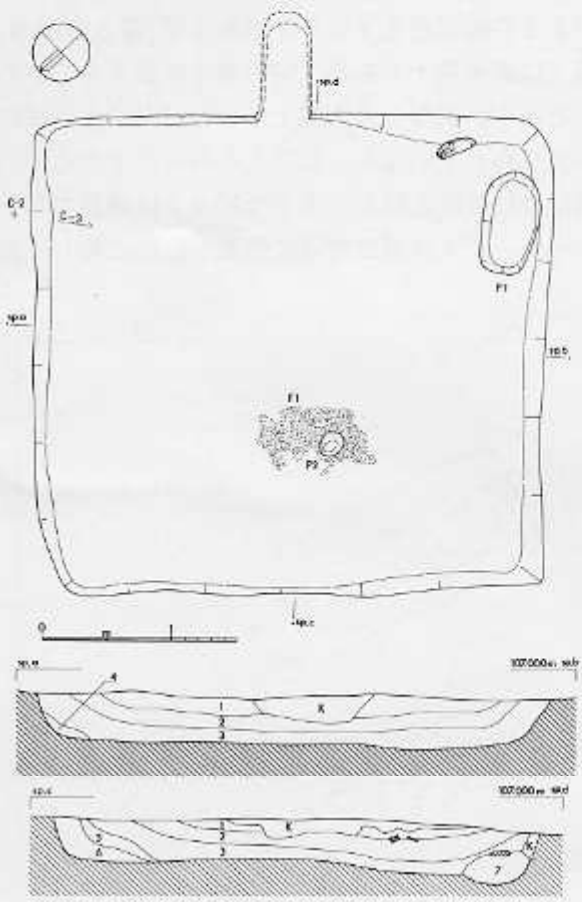


図3　DP01竪穴平面図・断面図

土層断面図中、1：微粒子で炭化植物茎が混るフカフカの黒色土、2：粘質を帯びた暗褐色土で黄褐色土粒が混じる、3：粘質を帯びた褐色土で暗褐色土粒が混じる、4：3層に似るが黄色土粒を含む、5：粘質を帯びた褐色土で3層より暗褐色土の混じりが少ない、6：褐色土で黄色土粒を含む、7：カマド土層断面図中の1b層、K：攪乱。平面図中F1は床面焼土。縮尺は1/60。

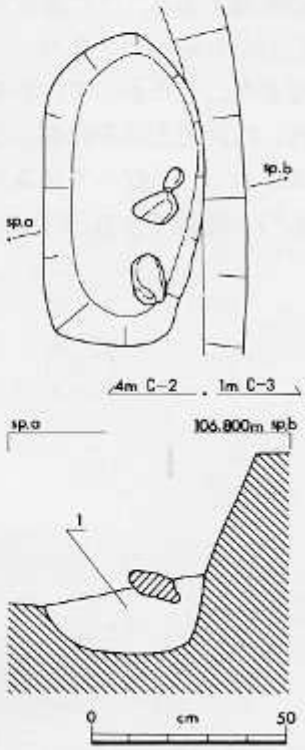


図4　DP01竪穴P1平面図・断面図

土層断面図中、1：焼土粒・炭化物を含む暗灰褐色土。カマドあるいは炉の掻き出し土と推定される。縮尺は1/20。

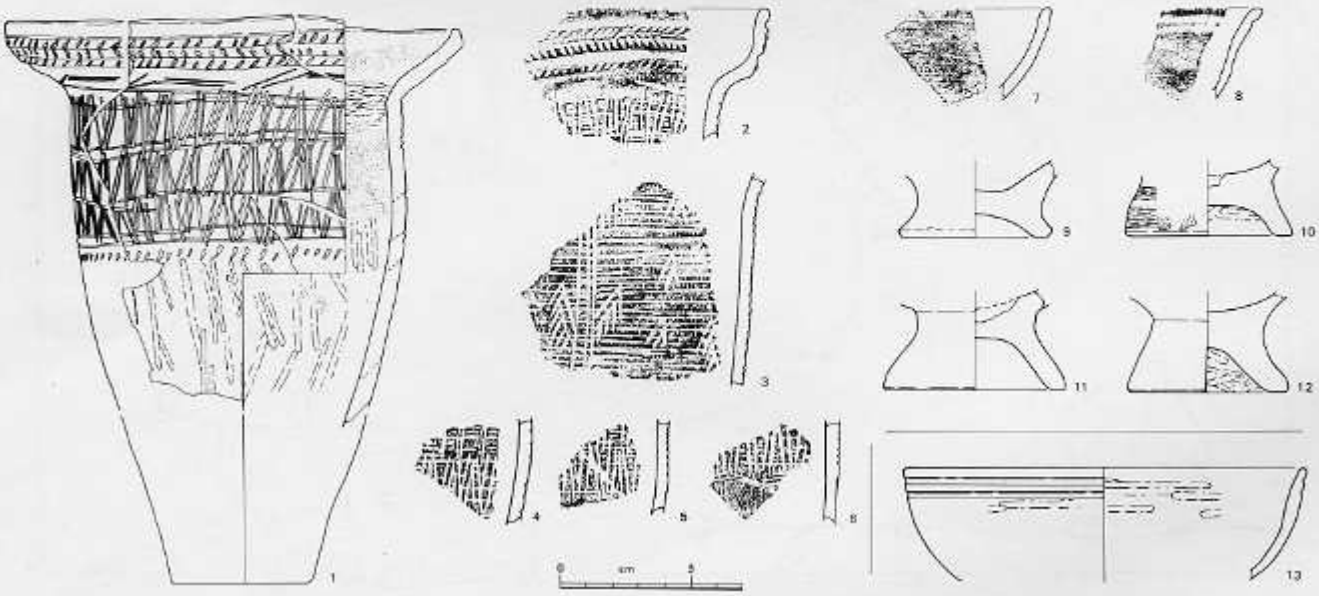
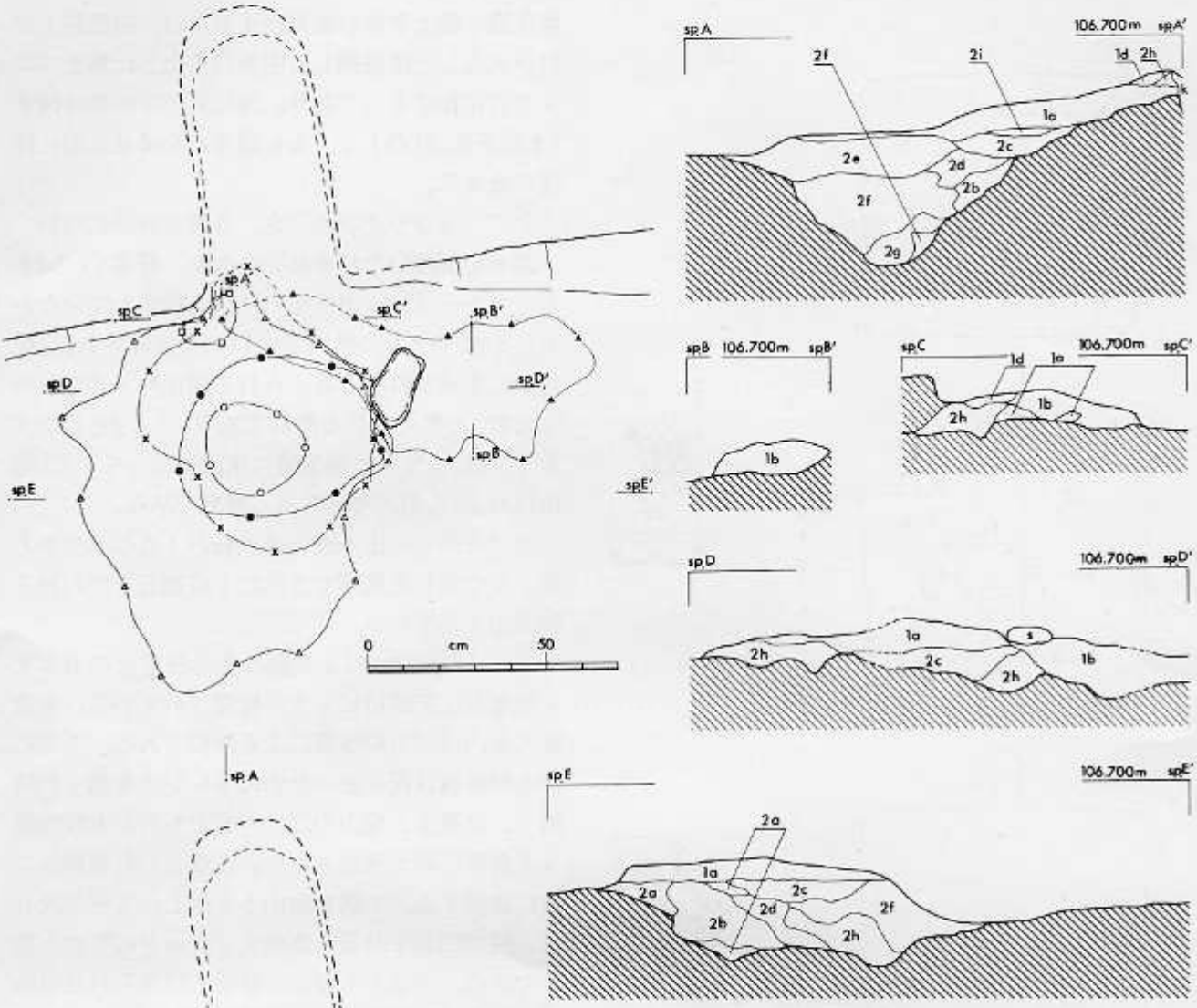


図5　DP01竪穴出土遺物

1～12は竪穴土層断面図に示した2層の、13は3層の出土遺物。縮尺は1/3。



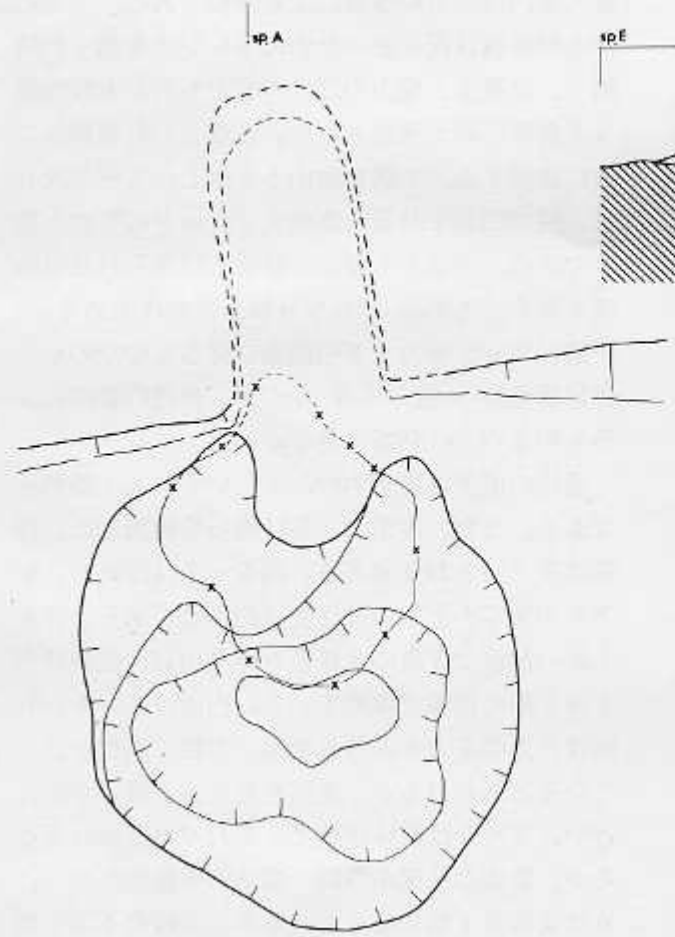


図6　DP01竪穴カマド平面図・断面図

土層断面図中、1a：粘性が若干あり、堅く締まった暗褐色土、表面に近い部分で炭化物を、2iと接する部分で焼土を多く含み（Aライン）、Cライン＞Dライン＞Eラインの順でブロック状の炭化物・焼土粒を多く含む、1b：粘性があり、堅く締まった暗褐色土で白色粘土ブロック（Dライン）、白色粘土および被熱して明赤白色化した粘土ブロック（Bライン）を含む、1c：白色粘土、2a：粘性が若干あり堅く締まった暗褐色土で炭化物・焼土粒は一切含まれないが黒色土（粘性あり）がわずかに斑状に含まれる、2b：粘性の弱い暗黄褐色土で、細砂・白色粘土がブロック状に含まれる、2c：粘性の弱い暗赤褐色土で、色調は被熱に起因し、Dラインにおいては下位の2h層へ漸移的な色調変化を示すが、混入物は認められない、2d：粘性が若干あり堅く締まった暗褐色土で、砂は混じらないが白色粘土がブロック状に含まれる、2e：粘性が若干あり、堅く締まった暗褐色土で、1aによく似るが、焼土と炭化物を含まないこと、白色粘土がわずかに混入することによって区別され、2bとも酷似するが白色粘土の量で区別できる（2b層中の白色粘土の量＞2e層中の白色粘土の量）、2f：粘性のある暗褐色土で堆積はやや粗く、黒色土、白色粘土を混入するが比較的均質な色調を示す、2g：2fと同質であるが、白色粘土がやや集中する部分を区別している、2h：粘性の若干ある暗褐色土で、黒色土・白色粘土をブロック状に含む、2i：非常に堅く締まった明赤白色焼土ブロック。平面図中、－△－は1a層、－▲－は1b層、－□－は1c層、－●－は2c層、－○－は2i層の範囲を示すが、上記の範囲は、土層断面図より復元した想定ラインである。また、－×－は現地で採図した焼土の範囲を示す。なお、上記の層位は1がカマドの壁体構築土、2がカマドの下位にあったピットの覆土を示す。縮尺は1/20。

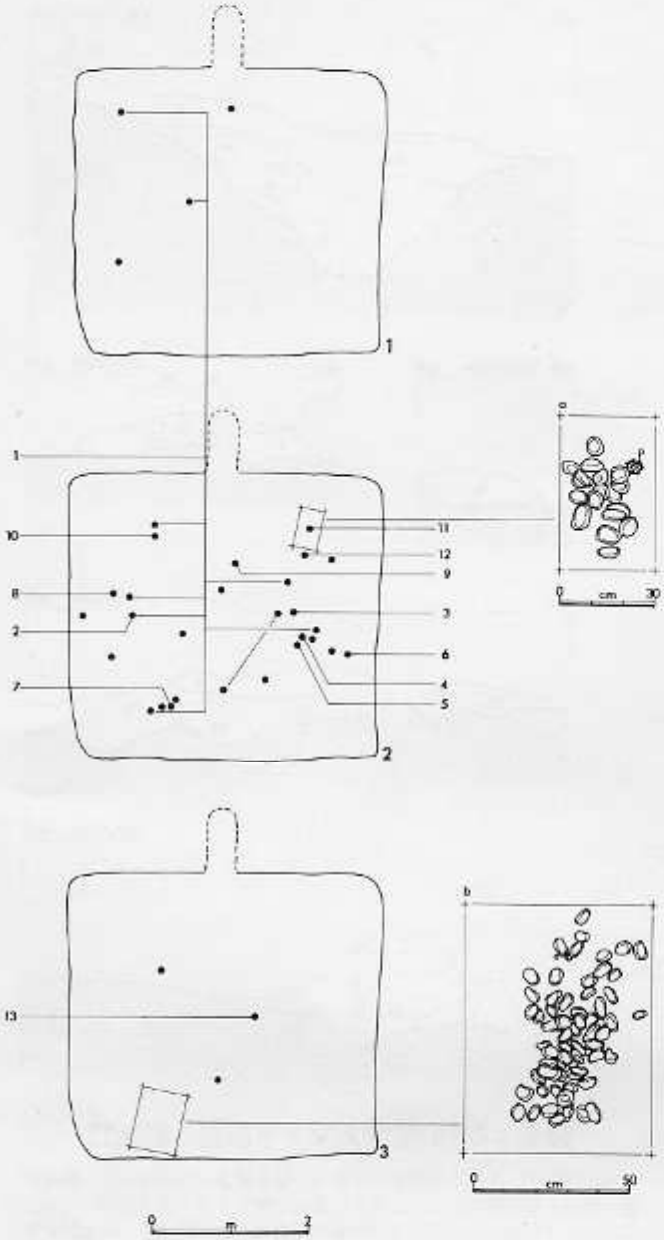


図7　DP01竪穴遺物分布図

1～3は、1が竪穴土層断面図に示した1層の、2が2層の、3が3層の遺物分布状況を示す。記号は●が土器を示す。記号に付された数字は遺物の図版番号を示す。a、bは集石の出土状況を示す。その他線で結んだのは土器片の接合関係。縮尺は1～3が1/100、a・bが1/25。

り込まれた長さ80cm、幅45cm、深さ20cmの長楕円形のピットである。内部には焼土粒、炭化物を含む締まりのないもろい暗灰褐色土が詰まり、カマドあるいは炉の掻き出し土・灰に由来する土層と考えられる。ピットは竪穴床面で確認されたことから、その形成時期は竪穴存続期中に求められる。

カマドは住居址の北東壁に検出された。確認は、炭化物・焼土を含む暗褐色土および、白色粘土ブロックもしくは被熱して明赤白色化した粘土ブロックの存在によっており、確認時の平面形は図6（上段平面図）の1a・1b層分布を併せた形にほぼ一致する。

セクションラインの設定、各層の詳細については図6を参照いただきたい。なお、層名で「1」としたグループは、カマドの壁体を構成していたかもしくはカマドの燃焼部において生成された（燃焼中に生成されたと考えられる炭化物・骨片を多く含む）と考えられる層群であり、「2」としたグループは、カマドの構築時に床面になっていた「地山以外」のものと考えられる層群である。

カマドからの出土遺物は袖石が1点のみであるが、やや離れた場所でさらに1点袖石と思われる礫が出土している。

DP01のカマドは本遺跡の他の住居址のカマドと異なり、下部にピットが確認されている。本遺跡の地山は河川の堆積による砂層である。ところが土層堆積状況確認のためにトレンチを掘った段階で、構築土と地山の間に両者どちらとも質の異なる複数の層が確認された。2層とした層群がこれに該当する。2層を地山と分離した主要な所見は、層中に含まれる白色粘土ブロックの存在と粘性である。両者とも地山の砂層には見られない特徴であることから、これを分層したわけであるが、下部のピットがカマドの構築に伴うものなのか、住居構築時の「掘りすぎ」なのか、自然の要因によるものなのかは判断できなかった。

遺物の出土は覆土中のみで、いずれも土器細片である。なお、覆土中からは集石を検出した。詳細は表2のとおりである。図5－1は深鉢で、胴下半を欠く。上半の遺存度は約1/3である。2本1組の沈線で3段の文様帯を作り出し、鋸歯状の2本1組の沈線で埋めている。内面はミガキ、外面は内面のミガキ調整具を用いて粗く調整を行っていると思われるが、光沢を見せず、粗いナデに近い。2～6は深鉢破片で、それぞれ文様は異なるが、器面の状況から同一個体の可能性がある。6は文様帯下端の破片であるが、文様帯下端を列点ではなく2本1組の沈線を連続する山形の文様で区切る。7～8は坏の口縁部で、いずれも内黒

である。7の外面はミガキ。8の外面は荒れて調整不明であるが、口唇下に浅い凹線が2条巡る。9～12は高坏脚部で、9の調整は器面が荒れて不明、10の外面は刷毛目のちナデ、脚内面はミガキ。11の外面はナデ、脚内面はケズリ。12の外面はミガキ、脚内面はミガキ。いずれも坏部内面は内黒でミガキである。底径は順に、56、64、70、63㎜である。13は内外ともミガキで内黒、口唇下に凹線が2条巡る。口径は156㎜である。

小括　竪穴の構築・利用の時期については、床面からの遺物の出土がないため明らかにし難い。竪穴内のP1については、竪穴存続期間中に形成され、埋め戻しが行われたものと考えられる。内部にはカマドあるいは炉の掻き出し土・灰が詰まる。その性格については明らかにし得ない。

表2　DP01竪穴覆土中出土集石計測値

〈集石a〉

No.	長径	短径	重量	短/長	No.	長径	短径	重量	短/長
01	6.4	5.6	113	0.88	11	5.9	4.6	100	0.78
02	6.5	5.6	115	0.86	12	6.2	4.4	80	0.71
03	6.5	4.7	126	0.72	13	6.2	4.9	113	0.79
04	6.4	5.6	134	0.88	14	6.9	5.0	164	0.72
05	6.1	5.5	89	0.90	15	7.3	4.9	115	0.67
06	7.0	3.8	115	0.54	16	7.3	5.2	115	0.71
07	5.6	5.4	115	0.96	17	7.1	3.6	79	0.50
08	6.6	5.1	116	0.77	18	6.8	4.9	71	0.72
09	6.4	5.7	101	0.89					
10	5.9	4.5	82	0.76	Ave.	6.5	4.9	108	0.76

・長径、短径は単位cm
・重量は単位g
・短/長は短径÷長径

〈集石b〉

No.	長径	短径	重量	短/長	No.	長径	短径	重量	短/長
01	7.0	5.1	148	0.73	34	5.7	4.0	70	0.70
02	6.7	4.7	100	0.70	35	5.9	4.4	85	0.75
03	6.6	4.1	89	0.62	36	6.4	3.8	65	0.59
04	5.7	4.4	105	0.77	37	6.1	4.5	96	0.74
05	6.4	4.2	60	0.66	38	6.3	4.4	90	0.70
06	5.8	4.8	95	0.83	39	6.7	4.3	103	0.64
07	6.8	4.7	135	0.69	40	6.4	4.3	79	0.67
08	6.6	3.9	122	0.59	41	6.9	3.9	88	0.57
09	6.4	4.4	121	0.69	42	5.7	4.2	48	0.74
10	7.9	5.0	123	0.63	43	5.8	3.2	52	0.55
11	5.9	4.2	62	0.71	44	6.1	5.2	135	0.85
12	6.2	3.9	86	0.63	45	6.2	4.8	104	0.77
13	6.5	3.8	80	0.58	46	5.6	4.0	70	0.71
14	5.6	4.4	92	0.79	47	6.0	5.1	116	0.85
15	6.7	4.5	128	0.67	48	6.2	4.2	83	0.68
16	6.3	4.4	106	0.70	49	5.0	4.2	49	0.84
17	6.2	4.8	126	0.77	50	5.6	4.9	70	0.88
18	6.1	5.4	125	0.89	51	6.0	4.4	98	0.73
19	6.6	4.8	55	0.73	52	7.3	4.4	101	0.60
20	5.3	3.8	63	0.72	53	5.5	4.4	92	0.80
21	6.2	4.9	112	0.79	54	6.2	5.1	102	0.82
22	7.4	4.8	125	0.65	55	6.6	4.1	100	0.62
23	6.5	4.7	135	0.72	56	6.5	3.9	95	0.60
24	7.8	3.9	149	0.50	57	6.2	3.1	79	0.50
25	6.5	3.3	100	0.51	58	6.5	4.2	120	0.65
26	5.4	3.5	60	0.65	59	6.2	4.3	125	0.70
27	7.0	4.2	73	0.60	60	6.6	4.0	105	0.61
28	5.4	3.5	69	0.65	61	6.0	4.7	95	0.78
29	5.9	4.8	61	0.81	62	6.9	5.2	133	0.75
30	7.0	4.1	81	0.59	63	6.8	3.4	105	0.50
31	5.8	4.7	80	0.81	64	破砕礫につき計測不可			
32	5.9	4.8	105	0.81					
33	6.9	4.6	150	0.67	Ave.	6.3	4.3	96	0.69

3）DP04竪穴

本竪穴は、調査の結果すでに一度発掘が行われていたことが判明し、後で述べるように1953年に関正が調査した2基の竪穴のうち二号竪穴としたものである可能性が考えられる。

D－5区から6区にかけて位置し、カマドは南東を向く。竪穴の規模は1辺4.15～4.50ｍである。

床は、やや砂の混じる黄褐色の粘質土で堅く締まり、全体に汚れを見せる。周溝は確認できなかった。壁は、上半が暗褐色粘質土、下半が床面の土層と同じ黄褐色粘質土で、全体にわずかに掘り残しがあったが、そのことは逆に、かつての調査が竪穴をほぼ正確に掘りきっていることを示すものである。一方、南壁の下場では、遺構平面図中点線で示した範囲より外側で床面の汚れが認められず、おそらく掘りすぎていると考えられた。炉は確認できなかった。床面の掘り込みは22個所確認したが、いずれも深さは10cm台と浅く、土柱と考えられるものはない。

カマドは、煙道に向かって壁を壊して一部掘り進んでいるが、煙道の下半及び燃焼部の炉床は手つかずの状況であった。

図10に示した遺物はいずれも埋め戻しの覆土中から出土したものである。2は深鉢底部で底径は62㎜、調整は不明。3、4は、全体に無文となる深鉢の口縁部であり、器面の調整は荒れていて明らかでない。いずれも口唇が肥厚する。5は坏の口縁で、内黒、内外ともミガキである。

小括　1953年に関が調査した2基の竪穴のうち、関が一号竪穴としたものは前回報告に述べた

表3　DP04竪穴床面ピットの深さ

ピットNo.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11
深さ(cm)	17	16	12	15	7	11	2	13	15	12	12

ピットNo.	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22
深さ(cm)	10	6	6	8	19	11	12	13	11	12	12

とおりDP 03竪穴と考えられた。本竪穴は関の二号竪穴の可能性がある。以下、二号竪穴の記載を再録する。

「第一号竪穴より一五米西南に離れて第二号竪穴が不整方形で発掘された。出入口は一号と同じく西に開き、カマドと煙出しも、出入口の反対側の奥、東側に築造され、続いて、その南東隅に石で囲んだ焼け土があり石も焼けていて炉跡のようであった。床、柱穴も一号と同様であったが東北隅に擦紋土器片が見出され祝部土器の小片が発見されている。竪穴の北壁は五米、東壁は七米、南壁は四・五米、西壁は四米であって不整方形となっている。この竪穴からは石器として砥が出土したのみであった。」(関1973、7～8 p)。

今回の調査結果と対照すると、関の二号竪穴と考えられるDP 04竪穴が、一号竪穴(DP 03竪穴)の西南に位置するという記載とは対応するが、その距離は関の記載とは異なり約8 mほどである。また、関は二号竪穴の平面形を不整方形としているが(図11)、その形状及び壁の各辺の長さは全く異なる。調査区内に既掘の竪穴は2基あり、それ

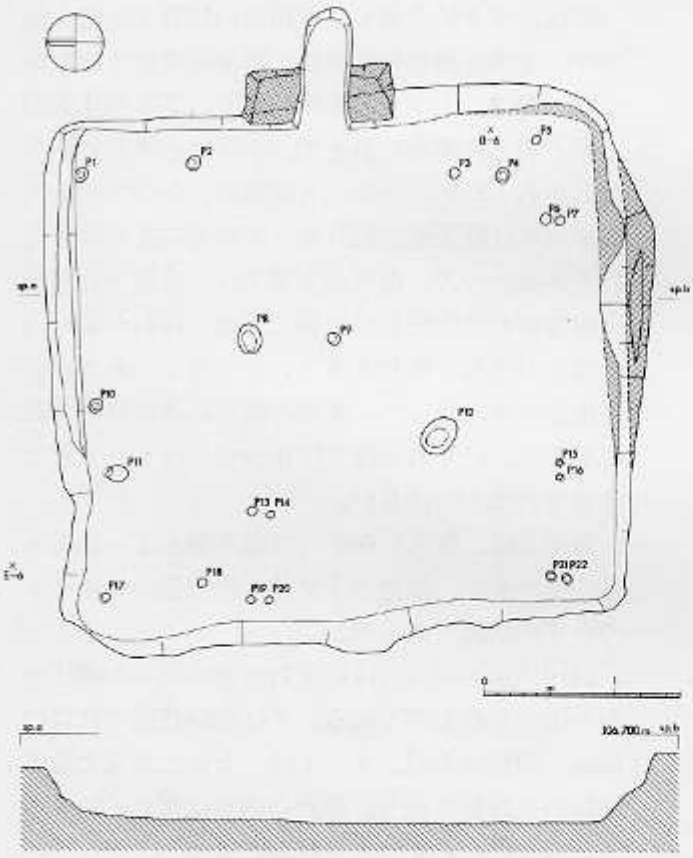


図8　DP 04竪穴平面図・断面図

関正による既調査の竪穴で、土層図は採図していない。平面図中スクリーントーンで示したのはかつての調査の掘り過ぎの部分で煙道部分は未調査であった。縮尺は1/60。

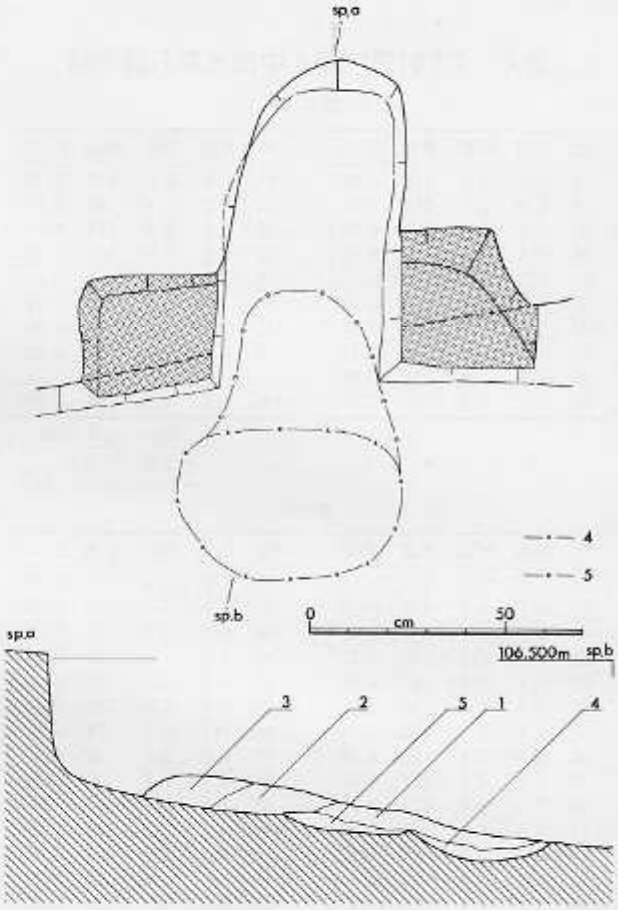


図9　DP 04竪穴カマド平面図・断面図

土層断面図中、1：燃焼部の堆積土で焼土粒・炭粒・骨片を含む暗黄褐色土、2：煙道崩落土で黒色土・焼土・白粘土が混じる、もろい暗褐色土。3：煙道の崩落土で直径1 cm以下の白粘土を含む、堅くしまった黄褐色土。4：焼土、5：煙道に堆積した柔らかい黒色土。平面図中、－×－は4層、－○－は5層の範囲を示す。スクリーントーンで示したのは関の調査における掘り過ぎ部分。縮尺は1/20。

図10　DP 04竪穴出土遺物

埋め戻し土中から出土。縮尺は1/3。

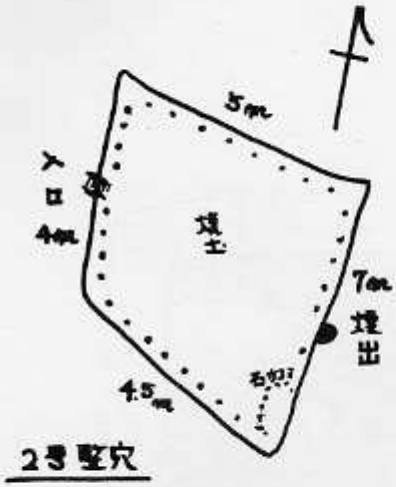


図11　関正調査の旭町1遺跡2号堅穴

今回調査を行ったDP04堅穴にあたると推定される。原図は関(1973)。

らが関の調査した2基の堅穴である可能性は強いのであるが、DP04堅穴を関の報告からその二号堅穴と断定するにはなお疑問が残る。

しかし、関の報告には明らかな誤りが目に付く。例えば、堅穴確認のため3本のトレンチを10m間隔で掘り進めたところ「第一のトレンチで第一号堅穴、三十米離れて第三トレンチで第二号堅穴を発見した」(6P)とあるが、第一トレンチと第三トレンチの間は30mではなく20mになるはずである。一方、一号堅穴と二号堅穴は15m離れて所在すると関は述べているが、仮に30mあいだをおいたトレンチによって確認された堅穴であれば、掘り上がりの堅穴間の距離は、堅穴の規模を考慮してもおよそ20mを下回ることはあり得ないはずである。また、図についても、幅1mとして記載された出入口が、図上では50cmに満たないものとなっているなど、調査の精度についてはともかく報告については問題点を多く含むようである。

なお、本堅穴を関の二号堅穴にあたるものと考えれば、関の記載するところにより擦文土器のほか須恵器片と砥石が出土したことになる。須恵器は、掲載された写真で見る限り木目交差の平行線叩き目が残る甕の小片である。また、カマドに近い東南隅に焼けた石で囲んだ焼土があって、炉跡と推定しているが、これはカマドのある壁の右隅でしばしば検出される廃棄された焼土の可能性がある。さらに、関の遺構平面図には、一号、二号両堅穴とも壁際を巡る多数の柱穴が描かれているが、床面の精査に関わらず今回の調査ではこれらを確認できなかった。しかし、関が掘りあげた柱穴に地山と同じ土層が埋め戻され、我々が平面的にこれらを確認できなかった可能性も考えられないわけではない。壁際にトレンチをいれてこの有無を確認する作業が必要であったことを、反省点として記しておきたい。

4）DP08堅穴

H－2区から3区にかけて位置する。遺存する壁の長さは6.50mである。

堅穴北半は、かつて行われた天地返しのため床面下5cmまで攪乱が達しており、堅穴の確認はできなかった。また南半についても、長イモ栽培のため地表から50cmほどの深さで攪乱が及んでいた。

床は砂質を帯びた褐色土で、部分的に砂利が顔を見せる。地表からの深さは90～110cmである。全体に汚れており、壁の検出はその意味で容易であった。壁から1m前後の間がわずかに高まり、床中央付近が窪む状況が認められたが、これは貼り床と関係するものである。貼り床の範囲は明瞭ではなかったが、図に示したとおり南壁中央付近を除くほぼ主柱穴(P1、P2)の外側にあるものと認められた。貼り床は、白粘土粒・炭化物粒を含む粘質の暗褐色土で、部分的に焼土粒が混じる。厚さは4～6cmである。周溝は確認できなかった。壁は、先に述べたように地表から深さ50cmほどまで攪乱を受けていたが、部分的に20cm程度のところもあって、壁は確実にその高さまでは追求できた。このことから、堅穴の掘の込み面は、ほぼ現地表に近いレベルを考えてよいと思われる。床から30～40cmの高さまでは砂質を帯びた褐色土、それより上は土質は変わらないが黄色味を帯び、床から70cmほどで黒色土粒を含む黄褐色粘質土へと漸移的に変化する。立ち上がりは緩やかで、壁の中半はえぐられたようになっており、かなり崩落

表4　DP08堅穴床面ピットの深さ

ピットNo.	P1	P2	P3	P4	P5
深さ(cm)	53	60	12	5	9

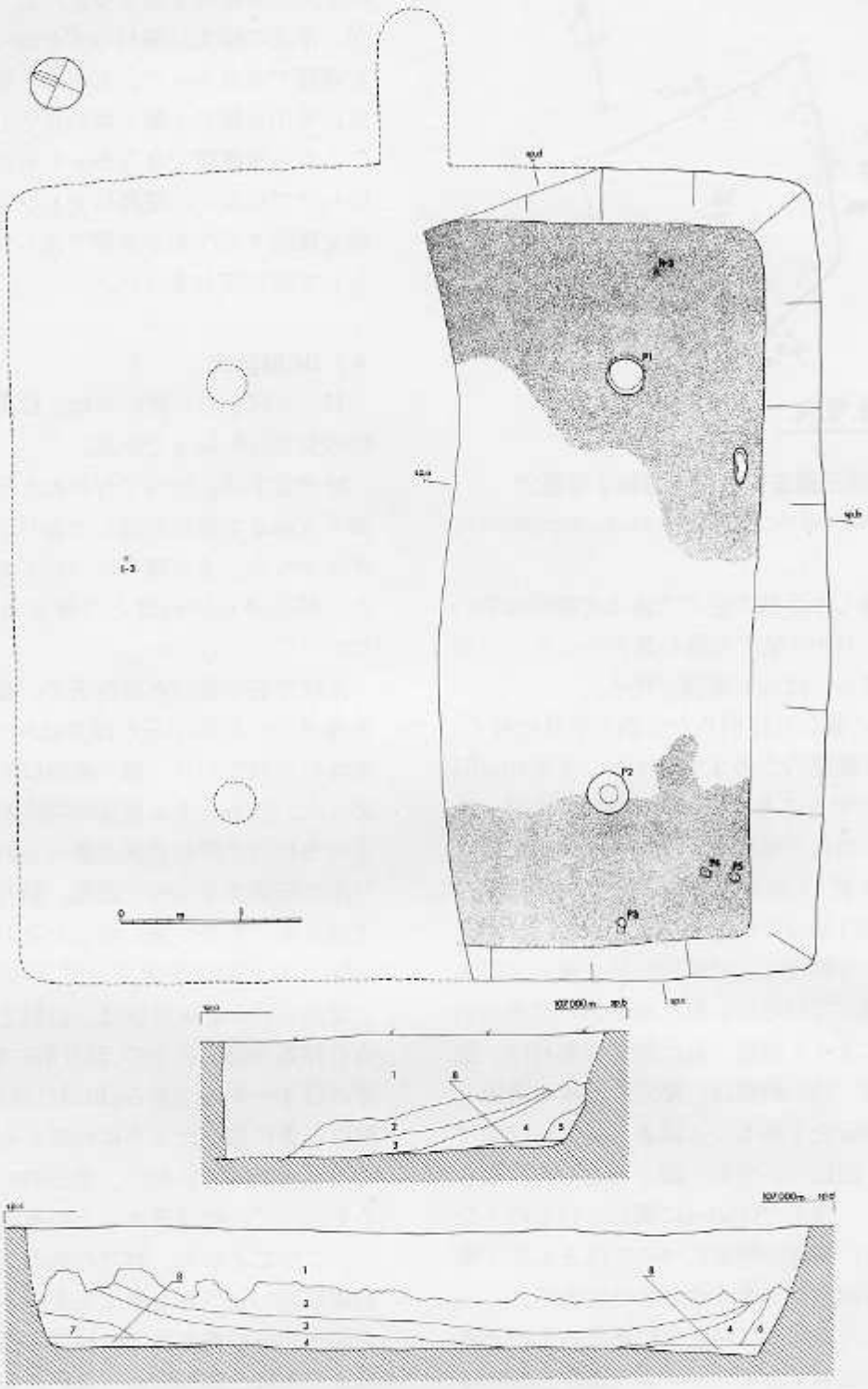


図12　DP08竪穴平面図・断面図

土層断面図中、1：攪乱（長イモ耕作と天地返しのため深い）、2：混じりのないフカフカの黒色土、3：粘質を帯びた暗褐色土で黄褐色土粒が混じる、4：粘質を帯びた褐色土で暗褐色土粒が混じる、5：砂層で、壁下半が砂層のため区別しがたいが、床面上の堆積であることにより覆土と判断された、6：暗褐色土粒を含む締まった黄褐色土で、4層に近いがより明るみがある、7：黄色土粒を含むボロボロの暗褐色土、8：粘質黄褐色土の貼り床で白粘土・炭粒を含み、部分的に焼土粒が混じる。厚さは4～10cm、平面図中、スクリーントーンで示したのは貼り床の範囲。縮尺は1/60。

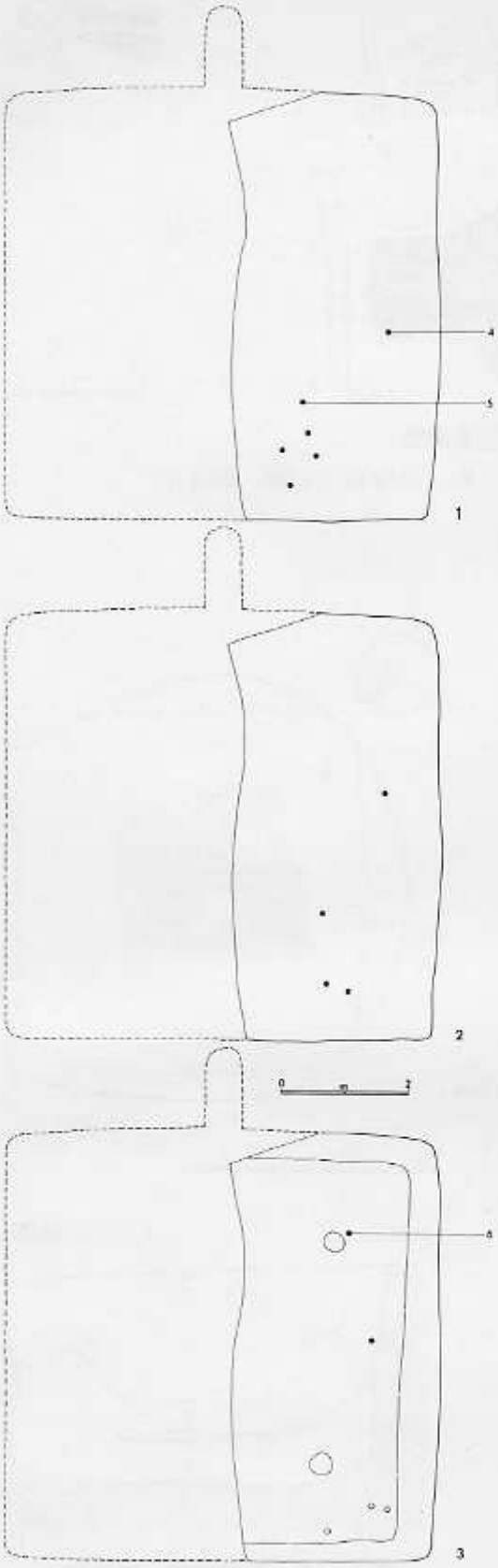


図13　DP08竪穴遺物分布図

1～3は、1が竪穴土層断面図に示した3層の、2が4層の、3が床面の遺物分布状況を示す。記号は●が土器を示す。記号に付された数字は遺物の図版番号を示す。縮尺は7/800で、他竪穴の分布図とは異なる。

したことが窺われる。床面の掘り込みは5個所確認され、P1とP2はその位置と深さから主柱穴と考えられる。P1は、底面が締まりのない褐色砂で、砂利と黄褐色土の混じる褐色砂が詰まる。P2は、底面が堅く締まった砂利混じりの黒色砂で、黄褐色土混じりの褐色砂が詰まる。P3の覆土は黒色土、P4は白粘土混じりの暗褐色土、P5は黒色土と白粘土混じりの暗褐色土がそれぞれ詰まる。カマドと炉は検出できなかった。

遺物は、1～5が覆土、6が床面の出土である。1は深鉢口縁。2は坏の胴部で刻線文が施される。内黒で内面はミガキ。3と5は無文の深鉢胴部で外面には条痕幅の広い刷毛目が入る。3の内面は横方向の刷毛目ののちごく粗いミガキ、5の内面は荒れて調整は不明。6は坏の口縁で、口唇下には幅広で深めの凹線が1条巡る。器面が荒れていて内外とも調整は不明。

小括　本竪穴は攪乱により南半が破壊されているが、1辺6.50mの方形を呈する本遺跡においては最大、最深の竪穴と考えられる。カマドは遺存する範囲内では検出できなかったが、他の例から見て東壁にあった可能性が強い。また、主柱穴についても、P1、P2のあり方から4主柱穴をもつものといえよう。竪穴の形成・利用時期については明らかにし難い。

5）P－01

C－2区でDP01竪穴北壁に接して検出された。壙口部では113×118cmのやや崩れた方形であるが、壙底部では100×96cmの整った隅丸方形を呈する。底面は確認面から60cmの深さにあり、粗い砂と径5mm以下の細礫からなる灰褐色の細礫層をわずかに掘り込んで平坦な面を作り出している。覆土は3層に分けられ、各層の注記は遺構平面図キャプションに記すところであるが、1層は比較的均質な土層で、それ以下の2、3層はいずれも掘り揚げた地山土と1層が不規則に混じるものであった。

この2層と3層の境には、炭化物の広がりが検出された。これは、直径5mm前後の炭化物と、その炭化物が粉状化したものである。炭化物は、繊維を撚ったものではなく、植物茎と確認された。

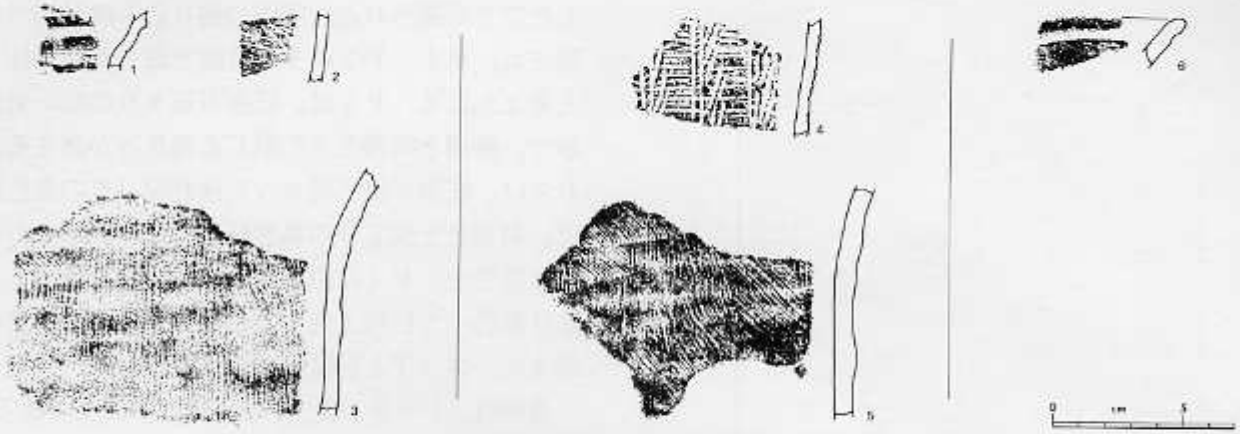


図14　DP08堅穴出土遺物

1～3は出土層位不明、4・5は堅穴土層断面図に示した3層の、6は床面の出土遺物。縮尺は1/3。

炭化物の広がりはピット底面の各辺にほぼ平行する1辺約50cmの方形を呈していた。植物茎の遺存度は不良であるが、その分布には一定の傾向があり、辺に平行・直交するものとそれぞれに斜めに交わるものが認められ、これらが上に重なり、あるいは下に潜って、編み込まれたものであると考えられた。

遺物は、ほぼ確認面の1層中から1点、炭化物の約5cm上の2層中から1点、それぞれ無文の坏の胴部片が出土したが、細片のため図示していない。

小括　本ピットの構築時期については、遺物の上からは明らかにできなかった。隣接するDP01堅穴との関係については、両者の距離が20cm程度であることから、P－01は当然DP02堅穴の上屋裾あるいは周堤にかかるものであったと推定される。このことを前提として、両者の構築時期を巡っては次のように考えられる。

まず、P－01が堅穴構築後に形成されたものとすれば、堅穴上屋についてはその段階で撤去されていたと考えねばならず、その構築は堅穴利用期間中には求められない。また、堅穴廃絶後であったとしても、堅穴を取り囲む周堤までが削平・撤去されていたものとは考えがたく、その場合、ピットの一部あるいは全部をわざわざ周堤にかかるかたちで掘り込んだことになる。こうした状況を選んでピットの構築がなされたとは想定しがたいから、ピットは堅穴に先行して構築されていたも

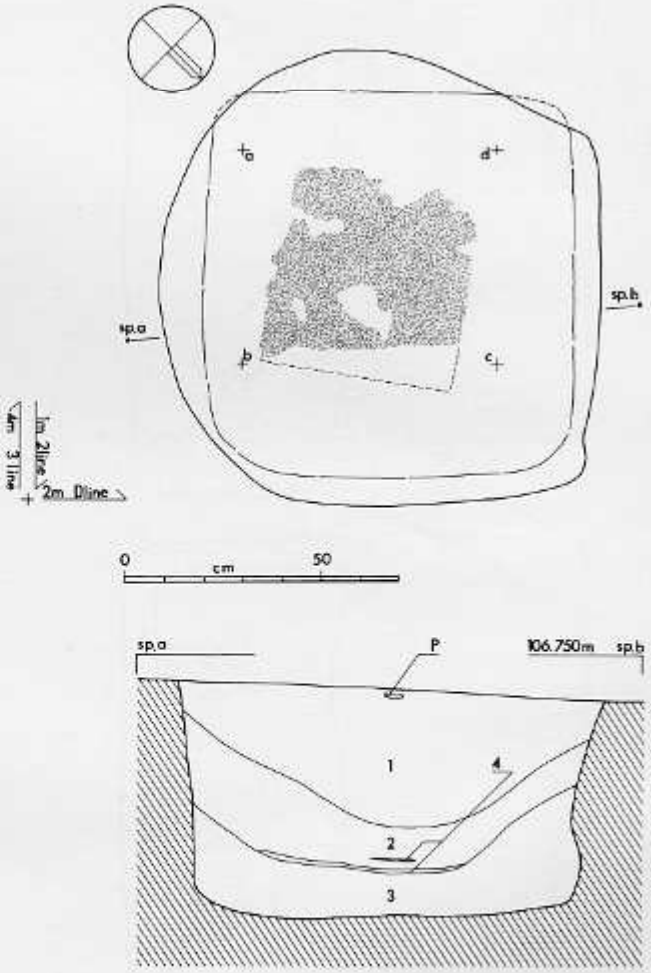


図15　P－01平面図・断面図

土層断面図中、1：黄褐色土に暗褐色土粒を含む粘質暗褐色土、2：混じりのない均質な粘質黄褐色土、3：やや粗い明褐色砂層、4：植物茎を含む炭化物。平面図中、スクリーントーンで示したのは植物茎を含む炭化物の範囲。縮尺は1/20。

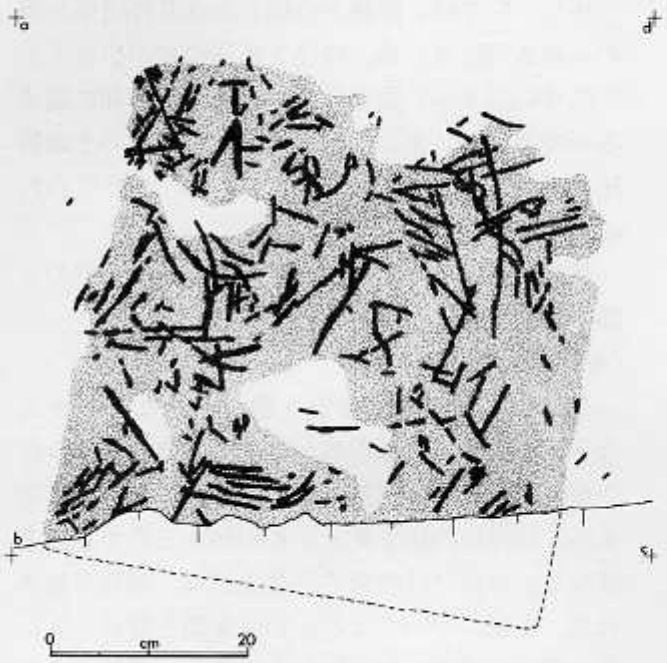


図16　P－01出土炭化物

黒い部分は植物茎、スクリーントーンで示したのは炭化物の範囲。縮尺1/8。

のとみるのがもっとも自然であろう。しかしその一方で、ピットをわざわざ竪穴周堤にかけて、すなわち廃絶した竪穴に強く近接すべき何らかの理由があって掘り込んだ可能性も全く考えられないわけではないのであって、位置関係からは、両者の構築時期の前後については判断しがたい。ただし、ピットの構築が竪穴構築・利用の前後いずれかに求められるものである点を指摘しておきたい。

ピットの性格については、上記の理由から竪穴に付随するものとは認められず、その点で貯蔵穴としての機能は想定しがたい。他の竪穴居住者が構築・利用した貯蔵穴としても、もしそうであるならばそれぞれの竪穴に近い位置に形成されるのが自然であろう。本ピットは、DP06竪穴の竪穴隅に掘り込まれたＰ１、DP02竪穴内に掘り込まれたＰ１と形状及び規模の点で共通するものであり、DP02竪穴Ｐ１については墓壙の可能性を指摘したところであるが、本ピットについてもその可能性が考えられないわけではない。ただし、墓壙として積極的に推定すべき痕跡は、本ピットでは確認できなかった。

表５　旭町１遺跡出土遺物種別点数

遺構名	土器	黒曜石	鉄器	羽口	鉄滓	土製品	焼粘土	計	備考
DP01	80	0	0	0	0	0	0	80	
DP02	219	0	0	0	0	0	2	221	
(竪穴)	(163)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(165)	
(P1内)	(10)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(10)	
(P2内)	(46)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(46)	
DP03	21	0	0	0	0	0	0	21	関正調査１号竪穴
DP04	42	0	0	0	0	0	0	42	関正調査２号竪穴
DP05	80	6	1	3	13	2	0	105	
DP06	118	2	0	0	0	0	52	172	
DP07	386	16	0	0	0	0	47	449	
DP08	83	0	0	0	0	0	0	83	
P－01	2	0	0	0	0	0	0	2	
計	1,031	24	1	3	13	2	101	1,175	

3 まとめ

1）遺跡の形成時期

本遺跡の成形時期を出土土器から考えるために、旭川市域（上川盆地）での擦文土器の変遷について述べておきたい。

旭川市域からこれまで出土した擦文土器について、深鉢の器形と文様を中心に見た場合、6期に分類することが可能である（図17）。以下、大沼忠春が示した9世紀以降の道央部における擦文土器深鉢の編年案（大沼1989）と対比させながら各期の設定について述べる。

〈Ⅰ期〉

深鉢は頸部の絞り込みが強く、口唇断面が切り取ったように角をもつ。口唇角の刻列は見られず、頸部文様帯には横走沈線が巡るが、この上に縦あるいは斜めの沈線をもつものと全くないものがあるようである。図に示したのは近文3遺跡出土資料で、横走沈線のみのものであるが、同じⅠ期に属する永山4遺跡出土資料（旭川市教委1985、図46）は、横走沈線上にモティーフは不明であるが刻文が加えられるようである。

この期の深鉢は内面調整に特徴が見られ、刷毛目で調整を終えるか、その後ミガキが加えられるとしても内面全体には及ばないようである。

共伴関係にあると考えられる坏の資料は得られていない。

大沼は、9世紀以降の編年の1期を深鉢頸部に横走沈線を多用するもの、2期を横走沈線上に刻線文の施されるものが含まれる段階としており、両期はそれぞれに共伴する坏の形態からさらに明瞭に分けられる可能性があるという（大沼忠春氏のご教示による）。1期は、大沼の1期あるいは2期に対応するものといえよう。

〈Ⅱ期〉

深鉢は、Ⅰ期での頸部の強い絞り込みがなめらかなカーブを描いて外反するものとなる。Ⅰ期から引き継ぐ断面角形の口唇には、角に刻列が施される。頸部文様帯には、横走沈線上にx字か縦の2種を基本とする沈線文が間隔を置いて施される。内面調整では、この期以降ミガキが全面に及び、刷毛目をほとんど残さない。

坏については、深鉢との明らかな共伴関係が認められる例はないが、口径と底径の差が小さく上下に寸の詰まった器形をもつものがこの期に属するのであろう。また、回転糸切りで内黒の土師器坏がこの期に搬入されたのではないかと思われる。

深鉢の口唇角に刻列が施されるという大沼の3期に対応するものであろう。

〈Ⅲ期〉

深鉢はⅡ期の器形を引き継ぐが、なめらかなカーブを見せていた頸部から上への立ち上がりがやや直線的に外反するものとなる。口唇が丸みをもち、口縁に内屈を見せるものがある点でⅡ期と異なる。口縁には隆起帯が数条巡り、刻列が施される。文様については基本的にⅡ期と変わらないが、横走沈線条に加えられる沈線文の間隔がやや密になる傾向がある。

坏は、やはり共伴の明らかな例がないが、Ⅱ期の器形に高さを加えた器形をもつものがこの期かと考えられる。回転糸切りで内黒の土師器坏が引き続き搬入されていたようである。

深鉢の口唇から下の位置に刻文が巡るという大沼の4期に対応するものであろう。

〈Ⅳ期〉

深鉢は口縁の内屈が定型化する。口径と胴部径の差はⅢ期より小さくなる。Ⅲ期には頸部中央にあったくびれが内屈する口縁の下まで移るとともに、肩が強く張る傾向を示す。文様の上ではⅢ期と大きな違いは見いだせない。

坏は、Ⅲ期のものより口径に比して底径が小さくなり、立ち上がりは丸みを帯びる。

深鉢の口縁がくびれて立ち上がるという大沼の5期に対応しよう。

〈Ⅴ期〉

Ⅳ期に見られた肩の張りが微弱になるとともに、肩から口縁へ内傾しつつ直線的に立ち上がる傾向を示す。文様は、引き続き横走沈線を地文としてその上に沈線文を加えるのであるが、それまで多用されていたx字文はほとんど見られないようである。また、横走沈線上の縦の沈線には、ヤシの葉状の文様が付加されるが、このヤシの葉文はそれ以前の時期にはほとんど認められないもの

のようである。また、それまで2本1組であった縦の沈線がその条数を増やし、これにヤシの葉文が加えられることにより、幅広の縦の文様帯ともいうべき様相を呈するようになる。

坏は脚をもつ。

大沼は、その6期を深鉢の文様帯下端に隆起帯をもつものとしているが、この隆起帯は道南から道央部にかけての地域的特徴と考えられる。旭川市域ではこの隆起帯をもつ例は錦町5遺跡で破片が1点出土しているのみであり(旭川市教委1988、図11－24)、この種の土器の分布圏からはずれるもののようである。ただし、大沼の図示した6期の土器のその他の特徴は、このⅤ期に対応するものと思われる。

〈Ⅵ期〉

Ⅴ期に見られた、Ⅳ期の器形を引きずってやや内傾していた胴上半が、直立に近い立ち上がりを見せるものになる。文様帯は横位に複数段に区画されるものとなり、それまで基本的な地文であった文様帯一面を埋める横走沈線は見られない。

坏は、口縁と胴部の境に明瞭な段をもって外反するようになり、脚はやや高くなっていく傾向がある。

深鉢の文様帯に縦の区画を設けるものや二段構成になるものが見られるという大沼の7期に対応しよう。

なお、錦町5遺跡および旭町1遺跡においてⅡ類土器とした、無文で一般の深鉢とは異なる器形・調整をもつ土器については、他の器種との共伴関係は明確ではないものの、錦町5遺跡から出土した口縁の外反が弱いものはおおよそⅣ期ころ、旭町1遺跡から出土した口縁の外反が強いものはⅤ期からⅥ期ころのものではないかと思われる。

また、Ⅳ期の坏からⅤ期の高坏への変遷については、型式学的に大きなヒアタスが認められるのであるが、この間には高台の展開する段階が存在すると考えられる。具体的には、道北都では苫前町香川三線遺跡(苫前町教委1986)がこの段階にあたるもので、高台をもつ坏が多く出土している。上川盆地でもこのような資料の出土が今後予想できるところである。

さらに、道北部の他遺跡を見ると、地文としての横走沈線の代わりに文様帯を連続鋸歯文で充填する深鉢が多く認められる。例えば、小平町高砂遺跡で5期に分けられた出土土器のうちⅣ期とされているものがそれであり、おおよそ上川盆地のⅤ期とⅥ期に相当する資料の間に編年されている(小平町教育委員会編1982)。上川盆地内では旭町1遺跡(1995、図18－9)で1点出土しているほか、神居古潭の資料のなかに認められる(旭川市博物館所蔵)。高砂遺跡の資料を見ると、器形の上では上川盆地のⅥ期に最も近い。また、Ⅴ期の単帯の文様帯からⅥ期の複段の文様帯へという変遷のなかでとらえた場合、鋸歯文を充填する深鉢は、部分的に縦の区画帯をもつものがあるとはいえ基本的には単帯の文様帯であり、それらを考慮すればⅤ期とⅥ期の間に置くことは妥当なのかもしれない。

今後の調査の進展によって、上川盆地においてもこのような連続鋸歯文を充填する土器群が一時期を画するものとして設定できる可能性を否定できない。ただ、その土器群が仮にⅤ期とⅥ期を繋ぐ資料であれば、Ⅴ期からⅥ期にかけて形成された旭町1遺跡において、そうした例がさらに認められてよいのではないかと思われ、なお疑問がないわけではない。現時点で前取り的に一時期を予想・設定しておくことには慎重でなければならないと考える。

なお、大沼は、本論に取り上げた1期から7期に続く8期の土器群を擦文時代終末としており、上川盆地では現在まで大沼の8期に相当する資料は確認できていないが、これについては今後出土する可能性もある。また、大沼が7世紀中葉から8世紀末葉とした「初期擦文土器」についてもこれまで確認されていないが、これら擦文時代初期の資料が集落址とともに確認される可能性は、上川盆地・富良野盆地・空知平野を含めた石狩川上流域では、神居古潭地域を除いてきわめて低いのではないかと考えられる。続縄文時代終末から擦文時代初頭にかけての石狩川上流域においては、非常に大きな地域社会再編の動きがあり、その再編の中核となったのは神居古潭地域であったと考えられるのであって、上川盆地内における集落の成立は、この地域より若干遅れるのではないかと推

察されるのである[1]。

以上、設定した6つの時期の絶対年代については、図中にも示した大沼の考えによれば、Ⅰ期からⅥ期はおおよそ9世紀初頭から11世紀後半～12世紀初頭にかけてということになる(なお擦文時代終末期とする8期について大沼は12～13世紀としている)。

旭町1遺跡については、以上の編年的な理解に基づけば、上川盆地におけるⅤ期からⅥ期を中心に形成された集落址であるということができる。同じ川筋に展開した錦町5遺跡の形成がⅡ期からⅣ期を中心としており、錦町5遺跡の集落としての放棄と旭町1遺跡の居住の開始は連続するかに見えるが、錦町5遺跡の坏には高台化の萌芽が全く認められないこと、旭町1遺跡では脚の明瞭な高坏しか見られないことから、錦町5遺跡の終期と旭町1遺跡の始期には時間的な間隙をもつものであったと考えられる。

2）堅穴相互の関係と遺跡の形成

堅穴相互の時間的な前後関係をそれぞれの出土土器から述べるには、今回の資料は十分なものではなかった。しかし、堅穴の分布からこれを考えた場合、前回報告に述べたとおり、本遺跡の堅穴は漁場に向かう2本の列条をなして分布するもので、おおむね漁場に近接する堅穴を起点として川の反対側に向かって形成されていった可能性が指摘できるものであった。錦町5遺跡においてもこれと同様な状況が考えられるのであって、堅穴の構築と最終的な遺跡の形成は、漁場との近接と、捕獲したサケの処理・加工空間の確保という2点を要件としながら進行していったと考える。

堅穴の分布位置から堅穴相互の関係を考えた場合、例えばDP 02とDP 01堅穴、またDP 04、DP 06とDP 07堅穴では、互いにきわめて近接しており、堅穴周堤の存在を考えた場合にはそれぞれの併存は想定できないものである。これらの集落はサケの産卵床での漁を基盤として成立したものと考えるのであるが(瀬川1989, 1994)、その場合小河川での漁に与れる堅穴の数は1軒あるいはせいぜい2軒であって、上記の堅穴群の「列」が、併存するものか時間差をもつものかは明らかにできないが、いずれにせよ一次期に営まれた堅穴は1、2軒程度ではなかったかと推察される。

註1）このことについては、「擦文時代における地域社会の形成」と題する別の論考で触れるところがあり、現時点では未刊であるがここでは詳論しない。

引用参考文献

旭川市教育委員会編　1984『錦町5遺跡』
旭川市教育委員会編　1985『錦町5遺跡Ⅱ』
旭川市教育委員会編　1985『緑町4遺跡』
旭川市教育委員会編　1985『永山4遺跡』
旭川市教育委員会編　1988『錦町5遺跡Ⅲ』
旭川市教育委員会編　1991『末広7遺跡』
旭川市教育委員会編　1995a『旭町1遺跡』(内容は1995bに同じ)
旭川市教育委員会編　1995b「旭川市旭町1遺跡発掘調査報告Ⅰ」『旭川市博物館研究報告』第1号、35～66頁(内容は1995aに同じ)
大沼忠春　1989「北海道の文化」金子祥之編「古代史復元9・古代の都と村」174～184頁。講談社
小平町教育委員会編　1982『おびらの文化財2・オビラウシュベツ遺跡(2)』
斉藤　傑　1971「旭川市近文町発見の擦文式土器」『市立旭川郷土博物館だより』No.4
瀬川拓郎　1989「擦文時代における食料生産・分業・交換」『考古学研究』第36巻第2号、72～97頁
瀬川拓郎　1994「擦文時代の上川」『新旭川市史』第一巻・通史一、243～271頁
関　　正　1973年「北海道旭川市旭町堅穴遺跡発掘報告」『北海道の文化』28、5～10頁.
当麻町教育委員会編　1986『香川三線遺跡』

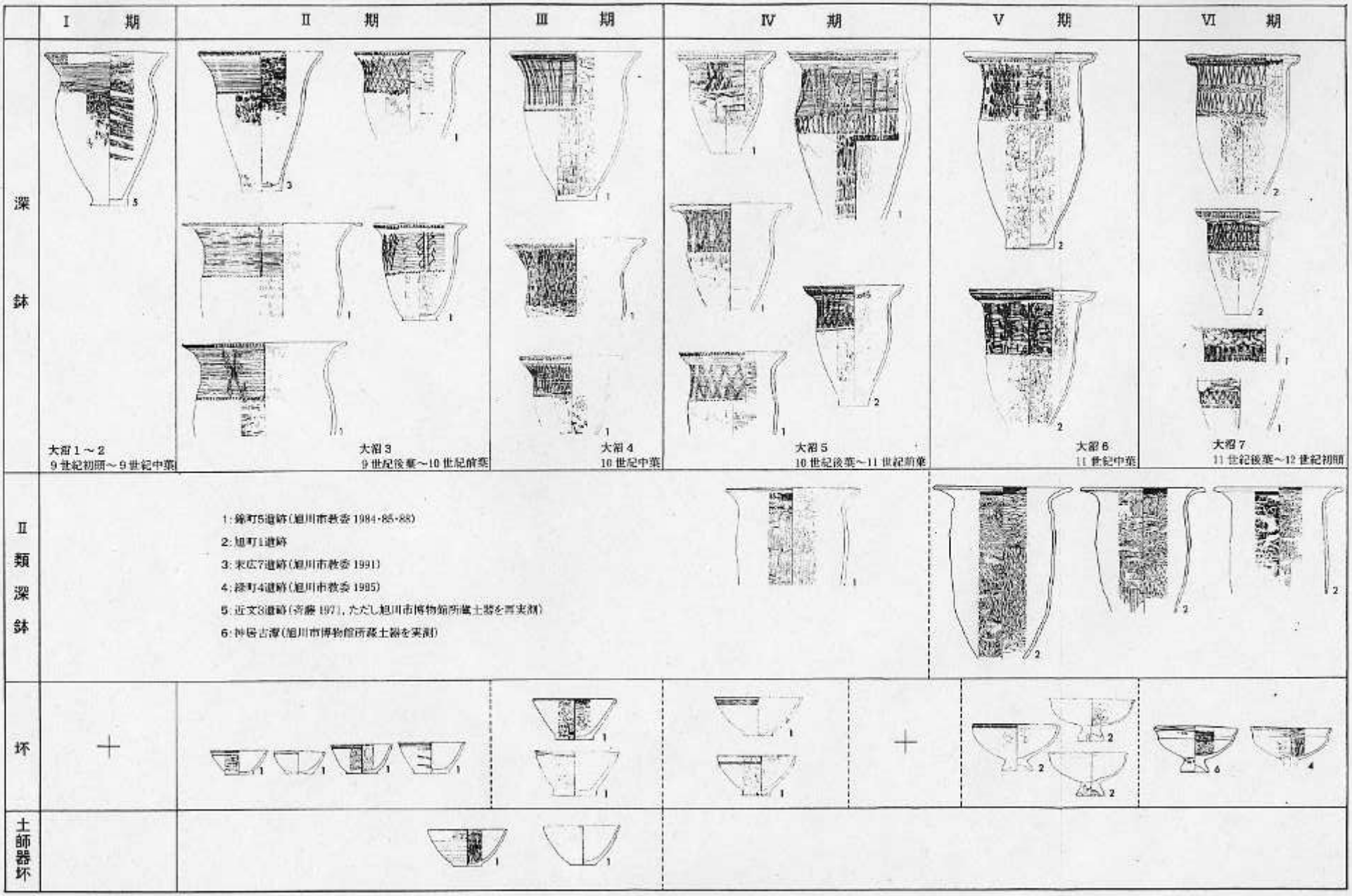


図17　上川盆地における縄文土器の編年案

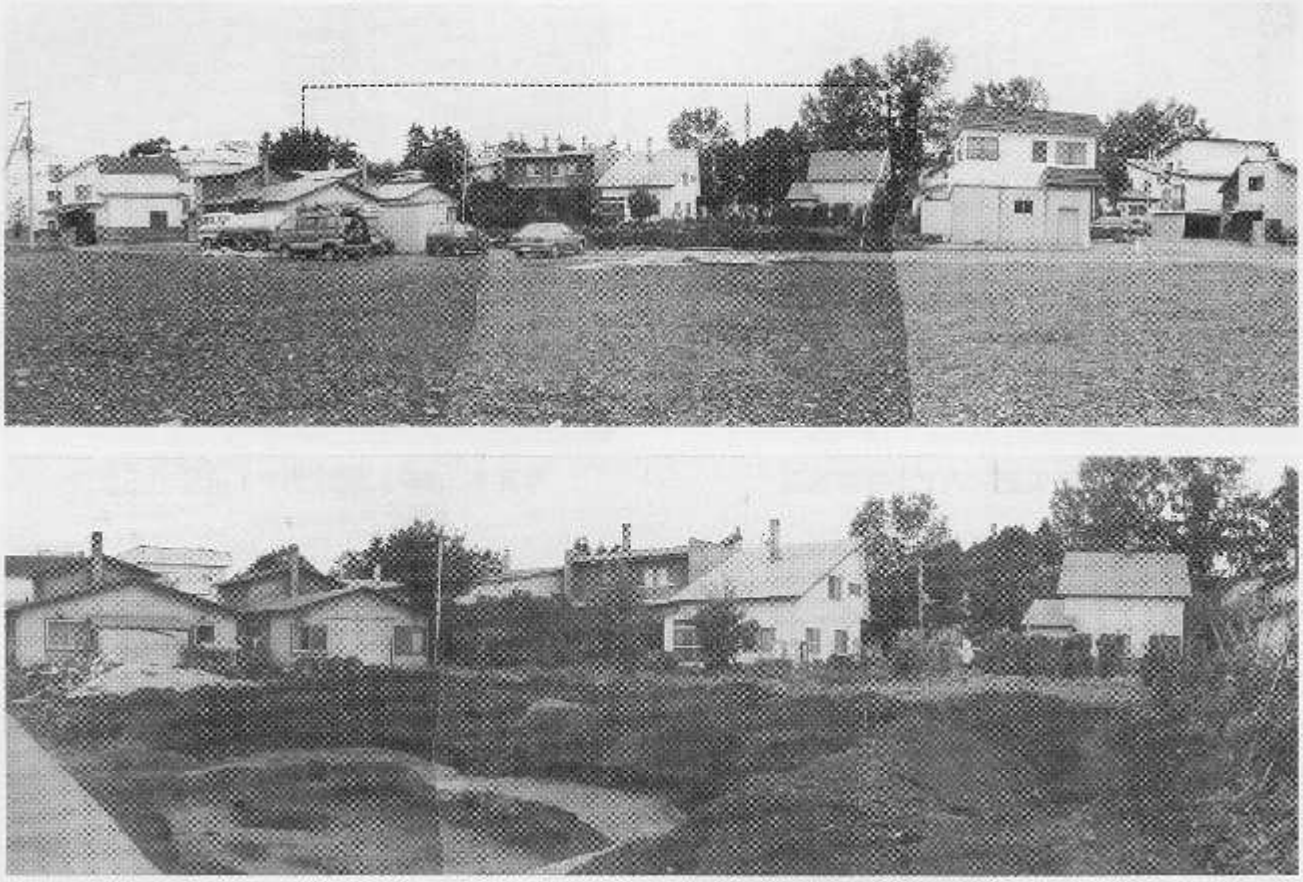


写真1　遺跡全景

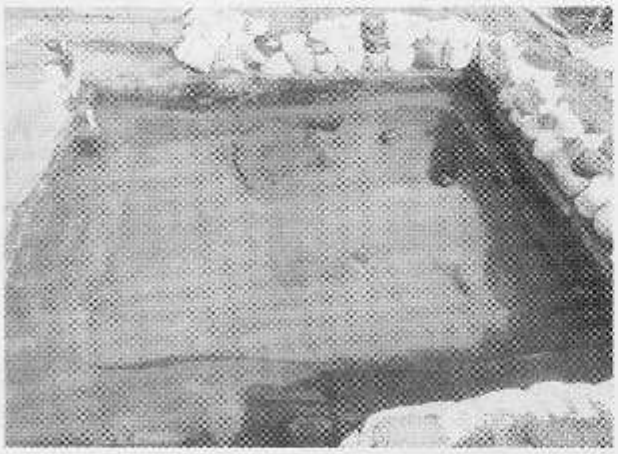


写真2　DP01堅穴完掘

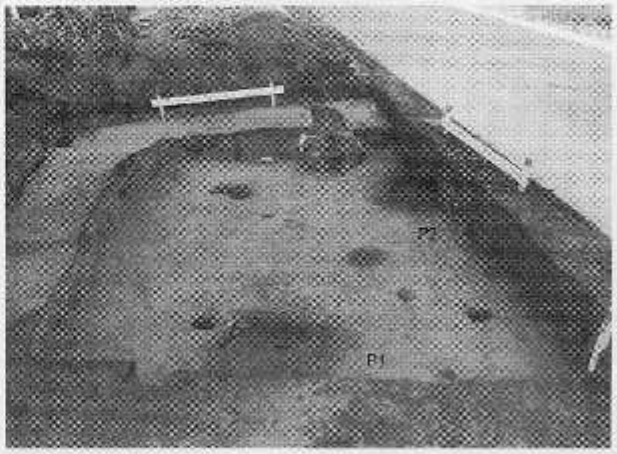


写真3　DP02堅穴完掘

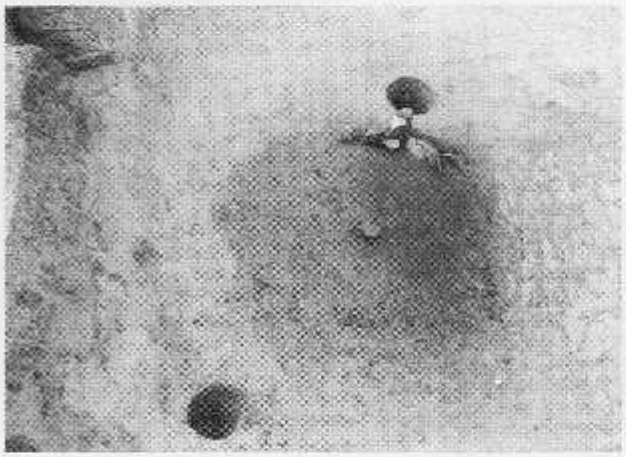


写真4　DP 02堅穴内P 1確認状況

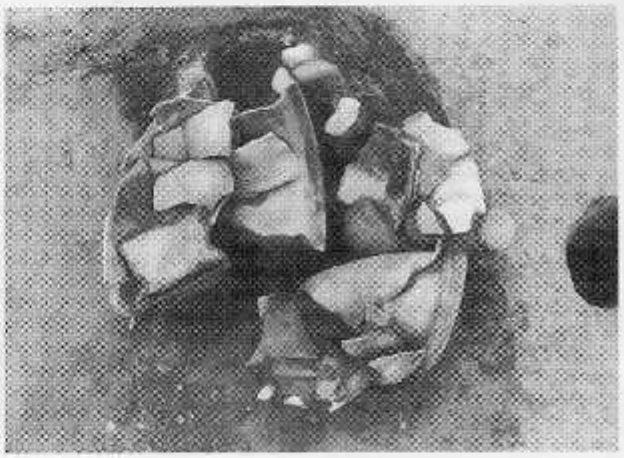


写真5　DP 02堅穴内P 1遺物出土状況

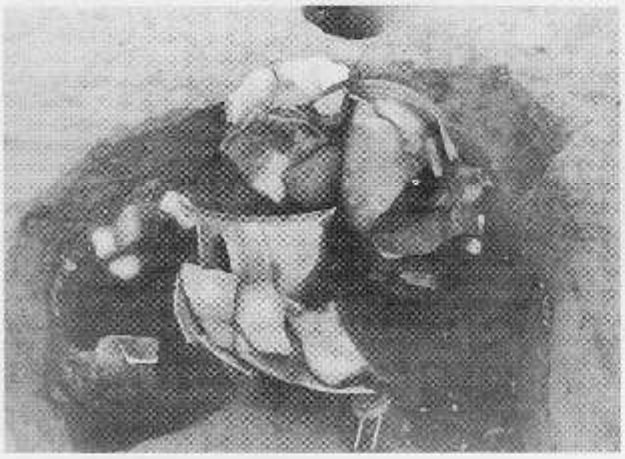


写真6　DP 02堅穴内P 1遺物出土状況

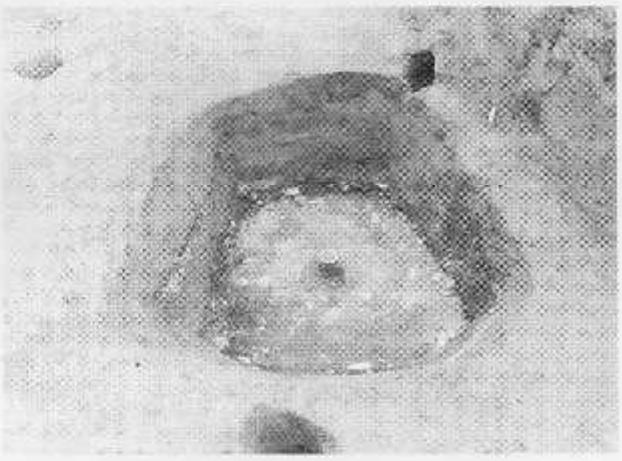


写真7　DP 02堅穴内P 1完掘

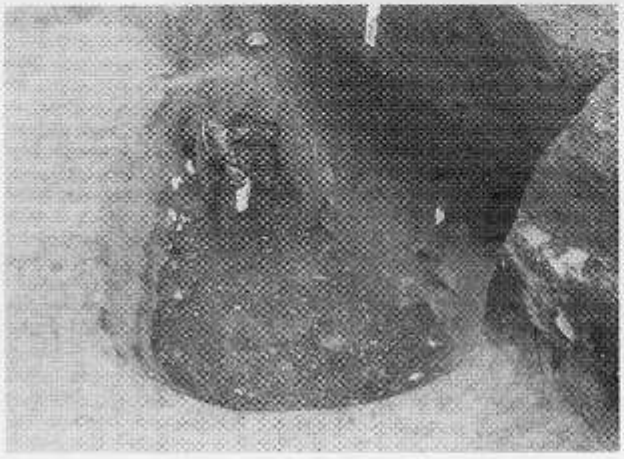


写真8　DP 02堅穴内P 2完掘

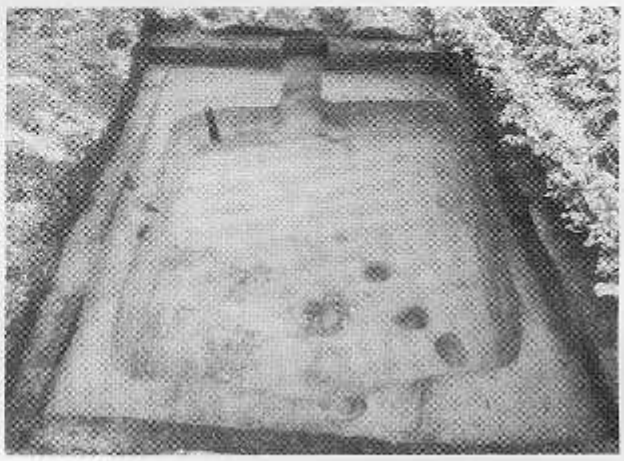


写真9　DP 03堅穴完掘

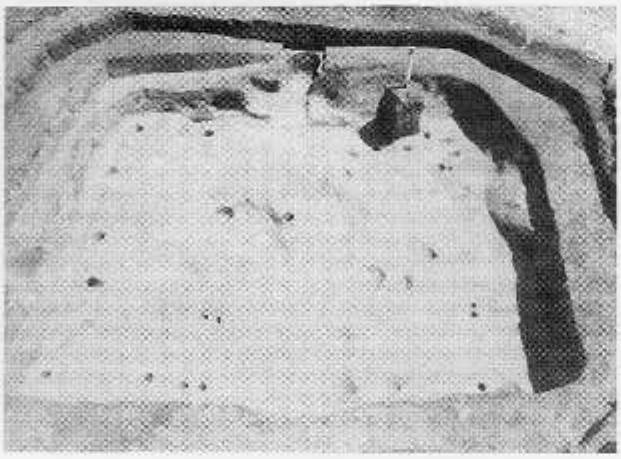


写真10　DP 04堅穴完掘

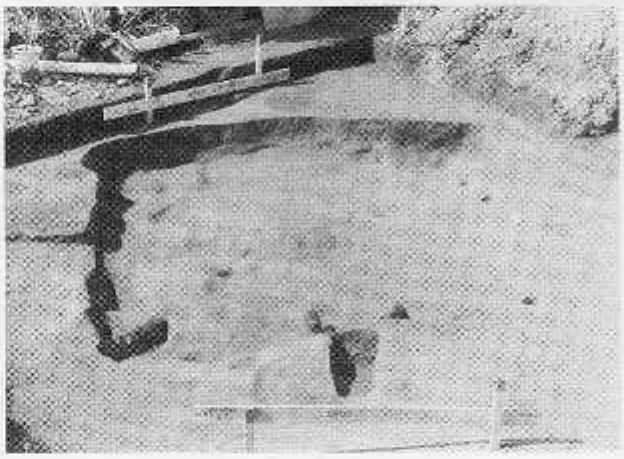


写真11　DP 05堅穴完掘

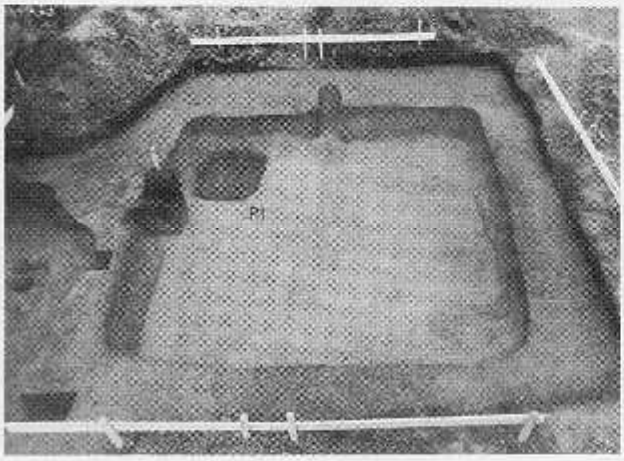


写真12　DP 05堅穴完掘

写真13　DP 07堅穴完掘

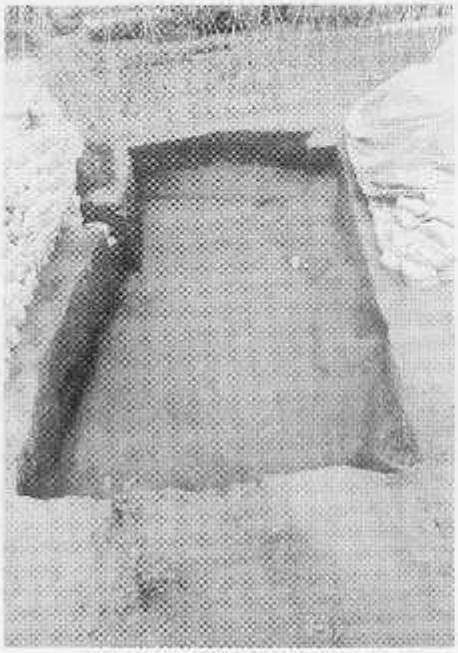


写真14　DP 08堅穴完掘

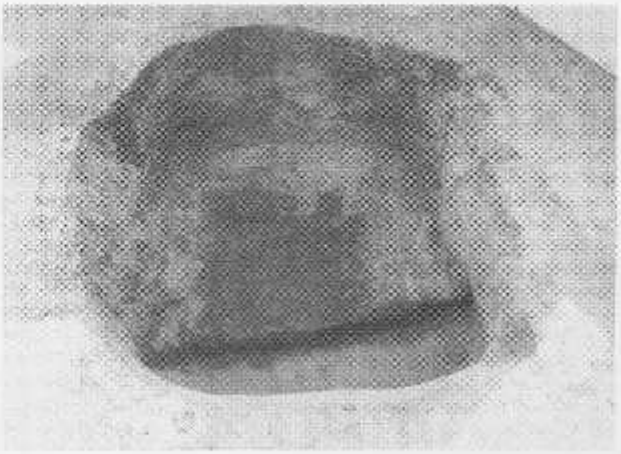


写真15　P－01炭化物出土状況

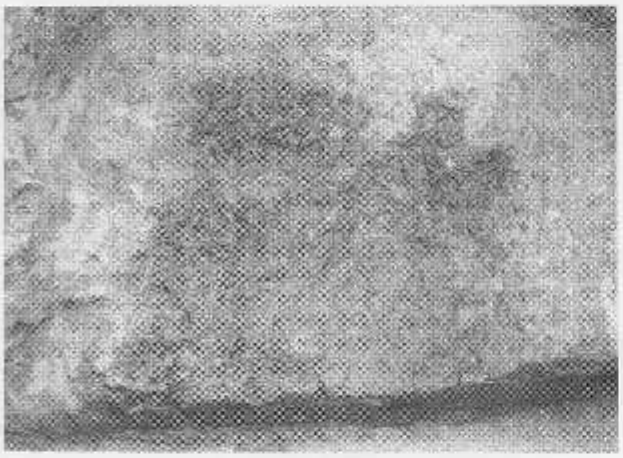


写真16　P－01炭化物出土状況（拡大）

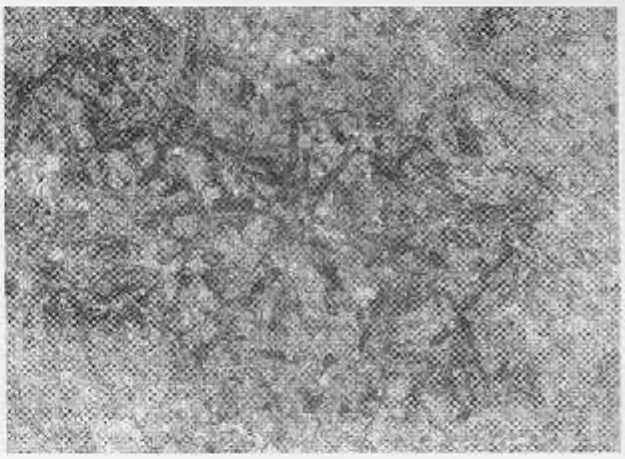


写真17　P－01炭化物出土状況（拡大）

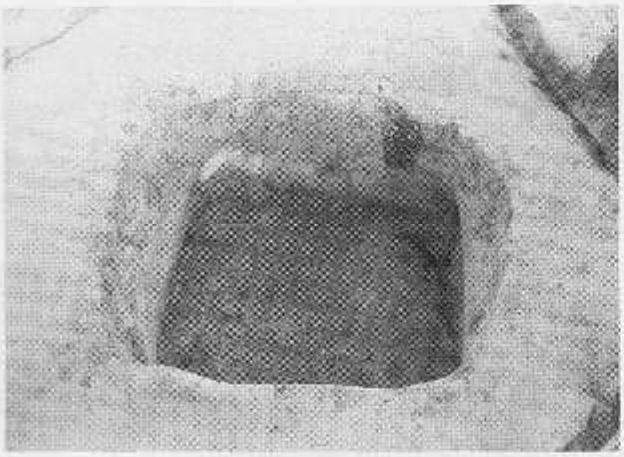


写真18　P－01完掘

旭川市博物館研究報告　第2号　1996年3月

文献資料のデータベース化

向　井　正　幸

旭　川　市　博　物　館

はじめに

旭川市博物館は、平成5年9月に新しくオープンし、それまで市立旭川郷土博物館で所蔵していた図書関係資料[注1]をすべて受け継いだ。これらの図書関係資料は、登録され台帳は存在してはいたが、膨大な資料を台帳で検索していくなど管理上支障をきたすことがあった。また未登録のものや、文献資料としてふさわしくないもの、例えば博物館資料に類するものや、現場担当者の考えで廃棄が適当とされるものなどが多数存在し、見直しをかけざるを得ない状況であった。これらの問題を解決するためにパーソナルコンピュータ(以下、パソコン)による文献資料の管理システム、すなわちデータベース化が要求された。

以下、アプリケーションソフト(以下、ソフト)を使って自己開発した「文献資料検索システム」の導入までの図書関係資料の整理の仕方と文献資料検索システムの概要を述べる。

1．分類作業

博物館で所蔵している図書関係資料は数万点が予想された。この資料から文献資料を選び出し整理するために次のように定義づけて分類することから始めた。

①1年保存文書

雑誌関係・ポスター・商業的な目録(カタログ)・博物館園の連絡文書等。

②5年保存文書

博物館園に関するたより及びニュース・月報及び年報(論文が記載されていないもの)等。

③永年保存文書(文献資料)

研究論文・研究報告・紀要・参考資料など調査研究を進めるうえで必要な文書類。

④廃棄文書

保存年限を過ぎた文書類、未登録で且つ性格上保存の必要性がないもの。

⑤博物館資料

博物館資料として既に登録されているもの。又は文献資料としては使用できず、むしろ博物館資料として保存するほうが適当なもの。

これらは当館独自に決定したものであり、他館園では適当でないところもあるかもしれないが、図書関係資料を根本的に分類整理していくうえで適当と判断した。

永年保存文書とされる“文献資料”に関する分類(表1)は、当初図書館で使用している日本十進分類法を参考にすることを試みたが、当館所蔵図書の実態と合わないため当館独自の方法で分類をした。従って、分類された図書の内容は、当館の文献資料の特色を表わしていると言える。

実際の作業に関しては、分類を館職員が行い、整理に関してはボランティア[注2]が週1回の割合で行った。また、台帳に登録されていた図書関係資料のうち廃棄文書及び博物館資料に相当するものは履歴を残すために新しく台帳を作成した。

廃棄文書は、この後、図書館職員によってあらためて必要な文書を抜き出したのちに廃棄処分された。

コード	内　　容
01	各種統計・要覧(各市町村)・北海道統計書等
02	事典・辞典・字典
03	年鑑
04	旭川市博物館・旭川市各施設等の各種刊行物※1
05	道内の博物館園の各種刊行物（研究報告・研究紀要・展示案内・収蔵資料目録等）
06	道外の博物館園の各種刊行物（研究報告・研究紀要・展示案内・収蔵資料目録等）
09	大学及び調査研究機関の報告書等
10	日博協・道博協・各種学会等の関係書
11	歴史一般
12	北海道史関連
13	旭川市史及び旭川の歴史関係書
14	道内の各市町村史
15	道外の各市町村史
16	企業や官公庁等の〇〇史
17	民族学関係・文化人類学
18	考古学・旭川市の発掘調査報告書及び文化財関係
19	北海道埋蔵文化財センター報告書
20	道内の発掘報告書及び埋蔵文化財関係
21	道外の発掘報告書及び埋蔵文化財関係
22	民俗学・人文地理学・生活史・民間信仰
23	人物伝・伝記
24	社会教育・学校教育・郷土関係
25	自然科学一般・科学一般
26	地球科学・地学・地質学・天文学・気象学・鉱山工学・土木工学
27	植物学・一般植物学
28	動物学・一般動物学・昆虫・鳥類
29	情報科学・コンピュータ関係
50	その他登録図書
99	児童書・生徒図書

表1　文献資料に関する分類

※1　旭川市教育委員会、旭川市彫刻美術館、旭川市史編集事務局等をいう。

2．整理作業

書棚の割り当て(図１)は、以下のことを十分考慮して行った。

①各分類に基づいた文献資料の量

②将来の予想される文献資料の増加量

③書棚の空き具合

④１冊の図書の版の大きさ

また資料室内での検索を早めるために、文献資料は分類別ごとに館名や書名を名寄せで並べたり、書棚にインデックスを置くなどして、その分類された書棚で一番適当と思われる順番に、しかもわかりやすく配置した。

以上の分類及び整理作業の過程は、ボランティアに頼るところが大きかった。また、これまでの作業におよそ半年(図２)を費やした。

3．入力作業

入力作業は文献資料の分類・整理作業が終わったところから順次行われた。

入力は、入力内容の偏りが極力小さくなるように１人の臨時職員に任せたほか、数人で行った。入力票は一切用いず、パソコン画面上のフォーマットに従って文献資料を見ながら直接行った。パソコン画面上のフォーマットは図３の様になっており、文献資料の必要最低限の情報を網羅するように考慮した。入力が終了した文献資料は、二重登録を防ぐために付箋を貼って未登録分と区別した。

この入力作業は、文献資料室分だけでも更に半年以上(図２)費やした。

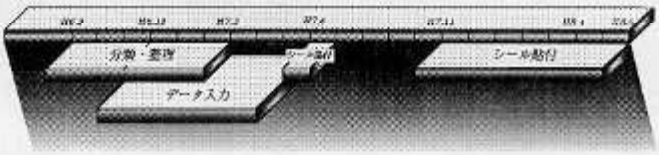


図２　文献資料データベース化作業日程

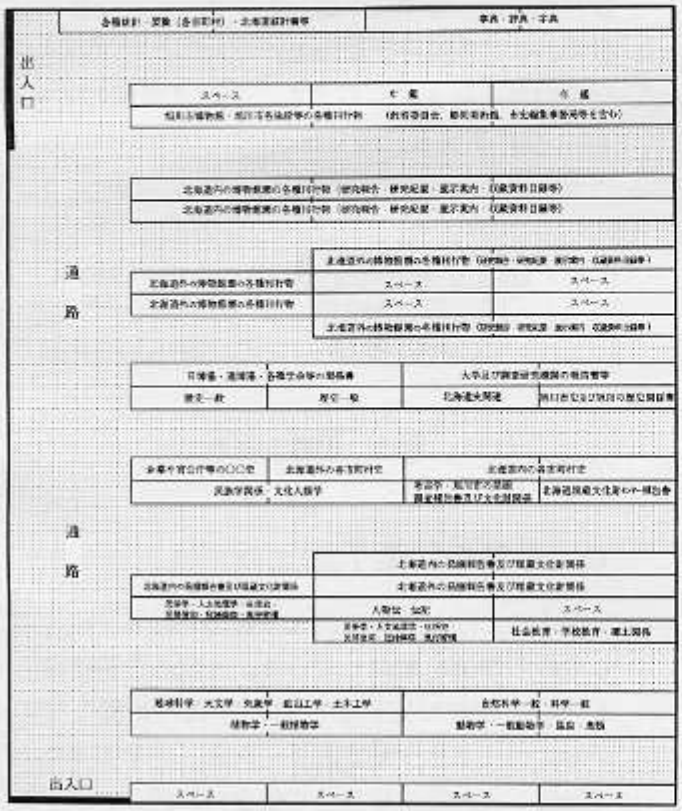


図１　文献資料室における書棚の割り当て

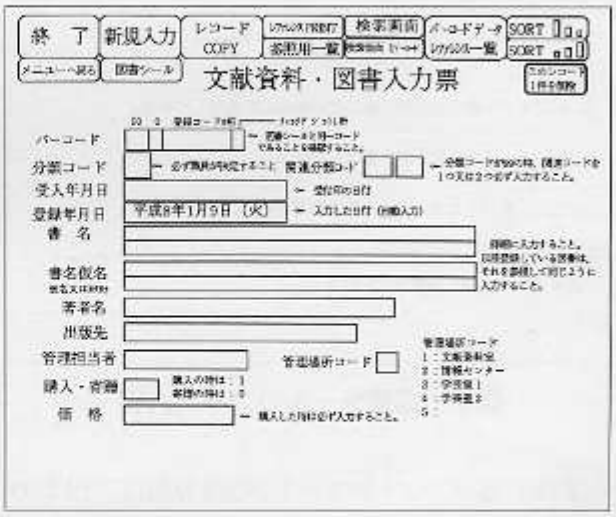


図３　パソコン画面上のフォーマット
(新規入力画面)

4．出力作業及びレファレンスサービス

入力された文献資料データは、最後に10桁からなる登録コードを一斉につけた。このコードは、本市の中央図書館[注3]などでつけているコードと同様の意味(図4)を持たせた。これは将来専用電話回線等を通じて、データのやり取り[注4]ができるように考慮したものである。

データ(レコード)の出力内容は、文献資料が持っている検索に必要なデータをほぼ網羅することを考慮して以下の項目を出力した。

①管理場所
②分類コード
③分類名称
④登録コード
⑤書名
⑥著者名
⑦出版先

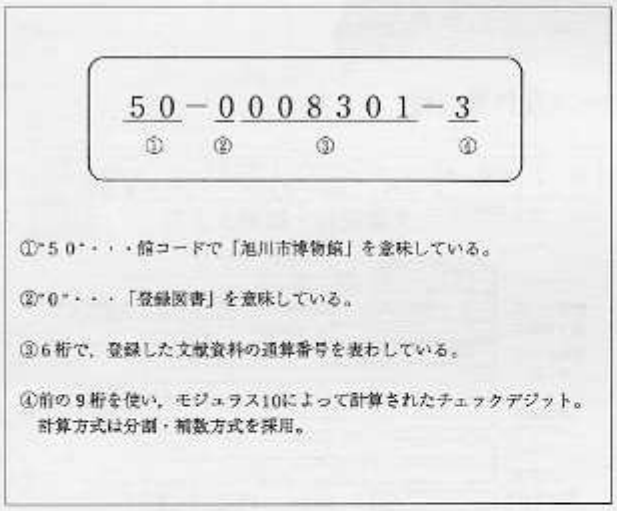


図4　図書シールのコード内容

また、各データ(レコード)の出力順は、以下の順で行った。

①管理場所
②分類コード(及び関連番号)
③出版先
④図書名の名寄せ

従って、一般的な検索内容であればこの出力内容で対応は充分可能であると言える。このデータ一覧は、中央図書館へ「文献資料一覧表」(表2)として出力され、これによって外部からは図書名又は登録コード等で参照することが可能となった。この文献資料一覧表は、今後年1回程度更新または追録加除する予定である。

また、同様に当館情報センターにおいても、参照用の「文献資料一覧表」(表3)を自由に検索閲覧できるほか、要望があれば情報センター職員が、パソコンを利用して文献資料の検索サービスを行い、実際の文献資料を閲覧することが可能となった。

5．図書シール貼付作業

最後に、図書シールの貼付作業を行った。

本来、作業としてはパソコン入力時に登録コード(バーコード)が印刷された図書シールを貼付することが効率的であったが、予算の都合もあり最後の作業となった。図書シールは、中央図書館で使用しているシールと同一のデザインと規格(バーコードフォント：NW 7　図5)からなるものを使用し、シールの上に必ず透明なラベル保護シール(ラベルキーパー)を貼った。図書シールの貼付場所は、簡単に確認をとり易くするために文献資料の裏表紙の下部中央にした。

この作業は現在も行われ、平成8年度初め(図2)には終了する計画である。

図5　図書シール

6．今後の作業予定

基本的には、新規に購入・寄贈される文献に関し登録の作業を継続していく。今回の作業はほとんどが文献資料室における文献資料に関してのデータベース化作業であり、今後、各学芸室などで保管してある未登録の文献資料に関し、数年をめどに順次登録していく予定である。

文献資料一覧表

管理場所 文献資料室

分類コード 25　分類名称 自然科学一般・科学一般

登録コード	書　名	著者名	出版先
5000085513	臺灣の植物	工藤祐舜	岩波講座生物学
5000085521	炭素及び窒素の同化作用	柴田　桂太	岩波講座生物学
5000085539	鳥獣保護	内田清之助	岩波講座生物学
5000085547	天然紀念物	三好学	岩波講座生物学
5000085554	東亜植物区景	中井　猛之進	岩波講座生物学
5000085562	動物園	小泉　丹	岩波講座生物学
5000085570	動物生態学	川村　多実二	岩波講座生物学
5000085588	動物命名規約	江崎悌三	岩波講座生物学

表 2　中央図書館用「文献資料一覧表」の出力例

文献資料一覧表

管理場所 文献資料室

分類コード 25　分類名称 自然科学一般・科学一般

書名 / 出版社	登録コード（バーコード） / 著者名
5000082874 Annelida Polychaeta in Onagawa Bay and its Vicinity I. Polychaeta Sedentaria	SHIRO OKUDA
5000082882 NOTE ON TWO UNRECORDED PELAGIC POLYCHAETES FROM JAPAN	SHIRO OKUDA
5000082890 Occurrence of Priapulus caudatus in Northern Japan	SHIRO OKUDA
5000083013 愛媛の自然 12 一九七〇	愛媛自然科学教室
5000083021 愛媛の自然 13 一九七一	愛媛自然科学教室
5000083039 愛媛の自然 第22巻 第1号	愛媛自然科学教室

表 3　旭川市博物館用「文献資料一覧表」の出力例

7．文献資料検索システムの概要について

(1) 動作環境

当館の「文献資料検索システム」は、情報センターに設置され以下のような機器類で構成されている。ただし、現在のところプリンタに関しては同一環境下にはない。

パソコン

本　体　Apple 社製 Macintosh LC Ⅲ

システム　漢字 Talk 7

C P U　モトローラ68030(25 MHz)

メ モ リ　12 MB

内蔵ハード　80 MB

ソフト

CLARIS 社製　ファイルメーカーPro 2.1

プリンタ

Apple 社製　Laser Writer Select 300

バーコードスキャナ

Super Scan LSR　レーザースキャナ

(2) 一連のパソコン処理の流れ

文献資料のパソコンによる処理は、以下のとおりである。

A　データ更新

(a)　ファイルを開く

LCⅢ上の検索システムのファイルをダブルクリックし、ファイルを開く。

(b)　パスワードを入力

パスワードは、参照用と管理用の2種類用意されている。参照用は図書データの検索など参照のみ可能であり、管理用はデータの登録・変更・削除等すべての操作が可能である。パスワードを入力しクリックすると、最初の画面(図6)があらわれ，更に"START"ボタンをクリックすると次のメニュー画面(図7)に展開する。

(c)　文献資料のデータ登録

メニュー画面の"入力画面"をクリックし、データ更新画面(図8)を出し、更に"新規入力"ボタンをクリックして、新規入力画面(図3)にする。

入力画面では、以下の「項目」について順次入力する。

・バーコード

図書シールに印刷されている10桁の登録コードを入力する。最初の2桁は、館コードで「旭川市博物館」を意味し、次の7桁は登録コード(最初の1桁は登録図書を意味し、次の6桁は登録した文献資料の通算番号を意味する)になり、最後の1桁は前の9桁のコードから計算されたチェックデジットを表わしている。このチェックデジットの方式は、モジュラス10を採用し、計算方式は分割・補数方式とした。

・分類コード

当館独自の分類法に基づいた2桁のコードを入力する。このコードは、文献資料の分類を表わすほかに、文献資料室内の分類に基づいた書架の場所も表わしている。

・関連分類コード

児童書・生徒図書(たいてい情報センターにある図書)は、分類コード"99"のみを使用するが、その詳細な図書分類を表わすための補助的なコード。

・受入年月日

文献資料を購入又は寄贈を受けた年月日をいう。文献資料に押印された受付印の年月日を数字とピリオドで入力する。

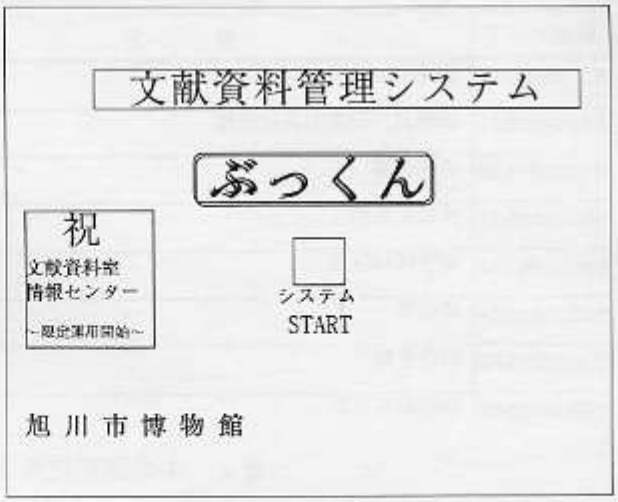


図6　最初の画面

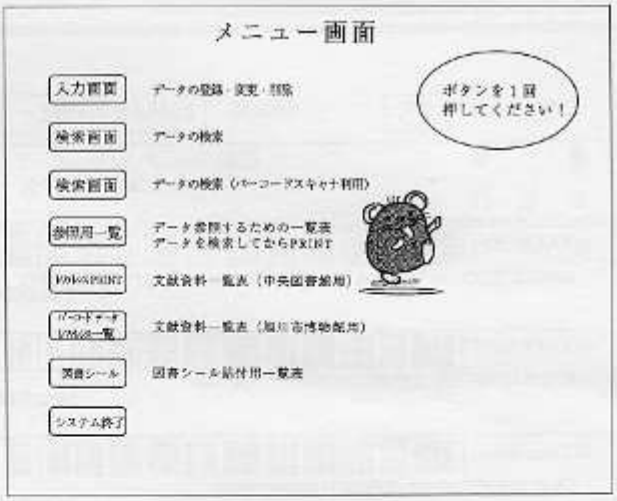


図7　メニュー画面

図8　データ更新画面

・登録年月日

文献資料をパソコンに登録した年月日をいう。これは自動入力のため、実際には入力しない。

・書名

文献資料の書籍名称である。詳細に入力されることが要求され、また以前に登録されたことがある文献資料に関してはそれを参照し、同様に入力することが要求される。

・書名仮名

文献資料の書籍仮名名称である。パソコンで並べ替えする時に必要なデータである。詳細に入力されることが要求される。

・著書名

文献資料の著者名を入力する。

・出版先

文献資料の出版先を入力する。博物館園であったり、出版社であったりする。

・管理担当者

文献資料を管理する者のなかで、一番適当な職員の氏名を入力する。

・管理場所コード

文献資料の置き場所をコードで入力する。

・購入・寄贈

購入の時は“1”を入力し、寄贈を受けたときは“0”を入力する。文字は自動表示される。

・価格

文献資料を購入した時は、必ず入力する。

入力が複数にわたるときは、(c)を再び繰り返す。データの修正や削除は、Bの“データ検索”によって検索後、それぞれの操作を行うことができる。

データの更新が終了すれば(d)へ進む。

(d) ファイルを閉じる(又はソフトを終了させる)

“終了”ボタンを1回クリックする。

B データ検索

(a) ファイルを開く

LC Ⅲ上の検索システムのファイルをダブルクリックし、ファイルを開く。

(b) パスワードを入力

参照用のパスワードを入力する。

(c) データの検索

メニュー画面で、“検索画面”ボタンをクリックして検索画面(図9)を出す。データ検索は、“検索条件”ボタンをクリックすることによって、登録された項目すべてで可能であり、様々な条件で検索することが可能である。また、当館専用の文献資料一覧表(表3)からバーコードスキャナで読み取って検索することも可能である。その時は、“バーコード検索”ボタンをクリックしてバーコード専用検索画面(図10)を出してから行う。

(d) ファイルを閉じる(又はソフトを終了させる)

“終了”ボタンを1回クリックする。

C 各種データ処理

メニュー画面で各処理を選択し、以下の様な処理を行い出力することができる。

①参照用一覧(表4)

データを参照するための一覧表。データを検索してから出力できる。

②レファレンスPRINT(表2)

中央図書館において市民が参照するための文献資料一覧表である。

③バーコードデータレファレンス一覧(表3)

旭川市博物館において市民が参照するための文献資料一覧表である。

④図書シール(表5)

図書シール貼付作業用の資料一覧である。

おわりに

文献資料に関するパソコンでの管理は、たいていの博物館園においてまだ手付かずのところが多いのではなかろうか。今回の当館のシステムは、

①分類方法が独自のものであること。

②登録コード(バーコード)を利用した管理方法をとっていること。

③様々な検索が容易であること。

以上が大きな特徴といえるであろう。

旭川市博物館が所有する文献資料は、登録済みで約1万件以上を数えた。これらは、情報公開という意味で市民に対しても提供する役割が果たせたのではないかと考えている。文献資料は現時点において市民一般に対して閲覧は可能であるが、貸出は原則として行っていない。しかし近い将来

文献資料（参照用）一覧

管理場所 文献資料室

分類コード 25　分類名称 自然科学一般・科学一般

登録コード	書　名	著 者 名	出 版 社
5000086503	神奈川自然保全研究会報告書　第4号		神奈川自然保全研究会
5000086511	神奈川自然保全研究会報告書　第5号		神奈川自然保全研究会
5000086529	神奈川自然保全研究会報告書　第6号		神奈川自然保全研究会
5000086537	神奈川自然保全研究会報告書　第7号		神奈川自然保全研究会
5000086545	神奈川自然保全研究会報告書　第8号		神奈川自然保全研究会
5000086552	神奈川自然保全研究会報告書　第9号		神奈川自然保全研究会
5000086479	神奈川自然保全研究会報告書　第10号		神奈川自然保全研究会
5000084839	自然保護調査報告書		旭川市
5000084870	自然保護調査報告書　第2報		旭川市
5000084847	自然保護調査報告書　Vol5		旭川市
5000084854	自然保護調査報告書　Vol8		旭川市

表4　参照用一覧の出力例

図書シール貼付　チェックリスト

チェックボックス	登録NO	書籍名称
	5000084706	愛媛の自然　第35巻　第9号
	5000084714	愛媛の自然　第36巻　第1号
	5000084722	愛媛の自然　第36巻　第10号
	5000084730	愛媛の自然　第36巻　第11号
	5000084748	愛媛の自然　第36巻　第12号
	5000084755	愛媛の自然　第36巻　第2号
	5000084763	愛媛の自然　第36巻　第3号

チェックボックス	登録NO	書籍名称
	5000085166	学界雑記　生物学者傳記　参考書文献紹介　学界消息　編輯雑記
	5000085174	学会雑記　編輯雑記
	5000085182	学会消息　編輯雑記
	5000085190	毛の生物学
	5000085208	原形質
	5000085216	甲殻類
	5000085224	呼吸及び酸醇

表5　図書シール貼付リスト

一般の貸出も行われる時が来ることが予想され、そのときのために図書館が行っているような「利用カード」使用したシステムを構築していきたいと考えている。

注1　図書関係資料…博物館に存在する図書類すべてを指している。
注2　ボランティア…退職校長会によって組織されている。当館では、木曜班と木曜庭に分かれていて、このうち木曜庭が図書関係書類の分類整理にあたった。
注3　中央図書館…正式名称「旭川市中央図書館」
〒070　旭川市常盤公園
注4　当館はApple社製パソコンMacintoshを使用しているのに対し、中央図書館は、NECの汎用機を利用している。現在のところ互換性に欠ける。

旭川市博物館研究報告　第2号　1996年3月

パソコンを利用した入館者統計処理について

向　井　正　幸

旭　川　市　博　物　館

はじめに

博物館を運営していく上で、入館者統計書の作成は必須事務であるが、入館者数が多ければ多いほど、この統計の処理は複雑となり1日に費やす時間も多くなる。また、月処理・年処理になると更に時間がかかり短時間での手作業では限界がある。

当館は平成5年9月にオープンし、その翌年の平成6年6月からは、完全にパーソナルコンピュータ(以下、パソコン)とアプリケーションソフト(以下、ソフト)をカスタマイズした独自の入館者統計処理を行ってきた。平成7年度には定期観光バスの受け入れが新たに始まり、それをパソコンで処理させるためにソフトを大幅に作りかえた。今後大きな変更予定はなく、かつソフトの内容も完成度が徐々に高くなり"安定"してきたと考えられるので、当館のパソコンによる「入館者管理システム」の一連の処理を紹介し、当館の統計処理ソフトの特色について簡単に説明したあと、使用中に発生した問題点とその解決方法と今後の課題について述べる。

1　動作環境

当館の「入館者管理システム」は、以下のような機器類で構成されている。

パソコン

本　　体	Apple社製　Macintosh Quadra 650
システム	漢字Talk 7.5
C P U	モトローラ68040(33 MHz)
メ モ リ	8 MB
内蔵ハード	230 MB

ソフト

CLARIS社製	ファイルメーカーPro 2.1

プリンタ

Apple社製	Laser Writer Select 300

2　処理方法

通常、入館制限時間である午後4時30分が過ぎた後、臨時職員が入力を毎日行っている。入力データは、当日の各種入館者をまとめて入力票(誤入力を防ぐため、入力画面と同じ様式)に記入し、それを見ながらパソコンへ入力をする。そのため入力データは極力最小限にした。

以下に、「入館者管理システム」の一連の処理を紹介する。

(1)　ファイルを開く

Quadra 650上の「入館者管理システム」のファイルをダブルクリックする。

(2)　パスワードを入力

パスワードは、1種類用意されている。このパスワードは、臨時職員の入れ替わりの時など数カ月に1回変更される。

パスワードを入力しクリックすると、最初の画面(図1)があらわれ、更に"START"ボタンをクリックすると入力画面(図2)へ展開する。

(3)　データ入力

入力画面で"新規データ"をクリックすると新し

いレコードが画面にあらわれる。入力する項目と内容は以下のとおりである。

①年月日

観覧日のデータを入力する。入力は数字とコンマのみで行う。例)96.1.10

また、入力項目の右隣には、参考までに入力の日付が自動的に表示される。

②調定番号

年度内一連番号を入力する。定期観光分についても別の年度内一連番号を入力する。

この各項目の右隣には、前日の番号が自動的に画面表示される。

③有料団体件数

当日入館した有料の団体の件数。月ごとの現金取扱件数に加算するため必要である。

④観覧番号(通常観覧)

当日入館した一般と高校生、小中学生の個人のチケット番号(最初から最後の番号)をそれぞれ入力する。これによって個人の人数は自動計算される。

この左隣には、前日までのチケット番号が自動的に画面表示される。

⑤団体(通常観覧)

当日入館した一般と高校生、小中学生の団体の人数の内訳を入力する。小中学生の団体の中に幼児の人数も含む。

⑥定期観光(個人)

定期観光で当日入館した一般と高校生、小中学生の"個人扱い"の人数を入力する。定期観光は午前と午後に分けて入力する。各合計は、自動計算される。

⑦定期観光(団体)

定期観光で当日入館した一般と高校生、小中学生の"団体扱い"の人数を入力する。定期観光は午前と午後に分けて入力する。各合計は、自動計算される。

ここで言う団体とは、午前と午後合わせて20名以上になった時を指している。

⑧免除

旭川市大雪クリスタルホール条例施行規則第11条第1項の各号に該当する者を各項目に従って入力する。

図1　オープン後、最初の画面

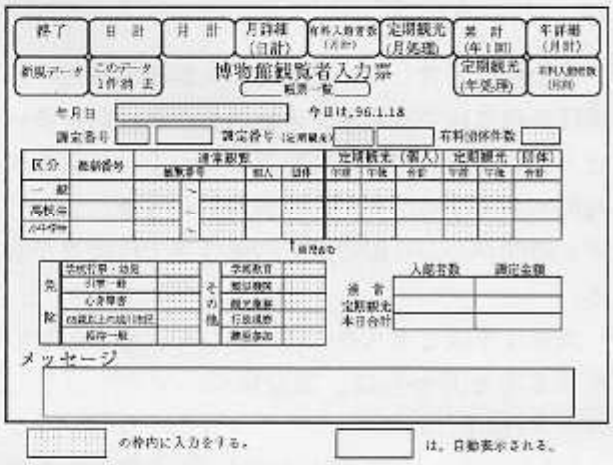


図2　入力画面

各項目の入力が終了すると、入館者数と調定金額(当日の収入)がこの画面に表示される。また、誤入力や入力漏れがあるとメッセージ欄にエラーの内容が表示される。

更に、1レコード全部が間違ったりしたときには、"このデータ1件消去"のボタンをクリックすると1レコードが削除される。

(4)データ出力

必要な各帳票は、以下のボタンをクリックすることによって自動的に出力される。

①日計

当日分の観覧者内訳の詳細な一覧表(図3)が出力される。

当館では、この出力された内容を参照して直ちに当日の出納事務に移ることができる。

この処理は毎日行われている。

②月計

ひと月分の観覧者内訳の詳細な一覧表(図４)が出力される。

この処理は、毎月末に１回行われている。

③月詳細(日計)

ひと月分の観覧者内訳が、１日ごとの詳細な一覧表(図５)となって出力される。

この処理は、毎月末に１回行われている。

④有料入館者数(月計)

ひと月分の“有料”観覧者内訳が、１日ごとの詳細な一覧表(図６)となって出力される。

この処理は、毎月末に１回行われている。

⑤定期観光(月処理)

このボタンをクリックすることによって以下の帳票が出力される。この処理は、定期観光期間中の月末に１回処理を行う。

⑤－１定期観光観覧内訳(図７)

これは、毎月の定期観光の詳細な内訳が載っている。当館で決裁したあと、複写し、相手方に送付している。

⑤－２観覧料納入依頼文書(図８)

これは、毎月の納入金額を相手方に通知する文書である。

⑤－３観覧者数明細簿(図９)

これは、定期観光分を含めたひと月分の観覧者内訳が、１日ごとの詳細な一覧表となって出力される。

⑤－４有料入館者統計(図10)

これは、定期観光分を含めたひと月分の“有料”観覧者内訳が、１日ごとの詳細な一覧表となって出力される。

⑥累計(年１回)

当年度分の観覧者内訳が、詳細な一覧表(図11)となって出力される。

この処理は、年度末に１回行われる他、年度途中でも必要に応じて出力が可能である。

決　裁

館　長	副館長	係　長	係

旭川市博物館観覧者数明細簿　＜日　計＞

平成7年9月30日（土）分集計　　調定番号 171　　調定番号（定期観光）107

	区分	観覧者				減免申請分			合計		定期観光		
	種別	観覧番号	金額	人数	金額	条例規則	区分	人数	区分	人数	区分	入館者数	
個人	一般	35411～35476	400	66名	26,400円	11-1-1	学校行事(20名未満・小中学生)，幼児	1名	一般	103名	個人 一般	4名	
	高校生	577～578	300	2名	600円	11-1-2	幼稚園～高等学校の引率に当たる教職員等	1名	高校生	2名	高校生		
	小中学生	9908～9934	100	27名	2,700円	11-1-3	心身障害児（者）及びその介護者		小中学生及び幼児	55名	小中学生		
	合計			95名	29,700円	11-1-4	満65歳以上の旭川市民	2名	上記以外（心身障害者及びその介護者）		団体 一般	※※※※※	
団体	一般	※※※※※※	320	32名	10,240円	11-1-5	学術教育研究機関職員，その関係者				高校生	※※※※※	
	高校生	※※※※※※	240				類似機関の関係職員とその関係者		合計 (c)	160名	小中学生	※※※※※	
	小中学生幼児	※※※※※※	0	27名	0円		観光来館者の来館目的種類化及びその引率者		(c)=(a)+(b)		合計 (d)	4名	
	合計			59名	10,240円		行政視察者，教育施設及びその職員	2名	(e)=(c)+(d)		区分	金額	
合計	観覧者	(a) 154名					市及び市教育委員会主催の行事関係者		本日の現金取扱件数	95件	個人 一般	1,600円	
		39,940円					招待者				高校生		
							合計 (b)	6名			小中学生		
											団体 一般	※※※※※	
											高校生	※※※※※	
											小中学生	※※※※※	
											合計	1,600円	
											個人料金扱い		

当日分					
本日観覧者数	(e) 164名	内訳	定期観光	4名	通常観覧者数 160名
本日の調定額	41,540円		後納申請金額	1,600円	収納金 39,940円

累計					
観覧者数累計	18,485名	内訳	定期観光	642名	通常観覧者数 17,843名
累計金額	3,374,140円		後納申請金額	246,340円	収納金 3,127,800円

年度07　期(月)9　会計01　11款 1項 7目 4節　一般会計　博物館使用料　担当課コード 320601　納期限 平成７年10月16日

条例・規則　旭川市大雪クリスタルホール条例施行規則第１１条第１項の各号をいう。

必要帳票類　収入調定票（２部），納入病通知書（２部），収納金収入原符引継書

＜日　計＞

図３　当日分の観覧者内訳

向井正幸

旭川市博物館観覧者数明細簿　＜月　計＞

決裁			
館長	副館長	係長	係

9月分　平成7年9月1日（金）から　平成7年9月30日（土）まで　調定番号 144～171　調定番号（地区観光） 81 － 107

区分		観覧者				減免申請分			合計		定期観光	
	種別	観覧番号	金額	人数	金額	条例規則	区分	人数	区分	人数	区分	入館者数
個人	一般	34463～35476	400	1,014名	405,600円	11-1-1	学校行事（幼名来園・小中学生），幼児	106名	一般	2,232名	個人 一般	113名
	高校生	569～578	300	10名	3,000円	11-1-2	幼稚園～高等学校の課程に進ずる教育機関	88名	高校生	10名	高校生	
	小中学生	9723～9934	100	212名	21,200円	11-1-3	心身障害児（者）及びその介護者	68名	小中学生及び幼児	1,996名	小中学生	1名
	合計			1,236名	429,800円	11-1-4	満65歳以上の旭川市民	253名	上記以外（心身障害者及びその介護者）	68名	団体 一般	
団体	一般	※※※※※※	320	414名	132,480円	11-1-5	学術教育研究機関職員，その関係者	13名			高校生	
	高校生	※※※※※※	240				幼稚園等の関係職員とその関係者	18名	合計 (c)	4,306名	小中学生	
	小中学生幼児	※※※※※※	0	1,678名	0円		幼稚園等の職員外保護者及びその外関係者	16名	(c)=(a)+(b)		合計 (d)	114名
	合計			2,092名	132,480円		行政視察者，視察指導及びその職員	334名	(e)=(c)+(d)		区分	金額
合計	観覧者	(e) 3,328名					市及び市教育委員会主催の行事関係者	82名			個人 一般	405,200円
		562,280円					招待者		今月の減免取扱件数	1,247件	高校生	
							合計 (b)	978名			小中学生	100円
											団体 一般	
											高校生	
											小中学生	
											合計	45,300円

当月分			内訳				
当月観覧者数	(*) 4,420名		定期観光	114名	通常観覧者数	4,306名	
当月の調定額	607,580円		後納申請金額	45,300円	収納金	562,280円	

累計			内訳					
観覧者数累計	18,485名		定期観光	642名	通常観覧者数	17,843名	年度当初歳入達成率	
累計金額	3,374,140円		後納申請金額	246,340円	収納金	3,127,800円	33.18%	

年度07　期(月)9　会計01　11款 1項 7目 4節　一般会計　博物館使用料　担当課コード 320601　納期限 平成7年10月16日

条例・規則　旭川市大雪クリスタルホール条例施行規則第11条第1項の各号をいう。　＜月　計＞
月末の"調定通知書"には，定期観光（後納）分を含めて記入すること。

図4　当月分の観覧者内訳

平成7年度　旭川市博物館観覧者数明細簿（月計）

決裁			
館長	副館長	係長	係

9月分

区分	個人				団体				減免申請分										合計						定期観光
日付	一般	高校生	小中学生	個人計	一般	高校生	小中学生	団体計	学校行事	引率者	心身障害	65歳以上	学術教育	関係機関	観光業務	行政視察	行事参加	招待者	免除合計	一般	高校生	小中学生	障害者	合計	収納金額	
95.9.1（金）	36			36	38		45	83	1	9		1			2	5	22		40	103		46		149	22,560	2
95.9.2（土）	33		6	39					2			9							11	32		8		40	9,800	4
95.9.3（日）	61	1	18	80					25	2		1					5		33	69	1	43		113	26,500	3
95.9.4（月）	35		2	37					2			1	2			14			19	52		4		56	14,200	3
95.9.5（火）	30		2	32	21		343	364		12	3	19		6					40	88		345	3	436	18,920	2
95.9.6（水）	25		9	34			196	196		8	1	2			1				12	36		205	1	242	10,900	5
95.9.7（木）	38			38			203	203		13				4	2				19	57		203		260	15,200	
95.9.8（金）	19			19			38	38		6		1				217			224	243		28		271	7,600	
95.9.9（土）	38	1	10	50					2			3		4			30		39	75	2	12		89	18,800	9
95.9.10（日）	81	2	13	96					3			10	2						15	93	2	16		111	34,300	2
95.9.11（月）																									0	2
95.9.12（火）	35			35			372	372	1	13		1	2		3				20	54		373		427	14,000	4
95.9.13（水）	10			10	66		135	201	11	9		2			4				26	91		146		237	25,120	4
95.9.14（木）	16			16			126	126	12	5						12			29	33		138		171	6,400	
95.9.15（金）	47	1	36	84					3			6	1						12	50	1	39		90	22,700	17
95.9.16（土）	51		5	56					12	2		2							16	55		17		72	20,900	7
95.9.17（日）	48	1	15	64					5		2	1				1			9	50	1	20	2	73	21,000	7
95.9.18（月）	3		2	5	30			30	2		8	3							13	45		4	8	57	13,880	5
95.9.19（火）	80			80					12	2	19	157		4					194	243		12	19	274	33,000	1
95.9.20（水）	36			36	61			61			8				1				9	96			8	104	33,120	3
95.9.21（木）	13			13	20			20			8								8	33			8	41	11,600	3
95.9.22（金）	14			14	44			44			10	5	1		1		25		42	90			10	100	19,680	5
95.9.23（土）	71		33	104	30			30	5		1	10				4			20	115		38	1	154	41,300	2
95.9.24（日）	70	1	23	94					5			10	2						17	82	1	28		111	30,600	4
95.9.25（月）																									0	1
95.9.26（火）	16			16	65			65					1			17			18	97				97	26,550	3
95.9.27（水）	30		10	40								2			1	50			53	83		10		93	13,000	4
95.9.28（木）	7			7			63	63	2			3				12			17	22		65		87	2,800	4
95.9.29（金）	27		1	28			140	140		6	8		2		1				17	35		141	8	185	10,900	4
95.9.30（土）	62	2	27	95	32		27	59	1	1		2				2			6	103	2	55		160	39,940	4

※ワク内の数字は，定期観光分を含まない。　入館者数累計 4,306名　累計金額 562,280円 ＜月詳細（日計）＞ ← 参考値

図5　毎月の観覧者内訳

旭川市博物館有料入館者統計

決　裁

館長	副館長	係長	係

平成７年度
９月分

区分	個人								団体							
日付	一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	合計 人数	合計 金額	一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	合計 人数	合計 金額
95.9.1 (金)	38	10,400					26	10,400	39	12,160			42	0	83	12,160
95.9.2 (土)	25	9,800			4	600	29	9,800						0		0
95.9.3 (日)	62	24,400	2	400	14	1,800	88	26,500						0		0
95.9.4 (月)	35	14,000			2	200	37	14,200						0		0
95.9.5 (火)	30	12,000			2	200	32	12,200	21	6,720			343	0	364	6,720
95.9.6 (水)	25	10,000			9	900	34	10,900					196	0	196	0
95.9.7 (木)	38	15,000					38	15,200					203	0	203	0
95.9.8 (金)	19	7,600					19	7,600					28	0	28	0
95.9.9 (土)	38	15,200	2	800	10	1,000	50	16,800						0		0
95.9.10 (日)	81	32,400	2	800	13	1,300	96	34,500						0		0
95.9.11 (月)														0		0
95.9.12 (火)	35	14,000					35	14,000					372	0	372	0
95.9.13 (水)	10	4,000					10	4,000	60	21,120			135	0	201	21,120
95.9.14 (木)	16	6,400					16	6,400					126	0	126	0
95.9.15 (金)	47	18,800	1	400	36	3,600	84	22,800						0		0
95.9.16 (土)	91	36,400			5	500	96	28,900						0		0
95.9.17 (日)	68	26,200	1	400	15	1,500	84	21,800						0		0
95.9.18 (月)	3	1,200			2	200	5	1,400	35	12,480				0	35	12,480
95.9.19 (火)	80	32,000					80	32,000						0		0
95.9.20 (水)	34	13,600					34	13,600	61	19,520				0	61	19,520
95.9.21 (木)	13	5,200					13	5,200	20	6,400				0	20	6,400
95.9.22 (金)	14	5,600					14	5,600	44	14,080				0	44	14,080
95.9.23 (土)	71	28,400			25	3,300	104	31,700	50	9,600				0	50	9,600
95.9.24 (日)	70	28,000	1	400	23	2,300	94	30,600						0		0
95.9.25 (月)														0		0
95.9.26 (火)	16	6,400					16	6,400	65	20,160				0	65	20,160
95.9.27 (水)	30	12,000			30	1,000	60	13,000						0		0
95.9.28 (木)	7	2,800					7	2,800					65	0	65	0
95.9.29 (金)	57	22,800			1	100	58	22,900					148	0	148	0
95.9.30 (土)	85	34,400	2	800	8	800	95	36,000	55	17,240			59	0	59	17,240
<合　計>(a)			(b)		(c)		(d)		(e)		(f)		(g)		(h)	
9月分	1,014	405,600	15	6,000	252	25,200	1,258	436,800	434	132,480			1,679	0	2,093	132,480

(i) 個人及び団体入館者数　3,351名

(j) 当月有料入館者累計　1,650名　　当月累計金額　562,280円

←→ この欄は、無料になります。

注）当月有料入館者累計に「団体・小中学生」の人数は含まれない。
(i)=(a)+(c)　　(j)=(i)-(g)
この報表には、伝票転元は含まれない。

<有料入館者数（月別）>

図６　毎月の観覧者内訳（有料分）

定期観光観覧内訳

決　裁

館長	副館長	係長	係

９月分

内訳 / 日付	区分	個人料金（20名未満） 一般 420円				高校生 310円				小中学生 100円				合計				団体料金（20名以上） 一般 420円				高校生 310円				小中学生 無料				合計				合計
		平日	午後	計	金額	平日	午後	計	金額	平日	午後	計	金額	平日	午後	計	金額	平日	午後	計	金額	平日	午後	計	金額	平日	午後	計	金額	平日	午後	計	金額	
9/1 (金)	個人		2	2	800										2	2	800																	800円
9/2 (土)	個人	2	2	4	1,600									2	2	4	1,600																	1,600円
9/3 (日)	個人		3	3	1,200										3	3	1,200																	1,200円
9/4 (月)	個人		3	3	1,200										3	3	1,200																	1,200円
9/5 (火)	個人		2	2	800										2	2	800																	800円
9/6 (水)	個人	2		2	2,000									2		2	2,000																	2,000円
9/7 (木)																																		
9/8 (金)																																		
9/9 (土)	個人	4	5	9	3,600									4	5	9	3,600																	3,600円
9/10 (日)	個人		2	2	800										2	2	800																	800円
9/11 (月)	個人		2	2	800										2	2	800																	800円
9/12 (火)	個人	4		4	1,600									4		4	1,600																	1,600円
9/13 (水)	個人	1	3	4	1,400									1	3	4	1,400																	1,600円
9/14 (木)																																		
9/15 (金)	個人	9	8	17	6,800									9	8	17	6,800																	6,800円
9/16 (土)	個人		7	7	2,800										7	7	2,800																	2,800円
9/17 (日)	個人		7	7	2,800										7	7	2,800																	2,800円
9/18 (月)	個人	4	1	5	2,000									4	1	5	2,000																	2,000円
9/19 (火)	個人		1	1	400										1	1	400																	400円
9/20 (水)	個人	3		3	1,200									3		3	1,200																	1,200円
9/21 (木)	個人	1	2	3	1,200									1	2	3	1,200																	1,200円
9/22 (金)	個人	4	1	5	2,000									4	1	5	2,000																	2,000円
9/23 (土)	個人		2	2	800										2	2	800																	800円
9/24 (日)	個人	2	2	4	1,600									2	2	4	1,600																	1,600円
9/25 (月)	個人		1	1	400										1	1	400																	400円
9/26 (火)	個人		3	3	1,200										3	3	1,200																	1,200円
9/27 (水)	個人		4	4	1,600										4	4	1,600																	1,600円
9/28 (木)	個人		4	4	1,600										4	4	1,600																	1,600円
9/29 (金)	個人		3	3	1,200					1	1	100			4	4	1,300																	1,300円
9/30 (土)	個人		4	4	1,600										4	4	1,600																	1,600円
合　計		30	94	124	45,300					1	1	100		30	95	125	45,300																	45,300円

旭川市博物館

今月請求金額　¥45,300

図７　定期観光観覧内訳

平成7年　9月30日

旭川電気軌道株式会社
代表取締役社長　豊島　弘通　様

旭川市博物館
館長　鈴木　松一

定期観光バス運行に伴う観覧料納入のお願い

貴社におかれましては，ますます御盛栄の趣，お喜び申し上げます。

さて，今月の定期観光バス運行に伴う観覧料が以下のとおりとなりましたので納期限までに旭川市指定金融機関へ払い込まれますようお願い申し上げます。

記

納入金額　　45,300円
納期限　　平成7年10月16日

添付書類

定期観光観覧内訳（写し）　1部
定期観光観覧簿（写し）　1部
旭川市博物館観覧承認書

図8　観覧料納入の依頼文書

旭川市博物館観覧者数明細簿（定期観光を含む・日計）

決	裁		
館長	副館長	係長	係

平成7年度　9月分

区分	個人				団体				免除										合計						定期観光
日付	一般	高校生	小中学生	個人計	一般	高校生	小中学生	団体計	事業行事	引率者	心身障害	65歳以上	学校教育	課外授業	展覧会業務	行政視察	市長決定	招待者	免除計	一般	高校生	小中幼	障害者	合計	収納金額	
95.9.1（金）	28			28	38		45	83	1	9		1			2	5	23		40	105		46		151	23,360	8名
95.9.2（土）	27		6	33					2			9							11	36		8		44	11,400	4名
95.9.3（日）	64	1	18	83					25	2		1					5		33	72	1	43		116	27,700	8名
95.9.4（月）	38		2	40					2			1	2			14			19	55		4		59	15,400	8名
95.9.5（火）	32		2	34	21		343	364		12	3	19		6					40	90		345	3	438	19,720	2名
95.9.6（水）	30		9	39			196	196		8	1	2			1				12	41		200	1	242	12,900	2名
95.9.7（木）	38			38			203	203		13				4	2				19	57		203		260	15,200	
95.9.8（金）	19			19			28	28		6		1				217			224	243		28		271	7,600	
95.9.9（土）	47	2	10	59					2			3		4			30		39	84	2	12		98	20,400	3名
95.9.10（日）	83	2	13	98					3			10	2						15	95	2	16		113	35,100	3名
95.9.11（月）	2			2																2				2	800	3名
95.9.12（火）	39			39		373	373		1	13		1	2		3				20	58		373		431	15,600	4名
95.9.13（水）	14			14	66	135	201		11	9		2			4				26	95		146		241	26,720	4名
95.9.14（木）	16			16		126	126		12	5						12			29	33		138		171	6,400	
95.9.15（金）	64	1	36	101					3			8	1						12	73	1	39		113	29,500	17名
95.9.16（土）	58		5	63					13	2		2							16	62		17		79	23,700	7名
95.9.17（日）	55	1	15	71					5		2	1				1			9	57	1	20	2	80	23,800	7名
95.9.18（月）	8		2	10	35			35	2		8	3							13	50		4	8	62	15,800	5名
95.9.19（火）	81			81					12	2	19	157		4					194	244		12	19	275	32,400	1名
95.9.20（水）	37			37	61			61			8				1				9	99			8	107	34,320	3名
95.9.21（木）	16			16	20			20			8								8	36			8	44	12,800	3名
95.9.22（金）	19			19	44			44			10	5	1		1		25		42	95			10	105	21,680	5名
95.9.23（土）	73		33	106	30			30	5		1	10				4			20	117		38	1	156	62,100	2名
95.9.24（日）	76	1	23	98					5			10	2						17	86	1	28		115	32,200	4名
95.9.25（月）	1			1																1				1	400	1名
95.9.26（火）	19			19	65			65					1			17			18	100				100	27,760	3名
95.9.27（水）	34		10	44								2			1	50			53	87		10		97	14,600	4名
95.9.28（木）	11			11		63	63		2			3				12			17	26		65		91	4,400	4名
95.9.29（金）	30		2	32		140	140			6	8		2		1				17	39		142	8	189	12,200	4名
95.9.30（土）	70	2	27	99	32		27	59	3	1		2				2			6	107	2	55		164	41,540	4名
9月分	1,172	20	218	1,390	404		1,478	2,882	106	88	68	218	15	10	14	324	60		975	2,345名	10名	1,997名	68名	4,420名	607,580円	114名

当月分			内訳			
当月観覧者数	4,420名		定期観光	114名	通常観覧者数	4,306名
当月の調定額	607,580円		後納日納金額	45,300円	収納金	562,280円

累計			内訳			
観覧者数累計	18,485名		定期観光	642名	通常観覧者数	17,843名
累計金額	3,374,140円		後納日納金額	246,340円	収納金	3,127,800円

<月詳細（日計）+定期観光>

図9　毎月の観覧者内訳（定期観光を含む）

旭川市博物館有料入館者統計（定期観光を含む）

平成７年度

９月分

決裁 館長	副館長	係長	係

区分	個人								団体						全体合計	
日付	一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	合計 人数	合計 金額	一般	金額	高校生	金額	合計 人数	合計 金額	人数	金額
9.1 (金)	28	11,200					28	11,200	38	12,160			38	12,160	66	23,360
9.2 (土)	27	10,800			6	600	33	11,400							33	11,400
9.3 (日)	64	25,600	1	300	18	1800	83	27,700							83	27,700
9.4 (月)	38	15,200			2	200	40	15,400							40	15,400
9.5 (火)	33	13,200			2	200	34	13,400	21	6,720			21	6,720	55	19,720
9.6 (水)	30	12,000			9	900	39	12,900							39	12,900
9.7 (木)	38	15,200					38	15,200							38	15,200
9.8 (金)	19	7,600					19	7,600							19	7,600
9.9 (土)	47	18,800	2	600	10	1000	59	20,400							59	20,400
9.10 (日)	83	33,200	2	600	13	1300	98	35,100							98	35,100
9.11 (月)	2	800					2	800							2	800
9.12 (火)	39	15,600					39	15,600							39	15,600
9.13 (水)	14	5,600					14	5,600	66	21,120			66	21,120	80	26,720
9.14 (木)	16	6,400					16	6,400							16	6,400
9.15 (金)	64	25,600	1	300	30	3000	101	29,500							101	29,500
9.16 (土)	58	23,200			5	500	63	23,700							63	23,700
9.17 (日)	55	22,000	1	300	15	1500	71	23,800							71	23,800
9.18 (月)	8	3,200			2	200	10	3,400	39	12,480			39	12,480	49	15,880
9.19 (火)	81	32,400					81	32,400							81	32,400
9.20 (水)	37	14,800					37	14,800	61	19,520			61	19,520	98	34,320
9.21 (木)	16	6,400					16	6,400	20	6,400			20	6,400	36	12,800
9.22 (金)	19	7,600					19	7,600	44	14,080			44	14,080	63	21,680
9.23 (土)	75	29,200			31	3300	106	32,500	30	9,600			30	9,600	136	42,100
9.24 (日)	74	29,600	2	600	19	1900	95	32,200							95	32,200
9.25 (月)	1	400					1	400							1	400
9.26 (火)	19	7,600					19	7,600	63	20,160			63	20,160	82	27,760
9.27 (水)	34	13,600			10	1000	44	14,600							44	14,600
9.28 (木)	11	4,400					11	4,400							11	4,400
9.29 (金)	30	12,000			2	200	32	12,200							32	12,200

<累　計>

個人								団体						全体合計	
一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	合計 人数	合計 金額	一般	金額	高校生	金額	合計 人数	合計 金額	人数	金額
1,127	480,800	10	3,000	153	15,300	1,290名	479,100円	414	132,480			414名	132,480円	1,704名	611,580円

<有料入館者数（月別）（定期観光）>

図10　毎月の有料観覧者内訳（定期観光を含む）

旭川市博物館観覧者数明細簿　<累　計>

決裁 館長	副館長	係長	係

平成7年4月1日（土）から 平成7年9月30日（土）まで　調定番号 1～171　　調定番号（定期観光） 1～107

区分		観覧者				減免申請分				合計	
	種別	観覧番号	金額	人数	金額	条例規定	区分	人数		区分	人数
個人	一般	29568～35476	400	5,909名	2,363,600円	11-1-1	学校行事（幼児園・小中学生）、幼児	558名		一般	11,705名
	高校生	455～578	300	124名	37,200円	11-1-2	幼稚園・高等学校の手続に伴う観覧券等	241名		高校生	275名
	小中学生	8153～9934	100	1,782名	178,200円	11-1-3	心身障害者（者）及びその介護者	343名		小中学生及び幼児	5,518名
	合計			7,815名	2,579,000円	11-1-4	満65歳以上の旭川市民	849名		上記以外に観覧者及びその介護者	343名
団体	一般	※※※※※※	320	1,601名	512,320円	11-1-5	学校教育活動関係職員、その保護者	223名		合計(c)	17,843名
	高校生	※※※※※※	240	152名	36,480円		博物館関係の関係職員とその関係者	89名			
	小中学生幼児	※※※※※※	0	3,178名	0円		観覧者の適正確保及びその職員	84名		(c)=(b)+(b)	
	合計			4,931名	548,800円		行政視察等、観覧協議及びその職員	1,847名		(e)=(c)+(d)	
合計	観覧者			(a) 12,746名			市及び市教育委員会主催の行事関係者	857名		今年度の民会部受件数	
				3,127,800円			招待者	6名		7,357件	
							合計(b)	5,097名			

定期観光		
区分		人観者数
個人	一般	391名
	高校生	
	小中学生	29名
団体	一般	22名
	高校生	
	小中学生	
合計(d)		642名

区分		金額
個人	一般	7,040円
	高校生	
	小中学生	
団体	一般	236,400円
	高校生	
	小中学生	2,900円
合計		246,340円

累計						
観覧者数累計	(e) 18,485名	内訳	定期観光 642名	通常観覧者数 17,843名	年度当初歳入達成率	
累計金額	3,374,140円		後納申請金額 246,340円	収納金 3,127,800円	33.18%	

年度07　会計01　11款 1項 7目 4節　一般会計　博物館使用料　　担当課コード 320601　　<累　計>

条例・規則　旭川市大雪クリスタルホール条例施行規則第１１条第１項の各号をいう。

図11　当年度分の観覧者内訳

⑦年詳細(月計)

当年度分の観覧者内訳が、ひと月ごとの詳細な一覧表(図12)となって出力される。

この処理は、年度末に1回行われる他、年度途中でも必要に応じて出力が可能である。

⑧定期観光(年処理)

このボタンをクリックすることによって以下の帳票が出力される。

⑧－1観覧者数明細簿(図13)

これは、定期観光分を含めた当年度分の観覧者内訳が、月ごとの詳細な一覧表となって出力される。

この処理は、年度末に1回行われる他、年度途中でも必要に応じて出力が可能である。

⑧－2有料入館者統計(図14)

これは、定期観光分を含めた当年度分の"有料"観覧者内訳が、ひと月ごとの詳細な一覧表となって出力される。

この処理は、年度末に1回行われる他、年度途中でも必要に応じて出力が可能である。

⑨有料入館者数(月別)(図15)

これは、当年度分の"有料"観覧者内訳が、ひと月ごとの詳細な一覧表となって出力される。

この処理は、年度末に1回行われる他、年度途中でも必要に応じて出力が可能である。

⑩帳票一覧

毎日の出納事務に記載する内容(図16)と定期観光用の記載内容(図17)をすべて出力する。毎日実行する必要はないが、出納事務に不慣れな者が扱うときに必要である。

(5) ファイルを閉じる(又はソフトを終了させる)

"終了"ボタンを1回クリックする。

旭川市博物館観覧者数明細簿(年計)

平成7年度

平成7年4月1日(土) から 平成7年12月29日(金) まで

決裁			
館長	副館長	係長	係

区分	一般・個人				一般・団体				免除										合計						定期観光
日付	一般	高校生	小中学生	個人合計	一般	高校生	小中学生	団体合計	学校行事	引率者	心身障害	65歳以上	学術教育	興行機関	親先奉仕	行政視察	行事参加	招待者	免除合計	一般	高校生	小中幼	障害者	合計	収納金額	
4月分	594	6	267	867	108		134	242	43	3	6	30	4	6	9	111	57	4	263	955	6	429	6	1,375	299,460	
5月分	993	14	836	1,144	79		316	395	66	43	47	70	6	3	10	243	63		456	1,337	14	591	47	1,989	418,780	
6月分	618	4	103	725	413	153	367	933	110	45	90	108	16	22	27	497	215		1,130	1,059	156	580	90	2,785	496,700	126
7月分	1,665	33	273	1,315	331		273	604	68	16	67	186	169	12	18	268	242		1,164	2,375	27	514	67	2,983	547,320	218
8月分	1,745	63	738	2,546	358		510	768	100	45	65	195	19	28	6	371	107	3	1,898	2,869	63	1408	63	4,404	873,260	184
9月分	1,014	12	212	1,238	434		1,678	2,092	108	88	63	233	13	18	16	334	52		978	2,232	10	1996	68	4,306	582,280	114
10月分	839	9	222	1,033	356	150	1,300	1,782	68	78	193	78	388	30	27	432	52	4	1,282	2,155	159	1590	193	4,097	488,360	
11月分	610	10	162	882	108		478	586	63	48	31	60	7	28	28	145	40		483	1,105	10	725	31	1,871	290,760	
12月分	277	9	153	439	28		10	38	28	7	6	7	15	16	2	19	158		257	525	9	195	6	733	135,920	

区分	一般・個人			一般・団体			免除									合計						定期観光
	一般	高校生	小中学生	一般	高校生	小中学生	学校行事	引率者	心身障害	65歳以上	学術教育	興行機関	親先奉仕	行政視察	行事参加	一般	高校生	小中幼	障害者	合計	収納金額	
年間合計	7,805	140	2,344	2,061	308	4,966	721	374	573	7	553	173	141	2,444	7	10	15,491名	448名	8,031名	573名	24,543名	4,051,840円	642

個人合計 10,089名　団体合計 7,335名　免除合計 7,119名　全観覧者人数 24,543名　収納金額 4,051,840円　定期観光 642名

<年詳細(月計)>

図12　月ごとの観覧者内訳

旭川市博物館観覧者数明細簿（定期観光を含む・月計）

決裁			
館長	副館長	係長	係

平成７年度

区分	個人				団体				常設										合計						定期観光
日付	一般	高校生	小中学生	個人計	一般	高校生	小中学生	団体計	博物行事	別事業	心身障害	体験以上	学習教育	講演会関係	観光事務	行政懇談	行事参加	他特者	免合	常設計	一般	高校生	小中学生	障害者	合計	収金額	
4月分	536	6	247	949	308		134	342	48	4	6	35	4	6	9	113	67	4	286		931名	6名	429名	6名	1,376名	239,460円	
5月分	850	14	280	1,144	79		216	295	66	43	41	73	4	3	30	142	63		460		1,337名	14名	591名	47名	1,989名	418,780円	
6月分	744	4	103	851	411	152	360	923	130	42	30	108	35	22	37	437	324		1,130		2,085名	158名	580名	90名	2,911名	477,100円	136名
7月分	1,294	37	280	1,511	353		175	556	68	16	67	189	102	12	30	308	340		1,154		2,586名	87名	521名	67名	3,201名	630,650円	218名
8月分	1,908	63	759	2,756	258		510	768	180	43	82	192	12	28	4	377	157	2	1,606		3,031名	63名	1,429名	65名	4,588名	940,560円	184名
9月分	1,127	16	225	1,368	414		1,678	2,092	106	88	52	263	13	18	35	704	83		979		2,345名	10名	1,927名	68名	4,420名	607,580円	134名
10月分	835	3	221	1,059	216	156	1,330	1,702	69	78	183	78	308	30	27	470	67	4	1,358		3,185名	159名	1,580名	193名	4,097名	488,380円	
11月分	610	16	182	808	300		479	779	65	48	31	92	7	39	33	148	43		485		1,105名	10名	755名	31名	1,871名	299,780円	
12月分	371	3	169	543	24		12	36	29	7	6	7	12	10	3	19	158		257		625名	3名	128名	8名	763名	135,920円	
合計	8,195	140	2,375	10,709	2,363	308	4,894	7,267	761	374	572	1	803	173	340	2,444	1,116	10	7,159		16,104名	448名	8,065名	573名	25,185名	4,298,180円	642名

累計							
観覧者数累計	25,185名	定期観光	642名	通常観覧者数	24,543名
累計金額	4,298,180円	内訳 法納市税金額	246,340円	収納金	4,051,840円

<年間（月計）＋定期観光>

図13　当年度分の観覧者内訳

旭川市博物館有料入館者月別統計（定期観光含む）

決裁			
館長	副館長	係長	係

平成７年度

区分	個人								団体						全体合計	
月	一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	合計 人数	合計 金額	一般	金額	高校生	金額	合計 人数	合計 金額	人数	金額
4月分	586	238,400	6	1,800	347	34,700	949名	274,900円	108	34,560			108名	34,560円	957名	239,460円
5月分	921	368,400	14	4,200	309	30,900	1,144名	393,500円	79	25,280			79名	25,280円	1,223名	418,780円
6月分	744	297,600	4	1,200	103	10,300	851名	309,100円	411	131,520	152	36,480	563名	168,000円	1,414名	477,100円
7月分	1,294	481,600	37	8,100	280	28,000	1,611名	517,700円	353	112,960			353名	112,960円	1,964名	630,660円
8月分	1,908	763,200	63	18,900	759	75,900	2,730名	858,000円	256	82,560			256名	82,560円	2,986名	940,560円
9月分	1,127	450,800	10	3,000	313	31,300	1,350名	485,100円	414	132,480			414名	132,480円	1,764名	607,580円
10月分	803	323,600	3	900	331	33,100	1,137名	357,600円	326	104,320	156	37,440	482名	141,760円	1,619名	499,360円
11月分	610	244,000	10	3,000	182	18,200	802名	265,200円	108	34,560			108名	34,560円	910名	299,760円
12月分	377	150,800	3	900	159	15,900	539名	167,600円	95	8,320			95名	8,320円	634名	175,920円

<年間総計>

個人								団体					
一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	合計 人数	合計 金額	一般	金額	高校生	金額	合計 人数	合計 金額
8,195	3,278,400	140	42,000	2,375	237,500	10,709名	3,557,700円	2,363	666,560	308	73,920	2,671名	740,480円

全体合計	一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	合計 人数	合計 金額
	10,558	3,944,960	448	115,920	2,375	237,500	13,380名	4,298,180円

<有料入館者数（月別）＋定期観光>

図14　当年度分の有料観覧者内訳（定期観光を含む）

旭川市博物館有料入館者月別統計

決裁			
館長	副館長	係長	係

平成7年度

区分	個人								団体							
月付	一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	個人合計	個人金額	一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	団体合計	団体金額
4月分	599	333,400	6	1,800	247	24,700	849	264,900	108	34,560			134	0	242	34,560
5月分	321	363,400	14	4,200	309	30,900	1,144	393,500	79	25,280			316	0	395	25,280
6月分	618	347,200	4	1,200	103	10,300	725	358,700	411	131,520	152	36,480	367	0	950	168,000
7月分	1,055	406,000	27	8,100	273	27,300	1,315	441,400	881	305,920			173	0	584	305,920
8月分	1,743	693,000	63	18,900	730	73,000	2,546	784,700	258	82,560			510	0	768	82,560
9月分	1,554	405,600	10	3,000	312	31,200	1,236	439,800	434	132,480			1,678	0	2,092	132,480
10月分	869	323,600	3	900	331	33,100	1,033	356,600	324	104,320	138	37,440	1,300	0	1,762	141,760
11月分	612	244,000	10	3,000	183	18,300	805	265,300	108	34,560			478	0	586	34,560
12月分	297	110,800	3	900	159	15,900	459	127,600	26	8,320			10	0	36	8,320

＜年間合計＞

個人								団体							
一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	個人合計	個人金額	一般	金額	高校生	金額	小中学生	金額	団体合計	団体金額
7,599	3,045,000	136	40,800	2,344	234,400	10,079	3,319,400	2,081	653,520	290	73,920	4,265	0	7,355	735,440

個人及び団体累計 17,434名

当年度有料入館者累計 12,458名　　当年度累計金額 4,051,840円

注）当年度有料入館者累計に「社会・小中学生」の人数は含まれない。

＜有料入館者数（月別）＞

図15　当年度分の有料観覧者内訳

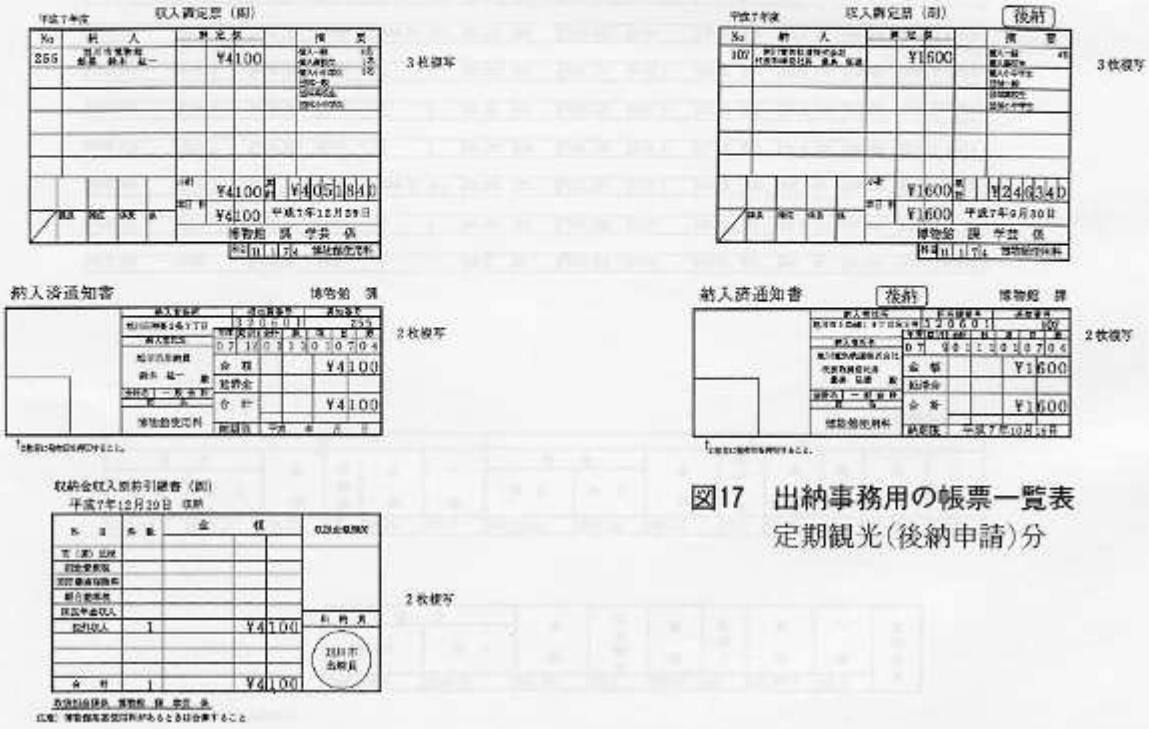


図17　出納事務用の帳票一覧表
定期観光（後納申請）分

図16　出納事務用の帳票一覧表

3　ソフトの特色

今回のソフトの大きな特色は、その"つくり込み"にあった。

"つくり込み"で最も気を付けたことは、インタフェースの簡易化、すなわち「誰でも特別な技術を要することなしに簡単にパソコンを操作できる」という点である。現在パソコンを利用した入館者統計処理は、各館園で徐々に普及し始めているが、

①パソコン又はソフトの操作方法が比較的難しく特定の人物しか扱うことができない。

②情報管理が厳しく特定の人物しかアクセスできない。

などの問題点があるようである。

しかし、これらは最近のシステム及び周辺機器等の能力の大幅な向上を考えると改善しなくてはならないことであり、当館のような「誰でも特別な技術を要することなしに簡単にパソコンを操作できる」ような運用方法が今後望まれる方向であると思われる。現実に、初めてこのシステムを操作する職員も1日で操作方法を覚えている。

4　問題点と解決方法

パソコンを利用する場合、「データの入力さえ正しければ出力される統計の数値はほぼ100%の信頼性がある」ということは、今さら言うまでもないことである。しかし、誰もが簡単にパソコンを操作することができるようになった反面、データの入力は必ずしも常に正確であるとは限らず、様々な問題点が生じた。

以下に、当館でその使用中に発生した問題点とその解決方法を紹介する。

(1)　問題点

〈ケース1〉

出力内容の金額と当日の収納金額が合わなかったが、入力データを再確認をすることなしにパソコンの出力内容を容易に信じて無理に金額を合わせたため、次回の入力データに支障が発生した。

〈ケース2〉

観覧料を計算させるために観覧券の番号を入力するが、これが入力段階で間違ったことに気付かず、また当日の金額が偶然一致したため誤入力の発見が遅れた。

(2)　解決方法

これらはすべて入力時における初歩的なケアレスミスと、入力ミスに気付かず「パソコンで計算させたものは絶対間違いない」という観念から発生したものである。これは人為的という意味で避けられないことでもある。しかし、極力入力時における信頼性を高めるために入力画面で次の様な工夫を試みた。

①入力する項目に特定の色を使用し、入力漏れが無いようにタブ設定も行った。

②必要最低限のデータだけを入力するようにし、計算はすべてパソコンにさせた。

③入力項目の表示は配置をわかりやすく、また1回の入力においてスクロールをする必要がないようにするため1画面を使用するようにした。

④誤入力があれば、メッセージ欄に様々なエラー内容を表示するようにした。

⑤データの"ダブリ"や"とばし"が発生しないように、前回の入力した数値を当日の画面に表示するようにした。

⑥当日の観覧料を入力画面上にも表示するようにした。

以上が解決方法として主に改良されたところであるが、"人為的"と言う言葉に対し、根本的な解決にはなっていない。しかし、ある程度は改善され誤入力が減っているのが現状である。

5　今後の課題

今回の"つくり込み"で出力される統計はすべて数字であるため、視覚に訴えることについて多少劣っていると言える。今後は、ボタンを1回クリックすることによってEXCELなどへデータを送り、相手方のフォーマットに変換してグラフ化し出力していくことが望まれる。そのための制御は、現在使用しているソフトで十分可能であるので、今後改良を目指したい。

おわりに

最近のパソコンのシステム構築に要する費用も性能向上と価格の低下で数年前とは比較できないほど廉価になってきている。また、ソフトの操作性も格段に良くなっている。当館も様々な学芸分野において、データベース化などコンピュータを利用した学芸業務が可能であり、今後とも積極的にパソコン処理のためのシステム構築に取り組みたい。

旭川市博物館研究報告　第2号　1996年3月

教育普及活動に関するアンケート（予報）

向井正幸・岡本達哉

旭川市博物館

はじめに

近年、生涯学習が叫ばれ、博物館園はその役割を担う施設として大いに期待され、積極的な教育普及活動が要求されている。しかし、市民が博物館園に何を期待し、何を求めているのかについてはよく理解されていないのが現状ではなかろうか。

今回のアンケートの試みは、そのような教育普及活動に対する市民の生の声を聞くことが重要であると考え、今後市民が望んでいく教育普及活動すなわち講座のあり方や博物館に対する認識、市民の能動的な博物館利用の可能性を探ることを目的としている。

今回は、年度途中でありアンケートも継続して行われていることから、簡単な紹介にとどめる。

1　アンケートの取り方

博物館講座終了後、約5～10分程度の時間を利用し、その場で記入する。

2　対　　象

博物館講座参加者全員を対象とする。ただし、複数回講座に参加している者については除く。

3　アンケートの様式

図1のとおりである。1枚のA4の用紙の表と裏を使用した。

4　アンケートの内容

【設問1～5】導入部

講座参加者(記入者)についてと博物館に来館した回数について。

【設問6～9】博物館の講座に参加した動機

何故、講座に参加したのか。その様々な動機について。

【設問10～12】講座の内容

今回の講座内容と今まで参加した講座についての内容について。

【設問13～17】これからの講座のあり方

受講者がこれから望んでいる講座のあり方について。

【設問18～22】まとめ

博物館に対する認識と市民の能動的な博物館利用の可能性について。

おわりに

ここで報告したアンケートは、講座に参加した市民を対象にしたが、本来は全市を対象に無差別に抽出し様々な階層の人達にアンケートをとることが必要であろう。しかし、今回は、講座に参加した市民が、能動的に博物館を利用していると考え、これらの人々を参考にして分析し、それをもとに博物館の教育普及活動のあるべき方向と博物館に対する認識そして市民の能動的な博物館利用の可能性を考えてみたいと思う。

～あなたのご意見をお聞かせ下さい～

（該当する項目に○をつけて下さい）

1　あなたの性別は？（　男性　・女性　）

2　あなたの年齢は？（10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代）

（小学生・中学生・高校生・大学生・主婦・会社員・教員・公務員・自営業・無職・その他）

4　どちらにお住まいですか？（　　）　（例）神楽

5　今回を含めて博物館へいらっしゃった回数は何回ですか？

（　1回目（初めて）・2回目・3回目以上（　　回目）

6　この講座は何で知りましたか？（複数選択できます）

（新聞や地域情報紙・広報「旭川市民」・博物館発行の案内物・友人や知人・学校や職場・その他（　　））

7　何故、この講座に参加することにしましたか？

（　内容に興味があったから　・時間に余裕があったから

その他（　　））

8　この講座には、グループで参加されましたか？それとも個人で参加されましたか？

（複数選択できます）

（　家族・友人・個人・その他（　　））

9　この講座に参加するため、博物館までの交通機関は何を利用しましたか？（複数選択できます）

（　自家用車・バス・タクシー・自転車・徒歩・JR・その他（　　））

10　今回の講座内容は、理解しやすかったですか？

（　わかりやすい・普通・わかりづらい・その他（　　））

11　今回の講座を含め、今まで何回講座に参加されましたか？

（　1回目（初めて）・　2回目・　3回目以上（　　回目））

12　11で2回目及び3回目とお答えした方にお聞きします。具体的にはどのような講座

（　　）

裏面へ続きます☞

13　再び全員の方にお聞きします。これからも講座に参加したいと思いますか？

（　はい　・いいえ　・どちらでもない　・その他（　　））

14　これからの講座の時間は何分ぐらいが適当ですか？また、講座の途中に休み時間はあったほうがよいですか。

講座の時間（　　分程度）　休み時間（　はい　（　　分）　・いいえ　）

15　これからの講座開催について希望する曜日・時間帯はありますか？（複数選択できます）

☆曜　日（　日・月・火・水・木・金・土・特になし　）

☆時間帯（　午前　　時　―　午後　　時までの間が好ましい　・特になし　）

16　これからは、どの分野の講座を望みますか？（複数選択できます）

（　考古・民族・民俗・歴史・郷土関係・植物・動物・地学・気象

・その他（　　））

17　今後、どのようなタイプの講座内容を望みますか？

（　　）

18　今回及び今までの講座に参加して、従来あなたが最初に抱いていた博物館のイメージは変わりましたか？（　はい　・いいえ　・どちらでもない　）

19　いま現在あなたがお持ちの博物館に対するイメージを具体的にお聞かせください。

（　　）

20　あなたは今後とも博物館と何かの形で関係を保つことをお考えですか？

（　はい　・　いいえ　・　どちらでもない　）

21　20で、はいとお答えした方にお聞きします。

具体的にはどのようなことですか？

（　　）

22　最後に博物館に対するご意見がありましたら何でも結構ですからお聞かせください。

（　　）

ご協力大変ありがとうございました。

この調査は、1年間を通し講座参加者を対象に行われ、調査結果につきましては、博物館だより「みゅじあむ」や研究紀要等を通じて各教育関係機関や一般市民に提供するとともに、今後の博物館の教育普及の参考資料とさせていただきます。

図1　アンケートの内容